

授 業 計 画

平成 30 年度



福祉学部 福祉心理学科

福 島 学 院 大 学



福島学院大学の教育

I. 建学の精神

本学は学則第1条に、『教育基本法、学校教育法に則り、学院創立者の信念である「真心こそすべてのすべて」という建学の精神に基づき Sincerity（真心）と Hospitality（思いやり）を教育の根本におき、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開させ、地域社会に積極的かつ実践的に貢献することを目的とする』とうたっています。

「真心」を身につけた学生を育成することが、本学の創立者故菅野慶助先生・菅野八千代先生の建学の理想だったのです。

(1) 真心

真心とはいうまでもなく、誠とか至誠とか呼ばれるものと相通じ、一般的な考え方を示すものとして、広辞苑では、「誠の心。いつわりのない真実の心。」と記しています。また、「誠」の項では、「真」、「実」などの文字とともに、「真実の通りであること。うそでないこと」、また、「人に対して親切にして欺かぬこと」と記しています。

このように、真心はまず、自己に対していつわりのないこと。すなわち「自らの良心の声に聞いて恥じないこと」を意味しています。

また、他人に対しては、自己に対するいつわりのない心で接し、その人の身になって考える思いやりがあり、他人を決して欺かないことを意味しています。

(2) すべてのすべて

以上のような意味の「真心」こそは、人間の行為のすべてを貫くものでなければならないのであって、菅野慶助先生が「一にも真心、二にも真心」と述べているのはこのことを指しています。

さらに、真心はすべての徳の中でも根本に位するものとして、これらをとらえることができます。この二つの意味を込めて「すべてのすべて」と言っているのです。

(3) 信念のことば

真心を以上のように誠、至誠と解するとき、それは先ず、儒学における重要な概念として、儒学者の諸説があり、また、国学においても「真心」について説くところがあります。さらに、その他の倫理・哲学者においても説きかたは種々です。

しかし、本学における言葉並びにその精神は、創立者菅野先生の日常の実践の中において体得されたものであり、また、これを体現すべく努めに努めた体験の中から生まれてきた信念であって、思弁的な産物ではありません。

したがって、この言葉の真の意味は、菅野先生がこれまで歩んできた「足あと」そのものの中から見出すことができるものと言って過言ではありません。

本学においては、真心とその実践を基盤とする国際平和の実現のための教育を、ひとつの特色として打ち出しており、これもまた、菅野先生の信念から生み出されたものです。

われわれは、建学当初の「真心こそすべてのすべて」の精神を基本として、人々の信頼と幸福を求めるとともに、世界平和の実現のための教育の重視へと発展してきたその経緯をたずね、さらに将来を展望し、建学の精神の高揚に努めなければなりません。

II. 教育の理念

本学は、感銘と感動を与え、知的好奇心を喚起する授業の実施を目指すとともに、自らの人生を創造的に生きようとする学生を受け入れ、支援します。

本学が求め、そして育成しようとする人間像については次の通りです。

(1) 真心を持って人に接し、人の立場を考えて行動できるひとを育てます。

真心は人間社会を築く礎であり、人間関係の基本です。

心のこもった対応や接遇を心掛け、相手や他人の立場を理解しようとする謙虚さを失うことなく行動ができる人間を育成します。

(2) 夢とロマンを胸に、自らの人生を創造的に生きようとするひとを育てます。

夢をもって生きること、ロマンを求めて生きること、その実現に努力すること、それは自らの青春を美しく磨くことです。

(3) 的確な判断ができ、自らの知識と技能を生かして社会に貢献できるひとを育てます。

的確な判断は、現代社会に必要な知識と教養の獲得と、社会のいろいろな人との多様な人間関係の錬磨の中から生まれてくるものです。

自らの知識を深め、自らの技能を高めて、社会に貢献できる人材の育成に努めます。

(4) 国際的な視野に立ち、多様性を理解し、相互理解の心を持つひとを育てます。

情報は一瞬にして世界を駆け巡ります。世界は日本に、日本はまた世界へ影響を与えます。国際的な視野に立って相手のことを考えることのできる人間の育成に努めます。

(5) 感銘と感動を素直に表現できるひとを育てます。

感銘と感動のある人生ほど素晴らしいものではありません。

一つひとつの発見や驚きが、人生に若さと新鮮さを与えてくれます。そうした「ひとを育てる教育」でありたいと思います。

こうした学生を育成することを建学の精神として掲げ、本学はこれを学是としています。

授業計画について

授業計画はシラバスとも呼ばれ、本学が学生の皆さんに提供する授業に関する計画書です。授業ごとに、担当教員、授業概要、目標、各回の授業内容、到達目標・評価方法などが記載されています。

また、それぞれの授業の事前・事後の学修についても明記されていますので、予習・復習（授業時間以外の必要な学修時間）を励行するようにしてください。

この授業計画は、学生の皆さんが、授業を学ぶための基本的な資料になりますので、熟読して自分の履修計画を立ててください。

I. 福祉学部福祉心理学科の教育

1. 入学者受入れ、教育課程の編成・実施及び卒業認定・学位授与の方針

(1) 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

福祉心理学科では、心理的対人援助活動に関心を持ち、社会福祉、精神保健福祉、臨床心理、カウンセリング等の分野において広く地域社会に根ざし、将来に渡って地域の発展に寄与しようとする気概を持つ人、現代社会に必要な知識と教養を身に付け、自らを高める努力をしようとする人を求めています。

福祉心理学科においては、学修するための基本となる学力要素を、高等学校での学習を通して教科毎に形成された知識や技能に求めています。この知識や技能を証明するものとして、各学科に定める高等学校での評定平均を重視し、その中でも特に、人間関係構築の基本であり、コミュニケーション能力の基礎となる国語力を身につけていることを希望しています。

別に定める学科による各選考方法の基本は、高等学校における学習成果を前提に、福祉心理学科において新たな知識を獲得するための希望者本人の意欲や論理的思考能力を確認することです。各選考に共通して設けられた面接では、学科への適性のほか、生徒会・部活動や地域ボランティアなど課外活動の実績も評価していきます。

(2) 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

教育課程の編成にあたっては、学部及び学科にかかる専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するように配慮しています。

福祉心理学科の教養教育科目では、学生・社会人としての現代的教養観、即ち表現力やコミュニケーション能力・情報リテラシー、および生活教養などを重視した科目で編成しています。

専門教育課程は、福祉と心理という学際的領域で、他者の心の痛みに関心でき、心の痛みを抱える人々に積極的な援助活動を行うことができる人材を育成するために「専門基礎科目」「心理関連科目」「社会福祉・精神保健福祉関連科目」の科目群で構成し、「福祉」と「心理」の分野から所定の単位を修得することを卒業要件とし、心のケアができる人材を育てる教育課程を編成しています。

教養教育・専門教育科目それぞれに、知識や技能、論理的思考力、文章・身体・感性等に関する表現力、課題対処力、多様性の理解力や対人関係構築力の獲得などに対応する教育目標が設定されており、これら個々の評価を合わせ、総合的な学修経験を通して学科教育、人材育成の目的に到達できるように各年次に配当して編成しています。

(3) 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

福祉心理学科においては、心理的対人援助活動に関心を持ち、広く社会の福祉に貢献する人材の育成を目指す学科教育に基づき、教養教育科目及び専門教育科目において指定された科目を履修し、その他、学則に示された所定の要件を満たすことを基本としています。

単位の修得にあたっては、各科目にそれぞれに対応する教育目標として、知識や技能、論理的思考力、文章・身体・感性等に関する表現力、課題対処力、多様性の理解力や対人関係構築力の獲得などが設定されており、これら個々の評価を合わせ、総合的な学修経験を通して修学したことを学科教育、人材育成の目的に適う者とし、かつ、学士の学位を授与するにふさわしい人格識見と健全な精神を有していると福祉心理学科会議で判定された学生について、学長が教授会の議を経て卒業を認定し、「学士（福祉心理学）」の学位を授与します。

2. 学生の努力目標

○本学の学是である“真心こそすべてのすべて”の精神にもとづき、福祉と心理を学ぶ本学の学生としての「真

心」と「専門職者意識」を高めるように努めましょう。

- 卒業後の社会生活・職業生活を支える基盤をつくるために、専門的立場から、物事を多角的に判断し、実践できるような教養を身につけましょう。
- 対人援助に必要な知識と技能を身につけるように努めましょう。
- 各種のボランティア活動を体験し、他者理解や対人援助について能動的に考え、自らの福祉に関する興味関心を深めましょう。
- 授業のなかで、実際に福祉・心理の現場で活躍されている方をゲストスピーカーとして招聘します。教科書だけでは学ぶことのできない生きた知識を吸収し、さらに積極的な姿勢で自分の問題意識を高めましょう。
- 実習後には、事後指導の一環として、実習事後指導(実習反省会)を実施します。自分が体験したことをまとめて人に伝えることは、さらなる気付きのきっかけとなります。また、後輩の実習意欲を喚起する役割も兼ねていますので頑張ってください。
- 大学開講科目で学ぶ基礎知識をさらに専門的な知識・技術として習得するために大学が地域貢献として開催するセミナーなどへの参加に努めましょう。
- 福祉・心理は人や社会と切り離しては考えられない学問です。常に地域社会の現状に関心を持ち、将来、地域社会と連携して活躍できる専門家を目指して日々の授業や課題に取り組みましょう。

II . 教育課程と履修の方法

1. 教育課程 (カリキュラム)

(1) 基本的な考え方

開講される授業は「教育課程表」のとおりです。

教育課程(カリキュラム)は、「教養教育科目」と「専門教育科目」に分かれています。

そして科目ごとに、授業の方法(講義・演習・実習)、履修できる学年、科目の種類(必修・選択)、単位数が決められています。

これらの科目の中から、どの科目を履修するのかを自分で決めていくのが大学でのシステムです。ただし、履修にはいくつかの約束事もありますので、しっかりと理解し、確認してください。

自分で決めた科目(授業)を受講して、学期末の試験(筆記試験、レポート試験等)に合格すると「単位」が認定されます。「単位」については、下記に取り上げていますが、卒業や資格取得への目安になる「数」を示します。

(2) 科目の種類

科目は、「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」に大別されます。

卒業までに必ず取得しなければならないのが「必修科目」であり、どちらかを選択して必ず取得しなければならないのが、「選択必修科目」です。それ以外の科目が「選択科目」となっています。

「必修科目」と「選択必修科目」は皆さんが、取得する必要がある科目であり、この科目が卒業時までにも一つでも取得できていなければ、卒業することができません。

(3) 単位

大学では、皆さんが自分で履修した科目で、試験などに合格すると「その科目の単位」が与えられます。

単位は「ポイント数」だと理解してください。単位の計算方法は「大学設置基準」に基づいて学則に定められており、次の基準により計算します。

- ①講義および演習については、15時間から30時間の範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とします。
- ②実験・実習および実技については、30時間から45時間の範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とします。

(4) 卒業に必要な単位数

「単位」は決められただけの数を取得しないと卒業できません。

福祉心理学科の「卒業に必要な単位数」は、次の通りです。

最低必要単位数						
科目別	必修		選択必修	選択	卒業	
教養教育科目	15単位		7単位(情報機器操作 I 履修者は9単位)	6単位以上(情報機器操作 I 履修者は4単位)	28単位以上	
専門教育科目	心理系 (P系) 6単位	福祉系 (W系) 10単位	ゼミナール 4単位		76単位以上(うち、P系科目24単位以上、W系科目20単位以上を含む)	96単位以上
合 計					124単位以上	

(5) 科目ごとの授業期間

授業期間は、「通年科目」と「半期科目」があり、科目ごとに定められています。

「通年科目」とは、1年間を通じて授業を開講する科目で、原則として30回の授業です。ただし、後期末試験を行う場合は31回となります。

「半期科目」とは、前期か後期のどちらかに授業を開講する科目で、原則として15回の授業です。ただし、期末試験を行う場合は16回となります。

2. 履修の方法

まず、教育課程表により、卒業に必要な科目と単位、資格取得に必要な科目と単位を確認します。次に、標準履修年次を確認してください。当該年次以下の学年が記載されている科目がその年度に履修可能な科目となります。つまり、1年次生は、「1」「1・2」「1・2・3・4」と記載されている科目を履修できますが、「2」、「3」、「4」と記載されている科目を履修登録することはできません。2年次生の場合は、「1」「2」「1・2」「1・2・3・4」と記載されている科目をその年度に履修登録することができます。

授業計画と時間割表を参照して、履修する科目を決めます。そして別に配布される「履修届」に記入して、指定の期日までに必ず提出してください。大学では高等学校と違い、自分で履修科目を選び履修登録を完了しなければなりません。

履修届の記入方法、その他注意事項は、入学前オリエンテーションで説明がありますので、しっかりと聞いてください。また、毎年の履修登録時にも配布資料により手続き方法を説明いたします。教員や教務課員が履修届を早く出すよう一人ひとりに指示をしたりはしません。全て自分の責任で届出を行い、履修登録を完了させるようにしてください。

3. 履修の制限

履修には制限のある場合があります。

(1) 履修科目の制限 福島学院大学福祉学部履修規定第22条

実習に出るためには、それぞれの学年で取るべき単位を落とさずにとっておくことが大切です。1、2年次の必修科目を落としてしまうと、3、4年次で実習に向けて履修する科目に支障をきたします。

(2) 履修科目登録の上限 福島学院大学学則第34条

取得しようとする1年間の単位数は、資格取得に必要な単位数や一人ひとりの能力によっても異なってきます。学生が各年次にわたり授業科目を適切に履修するため、1年間に登録できる履修単位の上限をおおむね50単位としています。

4. 国家資格・認定資格の取得

福祉心理学科において指定された単位を取得すると、次の資格が取得できます。

- (1) 社会福祉士(国家試験受験資格)
- (2) 精神保健福祉士(国家試験受験資格)
- (3) 社会福祉主事任用資格
- (4) 認定心理士

なお、公認心理師の国家試験受験資格は、「大学で必要な科目をすべて修め、かつ、大学院で必要な科目をすべて修めて課程を修了した者」が得ることができるため、本学では「大学における必要な科目」を準備しています。詳しくは、資格取得の方法を読んでください。

Ⅲ. 科目履修

1. 授業時間

大学では1回の授業を1コマと数え、授業時間は1コマ90分です。

福島駅前キャンパス授業時間割

時 限	1	2	昼休み	3	4	5
時 間	9:40～11:10	11:20～12:50	12:50～13:40	13:40～15:10	15:20～16:50	17:00～18:30

宮代キャンパス授業時間割

時 限	1	2	昼休み	3	4	5
時 間	8:50～10:20	10:30～12:00	12:00～12:50	12:50～14:20	14:30～16:00	16:10～17:40

2. 成績評価と単位認定

本学では、評価の公正化と厳格性を確保するため、「素点」と「単位数」をともに、本学独自のGPA (Grade Point Average: 成績評定平均点) を算出する方法を取っています。

(1) 成績評価は、100点を満点として、60点以上を合格、59点以下を不合格とします。

成績は6段階となっており、評価点ごとのグレードは次の通りとなっています。

A+	(100～90点)	A	(89～80点)	B	(79～70点)
C	(69～60点)	D	(59～50点)	F	(50点未満)

※GPAの向上のため、C以下の評価点を得た授業科目については、「再履修願」により再履修をすることができます。

(2) 本学独自のGPAの算出方法は、単位取得科目の成績評価点(素点)に単位数を掛けた数値を全単位取得科目について合計し、さらにそれを総取得単位数で割った点数です。合格した科目の1単位当たりの平均点となります。不合格科目は計算に入れません。また、検定試験等により単位認定を受けた科目も計算外となります。

(3) 単位の認定は、当該授業科目の担当教員が、次の条件をそなえた者に対して行います。

※詳しくは、福島学院大学学則第39条及び福島学院大学福祉学部履修規定第10条をご覧ください。

①履修届を提出し、履修確認手続(本人が履修確認を行い、署名した「履修科目確認表」を教務課に提出)が完了した者。

②通常の授業科目については、必要な時数として定められた時数の3分の2以上出席した者。

・定められた授業回数の3分の1を超える回数を欠席した場合は、期末試験への出席も認められません。そして、単位認定は行われず「欠格」となります。実習や病気などのやむを得ない場合を除き、欠席はしないようにしてください。

(遅刻や早退については、30分以上を欠席とし、30分未満の場合は、3回で1回の欠席とみなされますので、欠席回数を計算するときは、これを加えることも忘れないでください)

③学外実習を伴う実習科目(海外における演習科目を含む)については、事前・事後指導時数の5分の4以上出席し、かつ当該現場実習について定められた全ての日数および時数を出席した者。ただし、現場実習において病気、忌引等ややむを得ない事情により欠席した場合は、実習期間の延長が可能な場合について、当該欠席日数分を延長して補充することができます。

・5分の1を超える時数を欠席した場合、および当該現場実習において欠席した日数分の延長を行わなかったときは、当該科目が「欠格」となりますので、十分に注意してください。また、海外研修における現地研修についても、5分の1を超える時数を欠席した場合、当該科目は「欠格」となります。

④授業科目における試験等の結果を総合判定して学習成績の評価が60点以上の者。

⑤所定の学費等を納入した者。

成績評価への補足的対応措置

成績評価の際、私語や欠席などに対して、以下の措置が取られ、成績評価点から減点されます。また、教員が禁止した事項等によっても、減点されることもありますので注意が必要です。

補足的な措置として、次のような例があげられます。詳しくはp.3をよく読んでください。

1. 授業内容に関係のない私語、授業の流れを阻害する学生の私語

・注意1回につき1点減点

※同一学生の注意3回以降は1回につき2点減点。そして、必要と判断した場合は履修制限に関する細則に従い、退席指示、履修取消などの措置が取られます。

2. 遅刻・早退・欠席

・遅刻・早退1回につき1点減点 ・欠席1回につき3点減点

※遅刻・早退3回で1回の欠席となった場合は、その欠席分は減点されません。また、次の場合の欠席等は減点の対象から除外されます。該当したときは、各授業担当教員に事前、もしくは事後に「事由書」を文書（書式自由）で提出してください。

- ①学内外における本学所定の実習を実施する場合
- ②学校保健安全法の規定に基づく、学長による出席停止の指示に従う場合
- ③裁判員制度による裁判員に選任された場合
- ④就職試験（面接を含む）を受験する場合
- ⑤公共交通機関の遅延や運休による場合
- ⑥悪天候または事故等により、やむを得ない場合
- ⑦親族の不幸等やむを得ない場合

3. 欠格

定められた授業回数の3分の1を超える回数を欠席した場合は、上記の2.①から⑦までの場合を含めて欠格とし、期末試験への出席は認められず、単位認定は行われません。

授業受講上の留意点

授業を受講する際の留意点は、「学生受講規程」に定められています。この規程の第2条には、下記のようなマナーに反した受講態度は禁じられています。よく読んで授業に臨んでください。

- ①コート類、小物類（マフラー、帽子等）着用の教室入室、及び受講
- ②授業の進行を妨げるような私語
- ③携帯電話等の送信や交信
- ④飲食や喫煙行為
- ⑤授業担当者の意欲を阻害するマナーの悪い居眠り
- ⑥授業に関係のない荷物（バッグ・紙袋など）を机上に置くこと
- ⑦授業中の教室への無断入退室

3. 文章演習

2年次の文章演習は指定者必修科目です。1年次に履修する国語表現の成績が69点以下だった学生は必ず履修してください。この単位は、教養教育科目の選択の単位に含まれます。

4. 科目「情報機器操作」

情報機器操作はⅠ～Ⅱまであり、入学時の能力検定により履修レベルを決定します。

2単位以上を必修としますが、初級レベルの情報操作機器Ⅰの履修者は、中級レベルの情報操作機器Ⅱまで計4単位以上を必修とします。

科目名	レベル	開講年次	単位
情報機器操作Ⅰ	初級レベル	1年	2単位
情報機器操作Ⅱ	中級レベル	1・2年	2単位

- ・1年次に初級レベルである「情報機器操作Ⅰ」を指定された人
「情報機器操作Ⅰ」を履修して2単位を取得した後、「情報機器操作Ⅱ」も履修して2単位を取得してください。
この4単位は教養教育科目の選択必修科目の単位に入ります。
- ・1年次に中級レベルの「情報機器操作Ⅱ」を指定された人
「情報機器操作Ⅱ」の2単位を取得してください。

IV. 資格取得の方法

福祉心理学科では、福島学院大学福祉学部履修規程第20条「卒業後の公認心理師国家試験受験資格取得」に定める通り、複数の国家試験受験資格を取得しようとする場合、最大2種類までとしています。①社会福祉士と精神保健福祉士、②公認心理師と社会福祉士、③公認心理師と精神保健福祉士の組み合わせで、資格取得に必要な科目の履修が可能です。

1. 社会福祉士

(1) 社会福祉士とは

社会福祉士とは、昭和62年に制定された「社会福祉士及び介護福祉士法」に基づく国家資格です。平成19年12月「社会福祉士及び介護福祉士法の一部を改正する法律」の改正により、現行のカリキュラムが施行されています。社会福祉士制度の施行から現在に至るまでの間に、介護保険制度の施行等による措置制度から契約制度への転換など、社会福祉士を取り巻く状況は大きく変化しており、今後の社会福祉士に求められる役割としては、①福祉課題を抱えた者からの相談に応じ、必要に応じてサービス利用を支援するなど、その解決を自ら支援する役割、②利用者がその有する能力に応じて、尊厳を持った自立生活を営むことができるよう、関係する様々な専門職や事業者、ボランティア等との連携を図り、自ら解決することのできない課題については当該担当者への橋渡しを行い、総合的かつ包括的に援助していく役割、③地域の福祉課題の把握や社会資源の調整・開発、ネットワークの形成を図るなど、地域福祉の増進に働きかける役割、これらを適切に果たしていくことが求められています。

社会福祉士の資格を取得するためには「国家試験」を受験しなければなりません。受験資格を得るためには法律でいくつかの規定がありますが、本学はそのうち「指定科目を修めて卒業した者」の養成課程となっています。つまり、「大学で指定科目の中から条件を満たすように単位を取得した場合に国家試験が受験できる」ということです。

(2) 指定科目

社会福祉士及び介護福祉士法では「指定科目」として22科目を規定していますが、本学の開講科目は26科目履修する必要があります。

「◎」のついた2科目は本学では「必修科目」ですので、必ず履修しなければなりません。

「○」のついた19科目は本学では「選択科目」となっていますが、国家試験受験のための「指定科目」となっていますので必ず履修しなければなりません。

「A1」のついた3科目については、法律では「3科目のうち1科目を履修すること」となっていますので、「A1」のついた3科目の中から1科目以上を必ず履修しなければなりません。しかし、国家試験ではこれらの3科目全てについて試験科目として出題されますので、3科目全てを履修することが望まれます。

「A2」のついた科目について、法律では「3科目のうち1科目を履修する」となっていますので、「A2」のついた3科目の中から1科目以上を必ず履修しなければなりません。しかし国家試験ではこれらの3科目全てについて試験科目として出題されますので、3科目全てを履修することが望まれます。

本学開講科目一覧は次の通りです。

社会福祉士 指定科目表 (2018年度～)

法令指定科目	本学開講科目	分類	年次	単位
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	A1	1	4
心理学理論と心理的支援	心理学概論	◎A1	1	4
社会理論と社会システム	社会学	A1	2	2
現代社会と福祉	社会福祉原論	◎	2	4
社会調査の基礎	社会調査法	○	3	2
相談援助の基盤と専門職	相談援助の基盤と専門職	○	1	4
相談援助の理論と方法	社会福祉援助技術論Ⅰ	○	2	4
	社会福祉援助技術論Ⅱ	○	3	4
地域福祉の理論と方法	地域福祉論	○	2	2
	コミュニティーソーシャルワーク	○	2	2
福祉行財政と福祉計画	福祉行財政と福祉計画	○	3	2
福祉サービスの組織と経営	社会福祉運営管理	○	3	2

社会保障	社会保障	○	2	4
高齢者に対する支援と介護保険制度	高齢者に対する支援と介護保険制度	○	1	4
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	○	2	2
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	児童・家庭福祉	○	2	4
低所得者に対する支援と生活保護制度	低所得者に対する支援と生活保護制度	○	3	2
保健医療サービス	保健医療サービス	○	3	2
就労支援サービス	就労支援	A2	3	1
権利擁護と成年後見制度	権利擁護と成年後見制度	A2	3	2
更生保護制度	更生保護制度	A2	3	1
相談援助演習	相談援助演習Ⅰ	○	2	1
	相談援助演習Ⅱ	○	3	2
	相談援助演習Ⅲ	○	4	2
相談援助実習指導	相談援助実習指導	○	3・4	3
相談援助実習	相談援助実習	○	3・4	4

(3) 科目「相談援助実習指導」「相談援助実習」

①科目の内容

「相談援助実習指導」では、年間45コマ(前期30コマ、後期15コマ)の授業を開講し、前期(実習事前学習)は、実習の意義と目的を学び、実習施設の理解を深めるとともに、実習に向けての「実習計画書」の作成を行います。後期(実習事後学習)は、「実習日誌」「実習全体のまとめ」から実習を振り返り、実習報告書の作成と実習反省会での発表を行います。この授業は4/5以上の出席を必要とします。

「相談援助実習」は、社会福祉士の受験資格のため「180時間以上」の配属実習を学外(集中)で行うものです。これまで学んできた社会福祉援助に関する倫理、専門知識や専門技術について自らの体験を通じて主体的に学び、社会福祉専門職として基本的な態度を学びます。

②履修制限

a. 福島学院大学福祉学部履修規程第22条第1項のとおり、「相談援助実習」は、履修する前の年度末の時点でGPA70点以上でなければ履修することはできません。

b. 「相談援助実習」を履修する前までに履修する必要のある科目が不合格となり、学科会議で不適格とされた者は実習科目を履修することができないことがあります。

※3年次に「相談援助実習」の履修を希望する者が、2年次末までに単位を取得する必要のある科目は次の10科目です。

- | | | |
|------------------------|------------|---------------------|
| ①「人体の構造と機能及び疾病」 | ②「心理学概論」 | ③「社会福祉原論」 |
| ④「相談援助の基盤と専門職」 | ⑤「社会保障」 | ⑥「高齢者に対する支援と介護保険制度」 |
| ⑦「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」 | ⑧「児童・家庭福祉」 | |
| ⑨「社会福祉援助技術論Ⅰ」 | ⑩「相談援助演習Ⅰ」 | |

※4年次に「相談援助実習」の履修を希望する者が、3年次末までに単位を取得する必要のある科目は上記10科目および次の4科目です。

- | | | | |
|---------------|----------|-------------|------------|
| ①「社会福祉援助技術論Ⅱ」 | ②「社会調査法」 | ③「保健医療サービス」 | ④「相談援助演習Ⅱ」 |
|---------------|----------|-------------|------------|

c. 履修制限の解除

履修規程第23条のとおり、第22条第1項によって履修制限を受けていた者が、その後の学期末の時点で、次の要件を満たした場合には、次の学期以降に「相談援助実習」の履修制限が解除されます。

1. GPA70点以上になったとき
2. 当該実習科目履修前に履修する必要のある科目の単位が合格となり、学科会議の結果、適格と判定されたとき

③「地域ボランティア活動」および「地域振興活動」の履修について

実習事前準備のため、実習履修の前年度末までに、「地域ボランティア活動」または「地域振興活動」のいずれか1科目を履修してください。

2. 精神保健福祉士

(1) 精神保健福祉士とは

平成9年(1997年)に制定された「精神保健福祉士法」に基づく国家資格です。精神保健福祉士法が改正され、平成24年4月から新カリキュラムが施行されています。

精神保健福祉士の仕事の内容は、精神障がい者の退院促進を支援し、精神障がい者が地域でその人らしく生きるための生活課題に取り組み地域生活の維持・継続ができるよう相談援助を行います。

精神保健福祉士の資格を取得するためには「国家試験」を受験しなければなりません。受験資格を得るためには法律でいくつかの規定がありますが、本学はそのうち「指定科目を修めて卒業した者」の養成課程となっています。つまり、「大学で指定科目の中から条件を満たすように単位を取得した場合に国家試験が受験できる」ということです。

(2) 指定科目

精神保健福祉士法では「指定科目」として22科目を規定していますが、本学の開講科目は24科目履修する必要があります。

「◎」のついた3科目は本学では「必修科目」ですので、必ず履修しなければなりません。

「○」のついた19科目は本学では「選択科目」となっていますが、国家試験受験のための「指定科目」となっていますので必ず履修しなければなりません。

「A1」のついた3科目については、法令では「3科目のうち1科目を履修すること」となっていますので、「A1」のついた3科目の中から1科目以上を必ず履修しなければなりません。しかし、国家試験ではこれらの3科目全てについて試験科目として出題されますので、3科目全てを履修することが望まれます。

本学開講科目一覧は次の通りです。

精神保健福祉士 指定科目表 (2018年度～)

指定科目等の名称	開講科目の名称	分類	年次	単位
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	A1	1	4
心理学理論と心理的支援	心理学概論	◎A1	1	4
社会理論と社会システム	社会学	A1	2	2
現代社会と福祉	社会福祉原論	◎	2	4
地域福祉の理論と方法	地域福祉論	○	2	2
	コミュニティソーシャルワーク	○	2	2
社会保障	社会保障	○	2	4
低所得者に対する支援と生活保護制度	低所得者に対する支援と生活保護制度	○	3	2
福祉行財政と福祉計画	福祉行財政と福祉計画	○	3	2
保健医療サービス	保健医療サービス	○	3	2
権利擁護と成年後見制度	権利擁護と成年後見制度	○	3	2
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	○	2	2
精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	◎	1	4
精神保健の課題と支援	精神保健学	○	1	4
精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)	精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)	○	2	2
精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	○	2	2
精神保健福祉の理論と相談援助の展開	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	○	3	4
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	○	3	4
精神保健福祉に関する制度とサービス	精神保健福祉に関する制度とサービス	○	2	4
精神障害者の生活支援システム	精神障害者の生活支援システム	○	2	2
精神保健福祉援助演習(基礎)	精神保健福祉援助演習(基礎)	○	2	1
精神保健福祉援助演習(専門)	精神保健福祉援助演習(専門)	○	3	2
精神保健福祉援助実習指導	精神保健福祉援助実習指導	○	4	3
精神保健福祉援助実習	精神保健福祉援助実習	○	4	5

(3) 科目「精神保健福祉援助実習指導」「精神保健福祉援助実習」

①科目の内容

「精神保健福祉援助実習指導」では、年間45コマの授業があります。前期の実習事前指導30コマは、当事者への相談業務やリハビリテーション活動について必要な資質・能力・技術などの専門的援助技術を学ぶとともに、専門職としての自覚に基づいた行動ができるよう学習を行います。後期の実習事後指導15コマは、実習の振り返りを個別やグループで行い、実習事後指導(実習反省会)で発表し、それらを報告書にまとめます。この授業は4/5以上の出席を必要とします。

「精神保健福祉援助実習」(210時間、27日以上)では、①90時間以上の医療保健福祉関係機関での実習が法律上必修になっています。②また医療機関の他に必ず福祉サービス事業施設等での現場実習を行う必要があります。現場実習を通して精神保健福祉士の役割と業務の理解や関連分野の専門職種との連携のあり方を学びます。

②履修制限

a. 福島学院大学福祉学部履修規程第22条第1項のとおり「精神保健福祉援助実習」は、履修する前の年度末の時点でGPA70点以上でなければ履修することはできません。

b. 「精神保健福祉援助実習」を履修する前までに履修する必要のある科目の単位が不合格となり、学科会議で不適格とされた者は実習科目を履修することができないことがあります。

※3年次末(実習を履修する前年度末)までに単位取得する必要のある科目は次の12科目です。

- ①「人体の構造と機能及び疾病」
- ②「心理学概論」
- ③「社会福祉原論」
- ④「社会保障」
- ⑤「精神疾患とその治療」
- ⑥「精神保健学」
- ⑦「精神保健福祉に関する制度とサービス」
- ⑧「精神障害者の生活支援システム」
- ⑨「精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)」
- ⑩「精神保健福祉相談援助の基盤(専門)」
- ⑪「精神保健福祉援助演習(基礎)」
- ⑫「精神保健福祉援助演習(専門)」

c. 履修制限の解除

履修規程第23条のとおり、第22条第1項によって履修制限を受けていた者が、その後の学期末の時点で、次の要件を満たした場合には、次の学期以降に「精神保健福祉援助実習」の履修制限が解除されます。

1. GPAが70点以上になったとき
2. 当該実習科目履修前に履修する必要のある科目の単位が合格となり、学科会議の結果、適格と判定されたとき

③「地域ボランティア活動」および「地域振興活動」の履修について

実習事前準備のため、実習履修の前年度末までに、「地域ボランティア活動」または「地域振興活動」のいずれか1科目を履修してください。

3. 社会福祉主事任用資格

(1) 社会福祉主事とは

「社会福祉主事」とは社会福祉法第19条に認定されている資格です。社会福祉主事は福祉事務所で働く時に必要な資格であり、福祉事務所で「現業員」という仕事に就いたときに「社会福祉主事」と名乗れるというもので、このような資格を「任用資格」と呼んでいます。

つまり卒業して地方公務員試験を受けて地方自治体職員に採用され、福祉事務所に配属になったときに初めて名乗れる資格といえます。

しかし一般的に社会福祉の領域では、「社会福祉に関する業務を行うのに、最低限必要な資格」と位置づけられています。卒業後に社会福祉施設などで働く者にとって、最低限必要な資格といえるでしょう。

(2) 指定科目

社会福祉法では指定科目を34科目規定しており、「指定科目を3科目以上履修した者」は、その単位が認定されれば、卒業と同時に「社会福祉主事任用資格」が与えられます。

本学では必修科目である「社会福祉原論」「心理学概論」「精神疾患とその治療」が指定科目ですので、卒業と同時に「社会福祉主事任用資格」を有することになります。

※「社会福祉主事任用資格」は大学で付与する資格ではありません。資格を有することについては、本学の卒業証明書と成績証明書の2点をもって証明できます。

4. 認定心理士

(1) 認定心理士とは

認定心理士(日本心理学会認定心理士)とは、心理学の専門家として仕事をするために必要な、「最小限の標準的基礎学力と技能を修得している」と日本心理学会が認定した者のことです。

つまり、学会が認定している「認定資格」と呼ばれるもので、国家資格ではありません。心理学を専門に学ぶ者が、心理学専攻者としてのアイデンティティを持ち、専門性を向上していくために作られた制度です。

認定心理士の資格を取得するためには、定められた指定科目を履修し、必要単位を修得して、卒業しなければなりません。この条件を満たして初めて、資格認定の申請を行うことができます。

申請後、資格認定委員会の審査を経て認められた場合、「認定心理士」の資格を取得することができます。

(2) 指定科目

認定心理士の資格を取得するには、日本心理学会が定める「指定科目」を履修し、36単位以上修得することが必要です。「指定科目」は基礎科目と選択科目に分かれています。

基礎科目はさらにA・B・Cの3領域に分かれ、Aは4単位以上、BとCは合わせて8単位以上、合計12単位以上修得する必要があります。

また選択科目はDからHまでの5領域に分かれています。そのうち3領域以上から各4単位以上修得し、合計16単位以上修得しなければなりません。残りの8単位はA～Hの領域にある残りの科目から任意に選択して履修することとなります。

これらの「指定科目」を本学のカリキュラムにあてはめたのが次の表です。「認定心理士」の資格を取得したい学生は、この表を参考に履修科目を決めてください。

認定心理士 指定科目表 (2018年度～)

	領域	本学授業科目	単位	配当年次	履修方法
基礎科目	A	心理学概論	2	1	A領域：4単位以上 B・C領域の合計：8単位以上 合計：12単位以上
		臨床心理学概論	1(注1)	1	
		感情・人格心理学	1(注1)	2	
	B	心理学研究法	2	2	
		心理学統計法	2	3	
	C	心理学実験	2	2	
		心理的アセスメントⅠ	1	3	
心理的アセスメントⅡ		1	3		
心理演習		1	3		
選択科目	D	知覚・認知心理学	2	2	D～Hまでの5領域のうち3領域以上で、 それぞれが少なくとも4単位以上 合計：16単位以上
		学習・言語心理学	2	2	
	E	神経・生理心理学	2	2	
	F	発達心理学	2	1	
		発達臨床心理学	2	3	
		教育・学校心理学	2	3	
	G	司法・犯罪心理学	2	2	
		障害者・障害児心理学	2	2	
		心理療法	2	2	
		健康・医療心理学	2	3	
	H	福祉心理学Ⅱ	2	3	
		社会・集団・家族心理学	2	2	
		産業・組織心理学	2	3	

(注1) これら2科目は、A領域の副次主題での申請とするため、開講単位数の半数が認定単位数となる。

(注2) 基礎科目および選択科目、その他の科目を合わせて、総単位36単位以上必要。

5. 公認心理師

(1) 公認心理師とは

公認心理師とは、平成29年(2017年)9月に施行された「公認心理師法(平成27年制定)」に基づく国家資格です。心理学に関する専門知識及び技術をもって、保健医療、福祉、教育その他の分野で、心理に関する支援を必要としている人の心理状態の観察と分析、相談、助言、指導その他の援助等を行う者であり、国家試験合格により公認心理師の名称を用いて仕事を行うことができるようになります。

公認心理師の資格を取得するためには、「大学で必要な科目をすべて修め、かつ、大学院で必要な科目をすべて修めて課程を修了した者」が受験資格を得た上で、国家試験に合格することが求められます。つまり、大学を卒業しただけでは公認心理師国家試験受験資格を得ることはできない、ということです。

大学卒業後、一定の実務経験(医療機関等において心理専門職として2年以上の援助実績)でも国家試験受験資格を得ることはできますが、これから大学で学びを始める人にとっては、大学で必要な科目を修め、その後、大学院で必要な科目を修めることが公認心理師国家試験受験資格取得の早道といえるでしょう。

本学には大学院も設置されており、公認心理師養成を行っております。福祉心理学科においても、法に規定されている「大学における必要な科目」をすべて開講し、公認心理師を目指す学生に対して、大学院進学および資格取得の支援を行っています。

(2) 大学における必要な科目

公認心理師法では、「大学における必要な科目」として25科目を規定していますが、本学の開講科目は27科目となっており、全ての科目を履修する必要があります(資格必修)。

本学開講科目一覧は次の通りです。

公認心理師 大学における必要な科目表

公認心理師法に定められた 大学における必要な科目名称	開講科目の名称	配当年次	単位
公認心理師の職責	公認心理師の職責	3	2
心理学概論	心理学概論	1	4
臨床心理学概論	臨床心理学概論	1	2
心理学研究法	心理学研究法	2	2
心理学統計法	心理学統計法	3	2
心理学実験	心理学実験	2	2
知覚・認知心理学	知覚・認知心理学	2	2
学習・言語心理学	学習・言語心理学	2	2
感情・人格心理学	感情・人格心理学	2	2
神経・生理心理学	神経・生理心理学	2	2
社会・集団・家族心理学	社会・集団・家族心理学	2	2
発達心理学	発達心理学	1	2
障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学	2	2
	心理的アセスメント		
	心理的アセスメントⅠ	3	1
	心理的アセスメントⅡ	3	1
心理学的支援法	心理学的支援法	2	2
健康・医療心理学	健康・医療心理学	3	2
福祉心理学	福祉心理学Ⅰ	1	2
	福祉心理学Ⅱ	3	2
教育・学校心理学	教育・学校心理学	3	2
司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学	2	2
産業・組織心理学	産業・組織心理学	3	2
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	1	4
精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	1	4
関係行政論	関係行政論	3	2
心理演習	心理演習	3	1
心理実習	心理実習	4	2

(3) 科目「心理演習」「心理実習」

①科目の内容

「心理演習」および「心理実習」は、福島学院大学福祉学部履修規程第22条第2項に規定する通り、履修者の上限を30名としています。学生個別面談等を通して取得希望資格について教員と話し合い、その結果に基づいて履修者が決定されます。

「心理実習」は、「80時間以上」の学外実習および事前・事後指導によって構成されています。

学外実習の実習施設については、「心理に関する支援の実態に対する理解を促す観点から、主要な5分野(保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働)に関する施設の見学を中心とした実習が必要」とされています。ただし、経過措置期間中は、医療機関(病院又は診療所)での実習を必須とし、医療機関以外の施設での実習については適宜行うことが認められているため、実習年度に実習先について説明します。

事前・事後指導は、学外実習の前後に適宜実施します。

②履修制限

a. 福島学院大学福祉学部履修規程第22条第2項のとおり、「心理実習」は、履修する前の年度末の時点でGPA70点以上でなければ履修することはできません。

b. 「心理実習」を履修する前までに履修する必要がある26科目のうち1科目以上の単位が未修得の者は、学科会議で不適格とされた場合、実習科目を履修することができない場合があります。

c. 履修制限の解除

福島学院大学福祉学部履修規程第23条のとおり、第22条第2項によって履修制限を受けていた者が、その後の学期末の時点で、次の要件を満たした場合には、次の学期以降に「心理実習」の履修制限が解除されます。

1. GPAが70点以上になったとき

2. 当該実習科目履修前に履修する必要がある科目の単位が合格となり、学科会議の結果、適格と判定されたとき

③「地域ボランティア活動」「地域振興活動」

実習事前準備のため、実習履修の前年度末までに、「地域ボランティア活動」または「地域振興活動」のいずれか1科目を履修してください。

V.ゼミナール

「ゼミナール」は、福祉・心理に関する課題や問題点を自ら見出し、解決する方法を研究する力の涵養を目的に、専門教育科目における卒業必修科目(4単位)として設定されています。履修学年は3年次、4年次と2カ年の継続履修で、2学年がともに学修に励む科目となっています。「ゼミナール」の単位は各ゼミナールにおける研究成果として、研究論文の提出が必須の条件となります。

各ゼミナールの履修定員は学科定員の10%程度とし、当該学年学生数を勘案したうえで、事前希望調査に基づいて極端な偏りを防ぐよう配属できるよう計画されています。1年次より問題意識を持ち、3年次までに研究課題を絞り込んでいきましょう。

4年次には各ゼミナールの研究領域に関わらず「研究発表会」にて研究成果の発表を行っていきます。

平成30年度 福祉学部福祉心理学科授業計画 目次

平成30年度 福祉学部福祉心理学科 授業計画のみかた	1
成績評価への補足的対応措置	3
教育課程表 H30年度入学生用	4
" H28・H29年度入学生用	9
" H27年度入学生用	13
他大学・短期大学に開放する科目	17

教養教育科目

本学の教育	小松由美/遠藤貞子	18
国語表現	佐藤晴雄	21
文章演習	佐藤晴雄	24
情報機器操作Ⅰ	河野毅	26
情報機器操作Ⅱ(1年次対象)	河野毅	29
情報機器操作Ⅱ(2年次対象)	菅井道子	32
生活教養	遠藤貞子	35
生活教養Ⅱ	遠藤貞子	38
地域ボランティア活動	日下輝美	41
地域振興活動	日下輝美	43
音楽演習	ブルース・ヒューバナー	45
美術演習	古畑雅規	48
心理学概論	岸良範	51
心理学概論(1年次)	渡邊勉	54
心理学(2年次以上)	渡邊勉	57
法学	中里真	60
社会学	高橋嘉代	62
女性と保健	織田正昭	65
育児ストレス	織田正昭	68
食生活と健康	田中かづ子	71
英語リーディング	高橋了治	73
英会話Ⅰ	ブルース・ヒューバナー	76
英会話Ⅱ	高橋了治	80
中国語会話Ⅰ	呂学如	83
中国語会話Ⅱ	呂学如	86
国際理解論	坂本恒夫	90
国際理解演習(シンガポール)	中丸一志	92
国際理解演習(バリ島)	佐藤敦子	95
体育実技Ⅰ	藤本要/島田貴広	98
体育実技Ⅱ(バレーボール)	島田貴広	101
体育実技Ⅱ(ボディ・コンディショニング)	島田貴広	104
体育実技Ⅱ(テニス)	藤本要	106
体育実技Ⅱ(バドミントン)	藤本要	109

専門教育科目

福祉心理学Ⅰ	星野仁彦	111
福祉心理学	茂木積雄/千葉喜弘	113
福祉キャリア研究	茂木積雄/日下輝美	117
コミュニケーション演習	梅宮れいか	119
コミュニケーション演習(2年次以上)	梅宮れいか	121
人体の構造と機能及び疾病	茂木積雄	124
医学一般(2年次以上)	茂木積雄	127
精神疾患とその治療	星野仁彦	130
精神医学(2年次以上)	星野仁彦	133
発達心理学	小関賢	136
発達心理学(2年次以上)	小関賢	138
臨床心理学概論	渡部敦子	141
臨床心理学	渡部敦子	143
心理学研究法	阿部恒之	146
人格心理学	田辺稔	149
認知心理学	和田裕一	153
子どもの心理	杉山雅彦	156
青年の心理	八木孝憲	158

老いの心理	岩佐 一	160
職場の心理	渡部敦子	162
心理診断法実習	木村泰博	164
心理統計学	和田裕一	166
カウンセリング概論	杉山雅彦	168
カウンセリング演習	杉山雅彦	171
心理学実験	梅宮れいか	174
社会心理学	渡部敦子	177
障害児・者への心理援助	板垣健太郎	180
犯罪行動と心理(2年次以上)	黒津康司	182
犯罪行動と心理演習	黒津康司	185
癒しと心	梅宮れいか	189
心理療法	星野仁彦	191
社会福祉原論	齊藤隆之	193
医療福祉論	本田ルミ子	195
社会調査法	高橋嘉代	197
相談援助の基盤と専門職	島野光正	199
相談援助の基盤と専門職(2年次以上)	島野光正	203
社会福祉援助技術論Ⅰ	齊藤隆之	207
社会福祉援助技術論Ⅱ	本田ルミ子	210
地域福祉論	日下輝美	212
コミュニティーソーシャルワーク	日下輝美	215
福祉行財政と福祉計画	日下輝美	218
社会福祉運営管理	遠藤寿海	221
社会保障	遠藤寿海	223
高齢者に対する支援と介護保険制度	遠藤寿海	226
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	齊藤隆之	229
児童・家庭福祉	加藤とよ	231
低所得者に対する支援と生活保護制度	高橋嘉代	234
保健医療サービス	本田ルミ子	237
就労支援	高橋嘉代	239
権利擁護と成年後見制度	中里 真	241
更生保護制度	黒津康司	243
相談援助演習Ⅰ	日下輝美	245
相談援助演習Ⅱ	遠藤寿海/日下輝美	248
相談援助演習Ⅲ	遠藤寿海	252
相談援助実習指導	遠藤寿海	256
相談援助実習	遠藤寿海	261
精神保健学	星野仁彦	263
精神保健福祉に関する制度とサービス	北本明日香	266
精神障害者の生活支援システム	藤原正子	269
精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)	藤原正子	271
精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	北本明日香	273
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	北本明日香	275
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	藤原正子	278
精神保健福祉援助演習(基礎)	藤原正子/北本明日香	281
精神保健福祉援助演習(専門)	藤原正子/北本明日香	283
精神保健福祉援助実習指導	藤原正子/北本明日香	286
精神保健福祉援助実習	藤原正子/北本明日香	290
母子保健Ⅰ	織田正昭	292
母子保健Ⅱ	織田正昭	295
福祉住環境演習	中丸一志	298
特別研究Ⅰ「臨床心理学研究法A」	杉山雅彦/渡部敦子/木村泰博	301
特別研究Ⅰ「臨床心理学研究法B」	岸 良範/渡邊 勉	303
特別研究Ⅰ「こころの健康と精神障がい者の地域生活支援」	藤原正子	306
特別研究Ⅰ「地域の福祉」	日下輝美	309
特別研究Ⅱ「臨床心理学研究A」	杉山雅彦/渡部敦子/木村泰博	312
特別研究Ⅱ「臨床心理学研究B」	岸 良範/渡邊 勉	314
特別研究Ⅱ「こころの健康と精神障がい者の地域生活支援」	藤原正子	317
特別研究Ⅱ「地域の福祉」	日下輝美	320
平成30年度福祉学部福祉心理学科前期学事・行事日程		323
平成30年度福祉学部福祉心理学科後期学事・行事日程		324

平成30年度 福祉学部福祉心理学科 シラバス 授業計画のみかた

この授業計画は、福祉心理学科で学ぶ全学生のために作成されています。構成は教育課程表と各授業の内容とになっています。まずは教育課程表にきちんと目を通し、とらなければならない「必修」科目を確認しましょう。次に興味をかき立てられる授業を探します。どのような授業が開かれ、どのような内容で勉強するのかを知るために、この授業計画を使います。
 ＊注意 教育課程表は「入学年度別」に3種類あります。まずは自分の入学年度を確認してください。

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

授 業 科 目 名	①	授業形態・単位数	②	・ 単位
		開 講 年 次	③	年次
担 当 教 員	職名:	開 講 期	④	
	氏名:	授 業 回 数	⑤	回
	本務先: 職名:	期 末 試 験 の 有 無	⑥	
開講キャンパス	⑧	授業時間以外の必要な学修時間	⑦	
オフィスアワー・メールアドレス等	⑩			
卒業・資格・免許 ⑨	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		

授業の概要	授業の概要との対応項目 ⑫		
⑪			
⑬ 授業の到達目標	⑭ 授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)		
	目標	⑭	

- ①「科目名」 教育課程表に基づく科目の名称です。
- ②「授業形態・単位数」 「講義」「演習」「実習」「実技」があります。取得できる単位数が記入されています。
- ③「開講年次」 教育課程表の標準履修年次が書かれています。
- ④「開講期」 「前期」「後期」「通年」「集中」「時間割外」があります。
- ⑤「授業回数」
- ⑥「期末試験の有無」
- ⑦「授業時間以外の必要な学修時間」
- ⑧「開講キャンパス」 授業は基本的に、福島駅前キャンパスにて開講されますが、一部宮代キャンパス開講のものがあります。
- ⑨「卒業要件資格指定科目」
 - ・ 卒業：卒業に「必修」か「選択必修」かが記載されています。
 - ・ 資格：資格取得のための指定内容が書かれています。目指す資格を取得するために、その科目が「必修」なのか、「選択必修」なのかをきちんと確認の上、履修するようにしてください。
- ⑩「オフィスアワー・メールアドレス等」 授業時間外の学生からの質問受け付け方法等が書かれています。
- ⑪「授業の概要」 授業で取り上げる内容のあらましや考え方が記されています。
- ⑫「授業の概要との対応項目」 授業の概要に対応して本科目を受講することによりどのような知識や理解に結びつくのか、A～Lに該当する項目に○がついています。
- ⑬「授業の到達目標」 この授業を受けることでどのような力が身につくのか、授業の具体的な到達目標が書かれています。
- ⑭「授業の概要・到達目標との対応項目」 受講することによりどのような力が得られるのか到達目標A～Lの対応項目が示されています。

A	知識	内容について知ること、理解すること
B	技術・技能	物事を巧みに(能率的に)行うわざ、それを巧みに(見事に)してのけることができる
C	論理的思考力	理路整然とした論理構成で話すこと、書くことができる力
D	文章表現力	まとまった考え・感情を洗練された文章や言葉選びで豊かに表現することができる力
E	表情及び身体表現力	自分の内面から出る豊かな表情と動作で表すことができる力
F	感性及び感動表現力	与えられた情報を様々な角度から捉え、自分の心で深く考え、心で感じて表すことができる力
G	協働能力	主体性を持って多様な人々と関わり、協働することができる力
H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	真実、誠意ある心、純粹に親切な心から現し出すことができる力、夢の実現に向かって努力することができる力
I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	進んで発言し、発言によって誰かに何かを伝え、納得させる力
J	多様性への理解力、応用力	色々なことを考えながら、知識を生かし、実際の事柄にあてはめて利用することができる力
K	課題対処力	与えられる主題や解決しなければならない問題に対し、適切な対応・処置をとることができる力
L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	人間関係を円滑にし、構築できる力、人との対話ができる力

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
⑮	⑯	⑰	⑱

内容の欄には、⑮各回に、⑯どんな内容を、⑰どのような方法で授業が実施されるかが明示されています。その授業を的確に理解するための予習復習や授業時間以外での学修が⑱に記載されています。

なお、授業計画については、授業の進度などによって多少の変更や回の入替えが生じる場合があります。

到達度の評価 評価をする観点とその比重が明示されています。
詳しくは次頁の「成績評価への補足的対応措置」を確認してください。

教科書 授業の指定教科書が明示されています。指定の販売日に必ず購入してください。

参考書 授業をよりよく、そしてより深く理解するために、是非読んでほしい文献や、手引き書などが書かれています。購入の義務はありませんが、勉強する上で参考にする価値がある文献です。

その他の補足事項 履修する上で必要なことが記載されています。

成績評価への補足的対応措置

成績評価において、遅刻、早退、欠席、および授業中の態度等に関わる減点については、次の事項をご参照ください。

1. 授業内容に関係のない私語、もしくは授業の流れを阻害する学生の私語
注意学生1回につき1点減点、同一学生の注意が3回以降は1回につき2点減点とする。ただし、必要と判断した場合は履修制限に関する細則に従い、退席指示、履修取消などの措置をとるものとする。
2. 遅刻・早退・欠席
遅刻・早退1回につき1点減点、欠席1回につき3点減点とする。
ただし、遅刻・早退3回で1回の欠席とされた者の場合は、その欠席とした分については減点しない。
ただし、次の場合の遅刻または欠席は減点の対象とはしない。なお、該当学生は該当項について「事由書」を文書（書式自由）で、事前に判明した場合は事前に、当該授業後の場合は事後に各授業担当教員に提出するものとする。
 - ①学内外における本学所定の実習に参加する場合
 - ②学校保健安全法の規定に基づく学長による出席停止の指示に従う場合
 - ③裁判員制度による裁判員に選任された場合
 - ④就職試験や面接を受験する場合
 - ⑤公共交通機関の遅延や運休による場合
 - ⑥悪天候または事故等によりやむを得ない場合
 - ⑦親族の不幸等やむを得ない場合
3. 欠格
定められた授業回数の3分の1を超える回数を欠席した場合は、前号①から⑦までの場合を含めて欠格とし、期末試験への出席を認めず、単位認定は行わないものとする。
4. 質問応答
指名応答
指名した学生が質問に適切に回答したと認めるとき、その内容の評価に応じ1回につき1～2点加点とする。質問に不適切な回答をしたと認めるとき、または質問に答えられえなかったとき、1回につき1点減点とする。
自発的応答
教員の質問に対して自ら挙手するなど学生が自発的に適切に回答したと教員が認めるとき、その内容の評価に応じ1回につき1～3点加点とする。また、学生の自発性および授業の双方向性推進の措置として、全授業回数中、教員の質問に対し学生が自発的応答を1回もしなかったとき、5点減点とする。
5. 小論文（宿題）
未提出の小論文1件につき2点減点とする。また、教員が小論文を優良と評価したとき、小論文1件につき内容の優良さに応じ1～3点加点とする。
6. 小テスト
授業の理解度を計る小テストについて教員が優良と認めた場合は、小テスト1件につき評価により1～3点加点とする。
7. 期末試験としてのレポート提出を課す場合
レポートは原則として試験期間開始前に提出させるものとし、教員が指定する締め切り期限を過ぎた場合は期限後1日（土曜、日曜、祝日を含む。）あたり2点減点とし、また、提出がない場合のレポート評価は零点とする。教員が定めた場合の最低字数に不足する場合も適宜減点するものとする。字数の上限を定めた場合で、それを超えた場合も同様とする。

授業科目	科目区分	授業形態	標準履修年次	卒業			社会福祉士	精神保健福祉士	認定心理士	公認心理師	授業期間		実習時間数(日数)	回数	評価	備考
				必修	選択必修	選択	指定科目	指定科目	指定科目	必要な科目	通年	半期				
7 専修課程単位上履修 授業科目(総単位15単位)選択	体育分野	体育実技Ⅰ	実習	1	1						○			23		
		体育実技Ⅱ	実習	2							○			23		
専門教育科目(必修20単位を含め96単位以上履修)	専門基礎科目(P系およびW系科目)	福祉心理学Ⅰ	P 講義	1	2					○	○		15			
		福祉心理学Ⅱ	P 講義	3	2				選択G	○	○		15			
		福祉キャリア研究	W 演習	2	2						○			15	認定	
		コミュニケーション演習	P 演習	1			1					○		15		
		人体の構造と機能及び疾病	W 講義	1			4	A1	A1		○	○		30		
		精神疾患とその治療	W 講義	1	4				◎		○	○		30		
	心理関連科目(P系科目)	発達心理学	P 講義	1	2				選択F	○	○		15			
		臨床心理学概論	P 講義	1			2		基礎A	○	○		15			
		心理学研究法	P 演習	2			2		基礎B	○	○		30			
		感情・人格心理学	P 講義	2			2		基礎A	○	○		15			
		知覚・認知心理学	P 講義	2			2		選択D	○	○		15			
		教育・学校心理学	P 講義	3			2		選択F	○	○		15			
		発達臨床心理学	P 講義	3			2		選択F		○		15			
		産業・組織心理学	P 講義	3			2		選択H	○	○		15			
		心理的アセスメントⅠ	P 演習	3			1		基礎C	○	○		15			
		心理的アセスメントⅡ	P 演習	3			1		基礎C	○	○		15			
		心理学統計法	P 講義	3			2		基礎B	○	○		15			
		心理学的支援法	P 講義	2			2			○	○		15			
		心理演習	P 演習	3			1		基礎C	○	○		15			
		心理学実験	P 実習	2			2		基礎C	○	○	60時間	30			
社会・集団・家族心理学	P 講義	2			2		選択H	○	○		15					
障害者・障害児心理学	P 講義	2			2		選択G	○	○		15					
司法・犯罪心理学	P 講義	2			2		選択G	○	○		15					

授業科目	科目区分	授業形態	標準履修年次	卒業			社会福祉士	精神保健福祉士	認定心理士	公認心理師	授業期間		実習時間数(日数)	回数	評価	備考	
				必修	選択必修	選択	指定科目	指定科目	指定科目	必要な科目	通年	半期					
心理関連科目(P系科目)	犯罪行動と心理演習	P	演習	3			2					○		30			
	心理療法	P	講義	2			2		選択G			○		15			
	公認心理師の職責	P	講義	3			2			○		○		15			
	学習・心理学	P	講義	2			2		選択D	○		○		15			
	神経・生理学	P	講義	2			2		選択E	○		○		15			
	健康・医療心理学	P	講義	3			2		選択G	○		○		15			
	関係行政論	P	講義	3			2			○		○		15			
	心理実習	P	実習	4			2			○	時間割外		80時間以上				
専門教育科目(必修20単位を含め96単位以上履修)	社会福祉・精神保健福祉関連科目(W系科目)	社会福祉原論	W	講義	2	4		○	○			○		30			
		医療福祉論	W	講義	3		2						○		15		
		社会調査法	W	講義	3		2	○					○		15		
		相談援助の基盤と専門職	W	講義	1		4	○					○		30		
		社会福祉援助技術論Ⅰ	W	講義	2		4	○					○		30		
		社会福祉援助技術論Ⅱ	W	講義	3		4	○					○		30		
		地域福祉論	W	講義	2		2	○	○				○		15		
		コミュニティソーシャルワーク	W	講義	2		2	○	○				○		15		
		福祉行財政と福祉計画	W	講義	3		2	○	○				○		15		
		社会福祉運営管理	W	講義	3		2	○					○		15		
		社会保障	W	講義	2		4	○	○				○		30		
		高齢者に対する支援と介護保険制度	W	講義	1		4	○					○		30		
		障害者に対する支援と障害者自立支援制度	W	講義	2		2	○	○				○		15		
		児童・家庭福祉	W	講義	2		4	○					○		30		
		低所得者に対する支援と生活保護制度	W	講義	3		2	○	○				○		15		
		保健医療サービス	W	講義	3		2	○	○				○		15		
		就労支援	W	講義	3		1	A2					8コマ		8		
権利擁護と成年後見制度	W	講義	3		2	A2	○				○		15				

授業科目	科目区分	授業形態	標準履修年次	卒業			社会福祉士	精神保健福祉士	認定心理士	公認心理師	授業期間		実習時間数(日数)	回数	評価	備考
				必修	選択必修	選択	指定科目	指定科目	指定科目	必要な科目	通年	半期				
専門教育科目(必修20単位を含め96単位以上履修) 社会福祉・精神保健福祉関連科目(W系科目)	更生保護制度	W	講義	3			1	A2				8コマ	8			
	相談援助Ⅰ	W	演習	2			1	◎				○	15			
	相談援助Ⅱ	W	演習	3			2	◎			○		30			
	相談援助Ⅲ	W	演習	4			2	◎			○		30			
	相談援助実習指導	W	演習	3・4			3	◎			○		45			
	相談援助実習	W	実習	3・4			4	◎				時間割外	180時間以上			
	精神保健学	W	講義	1			4	◎			○		30			
	精神保健福祉に関する制度とサービス	W	講義	2			4	◎			○		30			
	精神障害者の生活支援システム	W	講義	2			2	◎			○		15			
	精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)	W	講義	2			2	◎			○		15			
	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	W	講義	2			2	◎			○		15			
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	W	講義	3			4	◎			○		30			
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	W	講義	3			4	◎			○		30			
	精神保健福祉援助演習(基礎)	W	演習	2			1	◎				○	15			
	精神保健福祉援助演習(専門)	W	演習	3			2	◎			○		30			
	精神保健福祉援助実習指導	W	演習	4			3	◎			○		45			
	精神保健福祉援助実習	W	実習	4			5	◎				時間割外	210時間以上			
	母子保健Ⅰ	—	講義	1			2					○	15			
	母子保健Ⅱ	—	講義	1			2					○	15			
	福祉住環境演習	W	演習	3			2				○		30			
共通専門 ゼミナール	—	演習	3・4	4						○		60			2年連続4単位	

- ① 「科目区分」欄の「P」は心理系科目、「W」は福祉系科目です。
- ② 「授業期間」欄の「集中」は集中講義の意味です。
- ③ 備考欄の「備考A」について、入学時の能力検査により履修レベルを決定します。2単位以上を必修としていますが、初級レベルⅠの履修者は、中級レベルⅡまで計4単位以上を必修とします。
- ④ 備考欄の「備考B」について、1年次に選択語学を1種類選択します。同一言語のⅠ・Ⅱを、2年間で2科目履修することを基本としています。
- ⑤ 「精神保健福祉士」「社会福祉士」欄の「◎」は必修科目ですので、必ず履修しなければなりません。「A1」と「A」（Aは本学では必修科目です）のついた3科目の中から1科目以上、「A2」のついた3科目の中から1科目以上履修しなければなりません。しかし、国家試験ではこれら3科目全てについて試験が実施されますので、3科目全て履修することが望まれます。
- ⑥ 「精神保健福祉士」「社会福祉士」欄の「◎」は必修科目ですので、必ず履修しなければなりません。「A1」と「A」（Aは本学では必修科目です）のついた3科目の中から1科目以上、「A2」のついた3科目の中から1科目以上履修しなければなりません。しかし、国家試験ではこれら6科目全てについて試験が実施されますので、全て履修することが望まれます。
- ⑦ 「公認心理師」を目指す場合は、「必要な科目」欄に「○」のついたすべての科目（27科目）の履修が必要です。
- ⑧ 「認定心理士」指定科目欄の基礎A～C、選択D～Iは、資格取得のために定められた科目の領域を表しています。

詳細は、キャンパスライフの各資格の取得に関する説明を参照してください。

卒業に必要な単位数

教養教育科目	28 単位以上	必修	15 単位	合計 124 単位以上
		選択必修	7 単位 (情報機器操作Ⅰ履修者は9単位)	
		選択	6 単位以上 (情報機器操作Ⅰ履修者は4単位)	
専門教育科目	96 単位以上	必修	心理系 (P系) 6 単位	
			福祉系 (W系) 10 単位	
			ゼミナール 4 単位	
		選択	76 単位以上 (うちP系科目24単位以上、W系科目20単位以上を含む)	

授業科目	科目区分	授業形態	標準履修年次	卒業		社会福祉士 指定科目	精神保健福祉士 指定科目	認定心理士 指定科目	授業期間		実習時間数 (日数)	回数	評価	備考	
				必修	選択				通年	半期					
専門基礎科目 (P系およびW系科目)	臨床心理学	P	講義	2		4			選択G	○		30			
	社会福祉原論	W	講義	2	4		◎	◎		○		30			
	福祉キャリア研究	W	演習	2	2					○		15	認定		
	コミュニケーション演習	P	演習	1・2		4				○		30			
	社会的養護	W	講義	1		2					○	15			
	医学一般	W	講義	1・2		4	A1	A1		○		30			
	精神医学	W	講義	1・2	4			◎		○		30			
専門教育科目 (必修18単位を含め96単位以上履修)	心理関連科目 (P系科目)	心理学研究法	P	演習	3・4		2			基礎B	○		30		
		人格心理学	P	講義	3・4		4			選択G	○		30		
		認知心理学	P	講義	3・4		4			選択D	○		30		
		子どもの心理	P	講義	2		2			選択F		○	15		
		青年の心理	P	講義	3・4		2			選択F		○	15		
		老いの心理	P	講義	2		2					○	15		
		職場の心理	P	講義	3・4		2			選択H		○	15		
		心理診断法実習	P	実習	3・4		2			基礎C	○		30		
		心理統計学	P	講義	3・4		2			基礎B		○	15		
		カウンセリング概論	P	講義	2		4			選択G	○		30		
	カウンセリング演習	P	演習	3・4		2			選択G	○		30			
	心理学実験	P	実習	3・4		2			基礎C	○	60時間	30			
	社会心理学	P	講義	3・4		4			選択H	○		30			
	障害児・者への心理援助	P	講義	3・4		2					○	15			
	犯罪行動と心理	P	講義	1		2					○	15			
	犯罪行動と心理演習	P	演習	2		2				○		30			
	癒しと心	P	講義	3・4		2					○	15			
	育児ストレス	P	講義	1・2		2					○	15			
	心理療法	P	講義	2		2					○	15			
	社会福祉関連科目 (W系科目)	医療福祉論	W	講義	3・4		2				○		15		
社会調査法		W	講義	3		2	◎			○		15			
相談援助の基盤と専門職		W	講義	2		4	◎			○		30			
社会福祉援助技術論Ⅰ		W	講義	3		4	◎			○		30			
社会福祉援助技術論Ⅱ		W	講義	4		4	◎			○		30			

授業科目	科目区分	授業形態	標準履修年次	卒業		社会福祉士 指定科目	精神保健福祉士 指定科目	認定心理士 指定科目	授業期間		実習時間数 (日数)	回数	評価	備考
				必修	選択				通年	半期				
地域福祉論	W	講義	3・4		2	◎	◎			○		15		
コミュニティー ソーシャルワーク	W	講義	3・4		2	◎	◎			○		15		
福祉行財政 と福祉計画	W	講義	3・4		2	◎	◎			○		15		
社会福祉 運営管理	W	講義	3・4		2	◎				○		15		
社会保険	W	講義	2		4	◎	◎		○			30		
高齢者に対する支援 と介護保険制度	W	講義	1・2		4	◎			○			30		
障害者に対する支援と 障害者自立支援制度	W	講義	2		2	◎	◎			○		15		
児童・家庭 福祉	W	講義	2		4	◎			○			30		
低所得者に対する 支援と生活保護制度	W	講義	3・4		2	◎	◎			○		15		
保健医療 サービス	W	講義	3・4		2	◎	◎			○		15		
就労支援	W	講義	3・4		1	A2					8コマ	8		
権利擁護と 成年後見制度	W	講義	3・4		2	A2	◎			○		15		
更生保護制度	W	講義	3・4		1	A2					8コマ	8		
相談援助演習Ⅰ	W	演習	2		1	◎				○		15		
相談援助演習Ⅱ	W	演習	3		2	◎			○			30		
相談援助演習Ⅲ	W	演習	4		2	◎			○			30		
相談援助実習指導	W	演習	3・4		3	◎			○			45		
相談援助実習	W	実習	3・4		4	◎				時間割外	180時間以上			
精神保健学	W	講義	1・2		4		◎		○			30		
精神保健福祉に関する 制度とサービス	W	講義	2		4		◎		○			30		
精神障害者の生活 支援システム	W	講義	2		2		◎			○		15		
精神保健福祉相談 援助の基盤(基礎)	W	講義	2		2		◎			○		15		
精神保健福祉相談 援助の基盤(専門)	W	講義	2		2		◎			○		15		
精神保健福祉の理論 と相談援助の展開Ⅰ	W	講義	3・4		4		◎		○			30		
精神保健福祉の理論 と相談援助の展開Ⅱ	W	講義	3・4		4		◎		○			30		
精神保健福祉 援助演習(基礎)	W	演習	2		1		◎			○		15		
精神保健福祉 援助演習(専門)	W	演習	3		2		◎		○			30		
精神保健福祉 援助実習指導	W	演習	4		3		◎		○			45		
精神保健福祉 援助実習	W	実習	4		5		◎			時間割外	210時間以上			
母子保健Ⅰ	—	講義	1・2		2					○		15		
母子保健Ⅱ	—	講義	1・2		2					○		15		

専門教育科目(必修18単位を含め96単位以上履修)
 社会福祉関連科目(W系科目)

授業科目	科目区分	授業形態	標準履修年次	卒業		社会福祉士 指定科目	精神保健福祉士 指定科目	認定心理士 指定科目	授業期間		実習時間数 (日数)	回数	評価	備考
				必修	選択				通年	半期				
<small>上記の専門的基礎的単位の修得を目的とする科目</small> 系連科目(福祉系)へW関	福祉住環境演習	W	演習	3・4		2				○		30		
	特別研究Ⅰ	—	演習	3・4		2				○		30		
	特別研究Ⅱ	—	演習	4		2				○		30		

- ① 「科目区分」欄の「P」は心理系科目、「W」は福祉系科目です。
- ② 「授業期間」欄の「集中」は集中講義の意味です。
- ③ 備考欄の「備考A」について、入学時の能力検査により履修レベルを決定します。2単位以上を必修としていますが、初級レベルⅠの履修者は、中級レベルⅡまで計4単位以上を必修とします。
- ④ 評価欄における「認定」の意味は、合・否判定をもって成績とするものであり、評点は付かないのでGPAには反映されません。
- ⑤ 「精神保健福祉士」「社会福祉士」欄の「◎」は必修科目ですので、必ず履修しなければなりません。「A1」と「A」(Aは本学では必修科目です)のついた3科目の中から1科目以上、「A2」のついた3科目の中から1科目以上履修しなければなりません。しかし、国家試験ではこれら3科目全てについて試験が実施されますので、3科目全て履修することが望まれます。
- ⑥ 「認定心理士」指定科目欄の基礎A～C、選択D～Hは、資格取得のために定められた科目の領域を表しています。

上記の⑤～⑥についての詳細は、キャンパスライフの各資格の取得に関する説明を参照してください。

卒業に必要な単位数

教養教育科目	28単位以上	必修	15単位	合計124単位以上
		選択必修	7単位 (情報機器操作Ⅰ履修者は9単位)	
		選択	6単位以上 (情報機器操作Ⅰ履修者は4単位)	
専門教育科目	96単位以上	必修	心理系 (P系) 8単位	
			福祉系 (W系) 10単位	
		選択	78単位以上 (うちP系科目22単位以上、W系科目20単位以上を含む。)	

H27年度 入学生用

福祉学部福祉心理学科 教育課程表

授業科目	科目区分	授業形態	標準履修年次	卒業		社会福祉士 指定科目	精神保健福祉士 指定科目	認定心理士 指定科目	授業期間		実習時間数 (日数)	回数	評価	備考
				必修	選択				通年	半期				
教育方針	本学の教育	講義	1	2						○		15		
表現力向上分野	国語表現	講義/演習	1	4						○		30		
	文章演習	演習	2		1					○		15		指定者必修
	会話演習	演習	2		1					○		15		指定者必修
	情報教育分野	情報機器操作Ⅰ	演習	1	2単位以上選択必修	2					○		30	
情報機器操作Ⅱ		演習	1・2	2						○		30		
情報機器操作Ⅲ		演習	2・3	2						○		30		
人間関係分野	生活教養	講義/演習	1	2						○		15		
	生活教養Ⅱ	講義/演習	3・4		2					○		15		
	地域ボランティア活動	実習	1・2 3・4	1単位以上選択必修	1					時間割外	45時間		認定	
	地域振興活動	実習	1・2 3・4		1					時間割外	45時間		認定	
人文社会及び健康教育分野	音楽演習	演習	1・2		2					○		30		
	美術演習	演習	1・2		2					○		30		
	心理学	講義	1	4		A	A	基礎 A		○		30		
	法学	講義	3・4		2					○		15		
	社会学	講義	3・4		2	A1	A1			○		15		
	女性と保健	講義	1・2		2					○		15		
	食生活と健康	講義	1・2		2					○		15		
	国際理解分野	英語リーディング	演習	3・4	2科目4単位以上必修	2					○		30	
英会話Ⅰ		演習	1・2	2						○		30		
英会話Ⅱ		演習	2	2						○		30		
中国語会話Ⅰ		演習	1・2	2						○		30		
中国語会話Ⅱ		演習	2	2						○		30		
国際理解論		講義	1	2						○		15		
国際理解演習		演習	1・2 3・4		2					時間割外			認定	
体育実技分野	体育実技Ⅰ	実習	1・2	1						○		23		
	体育実技Ⅱ	実習	2		1					○		23		
専門教育科目(必修15単位を含む28単位以上履修)	福祉心理学	P 講義	3	4						○		30		
	発達心理学	P 講義	1	4				選択 F		○		30		

授業科目	科目区分	授業形態	標準履修年次	卒業		社会福祉士 指定科目	精神保健福祉士 指定科目	認定心理士 指定科目	授業期間		実習時間数 (日数)	回数	評価	備考	
				必修	選択				通年	半期					
専門基礎科目 (P系およびW系科目)	臨床心理学	P	講義	2		4			選択G	○		30			
	社会福祉原論	W	講義	2	4		◎	◎		○		30			
	福祉キャリア研究	W	演習	2	2					○		15	認定		
	コミュニケーション演習	P	演習	1・2		4				○		30			
	社会的養護	W	講義	1		2					○	15			
	医学一般	W	講義	1・2		4	A1	A1		○		30			
	精神医学	W	講義	1・2	4			◎		○		30			
専門教育科目 (必修18単位を含め96単位以上履修)	心理関連科目 (P系科目)	心理学研究法	P	演習	3・4		2			基礎B	○		30		
		人格心理学	P	講義	3・4		4			選択G	○		30		
		認知心理学	P	講義	3・4		4			選択D	○		30		
		子どもの心理	P	講義	2		2			選択F		○	15		
		青年の心理	P	講義	3・4		2			選択F		○	15		
		老いの心理	P	講義	2		2					○	15		
		職場の心理	P	講義	3・4		2			選択H		○	15		
		心理診断法実習	P	実習	3・4		2			基礎C	○		30		
		心理統計学	P	講義	3・4		2			基礎B		○	15		
	社会福祉関連科目 (W系科目)	カウンセリング概論	P	講義	2		4			選択G	○		30		
		カウンセリング演習	P	演習	3・4		2			選択G	○		30		
		心理学実験	P	実習	3・4		2			基礎C	○	60時間	30		
		社会心理学	P	講義	3・4		4			選択H	○		30		
		障害児・者への心理援助	P	講義	3・4		2					○	15		
		犯罪行動と心理	P	講義	1		2					○	15		
		犯罪行動と心理演習	P	演習	2		2				○		30		
		癒しと心	P	講義	3・4		2					○	15		
		育児ストレス	P	講義	1・2		2					○	15		
		心理療法	P	講義	2		2					○	15		
医療福祉論	W	講義	3・4		2					○	15				
社会調査法	W	講義	3		2	◎				○	15				
相談援助の基盤と専門職	W	講義	2		4	◎			○		30				
社会福祉援助技術論Ⅰ	W	講義	3		4	◎			○		30				
社会福祉援助技術論Ⅱ	W	講義	4		4	◎			○		30				

授業科目	科目区分	授業形態	標準履修年次	卒業		社会福祉士 指定科目	精神保健福祉士 指定科目	認定心理士 指定科目	授業期間		実習 時間数 (日数)	回数	評価	備考
				必修	選択				通年	半期				
地域福祉論	W	講義	3・4		2	◎	◎			○		15		
コミュニティー ソーシャルワーク	W	講義	3・4		2	◎	◎			○		15		
福祉行財政 と福祉計画	W	講義	3・4		2	◎	◎			○		15		
社会福祉 運営管理	W	講義	3・4		2	◎				○		15		
社会保障	W	講義	2		4	◎	◎		○			30		
高齢者に対する支援 と介護保険制度	W	講義	1・2		4	◎			○			30		
障害者に対する支援と 障害者自立支援制度	W	講義	2		2	◎	◎			○		15		
児童・家庭 福祉	W	講義	2		4	◎			○			30		
低所得者に対する 支援と生活保護制度	W	講義	3・4		2	◎	◎			○		15		
保健医療 サービス	W	講義	3・4		2	◎	◎			○		15		
就労支援	W	講義	3・4		1	A2					8コマ	8		
権利擁護と 成年後見制度	W	講義	3・4		2	A2	◎			○		15		
更生保護制度	W	講義	3・4		1	A2					8コマ	8		
相談援助演習Ⅰ	W	演習	2		1	◎				○		15		
相談援助演習Ⅱ	W	演習	3		2	◎			○			30		
相談援助演習Ⅲ	W	演習	4		2	◎			○			30		
相談援助実習指導	W	演習	3・4		3	◎			○			45		
相談援助実習	W	実習	3・4		4	◎				時間割外	180時 間以上			
精神保健学	W	講義	1・2		4		◎		○			30		
精神保健福祉に関する 制度とサービス	W	講義	2		4		◎		○			30		
精神障害者の生活 支援システム	W	講義	2		2		◎			○		15		
精神保健福祉相談 援助の基盤(基礎)	W	講義	2		2		◎			○		15		
精神保健福祉相談 援助の基盤(専門)	W	講義	2		2		◎			○		15		
精神保健福祉の理論 と相談援助の展開Ⅰ	W	講義	3・4		4		◎		○			30		
精神保健福祉の理論 と相談援助の展開Ⅱ	W	講義	3・4		4		◎		○			30		
精神保健福祉 援助演習(基礎)	W	演習	2		1		◎			○		15		
精神保健福祉 援助演習(専門)	W	演習	3		2		◎		○			30		
精神保健福祉 援助実習指導	W	演習	4		3		◎		○			45		
精神保健福祉 援助実習	W	実習	4		5		◎			時間割外	210時 間以上			
母子保健Ⅰ	—	講義	1・2		2					○		15		
母子保健Ⅱ	—	講義	1・2		2					○		15		

専門教育科目(必修18単位を含め96単位以上履修)
 社会福祉関連科目(W系科目)

授業科目	科目区分	授業形態	標準履修年次	卒業		社会福祉士	精神保健福祉士	認定心理士	授業期間		実習時間数(日数)	回数	評価	備考		
				必修	選択	指定科目	指定科目	指定科目	通年	半期						
上級専門課程の専攻科目として履修可能な科目 先進社会福祉系科目 福祉系科目 W関	福祉住環境演習	W	演習	3・4		2					○			30		
	特別研究Ⅰ	—	演習	3・4		2					○			30		
	特別研究Ⅱ	—	演習	4		2					○			30		

- ① 「科目区分」欄の「P」は心理系科目、「W」は福祉系科目です。
- ② 「授業期間」欄の「集中」は集中講義の意味です。
- ③ 備考欄の「備考A」について、入学時の能力検査により履修レベルを決定します。2単位以上を必修としていますが、初級レベルⅠの履修者は、中級レベルⅡまで計4単位以上を必修とします。
- ④ 評価欄における「認定」の意味は、合・否判定をもって成績とするものであり、評点は付かないのでGPAには反映されません。
- ⑤ 「精神保健福祉士」「社会福祉士」欄の「◎」は必修科目ですので、必ず履修しなければなりません。「A1」と「A」(Aは本学では必修科目です)のついた3科目の中から1科目以上、「A2」のついた3科目の中から1科目以上履修しなければなりません。しかし、国家試験ではこれら3科目全てについて試験が実施されますので、3科目全て履修することが望まれます。
- ⑥ 「認定心理士」指定科目欄の基礎A～C、選択D～Hは、資格取得のために定められた科目の領域を表しています。

上記の⑤～⑥についての詳細は、キャンパスライフの各資格の取得に関する説明を参照してください。

卒業に必要な単位数

教養教育科目	28単位以上	必修	15単位	合計124単位以上
		選択必修	7単位(情報機器操作Ⅰ履修者は9単位)	
		選択	6単位以上(情報機器操作Ⅰ履修者は4単位)	
専門教育科目	96単位以上	必修	心理系(P系) 8単位	
			福祉系(W系) 10単位	
		選択	78単位以上 (うちP系科目22単位以上、W系科目20単位以上を含む。)	

平成30年度 福島学院大学が他大学・短期大学に開放する科目

学科名	区分	科目名	授業形態	単位	開講時期
福祉学部 福祉心理学科	教養教育科目	心理学概論	講義	4	通年
		法学	講義	2	前期
社会学		講義	2	前期	
女性と保健		講義	2	前期	
食生活と健康		講義	2	後期	
国際理解論		講義	2	前期	
	専門教育科目	福祉心理学Ⅰ	講義	2	後期
発達心理学		講義	2	前期	
臨床心理学概論		講義	2	前期	
社会福祉原論		講義	4	通年	
人体の構造と機能及び疾病		講義	4	通年	
精神疾患とその治療		講義	4	通年	
人格心理学		講義	4	通年	
認知心理学		講義	4	通年	
青年の心理		講義	2	前期	
老いの心理		講義	2	後期	
職場の心理		講義	2	前期	
心理統計学		講義	2	前期	
カウンセリング概論		講義	4	通年	
社会心理学		講義	4	通年	
心理療法		講義	2	前期	
医療福祉論		講義	2	後期	
社会調査法		講義	2	後期	
相談援助の基盤と専門職		講義	4	通年	
社会福祉援助技術論Ⅰ		講義	4	通年	
社会福祉援助技術論Ⅱ		講義	4	通年	
地域福祉論		講義	2	前期	
コミュニティーソーシャルワーク		講義	2	後期	
福祉行財政と福祉計画		講義	2	後期	
社会福祉運営管理		講義	2	後期	
社会保障		講義	4	通年	
高齢者に対する支援と介護保険制度		講義	4	通年	
障害者に対する支援と障害者自立支援制度		講義	2	前期	
児童・家庭福祉		講義	4	通年	
低所得者に対する支援と生活保護制度		講義	2	前期	
保健医療サービス		講義	2	前期	
就労支援		講義	1	後期	
権利擁護と成年後見制度		講義	2	後期	
更生保護制度		講義	1	前期	
精神保健学		講義	4	通年	
精神保健福祉に関する制度とサービス	講義	4	通年		
精神障害者の生活支援システム	講義	2	前期		
精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）	講義	2	前期		
精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	講義	2	後期		
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	講義	4	通年		
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	講義	4	通年		
母子保健Ⅰ	講義	2	前期		
母子保健Ⅱ	講義	2	後期		

※授業の内容は授業計画をご覧ください。

授 業 科 目 名	本学の教育	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名:兼任教授 職名:非常勤講師 氏名:小松 由美 氏名:遠藤 貞子 本務先:ウィリング・マナー・コンシエルジュ 職名:代表講師	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス・福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	E-mail:komatsu.yumi@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>建学の精神と本学の教育について、映像やパワーポイントを利活用して説明し、学生の理解に役立てる。</p> <p>本学学生としてのエチケット、マナーを身に付けるとともに、充実した学生生活を送る上でさまざまな立場の方からのアドバイスを聞く機会を設け、本学における学生生活の土台を作る。</p>	A	知識
	B	技術・技能
	C	論理的思考力
	○ D	文章表現力
	○ E	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	G	協働能力
	○ H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力
○ L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
①本学の建学の精神や教育理念及び本学の教育について理解する。		目標 D H
②本学学生としての振る舞いとマナーが体现できる。		目標 E L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	開講にあたって オリエンテーション(授業の進め方、評価方法等) ①本学の建学の精神と育成しようとする人間像 ②まごころの実践	学生便覧 パワーポイント及び映像 利用 ※スーツ着用	学生便覧の「建学の精神」「教育の理念」を読んでおく。
2	本学の教育(1) ～魅力ある授業を目指して～ ①アクティブラーニング授業の実施 ②学生受講規程の説明と学生の授業改善意見 ③シラバス、成績評価の方法 ④本学のGPAとその活用(進級・留年・卒業判定への活用及び学生の表彰制度) ⑤本学の国語表現教育	学生便覧 ※スーツ着用	学生便覧の諸規程集の「学則」「履修規程」「学生受講規程」を読んでおく。

3	校歌の練習 第一校歌、第二校歌	校歌歌詞映像利用 学生便覧参照	学生便覧の「校歌」のページを読み、歌詞を事前に見ておく。CDを聴き、自分で校歌を口ずさみ予習しておく。
4	本学の教育(2) あいさつ ～まごころの始まり～ ①大学生らしい振る舞い、エチケット・マナー ②学生らしい服装(学友会有志をモデルに) ③学生のボランティア活動、社会貢献活動 ④学習スタイルの構築		レポートの構想を練る。
5	本学の教育(3) 大学での生活	学生便覧	学生便覧の「大学での生活」の部分で復習する。
6	先輩からのアドバイス 卒業生のアドバイス	卒業生の話(ビデオレターを含む)	レポート作成を始める。(レポート提出は6月8日まで)
7	第一校歌斉唱 教員からのアドバイス	パワーポイント ※スーツ着用	
8	第二校歌斉唱 レポート発表 ①学生のプレゼンテーション ②レポート総評	※スーツ着用	
9	学生生活のマナー 1. マナーとは? マナーはなぜ必要か?	グループディスカッション・マナー・常識・ルールについて考える	マナーについて考える。
10	学生生活のマナー 学生便覧「学生生活のマナー」の確認	学生便覧	学生便覧の大学での生活「学生生活のマナー」と諸規程集「学生受講規程」を読んでおく。
11	学生生活のマナー 1. 第一印象の大切さ(表情・身だしなみ・挨拶)	プリント「第一印象を磨く」 映像資料 ※スーツ着用	
12	学生生活のマナー 1. 立ち居振る舞い	プリント「立ち居振る舞い」 ※スーツ着用	プリント「第一印象を磨く」の復習
13	学生生活のマナー 1. 敬語の遣い方 2. 好感を持たれる言葉遣い	プリント「言葉遣い」	プリント「立ち居振る舞い」の復習
14	学生生活のマナー 1. 良好な人間関係を築くために大切なこと 2. 好感を持たれる話し方、聞き方 3. グループワーク 他者へのインタビュー	プリント「話し方、聞き方」 グループワーク「他己紹介」の説明	コミュニケーションに必要な要素を考える。
15	学生生活のマナー 1. コミュニケーション力を高める 2. 他者を尊重し、快適環境は自分で作る 3. 「他己紹介」発表 4. 振り返りと今後に向けて	プリント「話し方、聞き方」 他己紹介発表	

到達度の評価（評価方法・基準）

レポート評価(50%)及びグループワーク等演習・実技評価(50%)

レポート(1,000字以上1,200字以内)は、次のいずれかのテーマで作成し、6月8日(金)13:00までに教務課(駅前キャンパスは5階事務室)へ所定様式にて提出のこと。誤字・脱字の多いもの、内容や趣旨が不十分なものは、再提出を求める。また期日に遅れた場合は、100点満点から1日につき2点の減点とする。

<レポートのテーマ>

- ①私の夢
②私のキャリアデザイン } 2つのうちのいずれかを選択

教科書

書名: 学生便覧「福島学院大学Campuslife2018」

発行所: 福島学院大学 ※入学時配布されたものを使用

その他補足事項

1. 毎回の授業で次の授業内容と進め方について説明します。なお、授業内容は進度によって前後することがあります。
2. 必要に応じ、服装(スーツ着用)の指示をします。その際に指示された服装以外で出席している場合は減点対象とすることがあります。

授 業 科 目 名	国語表現	授業形態・単位数	講義／演習・4単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名:兼任教授 氏名: ^{さとう} 佐藤 ^{はるお} 晴雄	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明する。 E-mail:sato.haruo@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>国語表現力は、社会人として必要なコミュニケーション能力を高める。</p> <p>社会人に求められる文章作成の基本を身に付けるための講義と演習を展開する。プリントへの記述、漢字小テストの実施、小論文の提出もある。</p> <p>会話力をアップするため、敬語の使い方や面接での対応なども説明する。</p> <p>国語力向上のために授業時間外に実施する「国語表現統一テスト」(文字・成語、小論文、対話)の成績を加味して国語表現の成績を評価する。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
	○	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
	○	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
簡潔で分かりやすい文章を書くための基本事項を習得することができる。手紙・はがきの書き方、ビジネス文書の作り方など、さまざまな実用文にも対応した国語表現力の基礎を身に付けることができる。	目標	A C D
社会人としての会話に必要な基本を身に付けることができる。面接での対応の仕方なども習得することができる。	目標	I L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標(授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方の留意点	授業計画 ワークシートに平仮名、片仮名を書く	漢字学修 新聞を読む 教材予習
2	新聞を読もう 知識が増え、文章力もつく	小テスト①(漢字) 授業ノート プリント配布 教材朗読	漢字学修 新聞を読む 教材予習 小論文①作成
3	文章を書く① 主語と述語	小論文①提出 小テスト①指導 授業ノート プリント記述 教材朗読	小テスト①復習 漢字学修 プリント復習 教材予習

4	文章を書く② 文は短く分かりやすく	授業ノート プリント記述 教材朗読	漢字学修 プリント復習 教材予習
5	文章を書く③ 句読点、段落	小テスト②(漢字) 授業ノート プリント記述 教材朗読	漢字学修 プリント復習 教材予習
6	文章を書く④ 修飾語は近くに	小テスト②指導 授業ノート プリント記述 教材朗読	小テスト②復習 漢字学修 プリント復習 教材予習
7	文章を書く⑤ 「ら」を抜かない	授業ノート プリント記述 教材朗読	漢字学修 プリント復習 教材予習
8	文章を書く⑥ 常用漢字を使う	授業ノート プリント記述 教材朗読	漢字学修 プリント復習 教材予習
9	文章を書く⑦ 話し言葉は使わない	授業ノート プリント記述 教材朗読	漢字学修 プリント復習 教材予習
10	小論文を書く① 作文と小論文の違い	授業ノート プリント記述 教材朗読	漢字学修 プリント復習 教材予習
11	小論文を書く② 人間性が分かる	授業ノート プリント記述 教材朗読	漢字学修 プリント復習 教材予習
12	小論文を書く③ 起承転結	授業ノート プリント記述 教材朗読	漢字学修 プリント復習 教材予習
13	小論文を書く④ 結論を先に書く	小テスト③(漢字) 授業ノート プリント記述 教材朗読	漢字学修 プリント復習 教材予習
14	小論文を書く⑤ 実例で学ぶ	小テスト③指導 授業ノート プリント記述 教材朗読	小テスト③復習 漢字学修 プリント復習 教材予習 小論文②作成
15	小論文を書く⑥ タブー	小論文②提出 授業ノート プリント記述 教材朗読	漢字学修 プリント復習 教材予習
16	注意を払う① 誤字	小テスト④(漢字) 小論文②指導 授業ノート プリント記述 教材朗読	小論文②復習 漢字学修 プリント復習 教材予習
17	注意を払う② 接続詞は多用しない	小テスト④指導 授業ノート プリント記述 教材朗読	小テスト④復習 漢字学修 プリント復習 教材予習
18	会話に慣れる① 明るく、はきはきと	授業ノート 教材朗読	漢字学修 教材予習
19	会話に慣れる② 社会人との会話、敬語	授業ノート 教材朗読	漢字学修 教材予習

20	会話に慣れる③ 面接	授業ノート 教材朗読	漢字学修 教材予習
21	実用文① 手紙	授業ノート 教材朗読	漢字学修 教材予習 ワークシート作成
22	実用文② はがき、年賀はがき	ワークシート提出 授業ノート 教材朗読	漢字学修 教材予習 ワークシート作成
23	履歴書	ワークシート提出 授業ノート 教材朗読	漢字学修 教材予習 ワークシート作成
24	ビジネス文書① 文章の基本	ワークシート提出 授業ノート プリント記述 教材朗読	漢字学修 プリント復習 教材予習 小論文③作成
25	ビジネス文書② 社内文書	小論文③提出 授業ノート プリント記述 教材朗読	漢字学修 プリント復習 教材予習
26	ビジネス文書③ 社外文書	授業ノート プリント記述 教材朗読	漢字学修 プリント復習 教材予習
27	ビジネス文書④ ビジネス文書作成	小論文③指導 授業ノート プリント記述 教材朗読	小論文③復習 漢字学修 プリント復習 教材予習
28	小論文作成のまとめ	小テスト⑤(漢字) 授業ノート プリント記述 教材朗読	漢字学修 プリント復習 教材予習
29	メール、FAX	小テスト⑤指導 授業ノート プリント記述 教材朗読	小テスト⑤復習 漢字学修 プリント復習 教材予習
30	まとめ	授業ノート プリント記述	漢字学修 プリント復習
期末 試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワーなどを通じて説明する。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
①国語表現統一テスト20点(文字・成語10点、小論文5点、対話5点) ②後期末試験20点 ③授業への取り組み60点(授業小テスト25点、授業小論文15点、プリントへの記述10点、応答10点) ※詳細は初回授業時に説明する。			
教科書			
書名：就職に役立つ日本語表現法 著者名：田上貞一郎 発行所：萌文書林 価格：1,600円(税別)			
その他補足事項			
授業時間外に実施する「国語表現統一テスト」の実施内容については授業内に説明する。実施日や会場は掲示板で知らせる。			

授 業 科 目 名	文章演習	授業形態・単位数	演習・1単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:兼任教授 氏名: ^{さとう} 佐藤 ^{はるお} 晴雄	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明する。 E-mail:sato.haruo@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	指定者必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>社会人として必要とされる、論理的で分かりやすい文章を書く能力を高めるため、文章力の基本を身に付ける。さまざまな文例を挙げながら、簡潔で分かりやすい文章を習得する。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
小論文を含む学術的な文章のほか、ビジネス文書、報告書など実用的な文章にも対応できるようにする。	目標	A C D

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と目標を説明	授業計画 プリント記述	教材予習 プリント復習
2	短く書く	教材朗読 プリント記述	教材予習 プリント復習 小論文①作成
3	主語と述語	小論文①提出 教材朗読 プリント記述	教材予習 プリント復習
4	「に」「を」を正しく使う	小論文①個別指導 教材朗読 プリント記述	小論文①復習 教材予習 プリント復習
5	話し言葉は避ける	教材朗読 プリント記述	教材予習 プリント復習

6	主張を明確にする	教材朗読 プリント記述	教材予習 プリント復習 小論文②作成
7	分かりやすく書く	小論文②提出 教材朗読 プリント記述	教材予習 プリント復習
8	「これ」「それ」に注意	小論文②個別指導 教材朗読 プリント記述	小論文②復習 教材予習 プリント復習
9	「ことで」「という」でつながない	教材朗読 プリント記述	教材予習 プリント復習
10	簡潔に書く	教材朗読 プリント記述	教材予習 プリント復習 小論文③作成
11	余分な「つなぎ語」を削る	小論文③提出 教材朗読 プリント記述	教材予習 プリント復習
12	具体的に書く	小論文③個別指導 教材朗読 プリント記述	小論文③復習 教材予習 プリント復習
13	共感を呼ぶ書き方	教材朗読 プリント記述	教材予習 プリント復習 小論文④作成
14	正しい表記	小論文④提出 教材朗読 プリント記述	教材予習 プリント復習
15	まとめ	小論文④個別指導 プリント記述	小論文④復習 プリント復習
期末試験	小論文作成・提出		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワーなどを通じて説明する。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
①期末試験20点 ②提出小論文30点 ③授業への取り組み(授業プリントへの記述と応答)50点 詳細は初回授業時に説明する。			
教科書			
書名:文章力の基本 著者名:阿部紘久 発行所:日本実業出版社 価格:1,300円(税別)			
その他補足事項			
1年次の国語表現の成績がC評価(69点以下)の場合、指定者必修として「文章演習」を履修しなければならない。			

授 業 科 目 名	情報機器操作Ⅰ	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名:特任教授 氏名: ^{こうの} 河野 ^{たけし} 毅	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	研究室、オフィスアワーは初回授業時に説明します。 E-mail:kohno.takeshi@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>初回到情報機器操作スキルの習熟度判定テストを受け、初級レベルと判定された学生が受講する科目である。</p> <p>本学の教育用コンピュータ・ネットワークシステムを使用し、文字入力のためのタッチタイピング、Windowsシステムの使い方、Wordを使った文書作成の方法、Excelを使った表計算方法、PowerPointを使った効果的なプレゼンテーション方法など基礎的な知識・技能を学ぶ。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
コンピュータ・ネットワークに対する知識・技能を習得できる。	目標	A B
タッチタイピングによる文字入力を習得できる。	目標	B
Word、Excel、PowerPointなど基本的ツールの基礎的知識・技能を習得する。	目標	A B I K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション:本学コンピュータ・ネットワークシステムの理解 情報機器操作スキルの習熟度判定テスト	コンピュータを利用	
2	本学コンピュータ・ネットワークシステムのデータ保存方法を学ぶ 日本語の入力方法を学ぶ	コンピュータを利用	日本語入力の基本操作を繰り返し身につける。タイピング練習
3	タイピングの基本方法を学ぶ Windowsの仕組み理解と基本操作	コンピュータを利用	Windowsの基本操作を繰り返し、身につける。

4	タイピング練習 日本語ワープロソフトWordの操作、文書の作成(文字の入力編集)	コンピュータを利用	文字編集の基本操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
5	タイピング練習 日本語ワープロソフトWordの操作、文書の作成(書式設定)	コンピュータを利用	書式設定の基本操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
6	タイピング練習 日本語ワープロソフトWordの操作、文書の作成(表、罫線)	コンピュータを利用	表、罫線の基本操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
7	タイピング練習 日本語ワープロソフトWordの操作、文書の作成(画像を利用した文書)	コンピュータを利用	画像利用の基本操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
8	タイピング練習 日本語ワープロソフトWordの操作、文書の作成(図形の作成)	コンピュータを利用	図形作成の基本操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
9	タイピング練習 日本語ワープロソフトWordの操作、文書の作成(地図の作成)	コンピュータを利用	地図作成の基本操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
10	タイピング練習 インターネットの仕組み、インターネット検索	コンピュータを利用	インターネット検索の基本操作を繰り返し、身につける。
11	タイピング練習 インターネット(Webページの活用)	コンピュータを利用	Webページ活用の基本操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
12	タイピング練習 日本語ワープロソフトWordの操作、文書の作成(箇条書き)	コンピュータを利用	箇条書きの基本操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
13	タイピング練習 日本語ワープロソフトWordの操作、文書の作成(印刷)	コンピュータを利用	印刷の基本操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
14	タイピング練習 日本語ワープロソフトWordの操作、文書の作成(便利なツール)	コンピュータを利用	Wordに関するすべての操作を繰り返す。
15	前期末試験(Wordのまとめ)	コンピュータを利用	Wordに関するすべての操作を繰り返す。
16	Wordのまとめの復習 表計算ソフトExcelの操作(セルのデータ入力編集)	コンピュータを利用	データ入力の基本操作を繰り返し、身につける。
17	表計算ソフトExcelの操作(計算式の利用)	コンピュータを利用	計算式の基本操作を繰り返し、身につける。
18	表計算ソフトExcelの操作(関数の利用方法)	コンピュータを利用	関数の基本操作を繰り返し、身につける。
19	表計算ソフトExcelの操作(表の編集、罫線の作成)	コンピュータを利用	表、罫線の基本操作を繰り返し、身につける。
20	表計算ソフトExcelの操作(IF関数の利用方法)	コンピュータを利用	IF関数の基本操作を繰り返し、身につける。

21	表計算ソフトExcelの操作 (IF関数による判定問題)	コンピュータを利用	IF関数による判定を繰り返す、身につける。
22	表計算ソフトExcelの操作 (オートフィルタ)	コンピュータを利用	フィルタの基本操作を繰り返す、身につける。
23	表計算ソフトExcelの操作 (グラフ作成)	コンピュータを利用	グラフ作成の基本操作を繰り返す、身につける。
24	表計算ソフトExcelの操作 (Wordとの連携)	コンピュータを利用	Word連携の方法を繰り返す、身につける。
25	表計算ソフトExcelのまとめ試験	コンピュータを利用	Excelの操作を復習
26	Excelのまとめ試験の復習 PowerPointの操作	コンピュータを利用	PowerPointの基本操作を繰り返す、身につける。
27	PowerPointの操作	コンピュータを利用	PowerPointの基本操作を繰り返す、身につける。
28	PowerPointを利用したプレゼンテーションの作成	コンピュータを利用	プレゼンテーションを作成する。
29	PowerPointを利用したプレゼンテーションの作成	コンピュータを利用	プレゼンテーションを作成する。
30	後期のまとめ (PowerPointを利用したプレゼンテーションの課題提出と発表)	コンピュータを利用	コンピュータを利用し発表
期末試験	なし		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価 (評価方法・基準)			
(1) Wordまとめ試験35点満点 (2) Excelまとめ試験35点満点 (3) PowerPoint提出課題20点 (4) タッチタイピング目標達成10点満点			
教科書		参考書	
書 名:30時間でマスターWindows8対応 Office2013 著者名:実教出版編修部 発行所:実教出版 価 格:1,000円(税別)		なし(適宜、参考資料を配布します。)	
その他補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・USBフラッシュメモリを各自用意すること(仕様は第1回授業で説明する)。 ・授業時間内に完了しなかった課題は、次回授業までに完成させ持参すること。 ・本科目履修し合格後、卒業までに「情報機器操作II」を単位取得する必要がある。 ・なお本授業は、受講者の学習状況や理解度をリアルタイムで把握するための「授業支援システム」を導入した環境で実施する。 			

授 業 科 目 名	情報機器操作 II (1年次対象)	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名:特任教授 氏名:河野 ^{こうの} 毅 ^{たけし}	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	研究室、オフィスアワーは初回授業時に説明します。 E-mail:kohno.takeshi@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>入学時に情報機器操作スキルの習熟度判定テストを受け、初級修了レベル以上と判定された学生が受講する科目である。</p> <p>中級レベルのスキルを習得するため、コンピュータの仕組み、ネットワークの仕組み、Windowsの仕組みを理解した上で、情報機器操作を学ぶ。本学の教育用コンピュータ・ネットワークシステムを使用し、Word、Excel、PowerPoint、インターネットを現実の問題解決に適用する。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
コンピュータ・ネットワークに対する知識・技能を習得できる。		目標 A B
タッチタイピングによる文字入力を習得できる。		目標 B
Word、Excel、PowerPointなど基本的ツールを応用した課題解決力を習得する。		目標 A B I K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション:本学のネットワークシステムの理解 情報機器操作スキルの習熟度判定テスト	コンピュータを利用	
2	コンピュータ、基本ソフトの仕組み理解。本学のネットワークシステムのデータ保存方法 タイピング練習	コンピュータを利用	ネットワークの基本操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
3	タイピング練習 文章の構成と体裁	コンピュータを利用	文章の構造を理解。タイピング練習

4	タイピング練習 日本語ワープロソフトWordの操作、文書の作成(文字の入力、段落の配置)	コンピュータを利用	文字と段落の編集操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
5	タイピング練習 Wordの操作(表作成、表の編集その1)	コンピュータを利用	表の作成編集を繰り返し、身につける。タイピング練習
6	タイピング練習 Wordの操作(表作成、表の編集その2)	コンピュータを利用	表、罫線の応用操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
7	タイピング練習 Wordの操作(ワードアート、図形の挿入編集その1)	コンピュータを利用	画像利用の応用操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
8	タイピング練習 Wordの操作(ワードアート、図形の挿入編集その2)	コンピュータを利用	図形作成の応用操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
9	タイピング練習 Wordの操作(箇条書き、文書の印刷)	コンピュータを利用	箇条書き、印刷操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
10	タイピング練習 インターネットの仕組み、インターネット検索	コンピュータを利用	インターネット検索を繰り返し、身につける。タイピング練習
11	タイピング練習 インターネット(Webページの活用)	コンピュータを利用	Webページ活用操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
12	タイピング練習 表計算ソフトExcelの操作(データ入力)	コンピュータを利用	Excelのデータ入力操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
13	タイピング練習 Excelの操作(計算式)	コンピュータを利用	Excelの計算式の作成を繰り返し、身につける。タイピング練習
14	タイピング練習 Excelの操作(関数の利用:合計、平均、最大値、最小値)	コンピュータを利用	Excelの関数の利用方法を繰り返し、身につける。タイピング練習
15	前期末試験(Wordまとめ試験)	コンピュータを利用	前期のまとめ
16	前期末試験の反省	コンピュータを利用	試験結果の見直し
17	Excelの操作(関数の利用:構成比、順位)	コンピュータを利用	関数の利用を繰り返し、身につける。
18	Excelの操作(関数の利用:IF)	コンピュータを利用	IF関数の応用操作を繰り返し、身につける。
19	Excelの操作(関数の利用:AND、OR、VLOOKUP)	コンピュータを利用	重要な関数の利用を繰り返し、身につける。
20	Excelの操作(グラフ:その1)	コンピュータを利用	グラフ作成操作を繰り返し、身につける。
21	Excelの操作(グラフ:その2)	コンピュータを利用	グラフ作成操作を繰り返し、身につける。

22	Excelの操作(データベース:その1)	コンピュータを利用	データベース機能を繰り返し、身につける。
23	Excelの操作(データベース:その2)	コンピュータを利用	データベース機能を繰り返し、身につける。
24	Excelの操作(集計)	コンピュータを利用	集計機能を繰り返し、身につける。
25	Excelの操作(Wordとの連携、印刷) Excelの復習	コンピュータを利用	Word連携の方法を繰り返し、身につける。
26	Excelのまとめ試験	コンピュータを利用	Excelのまとめ
27	Excelのまとめ試験の復習 PowerPointを利用したプレゼンテーション方法	コンピュータを利用	プレゼンテーションのあり方を身につける。
28	PowerPointの操作(スライドマスター、図、表)	コンピュータを利用	図表の操作方法を身につける。
29	PowerPointを利用したプレゼンテーションの作成	コンピュータを利用	プレゼンテーションを作成する。
30	PowerPointを利用したプレゼンテーションの課題提出と発表	コンピュータを利用	コンピュータを利用し発表。
期末試験	なし		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価(評価方法・基準)			
(1) Wordまとめ試験35点満点 (2) Excelまとめ試験35点満点 (3) PowerPoint提出課題20点 (4) タッチタイピング目標達成10点満点			
教科書		参考書	
書名:実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応 著者名:noa出版 発行所:noa出版 価格:1,155円(税別)		なし(補足資料を配付する)	
その他補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・USBフラッシュメモリを各自用意すること(仕様は第1回授業で説明する)。 ・授業時間内に完了しなかった課題は、次回授業までに完成させ持参すること。 ・なお本授業は、受講者の学習状況や理解度をリアルタイムで把握するための「授業支援システム」を導入した環境で実施する。 			

授 業 科 目 名	情報機器操作Ⅱ (2年次対象)	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: ^{すがい} 菅井 ^{みちこ} 道子	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に教室で質問を受け付ける。電子メールでの質問も可。 メールアドレスについては初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>情報機器操作Ⅰで習得した基本的知識と情報機器操作スキルを基にして、中級レベルの情報機器操作スキルとプレゼンテーション力を習得するための科目である。</p> <p>具体的には、Word、Excel、PowerPoint等を使用した実践的な実習や、画像・動画の編集、簡単なコンピュータプログラミングを通じて情報リテラシーの習得・維持・向上を目指す。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
1) 中級レベルの情報機器操作スキルを習得する。	目標	A B K
2) データ分析に関する基礎的なスキルを習得する。	目標	A B C K
3) 情報モラルや情報セキュリティの基本的な概念を理解する。	目標	A K
4) 画像や動画、音楽などのマルチメディア情報を活用できる。	目標	A B I K
5) プログラミングに関する基礎的なスキルを習得する。	目標	A B C K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション Wordの基本操作の復習(1) ・タイピング速度の測定 ・ビジネス文書の作成	Word 配布資料 ピアアセスメント	1年次に習得したWord・Excelの操作を復習
2	Wordの基本操作の復習(2) ・ビジネス文書の作成	Word 配布資料 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出

3	Wordの基本操作の復習(3) ・図や表が入った文書の作成	Word 配布資料 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
4	Excelの基本操作の復習 ・オートSUM ・グラフの作成	Excel 配布資料 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
5	Excel(1) ・数式の基本 ・セル名を使った計算式	Excel 配布資料 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
6	Excel(2) ・関数の基本 ・簡単な統計処理(1)	Excel 配布資料 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
7	Excel(3) ・簡単な統計処理(2) ・絶対参照・相対参照	Excel 配布資料 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
8	Excel(4) ・様々な関数(1)	Excel 配布資料 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
9	Excel(5) ・様々な関数(2)	Excel 配布資料 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
10	Excel(6) ・様々な関数(3)	Excel 配布資料 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
11	Excel(7) ・分析ツール(1)	Excel 配布資料 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
12	Excel(8) ・分析ツール(2)	Excel 配布資料 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
13	Excel(9) ・分析ツール(3)	Excel 配布資料 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
14	Excel(10) ・ピボットテーブル ・ピボットグラフ	Excel 配布資料 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
15	前期末試験(WordとExcelのまとめ試験)	Word Excel	
16	コンピュータプログラミング入門(1) ・HTML	テキストエディタ 配布資料	授業内容の復習 課題の完成と提出
17	コンピュータプログラミング入門(2) ・JavaScript(1)	テキストエディタ 配布資料	授業内容の復習 課題の完成と提出
18	コンピュータプログラミング入門(3) ・JavaScript(2)	テキストエディタ 配布資料	授業内容の復習 課題の完成と提出
19	コンピュータプログラミング入門(4) ・作品制作	テキストエディタ 配布資料	授業内容の復習 課題の完成と提出
20	コンピュータプログラミング入門(5) ・作品発表会	テキストエディタ 配布資料 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
21	情報モラルと情報セキュリティ(1)	配布資料 ジグソー学習	授業内容の復習 課題の完成と提出
22	情報モラルと情報セキュリティ(2)	配布資料 ジグソー学習	授業内容の復習 課題の完成と提出

23	アニメーションの作成(1) ・画像編集ソフトの基本操作 ・アニメーション制作の基本 ・作品製作(1)	画像編集ソフト 配布資料	授業内容の復習 課題の完成と提出
24	アニメーションの作成(2) ・作品制作(2) ・作品発表会	画像編集ソフト 配布資料 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
25	ショートムービーの作成(1) ・動画編集ソフトの基本操作 ・作品制作(1)	動画編集ソフト 配布資料	授業内容の復習 課題の完成と提出
26	ショートムービーの作成(2) ・作品制作(2) ・作品発表会	動画編集ソフト 配布資料 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
27	プレゼンテーション(1) ・スライド作成のポイント ・プレゼンテーション資料の作成(1)	PowerPoint 配布資料	授業内容の復習 課題の完成と提出
28	プレゼンテーション(2) ・プレゼンテーション資料の作成(2) ・発表練習	PowerPoint 配布資料	授業内容の復習 課題の完成と提出
29	プレゼンテーション(3) ・発表(1)	PowerPoint 配布資料 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
30	プレゼンテーション(4) ・発表(2) 後期のまとめ	PowerPoint 配布資料 ピアアセスメント	授業内容の復習 期末試験
期末 試験	なし		
到達度の評価（評価方法・基準）			
前期まとめ(25%)、後期まとめ(25%)、課題の提出状況・完成度(50%)で評価し、これらにピアアセスメントやジグソー学習および毎時間のふりかえり入力などへの参加態度などを加味して最終的な評価とする。詳細については第1回の授業のときに説明する。			
教科書		参考書	
使用しない。適宜プリントを配付する。		必要に応じて紹介する。	
その他補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・USBフラッシュメモリを各自用意すること。 ・授業内で完了しなかった課題は、次回の授業までに授業外で作成し、指定されたフォルダに提出すること。 ・授業内容は、授業の進行状況や履修者の理解度・要望に応じて変更する場合がある。 			

授 業 科 目 名	生活教養	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: ^{えんどう さだこ} 遠藤 貞子 本務先:ウイリング・マナー・コンシェルジュ 職名:代表講師	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
日常生活や社会生活における基本的なマナーと、社会に出てすぐ役立つビジネスマナーを、実技演習を通して学ぶ。「気づき、実践、継続」を主眼とし、大切なことは、繰り返し実技演習を行うことにより体得できるようにする。また、マナーの知識やスキルだけではなく「他者への配慮、思いやり、心遣いを身に付けるために大切な考える力を養う」訓練の場とする。	A	知識
	B	技術・技能
	C	論理的思考力
	D	文章表現力
	○ E	表情及び身体表現力
	○ F	感性及び感動表現力
	○ G	協働能力
	○ H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○ J	多様性への理解力、応用力
	○ K	課題対処力
	○ L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
マナーの基本的な考え方を理解できるようになる。	目標	G H L
良好な人間関係を作るための考え方と表現方法の両面を兼ね備えたマナーの実践者になる。	目標	E F G H J K L
どのような場面に於いても自信を持って自分を発揮できるようになる。	目標	E F G H J K L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業の概要と到達目標、評価方法、その他、等の確認 ・協力関係を作る	授業計画	授業計画の本科目を確認しておく
2	マナーについて ・「マナーとは？私が大切だと思うマナー、それはなぜ大切なのか？」 ・それぞれの目標を立てる	グループディスカッション ※レポート提出① テーマ「私が身に付けたマナー」	マナーとは何か？なぜ大切なのかを考える
3	印象力を磨く ・挨拶 ・日常生活の様々な立ち居振る舞い	教科書 映像資料 実技演習 ※スーツ着用	・教科書P1～11

4	言葉遣い ・敬語の遣い分け ・丁寧な言葉遣い	プリント「言葉遣い①」 教科書 映像資料 実技演習	・教科書P54～68 予習
5	言葉遣い ・言葉によるコミュニケーション ・感じの良い話し方、好感を持たれる聞き方	プリント「言葉遣い②」 映像資料 教科書 実技演習	・教科書P54～68 予習、復習 ・プリント「言葉遣い ①」復習
6	携帯電話のマナー ・事前に作成した「携帯電話のマナー」を基にグループ ディスカッションと発表 ・携帯電話のトラブル	プリント「携帯電話のマ ナー」 教科書 映像資料 実技演習	・教科書P84～86 予習 ・事前配布の「携帯 電話のマナー」を 作成してくる
7	電話対応のマナー ・電話を掛ける時、受ける時のマナー ・基本と応用のロールプレイ	プリント「接遇用語、クッ ション言葉」「電話のマ ナー」教科書 映像資料 実技演習	・教科書P70～81 予習
8	訪問のマナー ・事前準備 ・訪問から辞去までのマナー ・席次のマナー ・飲み物をいただく時のマナー	プリント「訪問のマナー」 教科書 映像資料 実技演習	・教科書P25～37 予習
9	来客対応のマナー ・事前準備 ・おもてなし ・お見送り	プリント「来客対応のマ ナー」 教科書 映像資料 実技演習	・教科書P38～48 予習
10	冠婚葬祭のマナー(慶事) ・結婚披露宴に招待された時のマナー	プリント「招待状の返信」 「慶事のマナー」 教科書 映像資料 実技演習	・教科書P156～ 157、P172～174 予習
11	冠婚葬祭のマナー(弔事) ・弔事の心得	プリント「弔事のマナー」 教科書 映像資料 実技演習	・教科書P166～ 170予習、P172～ 174復習
12	食事のマナー ・日本料理の基本とマナー ・箸使いのマナー ・中国料理の基本とマナー	プリント「日本料理、中国 料理のマナー」 教科書 映像資料 実技演習 ※箸を持参	・教科書P112～ 120、P124～127 予習
13	食事のマナー ・西洋の基本とマナー	プリント「西洋料理のマ ナー」 教科書 映像資料 実技演習	・教科書P128～ 136予習
14	旅行のマナー(国内、海外) ・準備、乗り物、宿泊施設、観光地、ショッピングのマナー ・海外でのタブー	プリント「旅行のマナー」 教科書 映像資料	・教科書P140～ 154予習
15	「授業のまとめ」「振り返り」 ・各自の成果と課題を発表 ・期末テストの説明	配布した全てのプリント 教科書 ※レポート提出② テーマ「今後に向けて」	・教科書の復習 ・配布したプリントの 復習

期末試験	筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の結果について説明します。学科を通して申し込んでください。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
1 期末試験(筆記試験) 60 % 2 レポート提出2回 (20%×2回) 40% ※詳細は1回目の授業で説明。			
教科書			
書 名:新 生活教養 社会人としての基本マナー 著者名:近喰晴子・三村善美・工藤しのぶ・渡辺雅子・小松由美 発行所:建帛社 価 格:本体2,000円(税別)			
その他補足事項			
1 必要に応じて記載した以外服装(スーツ着用)を指示する。その際、指定された服装以外で出席している場合は減点の対象とすることがある。 2 授業の進捗状況により、授業内容の入れ替えや授業内容の一部を変更する場合がある。 3 授業内容に応じて教室を変更することがある。 4 記載した以外にも授業の内容に応じて資料プリントを配布する。 5 記載した以外にも映像資料視聴を必要に応じて実施する。 6 記載した以外の「授業時間以外の必要な学修」については、授業内で説明する。			

授 業 科 目 名	生活教養Ⅱ	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: ^{えんどう さだこ} 遠藤 貞子 本務先:ウイリング・マナー・コンシェルジュ 職名:代表講師	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
日常生活や社会生活における基本的なマナーと、社会に出てすぐ役立つビジネスマナーを、実技演習を通して学ぶ。「気づき、実践、継続」を主眼とし、大切なことは、繰り返し実技演習を行うことにより体得できるようにする。また、マナーの知識やスキルだけではなく「他者への配慮、思いやり、心遣いを身に付けるために大切な考える力を養う」訓練の場とする。	A	知識
	B	技術・技能
	C	論理的思考力
	D	文章表現力
	○ E	表情及び身体表現力
	○ F	感性及び感動表現力
	○ G	協働能力
	○ H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○ J	多様性への理解力、応用力
	○ K	課題対処力
○ L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
マナーの基本的な考え方を理解できるようになる。	目標	G H L
良好な人間関係を作るための考え方と表現方法の両面を兼ね備えたマナーの実践者になる。	目標	E F G H J K L
どのような場面に於いても自信を持って自分を発揮できるようになる。	目標	E F G H J K L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業の概要と到達目標、評価方法、その他、等の確認 ・協力関係を作る ・グループディスカッション「私が大切にしているマナー、それはなぜ大切なのか」 ・それぞれの目標を立てる	授業計画 グループディスカッション ※レポート提出① 「身につけたいマナー」	・授業計画の本科目を確認しておく ・マナーが大切な理由を考える
2	第一印象の大切さ ・表情 ・身だしなみ ・挨拶	プリント「第一印象を磨く」 教科書 映像資料 実技演習	・心に残る人はどのような人かを考える ・教科書P18 P50～52

3	印象力を磨く ・立ち姿、お辞儀 ・礼儀正しい立ち居振る舞い ・日常生活の様々な立ち居振る舞い	プリント「挨拶」 教科書 実技演習 ※スーツ着用	・教科書P50～52 復習、P1～11予習
4	日本人の礼儀と国際儀礼(プロトコール) ・国際儀礼とは ・江戸しぐさから学ぶ礼儀	プリント「プロトコール」 「江戸しぐさ」 映像資料	・「プロトコール」「江戸しぐさ」を調べる
5	言葉遣いのマナー ・人間関係を良くするための言葉遣い ・敬語の遣い方	プリント「言葉遣い」 教科書 実技演習	・教科書P54～68 予習
6	言葉遣いのマナー ・間違いやすい言葉遣い	プリント「間違いやすい言葉遣い」 教科書 実技演習	・プリント「言葉遣い」復習 ・教科書P54～68 予習、復習
7	言葉遣いのマナー ・社会人として身に付けたい言葉遣い (接遇用語・クッション言葉)	プリント「接遇用語・クッションことば」 教科書 実技演習	・教科書P54～68 予習
8	電話対応のマナー ・固定電話のマナー(電話のかけ方、受け方) ・携帯電話のマナー(グループディスカッション)	プリント「電話のマナー」 「携帯電話のマナー」 教科書 実技演習 ※小テスト①	・教科書P70～86 予習 ・事前配布のプリント「携帯電話のマナー」を作成する
9	電話対応のマナー「基本と応用」 ・敬語、接遇用語、クッション言葉を遣いながらロールプレイ	プリント「電話対応基本と応用」 教科書 実技演習	・教科書P70～86 予習復習
10	冠婚葬祭のマナー ・慶事のマナー ・弔事のマナー	プリント「慶事・弔事のマナー」 教科書 実技演習	・教科書P156、157 P166～174予習
11	食事のマナー ・箸の使い方 ・日本料理、中国料理、西洋料理のマナー	プリント「和、洋、中、食事のマナー」 教科書 映像資料 ※箸を持参	・教科書P112～136予習
12	職場のルールとマナー ・仕事の進め方 ・報連相	プリント「職場の基本的なルール」「報連相」 教科書 映像資料 ※テスト②	・教科書P12～17 予習
13	訪問のマナー ・事前準備～辞去まで ・席次のマナー ・名刺交換	プリント「訪問のマナー」 「名刺交換」 教科書 映像資料 実技演習 ※レポート提出② テーマ「今後に向けて」	・教科書P20～23、 P25～48予習
14	自己管理 マナーとマナー ・生活の中の自己管理 ・社会生活のマナー	ゲストスピーカー予定 ※スーツ着用 (感想文提出)	暮らしの中の自己管理について考える

15	授業のまとめと振り返り ・各自の成果と課題 (事前に立てた目標は達成できたか)		
期末試験	無し		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
1 小テスト2回 30%×2回 (小テスト実施日に欠席した場合はレポート提出とする)			
2 レポート提出2回 20%×2回			
※詳細は1回目の授業で説明する。			
教科書			
1年次「生活教養」の授業で使用した教科書			
書 名:新 生活教養 社会人としての基本マナー			
著者名:近喰晴子・三村善美・工藤しのぶ・渡辺雅子・小松由美			
発行所:建帛社			
価 格:本体2,000円(税別)			
その他補足事項			
1 必要に応じて記載した以外服装(スーツ着用)を指示する。その際、指定された服装以外で出席している場合は減点の対象とすることがある。			
2 授業の進捗状況により、授業内容の入れ替えや授業内容の一部を変更する場合がある。			
3 授業内容に応じて教室を変更することがある。			
4 記載した以外にも授業の内容に応じて資料プリントを配布する。			
5 記載した以外にも映像資料視聴を必要に応じて実施する。			
6 記載した以外の「授業時間以外の必要な学修」については、授業内で説明する。			

授 業 科 目 名	地域ボランティア活動	授業形態・単位数	実習・1単位
		開 講 年 次	1・2・3・4年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{くさか} 日下 ^{てるみ} 輝美	開 講 期	時間割外
		授 業 回 数	時間割外
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明する。 E-mail:kusaka.terumi@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
社会福祉の現状と課題を踏まえ、地域福祉への理解を深めながら地域貢献を目指し、自主的なボランティア活動を実践する。	<input type="checkbox"/>	A 知識
	<input type="checkbox"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
	<input type="checkbox"/>	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="checkbox"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="checkbox"/>	K 課題対処力
	<input type="checkbox"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
①社会福祉施設、地域、在宅及びボランティア団体での実習を通して、対人援助職としての心構えを身につける。		目標 B J K L
②ボランティア活動の意義・社会的役割の重要性を学ぶ。		目標 B D

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業内容の説明 評価基準について ボランティアの基本的姿勢と心構え	演習	予習・復習:福島市内や出身市町村の社会福祉施設の概要について調べる。
2	実際のボランティア・NPO事例紹介 (社会福祉施設、地域、在宅、災害時等におけるボランティア・NPO活動)	演習	予習・復習:ボランティア、NPO活動の実践例のまとめ

3	実習事前オリエンテーション (実習日誌の作成方法)	演習	
	社会福祉施設、地域活動でのボランティア (定期的訪問、行事参加等) ※基準時間35時間に達するまで		
4	ボランティア・地域振興活動体験発表会 (中間反省会:平成30年7月14日(土)予定) 実習事後指導		復習:ボランティア活動の振り返り ・責任ある行動 ・的確なコミュニケーション 上記の観点等から、実践上の課題等を整理する。
5	実習事後指導		実習のまとめ レポート提出
到達度の評価 (評価方法・基準)			
実習出勤簿等のボランティア実践を証するもの、実習日誌、まとめレポートの提出により単位認定する。			
教科書		参考書	
使用しない。適宜、レジュメ及び資料を配布する。		必要に応じて紹介する。	
その他補足事項			
年度始めのオリエンテーション時に履修説明を行う。 クラスセミナーの時間を活用した授業を基本とするが、別途時間設定する場合には、掲示にて指示する。			

授業科目名	地域振興活動	授業形態・単位数	実習・1単位
		開講年次	1・2・3・4年次
担当教員	職名:教授 氏名: ^{くさか} 日下 ^{てるみ} 輝美	開講期	時間割外
		授業回数	時間割外
		期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明する。 E-mail:kusaka.terumi@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>福島県内の歴史や文化、行事（イベント）の現状と課題を踏まえ、地域活性化への理解を深めながら地域貢献を目指し、自主的な活動を行う。</p> <p>実習にあたっては、特に、福島市の中心市街地で開催される行事（イベント）および、福島県、福島市、福島市本町商店街振興組合、中小企業同友会、青年会議所等団体（NPO含む）が企画する行事（イベント）に関わり、企画立案等の実体験を通して地域振興活動について学ぶ。</p>	<input type="checkbox"/>	A 知識
	<input type="checkbox"/>	B 技術・技能
	<input type="checkbox"/>	C 論理的思考力
	<input type="checkbox"/>	D 文章表現力
	<input type="checkbox"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="checkbox"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="checkbox"/>	G 協働能力
	<input type="checkbox"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="checkbox"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="checkbox"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="checkbox"/>	K 課題対処力
	<input type="checkbox"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
①実習を通して、対人援助職としての心構えを身につける。	目標	B J K L
②地域振興活動の意義・社会的役割の重要性を学ぶ。	目標	B D

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業内容の説明 評価基準について 地域振興活動と実習に当たっての基本的姿勢と心構え	演習	予習・復習:福島市内の行事について調べる。
2	ゲストスピーカーの招聘 福島市中心市街地、福島県内で開催される行事(イベント)や伝承、観光、まちづくり活動について	演習	予習・復習:実習内容選定
3	実習事前オリエンテーション (実習日誌の作成方法)	演習	
	地域振興活動(NPO活動等を含む) (定期的訪問、行事参加等) ※基準時間35時間に達するまで		

4	ボランティア・地域振興活動体験発表会 (中間反省会:平成30年7月14日(土)予定) 実習事後指導		復習:活動の振り返り ・責任ある行動 ・的確なコミュニケーション 上記の観点等から、 実践上の課題等を 整理する。
5	実習事後指導		実習のまとめ レポート提出
到達度の評価 (評価方法・基準)			
実習出勤簿等のボランティア実践を証するもの、実習日誌、まとめレポートの提出により単位認定する。			
教科書		参考書	
使用しない。適宜、レジユメ及び資料を配布する。		必要に応じて紹介する。	
その他補足事項			
年度始めのオリエンテーション時に履修説明を行う。 クラスセミナーの時間を活用した授業を基本とするが、別途時間設定する場合には、掲示にて指示する。			

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成30年度

授業科目名	音楽演習	授業形態・単位数	演習・2単位
		開講年次	1・2年次
担当教員	職名:教授 氏名:ブルース・ヒューバナー	開講期	通年
		授業回数	30回
		期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワー:水曜日 研究室 15:15~16:30 E-mail:bhuebner@gol.com		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>本授業は、音楽が人格形成に欠かせないものであることを前提としている。</p> <p>すなわち社会、家族、自らのアイデンティティ、身体および精神の両方が、音楽に依り質の高いものに向し、人生の全てを左右されることさえあるということを学ぶ。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
音楽・音に対し知性的な考察ができ、かつ、洗練された鑑賞力と選択力を養うことを目指す。それにより音楽を楽しみ、豊かな感性を育むことを目標とする。		目標 A E F J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	1章 音楽的な生活 パート1ー私の音楽生活の瞬間 自己紹介	リスニングセッション 音楽を聴く方法 音楽の記述 レクチャー/デモンストレーション	
2	パート2ー音楽的な生活とは?	リスニングセッション 小泉文夫『子守唄の社会学』 レクチャー/デモンストレーション	・音楽観賞リスニングリストの予習・復習 ・YouTube動画リストの予習・復習
3	パート3ー根と枝 伝統と革新 音楽のパトロン 音楽を経済的にどのように支えたか?	リスニングセッション 小泉文夫『わらべうたと民族性』 映画:アマデウス	〃

4	パート4－音楽制作の現場 楽譜	リスニングセッション Comparison of World Notation Systems, 映画：アマデウス	＼
5	パート4－音楽制作の現場 アンサンブル	リスニングセッション DVD 映画：アマデウス	＼
6	2章 音楽と空間	リスニングセッション 小泉文夫『人はなぜ歌を うたうか：音楽の場』 映画：アマデウス	＼
7	パート1－音楽の進化 自然界の音	リスニングセッション CD/youTube	＼
8	パート2－「アーティスト」と素材 世界の楽器について	リスニングセッション 音楽と自然：尺八 自然と文化の先端につい て：尺八の作り方	＼
9	パート3－「アーティスト」と素材 建築と音楽の平行進化	リスニングセッション TedTalk 音楽と建築 DVD	＼
10	3章 音楽の力	リスニングセッション 小泉文夫『アジアの音楽・ ヨーロッパの音楽』 ゲストレクチャー DVD	＼
11	パート1－音楽と世代 1960's; ヒップホップ	リスニングセッション 映画：『ウッドストック』 CD/youTube	＼
12	パート2－政治的運動と音楽 ボブ・マーリー；ジョン・レノン	リスニングセッション ドキュメント『ボブ・マー リー』 CD/youTube	＼
13	パート3－宗教音楽	リスニングセッション 小泉文夫『仏教音楽から 学ぶもの』 CD/youTube	＼
14	Survey of Sound Environment 学生研究発表：音楽環境検査	リスニングセッション	＼
15	Survey of Sound Environment 学生研究発表：音楽環境検査 小テスト(リスニングテスト)	リスニングセッション	＼
16	4章 音楽は言語 パート1－言語の学習と音楽の学習	リスニングセッション	＼
17	パート2－音楽でストーリーを伝える 手法	リスニングセッション Case Study: 山田流箏曲 『竹生島』 レクチャー/デモンスト レーション	＼
18	パート2－音楽でストーリーを伝える 緊張と解放 音楽形式	リスニングセッション レクチャー/デモンスト レーション	＼
19	パート3－即興	リスニングセッション DVD CD/youTube	＼

20	5章 ジャズ パート1ージャズの本質 L.アームストロングとジャズソロ	リスニングセッション Film: Ken Burns Documentary The History of Jazz レクチャー/デモンスト レーション	"
21	パート2ーアメリカの芸術形式? ジャズの歴史	リスニングセッション Film: Ken Burns Documentary The History of Jazz ゲストレクチャー	"
22	パート3ー世界におけるジャズの影響	リスニングセッション Film: Ken Burns Documentary The History of Jazz DVD CD/youTube	"
23	6章 三つの窓: 音楽家、楽器、ジャンル	リスニングセッション	"
24	パート1ーひとりの音楽家:レナード・バーンスタイン 指揮者として	リスニングセッション DVD CD/youTube	"
25	レナード・バーンスタイン 作曲家として	リスニングセッション DVD	"
26	レナード・バーンスタイン 教育者として	リスニングセッション DVD CD/youTube	"
27	パート2ーひとつの楽器: スチールパン トリニダードから世界へ	リスニングセッション ゲストレクチャー	"
28	パート3ーひとつのジャンル:ハリウッド映画音楽 イメージとサウンド	リスニングセッション CD/youTube	"
29	パート3ーひとつのジャンル:ハリウッド映画音楽 イメージとサウンド	リスニングセッション CD/youTube DVD	"
30	被災地と音楽、小テスト(リスニングテスト)	リスニングセッション ゲストレクチャー	
到達度の評価 (評価方法・基準)			
研究レポート提出 (60%)、前期小テスト (20%)、後期小テスト (20%) また、欠席、遅刻、授業中の態度等に関 わる減点については、規程 (学生便覧に記載) に沿う。 詳しくは初回授業時に説明する。			
その他補足事項			
教材としてCD、DVD、YouTube 等使用。プリントを配布する。			

授 業 科 目 名	美術演習	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名:兼担教授 氏名: ^{ふるはた} 古畑 ^{まさのり} 雅規	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail: furuhata.masanori@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
動物や植物などをモチーフに、デッサン、水彩画、ポスターカラーなどで描く。絵画としてモチーフそのものだけでなく、背景を描くことによりその場の臨場感や奥行きを出させ、絵本のような物語を感じさせる作品づくりを目指す。また、平面制作同様、立体として動物や植物などをモチーフにして粘土細工などでオブジェを制作する。絵画には表現できない立体感や重量感、またモチーフそのものの質感を追求する。最後に絵画と立体の混合作品の制作もすることにより、現代美術の要素も学ぶ。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
1.作品の制作に対して、基本的な技法とその技術を学ぶ。	目標	A B
2.さまざまなアイデアを出し合い、工夫する。	目標	B C
3.意欲をもって楽しく学ぶ。	目標	F J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他(本科目の留意点)	授業計画	
2	動物の絵画の制作 構図を考え下描きをする	イラストボード エンピツ など	描きたい動物の資料を用意する
3	動物の絵画の制作 背景を考えながら下描きをする	イラストボード エンピツ など	身近な動植物の観察
4	動物の絵画の制作 全体のバランスを考えながら下描きをする	エンピツ、ペン など	身近な動植物の観察

5	動物の絵画の制作 絵具を使って着彩	水彩絵具、ペン など	身近な動植物の観察
6	動物の絵画の制作 陰影を考えて着彩	水彩絵具、ペン など	身近な動植物の観察
7	動物の絵画の制作 全体のバランスを考えて仕上げ	定着スプレー	身近な動植物の観察
8	動物のオブジェの制作 土台づくり	板、粘土 など	制作する対象の資料を用意する
9	動物のオブジェの制作 基礎の形づくり	アルミハク、粘土 など	制作する対象の資料を用意する
10	動物のオブジェの制作 骨格を正確に制作する	アルミハク、粘土 など	身近な動植物の観察
11	動物のオブジェの制作 少しずつ肉付けをする	アルミハク、粘土 など	身近な動植物の観察
12	動物のオブジェの制作 ボリューム感をだす	アルミハク、粘土 など	身近な動植物の観察
13	動物のオブジェの制作 背景も同時に制作する	アルミハク、粘土 など	身近にある物の色の観察
14	色鉛筆の使い方の学習 力の加減による色の変化を見る	色鉛筆	身近にある物の色の観察
15	色鉛筆の使い方の学習 グラデーションの学習	色鉛筆	身近な動植物の観察
16	オブジェの制作の続き	アルミハク、粘土 など	身近な動植物の観察
17	動物のオブジェの制作 形を完成させる	アルミハク、粘土 など	身近な動植物の観察
18	動物のオブジェの制作 絵具を使って着彩	水彩、アクリル絵具 など	身近な動植物の観察
19	動物のオブジェの制作 グラデーションをとり入れる	水彩、アクリル絵具 など	身近な動植物の観察
20	動物のオブジェの制作 全体のバランスを整え仕上げ	水彩、アクリル絵具 など	身近な動植物の観察
21	粘土を素材とする立体の風景の制作 下描き	スケッチブック、エンピツ など	制作する対象の資料を用意する
22	粘土を素材とする立体の風景の制作 絵画と立体の部分を分けて考える	スケッチブック、エンピツ など	制作する対象の資料を用意する
23	粘土を素材とする立体の風景の制作 土台づくり	粘土 など	制作する対象の資料を用意する
24	粘土を素材とする立体の風景の制作 立体になる部分の制作	粘土、アルミハク など	粘土以外の素材を用意する
25	粘土を素材とする立体の風景の制作 質感なども考えて制作	粘土、アルミハク など	粘土以外の素材を用意する
26	粘土を素材とする立体の風景の制作 背景を考える	粘土、アルミハク など	粘土以外の素材を用意する
27	粘土を素材とする立体の風景の制作 水彩、アクリル絵具で着彩	水彩、アクリル絵具 など	身近な風景の色を観察する
28	粘土を素材とする立体の風景の制作 ボリューム感を出す	水彩、アクリル絵具 など	身近な風景の色を観察する
29	粘土を素材とする立体の風景の制作 全体の色のバランスを考えて着彩	水彩、アクリル絵具 など	身近な風景の色を観察する
30	粘土を素材とする立体の風景の制作 仕上げ 一年間のまとめ	水彩、アクリル絵具、定着材 など	

到達度の評価（評価方法・基準）
(1) 作品評価 70% (制作時間に見合った達成度、工夫、ボリューム) (2) 授業態度 30% (作品への意欲で評価)
教科書
その都度、資料を配布する。
その他補足事項
・材料費として2,700円を徴収する。 ・授業の進行状況により、授業内容が入れ替わることがある。

授 業 科 目 名	心理学概論	授業形態・単位数	講義・4単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{きし} 岸 ^{よしのり} 良範	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	必修	
社会福祉士	〃	〃	
精神保健福祉士	〃	〃	
公認心理師	〃	〃	
認定心理士	〃	〃	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
心理学は、人間理解の基本的な学問として、その重要性がますます高まっている。本講義では、これまでの心理学の理論から最新に至るまでの諸領域の研究から明らかになってきたことを明示する。さらに、普段の生活の中での様々なできごとと心理学を関連づけながら詳述し、さらなる人間理解の資としたい。また、心理学の理論を様々な対人援助の領域に応用する可能性について説明していく。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="checkbox"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="checkbox"/>	D 文章表現力
	<input type="checkbox"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="checkbox"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="checkbox"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
①人間の心理学的側面における基本的な理論を身につける。	目標	A C
②人間の心理学的側面の理解のために様々な方法があることを学ぶ。	目標	A C J
③心理学の研究成果に基づく、心理学的援助技術を身につける。	目標	A C H I J K L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	心理学の成り立ち 人の心理学的理解 1.脳の仕組みと感情・情緒	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
2	人の心理学的理解 2.欲求・動機づけと行動	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習

3	人の心理学的理解 3.感覚・知覚・認知(1)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
4	人の心理学的理解 4.感覚・知覚・認知(2)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
5	人の心理学的理解 5.感覚・知覚・認知(3)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
6	人の心理学的理解 6.学習・記憶・思考(1)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
7	人の心理学的理解 7.学習・記憶・思考(2)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
8	人の心理学的理解 8.知能と創造性	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
9	人の心理学的理解 9.様々な人格理論	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
10	人の心理学的理解 10.集団と適応(1)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
11	人の心理学的理解 11.集団と適応(2)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
12	人の心理学的理解 12.人と環境(1)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
13	人の心理学的理解 13.人と環境(2)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
14	人の成長・発達と心理(1)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
15	人の成長・発達と心理(2)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
16	人の成長・発達と心理(3)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
17	日常生活と心の健康 1.ストレスとストレス反応	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
18	日常生活と心の健康 2.ストレス要因による心理的反応	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
19	日常生活と心の健康 3.ストレスからの回復	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
20	心理的支援の方法と実際 1.人格検査(1)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習

21	心理的支援の方法と実際 2.人格検査(2)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
22	心理的支援の方法と実際 3.様々な検査(1)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
23	心理的支援の方法と実際 4.様々な検査(2)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
24	心理的支援の方法と実際 5.カウンセリングの概念(1)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
25	心理的支援の方法と実際 6.カウンセリングの概念(2)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
26	心理的支援の方法と実際 7.カウンセリングとソーシャルワーク	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
27	心理的支援の方法と実際 8.精神医学的視点 DSM-5	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
28	心理的支援の方法と実際 9.心理療法(1)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
29	心理的支援の方法と実際 10.心理療法(2)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
30	心理的支援の方法と実際 11.心理療法(3)	講義及びグループにおけるディスカッション	教科書の該当箇所及び参考文献の予習・復習
期末試験	期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 筆記試験 60 点満点の記述方式のテストを学期末に実施 (2) レポート レポートは 40点満点の採点とする。(授業内容の理解度を確保するため小レポートを含む)			
教科書		参考書	
書 名:心理学「第5版」 著者名:鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃(編) 発行所:東京大学出版会 価 格:2,400円(税別)		書 名:思春期の心理学ーこころのなかを旅してみると 著者名:岸 良範 発行所:ポプラ社教養文庫 価 格:1,500円(税別)	
その他補足事項			
参考文献は随時指定する。 視聴覚教材を利用することもある。 理解度に応じて、時間配分及び講義順番が変更されることがある。			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	心理学概論 (1年次)	授業形態・単位数	講義・4単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{わたなべ} 渡邊 ^{つとむ} 勉	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	必修	
社会福祉士	〃	〃	
精神保健福祉士	〃	〃	
公認心理師	〃	〃	
認定心理士	〃	〃	

授業の概要	授業の概要との対応項目		
<p>科学としての心理学がカバーする領域は幅広く、かつあいまいであり、また関心を持つ人々の期待に必ずしも応えていない。本講義では、教養として心理学を学ぶ学生には有益な基礎知識を、これから心理・福祉の専門職につきたい学生には必須の重要概念を、できるだけ具体例を挙げて講義する。必要に応じてグループワークやビデオやスライド等の視聴を行う。</p>	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K	課題対処力
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)		
心理学の基礎概念を簡潔に説明できる	目標	A	
日常生活での出来事を、量的・質的の両面から考えることができる	目標	C K	
対人関係における問題(葛藤)を心理学の概念で理解することができる	目標	J K L	

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業内容 ・評価方法	配布補足資料	
2	1.心理学の歴史と成り立ち	配布資料	配布資料を事前に読む
3	2.心の生物学的基盤	配布資料	配布資料を事前に読む

4	3-1.感覚	配布資料	配布資料を事前に読む
5	3-2.知覚	配布資料	配布資料を事前に読む
6	4-1.学習	配布資料	配布資料を事前に読む
7	4-2.学習・条件づけ	配布資料	配布資料を事前に読む
8	5-1.記憶	配布資料	配布資料を事前に読む
9	5-2.記憶に関わる諸問題① 記憶喪失	配布資料	配布資料を事前に読む
10	5-3.記憶に関わる諸問題②	配布資料 グループワーク	配布資料を事前に読む
11	6-1.言語	配布資料	配布資料を事前に読む
12	6-2.思考	配布資料	配布資料を事前に読む
13	6-3.言語と思考に関わる諸問題	配布資料 グループワーク	配布資料を事前に読む
14	7-1.動機づけ	配布資料	配布資料を事前に読む
15	7-2.感情	配布資料 グループワーク	これまでの配布資料を読みなおす
16	7-3.動機づけと感情に関わる諸問題①	配布資料	配布資料を事前に読む
17	7-4.動機づけと感情に関わる諸問題②	配布資料 グループワーク	配布資料を事前に読む
18	8-1.心の発達	配布資料	配布資料を事前に読む
19	8-2.発達に関わる諸問題	配布資料 グループワーク	配布資料を事前に読む
20	9-1.知能	配布資料	配布資料を事前に読む
21	9-2.発達と知能に関わる諸問題	配布資料 グループワーク	配布資料を事前に読む
22	10-1.パーソナリティ	配布資料	配布資料を事前に読む
23	10-2.パーソナリティに関わる諸問題①	配布資料	配布資料を事前に読む
24	10-3.パーソナリティに関わる諸問題②	配布資料	配布資料を事前に読む
25	11-1.社会と個人①	配布資料	配布資料を事前に読む
26	11-2.社会と個人②	配布資料	配布資料を事前に読む
27	12-1.心の健康と不適応①	配布資料	配布資料を事前に読む
28	12-2.心の健康と不適応②	配布資料	配布資料を事前に読む
29	12-3.心の健康と不適応③	配布資料	配布資料を事前に読む
30	まとめ	配布資料	これまでの配布資料を読みなおす

期末試験	学期末筆記試験(持ち込みなし)		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
1) 学期末筆記試験(80%) 2) 授業内で行うレポート(20%)			
教科書		参考書	
書名:心理学概論 著者名:繁榊算男(編) 発行所:遠見書房 価格:2,400円(税別)		書名:図説心理学入門(第2版) 著者名:齋藤勇(編) 発行所:誠信書房 価格:1,800円(税別)	

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成30年度

授業科目名	心理学 (2年次以上)	授業形態・単位数	講義・4単位
		開講年次	2年次以上
担当教員	職名:教授 氏名: <small>わたなべ つとむ</small> 渡邊 勉	開講期	通年
		授業回数	30回
		期末試験の有無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	必修	
社会福祉士	〃	〃	
精神保健福祉士	〃	〃	
公認心理師	〃	選択	
認定心理士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目		
<p>科学としての心理学がカバーする領域は幅広く、かつあいまいであり、また関心を持つ人々の期待に必ずしも応えていない。本講義では、教養として心理学を学ぶ学生には有益な基礎知識を、これから心理・福祉の専門職につきたい学生には必須の重要概念を、できるだけ具体例を挙げて講義する。必要に応じてグループワークやビデオやスライド等の視聴を行う。</p>	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K	課題対処力
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)		
心理学の基礎概念を簡潔に説明できる	目標	A	
日常生活での出来事を、量的・質的の両面から考えることができる	目標	C K	
対人関係における問題(葛藤)を心理学の概念で理解することができる	目標	J K L	

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業内容 ・評価方法	配布補足資料	
2	1.心理学の歴史と成り立ち	配布資料	配布資料を事前に読む
3	2.心の生物学的基盤	配布資料	配布資料を事前に読む

4	3-1.感覚	配布資料	配布資料を事前に読む
5	3-2.知覚	配布資料	配布資料を事前に読む
6	4-1.学習	配布資料	配布資料を事前に読む
7	4-2.学習・条件づけ	配布資料	配布資料を事前に読む
8	5-1.記憶	配布資料	配布資料を事前に読む
9	5-2.記憶に関わる諸問題① 記憶喪失	配布資料	配布資料を事前に読む
10	5-3.記憶に関わる諸問題②	配布資料 グループワーク	配布資料を事前に読む
11	6-1.言語	配布資料	配布資料を事前に読む
12	6-2.思考	配布資料	配布資料を事前に読む
13	6-3.言語と思考に関わる諸問題	配布資料 グループワーク	配布資料を事前に読む
14	7-1.動機づけ	配布資料	配布資料を事前に読む
15	7-2.感情	配布資料 グループワーク	これまでの配布資料を読みなおす
16	7-3.動機づけと感情に関わる諸問題①	配布資料	配布資料を事前に読む
17	7-4.動機づけと感情に関わる諸問題②	配布資料 グループワーク	配布資料を事前に読む
18	8-1.心の発達	配布資料	配布資料を事前に読む
19	8-2.発達に関わる諸問題	配布資料 グループワーク	配布資料を事前に読む
20	9-1.知能	配布資料	配布資料を事前に読む
21	9-2.発達と知能に関わる諸問題	配布資料 グループワーク	配布資料を事前に読む
22	10-1.パーソナリティ	配布資料	配布資料を事前に読む
23	10-2.パーソナリティに関わる諸問題①	配布資料	配布資料を事前に読む
24	10-3.パーソナリティに関わる諸問題②	配布資料	配布資料を事前に読む
25	11-1.社会と個人①	配布資料	配布資料を事前に読む
26	11-2.社会と個人②	配布資料	配布資料を事前に読む
27	12-1.心の健康と不適応①	配布資料	配布資料を事前に読む
28	12-2.心の健康と不適応②	配布資料	配布資料を事前に読む
29	12-3.心の健康と不適応③	配布資料	配布資料を事前に読む
30	まとめ	配布資料	これまでの配布資料を読みなおす

期末試験	学期末筆記試験(持ち込みなし)		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
1) 学期末筆記試験(80%) 2) 授業内で行うレポート(20%)			
教科書		参考書	
書名:心理学概論 著者名:繁榎算男(編) 発行所:遠見書房 価格:2,400円(税別)		書名:図説心理学入門(第2版) 著者名:齋藤勇(編) 発行所:誠信書房 価格:1,800円(税別)	

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	法学	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: ^{なかざと} 中里 ^{まこと} 真 本務先:福島大学 職名:准教授	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に教室で質問等に対応		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
市民的教養として法学を修得し、市民社会の中で遭遇する法的紛争に対する問題解決能力を養えるようになることが目標である。具体的には以下の到達目標それぞれについて理解することが求められる。	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
①日常生活に法がどのように関与しているか理解する。	目標	A
②私法・公法の役割は何か理解する。	目標	A J K
③契約とは何か理解する。	目標	A C K
④家族と法との関係を理解する。	目標	A J
⑤紛争の解決方法を理解する。	目標	A K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス ・授業内容と評価方法 ・学校生活と法	授業計画案内	
2	イントロダクション ・社会生活と法	レジュメ配布	教科書序章を事前に読む
3	公法と私法	レジュメ配布	教科書7章、11章を事前に読む
4	裁判と法	レジュメ配布	教科書12章を事前に読む

5	裁判員制度の理解を深める	DVD視聴	第4回授業で扱った内容を復習する
6	人間の生死と法 ・法的にはいつからいつまでが人なのか	レジュメ配布	教科書1章、14章を事前に読む
7	子どもと法 ・親子関係に関する法	レジュメ配布	教科書1章、2章を事前に読む
8	高齢者と法 ・高齢者を取り巻く法的問題	グループ・ディスカッション(冒頭20分) (レジュメ配布)	教科書13章を事前に読む
9	住居と法 ・戸建て住宅と共同住宅	レジュメ配布	教科書6章を事前に読む
10	契約と法 ・契約の成立と拘束力	レジュメ配布	教科書5章を事前に読む
11	消費生活と法① ・消費者法という考え方	レジュメ配布	教科書5章を事前に読む
12	消費生活と法② ・食の安全と製造物責任法	レジュメ配布 (指名しての意見聴取を含む)	第10回、第11回の授業内容を復習する
13	労働と法の関係 ・職場と法	レジュメ配布 学生の身近な例を紹介してもらう	教科書3章を事前に読む
14	情報と法	レジュメ配布	教科書8章を事前に読む
15	成績判定課題の出題	課題は当日配布	これまで配布した資料に目を通す
期末試験	なし		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
課題で成績判定を行う。基準は 上記「到達目標」の①②③④⑤に照らして、下記の通りとする。			
80点以上:すべての項目が極めて高い水準に達している			
79～70点:すべての項目が高い水準に達している			
69～60点:全体的に望ましい水準に達している			
59点以下:不合格			
なお、レポートや確認小テストを課した場合、それらも成績判定の一部(最大30点分)を構成する。詳細は、授業初回に指示する。			
教科書		参考書	
書 名:『市民社会と法【第4版】』 著者名:中川淳(編集) 発行所:法律文化社 価 格:2,300円(税別)		書 名:ポケット六法 平成31年度版 (平成30年10月刊行予定) 著者名:山下友信、宇賀克也(編集代表) 発行所:有斐閣 価 格:1,852円(税別) (未刊行のため、著者名・価格は平成30年度版の情報)	
その他補足事項			
授業中、条文に触れる機会があるため、参考書に挙げたポケット六法(有斐閣)やデイリー六法(三省堂)など小型の六法を用意することが望ましい。また、教室を巡回し、条文の読み上げをしてもらうことがあるほか、上記に示した回以外にも指名して意見を挙げてもらうことがある。受講者はその準備をしておくこと。			

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成30年度

授業科目名	社会学	授業形態・単位数	講義・2単位
		開講年次	3・4年次
担当教員	職名:非常勤講師 氏名: ^{たかはし} 高橋 ^{かよ} 嘉代	開講期	前期
		授業回数	15回
		期末試験の有無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に質問を受け付けます。Eメールでの質問も可。 E-mail:works3120@me.com		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択	
社会福祉士	〃	選択必修	
精神保健福祉士	〃	〃	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
急変する社会情勢のなかで、福祉系の専門職においては様々な集団・組織の構成原理の変化と、人々の生き方やニーズの変化とを的確に関連づける姿勢が求められている。受講生はこの点を常に念頭に置きつつ、社会学の基礎概念を理解し、現代社会における様々な課題への関心と分析力を身につけられたい。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
社会学における基本的なものの見方・考え方(基礎理論)と、そのものの見方を考えた人々(論者)についての知識を身につけること。		目標 A B C
近代国家の成立によって人々の生き方にどのような影響が現れたか、社会学の基礎論理をもとに自分の言葉で説明できるようになること。		目標 A B C K
保健・医療・福祉分野の専門職に必要な社会的分析力を身につけること。		目標 A B C K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション(授業の概要と目標および評価方法・授業進め方の留意点) 社会システム(テキスト序章・第1章第1節:p1-p31) T.パーソンズの社会理論	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第2週実施の小テスト対策
2	法と社会システム(テキスト第1章第2節:p32-p44) 合法的支配の仕組みとしての「官僚制」 ※小テスト1:第1週の範囲から出題	教員作成の資料配布およびスライド上映。	総務省統計局のWebサイトを確認しておくこと。

3	経済と社会システム(テキスト第1章第3節:p45-p57) 市場のメカニズム・わが国の労働市場の特徴・「格差」について	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第4週実施の小テスト対策
4	社会変動(テキスト第1章第4節:p58-p71) 社会変動についての諸理論・ポスト工業社会・グローバリゼーションの光と影 ※小テスト2:第2週・第3週の範囲から出題	教員作成の資料配布およびスライド上映。	近年の『国勢調査報告』『人口動態統計』を確認しておくこと。
5	人口からみた社会変動(テキスト第1章第5節:p72-90) 「人口」の基礎概念、世界の人口・日本の人口	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第6週実施の小テスト対策
6	生活のとらえ方(テキスト第2章第1節:p91-p104) 生活様式とは、生活構造について ※小テスト3:第4週・第5週の範囲から出題	教員作成の資料配布およびスライド上映。	近年の『社会生活基本調査』を見ておくこと。
7	家族(テキスト第2章第2節:p105-p119) 家族の種類、家族の機能についての諸説、家族の機能の変化についての諸説	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第8週実施の小テスト対策
8	地域(テキスト第2章第3節:p120-p135) 地域の基礎概念、シカゴ学派の都市研究、日本の論者の都市研究 ※小テスト4:第6週・第7週の範囲から出題	教員作成の資料配布およびスライド上映。	『国勢調査報告』等から家族類型別割合の推移を確認しておくこと。
9	社会的行為(テキスト第3章第1節:p137-p150) デュルケム・ヴェーバー・パーソンズの議論、習慣としての行為	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第10週実施の小テスト対策
10	社会的役割(テキスト第3章第2節:p151-p163) 「自己」と「他者」、地位と役割 ※小テスト5:第8週・第9週の範囲から出題	教員作成の資料配布およびスライド上映。	社会集団の概念・官僚制についての論者や用語をチェックしておくこと。
11	社会集団と組織、社会的ジレンマ(テキスト第3章第3節・第4節:p164-p186) 集団の分類と議論、合理的選択理論と社会的ジレンマ	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第12週実施の小テスト対策
12	社会関係資本と社会的連帯(テキスト第3章第5節:p187-p197) 社会関係資本の理論、大衆社会論 ※小テスト6:第10週・第11週の範囲から出題	教員作成の資料配布およびスライド上映。	社会問題についての諸理論について調べておくこと。
13	社会問題のとらえ方(テキスト第4章第1節:p199-p210) 逸脱とラベリング	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第14週実施の小テスト対策
14	日本社会と社会問題(テキスト第4章第2節:p211-p225) SSM調査にみる戦後の日本社会、新しい格差 ※小テスト7:第12週・第13週の範囲から出題	教員作成の資料配布およびスライド上映。	わが国における「生存権」「社会権」について調べておくこと。
15	共生社会と権利(テキスト第4章第3節:p226-p237) 近代初期の社会的混乱、自由権・生存権・社会権	教員作成の資料配布およびスライド上映。	期末試験に向けて配布物・小テストを再度確認しておくこと。
期末試験	50点満点(1問1点×50問)の期末試験を実施。 試験は○×式、第1回～第7回の小テストを中心に出题予定。		期末試験の復習
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価(評価方法・基準)			
<p>評価は加点式(第1回授業開始時点での持ち点は0点とする)。評価の対象および方法は以下の通りである。</p> <p>(1) 課題(15点満点:奇数回目の授業時に授業に関する簡単な課題を課す。初回時のみ1点、以後1回2点。8回実施)</p> <p>(2) 小テスト(35点満点:偶数回目の授業時に実施。5点満点、7回実施)</p> <p>(3) 期末試験(50点満点)</p> <p>(1)(2)(3)の総ての合計点をもって最終的な評価とする。成績評価は100点満点とし、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。</p>			

教科書	参考書
書名：『新・社会福祉士養成講座 3 社会理論と社会システム』 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会 発行所：中央法規 価格：2,200 円(税別)	特に指定しない。
その他補足事項	
<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験の問題の大半(9割以上)を小テストから出題するので、小テストの復習を必ず行うこと。 ・奇数回の授業時に実施する課題は当該の授業時に提出すること(次週以降の提出は原則として認めない)。 ・成績処理終了後、模範解答添付の上で期末試験の答案を返却する。知識の定着のために是非活用されたい。 	

授 業 科 目 名	女性と保健	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{おだ} 織田 ^{まさあき} 正昭	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回講義時に説明します。 E-mail:oda.masaaki@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
女性の健康と疾患について、生まれる前（胎児）から乳幼児期に始まり、高齢期にいたるまでの女性のライフサイクルに合わせて教科書をもとにして学ぶ。併せて関連スライドとビデオ視聴により理解を深める。講義を通じて母性としての自己の健康状態を把握し、正しい知識を習得する。授業内では女性の保健に関わる社会的なトピックスをもとに受講者間で討論を行なう。おむね5回ごとに確認のためにミニテストを行う。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="checkbox"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="checkbox"/>	D 文章表現力
	<input type="checkbox"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="checkbox"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="checkbox"/>	G 協働能力
	<input type="checkbox"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="checkbox"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
1) 女性として、また近未来の親として知っておくべき母性に関する基礎知識を習得する。	目標	A C
2) ライフサイクルの立場から女性の一生にわたる保健、健康問題を理解する。特に、月経、妊娠、出産に始まり、乳幼児期、学童期、思春期、成熟期、更年期、老年期と、時期ごとに生じる様々な健康に関する身体的・生理的、心理的、社会的特性と機能を、母性の立場から考える。	目標	A K
3) 母子の健康に関する社会的トピックスに対して積極的関心を持ち、それらに対して自分の意見や考えを述べられるようにする。	目標	I L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	1.オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他(本科目の留意点) 2.授業内容 女性の健康の概念と歴史 女性のライフサイクル 生殖生理総論		

2	女性の身体特性(1) ～生殖器の構造と機能 ～女性と先天異常	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
3	女性の身体特性(2) ～乳房の構造と機能 ～異常の発見	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
4	月経の生理とホルモンの生化学、月経異常と対応	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
5	妊娠の成立と維持、分娩の生理 ～生理・生化学的变化の理解 ～男性の生殖生理	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
6	避妊と人工妊娠中絶	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
7	女性の疾患 ～気になる症状の理解 ～産後うつ	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
8	女性の疾患 ～子宮がん、卵巣がん ～子宮内膜症、子宮筋腫ほか	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
9	女性の疾患 ～乳がん	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
10	性感染症 ～HPV、AIDSなどのSTDの現状と対応	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。

11	女性と予防接種 ～HPV、風疹など	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
12	更年期の健康、働く女性と高齢出産 ～先天異常 ～骨粗しょう症ほか	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
13	不妊治療 ～生殖医療(代理出産)	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
14	女性の健康に関する先端医療の現状 女性の性をめぐる社会問題 ～性暴力、DVほか	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
15	まとめ ～女性の保健をめぐる総合討論 ～女性の健康のための法律・制度	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
期末試験	前期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 筆記試験	講義全範囲を対象として期末テストとして行う		
(2) 課題発表	テキストをもとにあらかじめ割り振った課題の発表を評価する		
(3) 中間ミニテスト	理解度確認のために講義4～5回ごとにミニテストを実施。終了後、授業内で採点する		
(4) 授業態度	知識だけでなく講義での態度、積極的発言、質問、討論意欲を評価する		
最終的に(1)60% (2)10% (3)20% (4)10%の割合で総合評価する。			
教科書		参考書	
書名:女性のライフサイクルとナーシング 著者名:高橋真理、村本淳子(編) 発行所:ヌーベルヒロカワ 価格:2,200円(税別)		書名:ウイメンズヘルスナーシング概論 著者名:村本淳子、高橋真理(編) 発行所:ヌーベルヒロカワ 価格:1,900円(税別)	
その他補足事項			
提示した参考書は教科書と対を成すものであり、できれば購入を勧めたい。			

授 業 科 目 名	育児ストレス	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: <small>おだ まさあき</small> 織田 正昭	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回講義時に説明します。 E-mail:oda.masaaki@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>学生による指定教科書の分担発表をもとに、育児に対してまだ実感がなく、感覚的にストレスを理解できない段階にある学生に対して、育児及びストレスに関する基礎知識をスライドを用いて講義する。毎回、関連するビデオを視聴し、学生間で意見や考え方を述べ合う。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
1) 育児ストレスの原因・成り立ち、背景要因に関する基礎知識を理解する。		目標 A F
2) 育児期の母親に対するストレス対応と指導ができるレベルを目指す。		目標 H L
3) 近未来の親予備軍である多くの受講生にとって、将来の自分の育児に応用できる知識と態度を養う。		目標 C K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業概要と目標について説明 (2) 評価の方法と授業の進め方の説明	授業テーマ・方法とテキストについてスライドで説明	
2	テキスト分担箇所の発表 ～3歳までの子どもの脳(1),(2),(3)	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
3	テキスト分担箇所の発表 ～理想的なコミュニケーション(1),(2),(3)	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成

4	テキスト分担箇所の発表 ～理想的なコミュニケーション(4),(5),(6)	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
5	テキスト分担箇所の発表 ～子どもが心地よい環境と生活リズム(1) 第1回中間ミニテスト	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
6	テキスト分担箇所の発表 ～子どもが心地よい環境と生活リズム(2),(3),(4)	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
7	テキスト分担箇所の発表 ～毎日の健やかな食(1),(2) ～3歳までの体と健康(1)	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
8	テキスト分担箇所の発表 ～3歳までの体と健康(2) ～心豊かに家庭を運営するために(1),(2)	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
9	テキスト分担箇所の発表 ～10歳までなぜ大切なのか(1),(2),(3)	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
10	テキスト分担箇所の発表 ～頭のいい子が育つ生活習慣(1),(2) 第2回中間ミニテスト	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
11	テキスト分担箇所の発表 ～できる子になるための家庭学習マニュアル(1),(2),(3)	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
12	テキスト分担箇所の発表 ～できる子になるための家庭学習マニュアル(4),(5),(6)	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
13	テキスト分担箇所の発表 ～できる子になるための家庭学習マニュアル(7) ～教えて!子育ての新常識Q&A～(1&2),(3&4)	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
14	テキスト分担箇所の発表 ～教えて!子育ての新常識Q&A～(5&6),(7&8),(9&10)	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
15	まとめ 総合討論	スライドによるまとめ 関連VTRの視聴 学生間の総合討論	VTR感想文作成
期末 試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 筆記試験	講義全範囲を対象として期末テストとして行う		
(2) 課題発表	テキストをもとにあらかじめ割った分担箇所の発表を評価する		
(3) 中間ミニテスト	理解度確認のために講義3～4回ごとに1回ミニテストを実施。終了後、授業内で採点する		
(4) 授業態度	知識だけでなく講義での態度、積極的発言、質問、討論意欲を評価する		
最終的に	(1) 60%	(2) 10%	(3) 20% (4) 10%の割合で総合評価する。

教科書	参考書
<p>書名:3歳までの子育ての教科書 著者名:茂木健一郎、林 成之 ほか 発行所:アスコム 価格:1,100円(税別)</p> <p>書名:10歳までの子育ての教科書 著者名:篠原菊紀、池田清彦 ほか 発行所:アスコム 価格:1,100円(税別)</p>	<p>書名:最新科学でハッピー子育て ～夜泣き・イヤイヤ・人見知りにも理由があった! 著者名:NHK出版 編 発行所:NHK出版 価格:1,000円(税別)</p>
その他補足事項	
<p>毎回、講義内容に関するビデオを視聴し、意見を述べあう</p>	

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	食生活と健康	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: ^{たなか} 田中 ^こ かづ子	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>食事は人々にとって不可欠の生活行動ですが、不適切な食事が続くと生活習慣病などの因子とも成り得ます。様々に変化する環境の下で、自分の食の内容が適切なものとなっているかいないか、そのための栄養学の知識を身につけることが求められています。本授業では、食べることを多角的・総合的に捉え、新しい健康づくりの実践が必要とされる日常生活で、応用していけるよう、栄養と健康、栄養と疾病について解説します。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
栄養素の機能について理解し、日々、摂取している食の内容が適切なものとなっているか判断でき、自分の健康を守るための正しい食行動を実践できるようになる。	目標	A C J K
得られた知識を自らの能動的な学びで発展させ、社会の広い場面で健康維持・増進、疾病予防のために応用・実践できるようになる。	目標	A C J K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 1章 食生活と健康 食生活・健康 体内リズム	授業計画 食生活の自己点検表、パワーポイントを用い説明する	食生活の自己点検表に回答し、次回授業時に提出する
2	2章 炭水化物 炭水化物の分類・化学 炭水化物の代謝	DVD視聴(生体エネルギー 32分)と全体討論 教科書補足資料、パワーポイントを用い説明する	教科書P7~13を事前に読む
3	3章 蛋白質 蛋白質の分類・化学 蛋白質の代謝	教科書補足資料、パワーポイントを用い説明する	教科書P15~22を事前に読む

4	4章 脂質 脂質の分類・化学 脂質の代謝	教科書補足資料、パワー ポイントを用い説明する	教科書P23～30を 事前に読む
5	5章 ビタミンとミネラル ビタミンの分類・代謝 ミネラルの分類・代謝	DVD視聴(環境と生命体 20分)と全体討論 教科書補足資料、パワー ポイントを用い説明する	教科書P31～40を 事前に読む
6	6章 おいしさと健康のための調理 おいしさと調理 健康と調理	小テスト①(範囲:1-5回) 教科書補足資料、パワー ポイントを用い説明する	教科書P41～51を 事前に読む
7	7章 食品の機能性 飽食の時代と機能性食品 食品中の機能性成分	教科書補足資料、パワー ポイントを用い説明する	教科書P53～68を 事前に読む
8	8章 妊娠期・授乳期の食生活と健康 注意が必要な栄養素と生活習慣 妊娠期にみられる疾患と食事	教科書補足資料、パワー ポイントを用い説明する	教科書P69～78を 事前に読む
9	9章 乳児期・幼児期の食生活と健康 離乳食 食物アレルギー	教科書補足資料、パワー ポイントを用い説明する	教科書P79～85を 事前に読む
10	10章 学童期・思春期の食生活と健康 小児肥満、摂食障害等の諸問題 思春期における食生活の目的	食生活の自己点検表、教 科書補足資料、パワーポ イントを用い説明する	教科書P87～92を 事前に読む
11	11章 成人期・更年期の食生活と健康 生活習慣病、更年期障害 12章 高齢期の食生活と健康 生理的変化、嚥下障害、認知等の諸問題	教科書補足資料、パワー ポイントを用い説明する	教科書P93～103 を事前に読む
12	13章 健康づくりと食生活 自分の健康を自身で守るための食生活	教科書補足資料、パワー ポイントを用い説明する	教科書P105～116 を事前に読む
13	14章 食生活と安全① 環境汚染 食中毒予防のためのポイント	教科書補足資料、パワー ポイントを用い説明する	教科書P117～128 を事前に読む
14	14章 食生活と安全② 流通と表示 これからの食品安全の問題点	小テスト②(範囲:12-13回) 教科書補足資料、パワー ポイントを用い説明する	教科書P128～132 を事前に読む
15	15章 日本の食文化 和食 行事食と郷土料理	教科書補足資料、パワー ポイントを用い説明する	教科書P133～142 を事前に読む
期末 試験	1-15回で学習した総合試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験結果について説明をします。学科を通じて申し込んでください。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 筆記試験 記述方式の後期末試験70点満点 (2) 小テスト2回(15点満点×2)30点満点 (3) 評価方法・基準に関する詳細は初回授業時に説明する。			
教科書		参考書	
書名: 大学で学ぶ食生活と健康のきほん 著者名: 吉澤みな子、武智多与理、百木和 発行所: 化学同人 価格: 2,200円(税別)		特になし。 授業中に適宜指示する。	
その他補足事項			
授業内容は進行状況により変更することがある。			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	英語リーディング	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名:高橋 ^{たかはし} 了治 ^{りょうじ}	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>これまでに培われた英語力の上に立ち、英文読解を通して基本的な英文法を整理し、英単語・構文の習得を図りながら、英語学習の中でも習得困難なリーディング力の向上を目指す。また本文中で使われている表現を応用した簡単な英作文の練習も行う。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
辞書を使用して英文の内容を理解できる。	目標	A C
英文を文法的に分析して正しく解釈できる。	目標	A C
既習の英語表現を応用して英語で簡単な自己表現ができる。	目標	D J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標(授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方と留意点	授業計画	自分なりの英語学習の意義を考えておくこと
2	Unit 1 Step1~3 「<人>または<物>は/が~する」のパターン。Passageと総合演習。	テキスト・CD・プリント使用	教科書p.4~9 本文の意味調べ・音読
3	Unit 2 Step1~3 「<人>に<物>を~する」のパターン。Passageと総合演習。	テキスト・CD・プリント使用	教科書p.10~15 本文の意味調べ・音読
4	Unit 3 Step1~3 人や物を説明しよう(1) Passageと総合演習。	テキスト・CD・プリント使用	教科書p.16~21 本文の意味調べ・音読
5	Unit 4 Step1~3 人や物を説明しよう(2) Passageと総合演習。	テキスト・CD・プリント使用	教科書p.22~27 本文の意味調べ・音読
6	Unit 5 Step1~3 「いつも~している」のパターンと「~した」のパターン。Passageと総合演習。	テキスト・CD・プリント使用	教科書p.28~33 本文の意味調べ・音読

7	Unit 6 Step1～3 「これから～するつもりだ」のパターン。Passageと総合演習。	テキスト・CD・プリント使用	教科書p.34～39 本文の意味調べ・音読
8	Unit 7 Step1～3 「今～している」のパターンと「その時～していた」のパターン。Passageと総合演習。	テキスト・CD・プリント使用	教科書p.40～45 本文の意味調べ・音読
9	Unit 8 Step1～3 過去のことが現在まで影響する形。Passageと総合演習。	テキスト・CD・プリント使用	教科書p.46～51 本文の意味調べ・音読
10	Unit 9 Step1～3 「話し手の気持ち」を表す表現(1) Passageと総合演習。	テキスト・CD・プリント使用	教科書p.52～57 本文の意味調べ・音読
11	Unit 10 Step1～3 「話し手の気持ち」を表す表現(2) Passageと総合演習。	テキスト・CD・プリント使用	教科書 p.58～63 本文の意味調べ・音読
12	Unit 11 Step1～3 「～すること」を表す2種類の形。Passageと総合演習。	テキスト・CD・プリント使用	教科書p.64～69 本文の意味調べ・音読
13	Unit 12 Step1～3 2種類の「～すること」の形を区別する方法。Passageと総合演習。	テキスト・CD・プリント使用	教科書p.70～75 本文の意味調べ・音読
14	Unit 13 Step1～3 「～するために」と「～して」を表す形。Passageと総合演習。	テキスト・CD・プリント使用	教科書p.76～81 本文の意味調べ・音読
15	Unit 1～13までのまとめ。Listening Practice及び既習表現の応用。	テキスト・CD・プリント使用	各章の自由英作文を完成させておく
16	前期末試験		前期の既修内容を再確認する
17	Unit 14 Step1～3 「～するための」と「～するという」を表す形。Passageと総合演習。	テキスト・CD・プリント使用	教科書p.82～87 本文の意味調べ・音読
18	Unit 15 Step1～3 「～される」を表す形。Passageと総合演習。	テキスト・CD・プリント使用	教科書p.88～93 本文の意味調べ・音読
19	Unit 16 Step1～3 「～している」を表す形。Passageと総合演習。	テキスト・CD・プリント使用	教科書p.94～99 本文の意味調べ・音読
20	Unit 17 Step1～3 「～された」を表す形。Passageと総合演習。	テキスト・CD・プリント使用	教科書p.100～105 本文の意味調べ・音読
21	Unit 18 Step1～3 2つの文を1つにする方法(1) Passageと総合演習。	テキスト・CD・プリント使用	教科書p.106～111 本文の意味調べ・音読
22	Unit 19 Step1～3 2つの文を1つにする方法(2) Passageと総合演習。	テキスト・CD・プリント使用	教科書p.112～117 本文の意味調べ・音読
23	Unit 13～19までのまとめ。Listening Practice及び既習表現の応用。	テキスト・CD・プリント使用	各章の自由英作文を完成させておく
24	Unit 20 Step1～3 2つのものをつないでみよう。Passageと総合演習。	テキスト・CD・プリント使用	教科書p.118～123 本文の意味調べ・音読
25	Unit 21 Step1～3 疑問文を作る方法と疑問文を別の文の一部にする方法。Passageと総合演習。	テキスト・CD・プリント使用	教科書p.124～129 本文の意味調べ・音読
26	Unit 22 Step1～3 「現実離れたこと」を表す形	テキスト・CD・プリント使用	教科書p.130～135 本文の意味調べ・音読
27	Unit 20～22までのまとめ。準動詞の総復習。時制のとりえ方。	テキスト・CD・プリント使用	各章の自由英作文を完成させておく
28	Unit 23 Step1～3 「2つのもの」を比べる表現。Passageと総合演習。	テキスト・CD・プリント使用	教科書p.136～141 本文の意味調べ・音読
29	Unit 24 Step1～3 「順位」を表す表現。Passageと総合演習。	テキスト・CD・プリント使用	教科書p.142～147 本文の意味調べ・音読
30	Unit 13～24までのまとめ。Listening Practice及び既習表現の応用。	テキスト・CD・プリント使用	後期の既修内容を再確認する
期末試験	後期末試験		

期末試験の講評
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。
到達度の評価（評価方法・基準）
(1) 前期末試験が30点、後期末試験が30点、授業への貢献、発表、提出物などが40点、として評価する。 (2) 欠席、遅刻、授業中の態度等については、シラバスの「学業成績評価の共通基準」に沿う。
教科書
書名: A Primer of Communication in English 著者名: 小山政史 発行所: 松柏社 価格: 2,000円 (税別)
その他補足事項
・授業には英和辞典を持参すること。(電子辞書可)

授 業 科 目 名	英会話 I	授 業 形 態 ・ 単 位 数	演 習 ・ 2 単 位
		開 講 年 次	1 年 次
担 当 教 員	職名:教授 氏名:ブルース・ヒューバナー	開 講 期	通 年
		授 業 回 数	30 回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	30 時 間
オ フィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オ フィ ス ア ワ ー : 水 曜 日 研 究 室 15:15~16:30 E-mail: bhuebner@gol.com		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒 業	教 養 教 育 科 目	選 択 必 修	

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 と の 対 応 項 目	
本 科 目 で は 実 社 会 の あ ら ゆ る 場 面 に お い て 不 可 欠 な コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 力 を 英 語 の 学 習 に よ り、 言 葉 に よ る 相 互 理 解 の ス キ ル の 重 要 さ を 考 え、 工 夫 す る 力 を 培 う こ と を 目 的 と す る。	<input type="checkbox"/>	A 知 識
	<input type="checkbox"/>	B 技 術 ・ 技 能
	<input type="checkbox"/>	C 論 理 的 思 考 力
	<input type="checkbox"/>	D 文 章 表 現 力
	<input type="checkbox"/>	E 表 情 及 び 身 体 表 現 力
	<input type="checkbox"/>	F 感 性 及 び 感 動 表 現 力
	<input type="checkbox"/>	G 協 働 能 力
	<input type="checkbox"/>	H ま ご こ ろ、 思 い や り の 発 現 力 と 夢 や 希 望 の 発 信 力
	<input type="checkbox"/>	I 積 極 的 発 言 力 及 び プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 力
	<input type="checkbox"/>	J 多 様 性 へ の 理 解 力、 応 用 力
	<input type="checkbox"/>	K 課 題 対 処 力
	<input type="checkbox"/>	L 人 間 関 係、 対 人 関 係 構 築 力 及 び 対 話 力

授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受 講 し て 得 ら れ る 力)	
英 会 話 に よ る コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 能 力 を ア ッ プ す る	目 標	B C E I
具 体 的 な 方 法 や メ ソ ード、 効 果 的 な 学 習 ス キ ル を 体 験 す る	目 標	E F I
日 本 以 外 の 文 化 (映 画、 音 楽、 ス ポ ー ツ) に つ い て 英 語 で 話 す こ と が 可 能	目 標	C E F I
自 分 の 国 の 文 化 を 理 解 し た 上 で、 外 国 人 に 英 語 で 説 明 可 能、 ア イ デ ン テ ィ テ ィ ー を 確 立 す る	目 標	B C E I
プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン で リ ー ダ ー シ ョ ン を と り、 自 分 の 意 見 を 述 べ る こ と が 可 能	目 標	B C E I J

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ・ ラ ー ニ ン グ の 方 法)、 使 用 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 (予 習 ・ 復 習)
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン 1 About Drills, Reports, Conversation Culture, Clips, Film screenplays, Using smartphones, internet.	講 義	
2	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン 2 Six Steps for language learning. weekly drill: 発 音 の 上 達 (口 を 開 け て、 声 に 出 す) 速 さ と 抑 揚 (カ タ カ ナ 英 語 排 除) ス ク リ ー ン プ レ ー		Basic Pattern review. Home drill. Report preparation.

3	オリエンテーション3 英語を学ぶベーシックパターン About Learning English Online Using NHK World, YouTube, New York Times, Japan Times ST, FaceBook, E Mail, Etc.	インターネット ドキュメンタリー: Journeys in Japan ニューヨークタイムズ紙 フェイスブック	Basic Pattern review. Home drill.
4	Using body language (hand shakes, bowing, hand gestures, waving etc.) ポディーランゲージ 身振り 英語で挨拶 ジェスチャー	ビデオ:The Many H a n d s h a k e s (gestures, African- American culture)	Basic Pattern review.
5	Using “One Word Communication” 一単語でコミュニケーション	ビデオ:The Man and the Dog story (no words) “Dude” (one word) ビデオ:Ted Talk	Basic Pattern review. Home drill. Report preparation.
6	Telling where it Is. どこにありますか? Report: “My Place”	レポート:私の家	Basic Pattern review. Home drill. Report preparation.
7	Telling where it Is. どこにありますか? Report: “My Place”	レポート:私の家 リスニング:スクリーンブ レー School of Rock	Basic Pattern review. Home drill. Report preparation.
8	意見を述べる Asserting my opinion, showing off my style 私のファッション Slang: Rock Music	C l a s s r o o m Conversation My fashion, my style リスニング:スクリーンブ レー School of Rock	
9	Asserting my opinion, showing off my style 私のファッション	Video:New York Times: Intersection リスニング、ウオッチングに より会話の内容を想像する リスニング:スクリーンブ レー School of Rock	
10	Asserting my opinion, showing off my style 私のファッション	Video:New York Times: Intersection リスニング、ウオッチングに より会話の内容を想像する リスニング:スクリーンブ レー Roman Holiday	映像とオーラルプ レゼンテーションや ディスカッションの 準備
11	“What’s he doing?” 何をしているか?	Report “My Favorite Photograph” ビデオ:Polar Bear 私の好きな写真 リスニング:スクリーンブ レー Roman Holiday	映像とオーラルプ レゼンテーションや ディスカッションの 準備
12	“What’s he doing?” 何をしているか?	Report “My Favorite Photograph” 私の好きな写真 ビデオ:Air France リスニング:スクリーンブ レー Roman Holiday	映像とオーラルプ レゼンテーションや ディスカッションの 準備
13	Taking and giving directions. Field trip to Tenjin Bashi	Map and directions リスニング:スクリーンブ レー Wizard of Oz	Self-guided tour の準備

14	Taking and giving directions. Field trip to Tenjin Bashi	Map and directions リスニング:スクリーンプレー Wizard of Oz	Self-guided tour の準備
15	前期Wrap up まとめ	リスニング:スクリーンプレー Wizard of Oz	
16	English all around us. British English	listening to English from many areas. case study: ビデオ Wallace and Gromit "A Day Out" リスニング:スクリーンプレー The King's Speech	各自で英語を探す
17	English all around us. British English	リスニング:スクリーンプレー The King's Speech	各自で英語を探す
18	British English	リスニング:スクリーンプレー The King's Speech	
19	About learning English online Using NHK World, YouTube, New York Times, Japan Times ST	Lecture	
20	Inspiration: who is my hero? Why? 自分の憧れ、ヒーローは誰か? インスピレーションを貰える人は?	ビデオ Bjork Interview	映像とオーラルプレ ゼンテーションや ディスカッション
21	Inspiration: who is my hero? Why? 自分の憧れ、ヒーローは誰か?	ビデオ 学生の憧れの人	映像とオーラルプレ ゼンテーションや ディスカッション
22	Inspiration: who is my hero? Why? 自分の憧れ、ヒーローは誰か?	ビデオ 学生の憧れの人	映像とオーラルプレ ゼンテーションや ディスカッション
23	Japanese Culture in English 英語による日本文化 自分の国の文化を理解した上で、外国の方に英語で説明 できる、しっかりしたアイデンティティーを確立する	ケーススタディー:尺八 (英語で和楽器を学ぶ) ビデオ Tokyo Ramen	発表準備 映像と オーラルプレゼン テーション
24	レポート:Japanese Culture in English 英語による日本文化	ケーススタディー:尺八 (英語で和楽器を学ぶ) ビデオ "Dreaming of Sushi in New York," "Japanese Swords for The World"	発表準備 映像と オーラルプレゼン テーション
25	レポート:Japanese Culture in English 英語による日本文化	ケーススタディー:尺八 (英語で楽器を学ぶ)	発表準備 映像と オーラルプレゼン テーション
26	レポート:Japanese Culture in English 英語による日本文化	ケーススタディー:尺八 (英語で楽器を説明)	
27	レポート: My Hometown 自分の故郷	リスニング:スクリーンプレー Stand By Me	
28	レポート: My Hometown 自分の故郷	リスニング:スクリーンプレー Stand By Me	
29	まとめ Wrap up	リスニング:スクリーンプレー Stand By Me	
30	コミュニケーション実技		

到達度の評価（評価方法・基準）

The students are expected to participate, give reports, engage with each other in reasonable way. The students will be assessed based on the amount and quality of their engagement.

学生は授業中に発表、レポート、会話を自然に行う。

授業中に指示したReport提出50%、授業中の発言50%で評価する。

教科書

教科書はありません。
教材として DVD、音楽、CM、ニュースのクリップ
(ニューヨークタイムズビデオ、YouTubeなど) 英語による日本文化和楽器は『悠』(初心者用尺八)を提供。

参考書

映画: ディスカッションの材料として映画、スクリーン
プレー(映画)を観賞する。
文法のパターン、単語、コンセプトなどのメモNote
Bookは各自用意すること。

その他補足事項

毎回授業の運び方: Drill (warm up) ドリル、声を出す体操
Today's Pattern 文法のパターン
Talking Point ニュースや日常生活の話題など
Report レポート生の発表
Screen Play スクリーンプレー(映画)

授 業 科 目 名	英会話II	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: ^{たかはし} 高橋 ^{りょうじ} 了治	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
この授業では、英語のスピーキングやリスニングを通して日常生活における基本的な英語表現や英熟語の習熟を図る。また、外国の文化や習慣やものの考え方にも注目して異文化理解への関心を深め、場に応じた自己表現を英語で行えるように指導する。	○ A	知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
	○ D	文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○ I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○ J	多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
テキストにてでくる基本的な英単熟語を会話で応用できる。	目標	A J
様々な状況を想定しながら英語で簡単な自己表現ができる。	目標	A J
異文化における習慣や考え方に対して関心を深め、自分の意見を言えるようになる。	目標	D I

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標(授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方と留意点	授業計画 テキストの使用法	自分なりに英語を学ぶ意義を考えておくこと
2	Unit 1:Family 家族 Responding Positively and Negatively 肯定と否定の返答	テキスト・CD プリント使用	Unit 1 (p.11~14) 意味調べ・音読
3	Unit 2:Friends 友達 Expressing Frequency 頻度を表す表現	テキスト・CD プリント使用	Unit 2 (p.15~18) 意味調べ・音読
4	Unit 3:Culture 文化 Talking about what should and shouldn't be done 義務と提案の表現	テキスト・CD プリント使用	Unit 3 (p.19~22) 意味調べ・音読

5	Unit 4:Education 教育 Expressing opinions and making surprising statements 意見の述べ方	テキスト・CD プリント使用	Unit 4 (p.23~26) 意味調べ・音読
6	Unit 1~4 Review 文法や表現のまとめ	テキスト・CD プリント使用	テキストp.11~26. 既習項目を確認する
7	Unit 5:Sports スポーツ Expressing honesty and hope 本音と希望を伝える	テキスト・CD プリント使用	Unit 5 (p.27~30) 意味調べ・音読
8	Unit 6:Work 作業 Talking about past, present, and future situations 過去・現在・未来(基本時制)	テキスト・CD プリント使用	Unit 6 (p.31~34) 意味調べ・音読
9	Unit 7:Food 食べ物 Talking about chances and conditions 仮定や条件の表現	テキスト・CD プリント使用	Unit 7 (p.35~38) 意味調べ・音読
10	Unit 5~7 Review 文法や表現のまとめ	テキスト・CD プリント使用	テキストp.27~38. 既習項目を確認する
11	Unit 8:Studying English 英語を勉強している Talking about problems and goals 課題とその解決	テキスト・CD プリント使用	Unit 8 (p.39~42) 意味調べ・音読
12	Unit 9:Health 健康 Taking a sick day and expressing sympathy 体調不良の相手に同情の気持ちを伝える	テキスト・CD プリント使用	Unit 9 (p.43~46) 意味調べ・音読
13	Unit 10:Clothes 服 Giving reasons and conditions 理由と条件を伝える	テキスト・CD プリント使用	Unit 10 (p.47~50) 意味調べ・音読
14	Unit 1~10 Review 文法や表現のまとめ	テキスト・CD プリント使用	テキストp.11~50. 既習表現を確認する
15	前期のまとめ 振り返りテスト		理解不足の項目について補習をしておく
16	Introduction to the Practical English Proficiency Test 英検に向けた対策	テキスト・CD プリント使用	テキストp.11~50. 既習項目を再度確認する
17	Unit 11:Traveling 旅行 Talking about frequency 頻度を表す表現	テキスト・CD プリント使用	Unit 11 (p.51~54) 意味調べ・音読
18	Unit 12:Music 音楽 Exaggerating what we like and dislike 「好き」と「嫌い」を伝える	テキスト・CD プリント使用	Unit 12 (p.55~58) 意味調べ・音読
19	Unit 13:Movies 映画 Comparatives and Superlatives 比較級と最上級	テキスト・CD プリント使用	Unit 13 (p.59~62) 意味調べ・音読
20	Unit 14:Shopping ショッピング Adding comments and changing the subject コメントを加えたり、話題を変えたりする	テキスト・CD プリント使用	Unit 14 (p.63~66) 意味調べ・音読
21	Unit 11~14 Review 文法や表現のまとめ	テキスト・CD プリント使用	テキストp.51~66. 既習項目を確認する
22	Unit 15:Internet インターネット Describing how something is changing 変わりつつあることについて説明する	テキスト・CD プリント使用	Unit 15 (p.67~70) 意味調べ・音読
23	Unit 16:Weather 天気 Expressing how often something happens よく起きることを表現する	テキスト・CD プリント使用	Unit 16 (p.71~74) 意味調べ・音読
24	Unit 17:Feelings 感情 Talking about moods 感情を伝える	テキスト・CD プリント使用	Unit 17 (p.75~78) 意味調べ・音読

25	Unit 15~17 Review 文法や表現のまとめ Drill for the Practical English Proficiency Test (5) 英検に向けた対策 (5)	テキスト・CD プリント使用	テキストp.67~79. 既習項目を確認する
26	Unit 18:Government 政府 Answering difficult questions 難しい質問への対処	テキスト・CD プリント使用	Unit 18 (p.79~82) 意味調べ・音読
27	Unit 19:Art アート Polite negative statements and expressions of confusion 丁寧に断る表現	テキスト・CD プリント使用	Unit 19 (p.83~86) 意味調べ・音読
28	Unit 20:The Future 未来 Talking about the future 将来について語る	テキスト・CD プリント使用	Unit 20 (p.87~90) 意味調べ・音読
29	Unit 1~10 Review 文法や表現のまとめ	テキスト・CD プリント使用	返却されたプリント や課題の見直しをする
30	Comprehensive Review of grammar and expressions 文法項目の確認 口頭表現の復習など	テキスト・CD プリント使用	テキストp.51~90. 既習表現を確認する
期末 試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー、もしくは学科長を通じて説明する。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
1.前期・後期末試験(各50%) 2.授業への貢献、態度、提出物など(50%) ※成績評価への補足的対応措置により減点などを行う。			
教科書			
書 名:English Listening and Speaking Patterns 2 著者名:Andrew E. Bennet 発行所:南雲堂 価 格:2,160円(税込)			
その他補足事項			
1.授業には英和辞典を持参すること。(電子辞書可) 2.必要に応じて、他の教材が加えられることがある。			

授 業 科 目 名	中国語会話 I	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名:兼任准教授 氏名: 呂 ^ろ 学 ^{がくじょ} 如	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail:ro.gakujo@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
同じ漢字だが、日本語とは発音が違い、字によっては伝わる意味も異なるという中国語。実は共通点も結構ある。「両言語の違いそして共通点はなにか」を理解し、その上で、発音記号やあいさつ用語、簡単な会話や自己紹介ができるように、教科書「フレッシュ中国語」を使い、リピート練習を通して「読む・話す・書く・訳す」の表現力を身につける。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
中国語の特徴について理解し、日本語との違いや共通点を説明できる。		目標 A B J
発音記号を覚え、発音の法則を習得し、あいさつや会話文の朗読ができる。		目標 A B
簡単な会話文の作成ができ、会話の実演ができる。		目標 A B D
簡単な自己紹介文を作成でき、実際に自己紹介ができる。		目標 A B D L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス ①授業の内容及び進め方、評価の方法等について ②中国語の特徴、中国文化について	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト ・プリント配布	・テキストの8ページ: あいさつ用語の予習
2	・あいさつ用語20 ①日常あいさつ・漢字の書き方、発音 ②漢字・略字・発音記号	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト	・あいさつ用語の復習
3	・発音記号 ①単母音・複合母音・子音 ②発音記号の組み合わせ練習～プリント	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト	・第1課本文の予習

4	・発音記号・声調記号 ①四声の練習 ②あいさつ用語20・第1課:「こんにちは」	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト ・プリント配布	・第1課の復習 ・声調記号復習
5	・第1課:「こんにちは」 ①「皆さん、こんにちは!」 ②「お手数かけました!」	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト	・第2課本文の予習
6	・第2課:「私たちはサッカーをする」 ①【誰が何を】・【人称代名詞】 ②【動詞】:見る・参加する、【名詞】:試合・兄貴	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト	・第2課の復習 ・本文朗読・暗記
7	・同上 ①第2課本文の朗読・意味の理解 ②ポイントの説明:人称代名詞・動詞・疑問詞など	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト	・第2課本文の暗記
8	・同上 ①第2課本文の朗読・暗唱 ②チャレンジ2:聞き取り・漢字の書き方・短文作成・翻訳の練習など。	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト ・プリント配布	・第2課【動詞】の作文練習
9	・同上 ①第2課本文の朗読・暗唱 ②会話練習の発表:2人一組、本文と同じ内容か、独創的に会話文を作るか、発表する。	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト	・第3課本文の予習
10	・第3課:「私は学生です」 ①第3課本文の朗読・意味の理解 ②ポイントの説明:【断定・肯定・否定】の表現、 【動詞】:帰る、【名詞】:学生・先生・医者・歌手	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト	・第3課本文の朗読
11	・同上 ①第3課本文の朗読・暗唱 ②ポイント3:例文の朗読・意味の理解・漢字の書き方・短文の作成・翻訳の練習など…	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト	・第3課本文の朗読・暗記 ・チャレンジ3の予習
12	・同上 ①第3課本文の朗読・暗唱 ②チャレンジ3:ヒヤリング・漢字の書き方・短文作成・翻訳の練習など…	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト ・プリント配布	・第3課の復習・本文内容の会話練習発表を準備する
13	・同上 ①第3課本文の朗読・暗唱 ②会話練習:2人一組、第3課内容の練習として発表か、または独創的に会話文を作成して発表する。	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト	・おさらい: すべての内容について理解・応用できたか確認
14	・復習 ①発音記号・声調、②あいさつ用語 ③人称代名詞・動詞・名詞・疑問詞 ④誰が、なにをする、否定の表現、質問の仕方など	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト	・質問事項を用意する
15	・同上 ①理解度・習得度を確認する～意見を聞くなど ②練習用プリントの配布～説明、夏休み中に回答	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト ・プリント配布	・夏休み期間中プリントの練習問題を解答する
16	・後期授業開始 ①おさらい:前期授業の内容 ②後期授業の説明や学生諸君の意見等を聞く。 ③中国文化や最新情報等について紹介する。	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト	・第4課本文の予習
17	・第4課:「それは何ですか」 ①第4課本文の朗読・意味の理解 ②ポイントの説明:【指示代名詞】・【動詞】・【副詞】・【疑問詞】	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト ・プリント配布	・第4課本文の朗読
18	・同上 ①第4課本文の朗読・暗唱 ②ポイント4:例文の朗読・意味の理解・漢字の書き方・短文の作成・翻訳の練習など…	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト	・第4課本文の暗記

19	・同上 ①第4課本文の朗読・暗唱 ②チャレンジ4:聞き取り・空白を埋める練習～漢字の書き方・短文の作成・翻訳の練習など	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト ・プリント配布	・第4課本文内容の発表の準備
20	・同上 ①第4課本文の暗唱 ②会話練習:2人一組、第4課本文の会話発表。	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト	・第4課の復習
21	・中国映画の鑑賞 ★現代中国映画:「北京バイオリン」〈前半〉	・DVD	・映画鑑賞後の感想を考える
22	・中国映画の鑑賞 ★現代中国映画:「北京バイオリン」〈後半〉	・DVD	・映画鑑賞後の感想をまとめる
23	・中国文化・中国の最新情報について ★歴史沿革 ★政治体制・経済事情・社会問題など	・パワーポイント、板書 ・映像・音声 ・プリント配布	・第5課本文の予習
24	・第5課:「どうぞよろしく!」 ①第5課本文の朗読・意味の理解 ②ポイントの説明:【姓・名の紹介】・【大学名・専攻】・【家の所在】・【家族の構成】・【動詞】・【形容詞】・【接続詞】・【名詞】など	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト	・第5課本文の朗読・暗記
25	・同上 ①第5課本文の朗読・暗唱 ②ポイント5:例文の朗読・意味の理解・漢字の書き方・短文の作成・翻訳の練習など……	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト	・第5課本文の朗読・暗記 ・動詞などの応用練習
26	・同上 ①第5課本文の朗読・暗唱 ②チャレンジ5:ヒヤリング・空白を埋める練習～漢字の書き方・短文の作成・翻訳の練習など……	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト ・プリント配布	・自分の自己紹介文を書く
27	・同上 ①第5課のおさらい:【動詞】→「在」と「有」の違い、「有」と「没有」の使い方、接続詞「可是」について、②自己紹介文の作成	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト	・自分の自己紹介文の作成
28	・発表の準備 ★自己紹介の練習～声に出して	・発音指導	・自己紹介の練習 ・発表の準備
29	・自己紹介の発表 ★一人ひとり順番に自己紹介を披露する	・全員参加の発表	・総復習に向けて質問事項等考える
30	・総復習 ・期末試験について	・パワーポイント、板書 ・プリント配布	・受験勉強
期末試験	後期末筆記試験	・記述方式のテスト	
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 筆記試験 60点満点の記述方式のテストを学期末に実施する。 (2) 会話発表 40点満点の採点とする(授業中の会話実演や自己紹介など)。 (3) その他 配布プリント(練習問題)の解答や授業中の取り組み姿勢も評価の要素に入れる。			
教科書			
書名「フレッシュ中国語」 著者名:渡辺晴夫ほか 発行所:白水社 価格:2,000円(税別)			
その他補足事項			
◇必要に応じてプリントを配布する。 ◇授業の内容は前後することがある。			

授 業 科 目 名	中国語会話Ⅱ	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:兼任准教授 氏名:呂 ^ろ 学 ^{がく} 如 ^{じょ}	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail:ro.gakujo@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
「中国語会話Ⅰ」のテキスト「フレッシュ中国語」を継続使用し、1年次の内容を固めながら、数字や時間、祝祭日、公共施設、乗り物、食事（食べ物、飲み物）、プレゼント、距離の遠近、経験の有無、可能か不可能かなどというワンランク上の会話表現の習得にチャレンジする。折を見ては中国映画の鑑賞、中華料理の食事などを通して中国文化に触れる機会を設け、異文化体験もできる授業の展開を図る。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
あいさつや自己紹介ができる	目標	A B I
数字や物の数え方、日付・曜日・時間の量に関する表現ができる	目標	A B I
食べ物・飲み物・乗り物・願望を表す表現ができる	目標	A B I
肯定・否定(有無・できずなど)、経験の有無等の表現ができる	目標	A B I
語学を通して中国文化についての理解を深める	目標	A J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	・ガイダンス ①授業内容 ②授業の進め方 ③評価方法 ④受講規程 ⑤その他	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・動詞や疑問詞など会話文、自己紹介文の復習
2	・第5課までのおさらい ①発音記号・あいさつ ②人称代名詞・動詞・疑問詞・副詞・形容詞・接続詞など ③自己紹介	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・第6課の予習: 本文朗読

3	・第6課:「中国語は難しいか」 ①テキスト本文の朗読・意味の理解 ②ポイントの説明:数字・数え方・量詞など ③応用練習	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・第6課本文の暗記 ・ポイント6の予習
4	・同上 ①テキスト本文の朗読・暗記 ②ポイント6の練習:例文の朗読・理解 ③新しい単語の書き方・応用練習	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・第6課チャレンジ6の予習
5	・同上 ①テキスト本文の朗読・暗記 ②チャレンジ6の練習:ヒヤリング・書き取りなど	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・第6課会話文発表の準備
6	・同上 ①テキストの暗記 ②総合練習:会話の発表(第6課:2人一組で)	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・第7課の予習: 本文の朗読
7	・第7課:「いまは何時ですか」 ①テキスト本文の朗読・意味の理解 ②ポイントの説明:新しい単語や文法の説明 ③年月日や曜日、一日の時間帯の表現について	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・第7課本文の暗記 ・ポイント7の予習
8	・同上 ①テキスト本文の朗読・暗記 ②ポイント7の練習:例文朗読・意味の理解 ③文法現象や新しい表現についての説明、応用練習	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・第7課チャレンジ7の予習
9	・同上 ①テキストの朗読・暗記 ②チャレンジ7の練習:ヒヤリング・書き取りなど ③総合練習:プリント配布、短文作成、翻訳の練習	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・第7課の復習: 疑問質問あるかの確認
10	・同上 ①第6課、第7課の総合練習 ②プリント配布:短文作成・翻訳練習など	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・第8課の予習: 本文の朗読
11	・第8課:「君は何が食べたいか」 ①テキスト本文朗読・意味の理解 ②ポイント:食べ物や飲み物、経験有無の表現 ③新しい語彙や文法現象の説明	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・第8課本文の朗読・ 暗記 ・ポイント8の予習
12	・同上 ①テキスト本文の朗読・暗記 ②ポイント8の練習:食べ物・飲み物・経験の有無 ③願望を表す表現など	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・チャレンジ8の予習: 例文の朗読、意味の理解
13	・同上 ①ポイント8:例文朗読・意味の理解・応用練習 ②チャレンジ8の練習:ヒヤリング、書き取りなど ③短文作成・翻訳の練習	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・第8課本文の暗記 ・会話文発表の準備
14	・同上 ①テキスト本文の暗記 ②第8課内容の会話練習と発表(2人一組)	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・前期内容の復習: 第6課、第7課、第8課
15	・前期復習 ①第6課・第7課・第8課 ②総合練習としてプリントを配布(「夏休みの友」)	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・夏休み中の課題(プリント)を解答する
16	・後期授業開始 ①プリント(「夏休みの友」)の正しい解答 ②後期授業の内容や日程等についての説明など	・テキスト ・板書・パワーポイント	・第9課の予習: 本文の朗読
17	・第9課:「私は車の運転ができない」 ①テキスト本文の朗読・意味の理解 ②ポイント:名詞(公共施設・乗り物)、乗り方、距離の遠近、かかる時間 ③「速い・遅い」、「できる・できない」の表現など	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・第9課本文の暗記 ・ポイント9の予習

18	・同上 ①テキストの朗読・暗記 ②ポイント9の練習:例文朗読・意味の理解 ③応用練習	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・第9課本文の暗記 ・チャレンジ9の予習
19	・同上 ①テキストの暗記 ②チャレンジ9の練習:ヒヤリング・書き取りなど ③短文作成・翻訳の練習など	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・本文の暗記 ・会話文の発表練習
20	・同上 ①テキストの暗記 ②第9課本文内容の会話練習 ③発表:2人一組	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・中国文化について調べる
21	・中国映画鑑賞(1) ★映画名:未定	・DVD	・中国文化について調べる
22	・中国映画鑑賞(2) ★映画名:未定	・DVD	・第10課の予習: テキスト本文の朗読
23	・第10課:「私たちは日本語を使って交流した」 ①テキスト本文朗読・意味の理解 ②ポイントの説明:新しい単語や文法現象 ③案内役に関する表現、動詞2つのセンテンスなど ④動作の結果を表す表現や「・・・ながら」、「・・・から・・・まで」の表現など	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・第10課本文の朗読・暗記 ・ポイントについて理解
24	・同上 ①テキスト本文の朗読・暗記 ②ポイント10の練習:例文の朗読・理解 ③応用練習:短文作成・翻訳の練習など	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・チャレンジ10の予習
25	・同上 ①テキスト本文の暗記 ②チャレンジ10の練習:ヒヤリング、書き取り	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・会話文の作成を考え、構想を立てる
26	・同上 ①テキスト本文の暗記 ②本文内容を参考に会話文作成	・テキスト ・板書・パワーポイント	・会話文発表の準備
27	・同上 ①テキスト本文の暗記 ②会話文のチェック、発表の準備 ③作成された会話文の発表	・テキスト ・板書・パワーポイント	・おさらい: 第9課～第10課の内容について
28	・総復習 ①第6課～第10課を振りかえって ②ポイントのおさらい・総合練習 ③「私にとっての中国語会話II」と題して作文する	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・課題の作文を書く
29	・「中国語会話II」の学習を振り返って、まとめ ①中国語とは ②中国文化についての理解 ③質疑応答など	・テキスト ・板書・パワーポイント	・総復習: 問題点あるか、 質問疑問を用意する
30	・最終授業:「総合練習」 ①期末試験について ②プリント配布(模擬テスト)	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・期末テストのための準備を行う
期末試験	後期末筆記試験	・記述方式のテスト	

期末試験の講評
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。
到達度の評価（評価方法・基準）
(1) 筆記試験 60点満点の記述方式テストを学期末に実施する。 (2) 会話発表 40点満点の採点とする(会話の発表や練習問題の解答など)。 (3) その他 配布プリント(練習問題)の解答や授業中の取り組み姿勢も評価の要素とする。
教科書
書名:「フレッシュ中国語」 著者名:渡辺晴夫ほか 発行所:白水社 価格:2,000円(税別)
その他補足事項
◇必要に応じてプリントを配布する。 ◇授業の内容は前後することがある。 ◇教科書の「フレッシュ中国語」は1年次に使用したもので新たに購入することはない。

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	国際理解論	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名:客員教授 氏名: ^{さかもと} 坂本 ^{つねお} 恒夫 本務先:明治大学大学院 職名:大学院長	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>本科目では、個別の国の概要について具体的に説明していきます。最初に、歴史を説明し、その国の現状を解説した後、抱えている課題について述べていきます。</p> <p>特に、日本との関係およびその交流の歴史について勉強します。</p>	○ A	知識
	B	技術・技能
	C	論理的思考力
	D	文章表現力
	E	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	G	協働能力
	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○ I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○ J	多様性への理解力、応用力
	○ K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
国際的な現状の理解を深め、多様性、応用力を身に着けます。	目標	A J
各国の抱えている課題を説明し、今、世界で何が起きているかを理解します。	目標	A K
日本との関係を深く分析し、その国に対しての日本の付き合い方について考えます。	目標	A I

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 評価方法・授業の進め方の留意点	講義 配付資料	
2	第1章 イギリス (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係	〃	配布資料を事前に読む
3	第2章 フランス (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係	〃	配布資料を事前に読む

4	第3章 オーストラリア (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係	講義 配付資料	配布資料を事前に読む
5	第4章 ニュージーランド (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係	〃	配布資料を事前に読む
6	第5章 アメリカ (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係	〃	配布資料を事前に読む
7	第6章 アジア諸国 (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係	〃	配布資料を事前に読む
8	第7章 中国 (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係	〃	配布資料を事前に読む
9	第8章 台湾 (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係	〃	配布資料を事前に読む
10	第9章 香港 (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係	〃	配布資料を事前に読む
11	第10章 韓国 (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係	〃	配布資料を事前に読む
12	第11章 マレーシア (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係	〃	配布資料を事前に読む
13	第12章 タイ (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係	〃	配布資料を事前に読む
14	第13章 シンガポール (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係	〃	配布資料を事前に読む
15	第14章 まとめとディスカッション	グループディスカッション	配布資料を事前に読む
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) レポート50点 (2) ディスカッションの参加度50点			
その他補足事項			
近い将来、あなたがその国に駐在員として派遣されたと仮定して考えてみましょう。			

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成30年度

授業科目名	国際理解演習 (シンガポール)	授業形態・単位数	演習・2単位
		開講年次	1・2・3・4年次
担当教員	職名:兼任教授 氏名: <small>なかまる</small> 中丸 <small>かずし</small> 一志	開講期	時間割外
		授業回数	30回
		期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail: nakamaru.kazushi@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>「体験を通しての国際理解」 国際理解演習「シンガポール研修旅行」を実施。実地研修を行う。 事前授業では、シンガポールの歴史や文化について学ぶ他、各自が設定したテーマに基づき調査研究する。また、それについての個別指導も行う。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
旅行を通じ、集団行動に関するマナーの習得、旅行計画の立案等を学習できる。	目標	A G L
ホスピタリティとインバウンドのあり方、イノベーションを学ぶことができる。	目標	B H I J L
各自の興味ある分野(ビジネス、観光、デザイン、建築など)を事前に調査し、現地体験することによって、理解を深めることができる。	目標	A G J L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 研修旅行の意義・目的	授業計画・配布資料	シンガポールへの興味・感心を確認
2	シンガポール共和国の歴史(歴史・人種・言語)	配布資料、インターネット検索	シンガポールの調査
3	シンガポールの地理・気候	配布資料、インターネット検索	シンガポールの調査
4	シンガポールの経済・産業(貿易・観光)	配布資料、インターネット検索	シンガポールの調査
5	シンガポールの街並みと建築	配布資料、インターネット検索	シンガポールの調査

6	シンガポールの交通事情	配布資料、インターネット 検索	シンガポールの調査
7	シンガポールの食文化	配布資料、インターネット 検索	シンガポールの調査
8	入国手続きほか事前準備・現地の法律について	配布資料、インターネット 検索	シンガポールの調査
9	現地での行動について(渡航前の最終確認)	配布資料、インターネット 検索	海外旅行の調査
10	現地体験①(4コマ) ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ、マーライオンパーク 他	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・ 体験
11	現地体験①(4コマ) ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ、マーライオンパーク 他	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・ 体験
12	現地体験①(4コマ) ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ、マーライオンパーク 他	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・ 体験
13	現地体験①(4コマ) ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ、マーライオンパーク 他	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・ 体験
14	現地体験②(4コマ) 合同研修 ニューウォーター・ビジターセンター・幼稚園視察	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・ 体験
15	現地体験②(4コマ) 合同研修 ニューウォーター・ビジターセンター・幼稚園視察	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・ 体験
16	現地体験②(4コマ) 合同研修 ニューウォーター・ビジターセンター・幼稚園視察	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・ 体験
17	現地体験②(4コマ) 合同研修 ニューウォーター・ビジターセンター・幼稚園視察	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・ 体験
18	現地体験③(4コマ) テーマ別自主研修	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール体験
19	テーマ別自主研修	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール体験
20	現地体験③(4コマ) テーマ別自主研修	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール体験
21	現地体験③(4コマ) テーマ別自主研修	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール体験
22	現地体験④(4コマ) テーマ別自主研修	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール体験
23	現地体験④(4コマ) テーマ別自主研修	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール体験
24	現地体験④(4コマ) テーマ別自主研修	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール体験
25	現地体験④(4コマ) テーマ別自主研修	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール体験
26	現地体験⑤(4コマ) テーマ別自主研修	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール体験
27	現地体験⑤(4コマ) テーマ別自主研修	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール体験
28	現地体験⑤(4コマ) テーマ別自主研修	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール体験
29	現地体験⑤(4コマ) テーマ別自主研修	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール体験
30	最終レポート発表	プレゼン発表	体験談発表
期末 試験	無し		

期末試験の講評
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。
到達度の評価（評価方法・基準）
(1) レポート 事前20%、最終レポート40%で評価する。 (2) 旅行中の行動態度 団体行動・グループ行動のあり方で40%評価する。
教科書
プリント資料を適宜配布し、各自の研究テーマに沿って指導する。
その他補足事項
<ul style="list-style-type: none"> ・シンガポール渡航費用、海外での食事代・交通費、海外旅行保険費用が必要となります。 ・その他 (1) 最少催行人数を10名、最多催行人数を15名程度とする。なお、履修者が10名に達しない場合、または履修放棄などによって履修者が10名を割り込んだ場合は、学期の途中であっても休講となる。 (2) 履修登録は後期履修登録時とし、事前授業は10月下旬より指導を開始する。 (3) 単位の認定が3月末となるため、卒業年次生は卒業単位に含めないこと。

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	国際理解演習 (バリ島) バリダンスレッスンとバリ島幼稚園交流	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	1・2・3・4年次
担 当 教 員	職名:兼任教授 氏名: ^{さとう} 佐藤 ^{あつこ} 敦子	開 講 期	時間割外
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーは、初回授業に説明する。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>1. バリ島研修 (8月20日～8月25日) の6日間に参加することを条件として、授業を6月から行う。授業の履修届は5月30日(水)までとし、他学科の履修者「国際理解演習(バリ島研修)」を含め、12名以上の履修者で開講する。バリ島研修日程の詳細及び研修費用は、関心のある者に別途配布する。</p> <p>2. 本授業は、研修旅行前にバリ島の歴史、文化、芸術等を学び、かつ現地での交流のための準備を行う。</p> <p>3. 研修終了後はレポートを提出し、反省会を行う。また、パワーポイントを作成して発表会で発表する。 * 渡航手続き等は、時間外に行うことがある。</p>	<input type="checkbox"/>	A 知識
	<input type="checkbox"/>	B 技術・技能
	<input type="checkbox"/>	C 論理的思考力
	<input type="checkbox"/>	D 文章表現力
	<input type="checkbox"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="checkbox"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="checkbox"/>	G 協働能力
	<input type="checkbox"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="checkbox"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="checkbox"/>	J 多様性への理解力、応用力
<input type="checkbox"/>	K 課題対処力	
<input type="checkbox"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	

授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
1. インドネシア共和国バリ島(バリ州)での研修を通じて、国際理解と文化、宗教の多様性を理解する。	目標	J
2. バリの人々との交流を通じて、本学の建学の理念でもある「まごころ」や「思いやり」との共通性を理解する。	目標	H
3. バリダンスレッスンや幼稚園等現地での交流で、感情及び身体表現力、感性及び感動表現力を身に付ける。	目標	E F
4. 研修活動を通じて、協働能力、人間関係、対人関係構築力及び対話力を磨く。	目標	G L
5. 研修レポート及び発表を通じて、文章表現力、プレゼンテーション力を身につける。	目標	D I

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション(授業の進め方・評価方法他) バリ島研修の目的、意義、概要について 現地の子どもたちとの交歓交流の内容について 訪問先の具体的な説明について バリ島研修のDVD鑑賞	授業計画 資料配布 DVD資料	授業計画を読んでおく。資料の復習

2	旅行に必要なパスポート、保険等の手続きについて バリ島の宗教・歴史・芸術・文化 バリ島の気候風土 バリ島の生活の様子 現地での治安、安全、ホテルでのマナーについて	旅行取扱会社説明 (JTB) 資料配布	資料の復習
3	現地バリ島での交流の内容の話し合い 交流のダンスの振り付けを考案する	ダンスの練習	ダンスの練習、復習
4	交流の練習	〃	ダンスの復習
5	交流の練習 交流の服装の決定	〃	〃 交流服の準備
6	交流の練習 出発前の日程、部屋割、保険等の最終確認	〃	研修日程の最終確認
7	研修旅行 (1日目・8月20日(月))	実地研修	当日の記録メモ
8	・福島から成田まで		
9	・飛行機搭乗(成田⇒バリ島)		
10	研修旅行 (2日目・8月21日(火))	〃	〃
11	・パラパン幼稚園で歓迎式、園児との交歓交流、自分たちのパフォーマンス、幼稚園・小学校見学		
12	・デンパサールの芸術文化視察(美術館、寺院等見学)		
13			
14	研修旅行 (3日目・8月22日(水))	〃	〃
15	・タガス村での歓迎式典、子どもたちとの交歓・交流、自分たちのパフォーマンス、ガムラン楽器体験		
16	・タガス村でのバリダンスレッスン受講、ケチャックダンス鑑賞		
17			
18	研修旅行 (4日目・8月23日(木))	〃	〃
19	・ケランビタン宮殿での子どもたちとの交歓・交流、自分たちのパフォーマンス		
20	・ケランビタン宮殿でのバリダンスレッスン受講		
21	・ケランビタン宮殿でのバリ衣装体験 ・模擬結婚式体験 ・夕食会		
22			
23	研修旅行 (5日目・8月24日(金))	〃	〃
24	・自由研修		
25	・デブダンショーを鑑賞		
26	研修旅行 (6日目・8月25日(土))	〃	〃
27	・飛行機搭乗(バリ島⇒成田) ・成田から福島まで		
28	写真交換会及び反省会	写真等持ち寄り	レポート作成
29	レポートの提出及びパワーポイント作成	パワーポイント作成	パワーポイント作成、プレゼンテーション練習
30	レポート発表会 (担当教員及び担当以外の教員3人による発表評価)	パワーポイント使用によるプレゼンテーション	

期末試験の講評
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。
到達度の評価（評価方法・基準）
<p>到達目標1.2.5 1及び2についての2つのレポートにより評価する。 1. のレポートは、1000字以上1200字以内 20点 2. のレポートは600字以上1000字以内 10点 1及び2のレポートの発表（プレゼンテーション） 10点 発表はパワーポイントで（1人5分以上7分以内）引率担当教員以外の3人の教員評価の平均値で評価 到達目標3.4の到達度評価 各20点 出席状況：欠席者は3点減点。ただし、特別な事情がある場合は申し出ること。</p>
その他補足事項
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本授業の履修届の提出は5月10日までに教務課へ提出してください。 2. 履修学生の確定後に授業時間を決定します。 なお、研修旅行前の夏期休業期間中に実施することがあります。 3. 6日間の研修旅行のプログラムや、海外での食事に対応できる体力と適応力が求められます。 4. 団体行動も多いので、協力や協調が求められます。また、お金等は自己管理となります。 5. 海外旅行に伴う海外傷害保険の付保が必要となります。 また、本大学としても万一に備えて、団体保険を付保しますので、ご家族からの承諾書をいただきます。 6. 現地の情勢によって、旅行を中止、もしくは延期することがあります。

授 業 科 目 名	体育実技 I	授業形態・単位数	実技・1単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名:兼任准教授 職名:兼任講師 氏名:藤本 要 氏名:島田 貴広	開 講 期	通年
		授 業 回 数	23回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	0時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail:shimada.takahiro@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
体育実技 I では、健康・体力の維持向上を図りながら、継続して運動やスポーツに親しむ習慣や態度を身につけることをねらいとする。年間で4つのスポーツ種目を設定し、それぞれ基本技能の課題、チームワークの課題を設定し、学生が自立してスポーツ活動を行うための基本的な力を養ってゆく。また、試合形式で行う授業については、準備から審判を含めた試合の管理運営までを学び、実践力を身につけてゆく。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
スポーツのルールやマナーについて理解し実践できるようになる。	目標	A
スポーツ種目の基本技能を習得し、親しめるようになる。	目標	B
チーム戦術、あるいはグループ戦術を理解し、チームあるいはペアで協働して実践できるようになる。	目標	G L
自分やチームの課題を見つけて解決しようとする態度を養う。	目標	K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業の進め方 ・グループ分け ・実施種目を選択し、年間の計画を決定 ・ウォーミングアップ、クールダウンの方法	講義・実技	次回の種目のルールについて予習しておく。
2	種目 I ルールの確認・説明 基本技能の課題① 簡易ゲーム	グループワーク	
3	基本技能の課題② 簡易ゲーム	グループワーク	

4	チームワークの課題① 試合形式で実施(学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定する)	グループワーク	
5	チームワークの課題② 試合形式で実施(学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定する)	グループワーク	
6	試合形式で実施(学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定する)	グループワーク	次回の種目のルールについて予習しておく。
7	種目Ⅱ ルールの確認・説明 基本技能の課題① 簡易ゲーム	グループワーク	
8	基本技能の課題② 簡易ゲーム	グループワーク	
9	チームワークの課題① 試合形式で実施(学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定する)	グループワーク	
10	チームワークの課題② 試合形式で実施(学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定する)	グループワーク	
11	試合形式で実施(学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定する)	グループワーク	試験を受ける種目の決定と準備を行っておく。
12	スキルテスト (実施した2種目のうち、一つを選択して実施する)	実技試験	次回の種目のルールについて予習しておく。
13	種目Ⅲ ルールの確認・説明 基本技能の課題① 簡易ゲーム	グループワーク	
14	基本技能の課題② 簡易ゲーム	グループワーク	
15	チームワークの課題① 試合形式で実施(学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定する)	グループワーク	
16	チームワークの課題② 試合形式で実施(学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定する)	グループワーク	
17	試合形式で実施(学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定する)	グループワーク	次回の種目のルールについて予習しておく。
18	種目Ⅳ ルールの確認・説明 基本技能の課題① 簡易ゲーム	グループワーク	
19	基本技能の課題② 簡易ゲーム	グループワーク	
20	チームワークの課題① 試合形式で実施(学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定する)	グループワーク	
21	チームワークの課題② 試合形式で実施(学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定する)	グループワーク	

22	試合形式で実施(学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定する)	グループワーク	試験を受ける種目の決定と準備を行っておく。
23	スキルテスト (実施した2種目のうち、一つを選択して実施する)	実技試験	
期末試験の講評			
期末試験期間終了後、希望者には成績評価の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価(評価方法・基準)			
・技能・知識の習得度 60% ・授業への参加状況 30% ・特記事項 10%※ ※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。 (例) ・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の見本となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。 ・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。			
教科書		参考書	
なし		なし	
その他補足事項			
<p><実施種目について> 実施する種目Ⅰ～Ⅳについては下記の種目の中から4つを選び実施する。その際にはクラスの学生数や運動経験・体力などの状況、教員の専門性、実施環境等を勘案する。(通年23コマを4単元に分け、1種目につき5～6回ずつ実施。)</p> <p>バレーボール バドミントン バasketボール 卓球 ユニホック ソフトバレーボール サッカーまたはフットサル フライングディスク(アルティメッドまたはディスクゴルフ)</p> <p><課題について> それぞれの種目の「基本技能の課題」「チームワークの課題」については種目決定後に担当教員から説明を行い、スキルテストの内容も課題の中から実施する。</p> <p><服装持ち物について> 服装はスポーツウェア上下、屋内用のスポーツシューズ持参。 ラケットやボールなどの用具については初回授業で説明する。</p>			

授 業 科 目 名	体育実技Ⅱ (バレーボール)	授業形態・単位数	実技・1単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:兼担講師 氏名: <small>しまだ たかひろ</small> 島田 貴広 本務先:福祉学部こども学科 職名:講師	開 講 期	通年
		授 業 回 数	23回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	0時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail:shimada.takahiro@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>前半はバレーボールのルールを理解と、パス、サーブ、レシーブ、スパイク、ブロックなど基本技能の獲得に重点を置く。並行してゲームを行うが、公式ルールに拘らず、技能レベルに合わせた簡易ゲームとし、学生相互のコミュニケーションを重視した内容とする。</p> <p>後半はゲーム中心に展開する中で、集団技能としてのコンビネーションプレーやレシーブフォーメーションなどの戦術を理解し、チームワークの形成とチームビルディングについて実践を通じて学ぶ。同時に、試合運営の方法や審判法について学習し、自立してスポーツ活動を行うための実践力を習得する。</p>	<input type="checkbox"/>	A 知識
	<input type="checkbox"/>	B 技術・技能
	<input type="checkbox"/>	C 論理的思考力
	<input type="checkbox"/>	D 文章表現力
	<input type="checkbox"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="checkbox"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="checkbox"/>	G 協働能力
	<input type="checkbox"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="checkbox"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="checkbox"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="checkbox"/>	K 課題対処力
	<input type="checkbox"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
バレーボールのゲームを楽しむために必要な基本技能を獲得する。	目標	B
オフェンスのコンビネーションやレシーブフォーメーションなどの戦術的理解を深め、それらを実践するための活動を通じてチームづくりやチームワーク、スポーツマンシップやマナーを学ぶ。	目標	G K L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 今後の日程と授業展開・内容や成績評価等に関する説明 グループ分け	講義	6人制バレーボールのルールについて予習しておく。
2	ボールを使ったウォーミングアップ・ボール慣れ ・ストレッチ 基本技能① サーブとレシーブ(サーブを中心に)	グループワーク	
3	ボールを使ったウォーミングアップ・ボール慣れ ・ストレッチ 基本技能② サーブとレシーブ(レシーブを中心に)	グループワーク	
4	基本技能③ パスの技術と動き(オーバーハンドパスを中心に) 簡易ゲーム	グループワーク	

5	基本技能④ パスの技術と動き(アンダーハンドパスを中心に) 簡易ゲーム	グループワーク	
6	基本技能⑤ ボールコントロール(ボールヒット)とスパイクの動き(ミートを中心に) 簡易ゲーム	グループワーク	
7	基本技能⑥ ボールコントロール(ボールヒット)とスパイクの動き(ステップを中心に) 簡易ゲーム	グループワーク	
8	基本技能⑦ スパイクとレシーブのドリル 簡易ゲーム	グループワーク	
9	基本技能⑧ スパイクとブロックのドリル 簡易ゲーム	グループワーク	
10	基本の戦術① チーム編成と各プレイヤーの役割(ローテーションの理解) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	
11	基本の戦術② チーム編成と各プレイヤーの役割(ポジションの理解) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	
12	ディフェンスの戦術① サーブレシーブフォーメーション(5人でのレシーブ) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	
13	ディフェンスの戦術② サーブレシーブフォーメーション(3~4人でのレシーブ) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	
14	ディフェンスの戦術③ ブロックとレシーブフォーメーション(マンアップフォーメーションの理解) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	
15	ディフェンスの戦術④ ブロックとレシーブフォーメーション(マンダウンフォーメーションの理解) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	
16	オフェンスの戦術① スパイクのコンビネーション(クイックを絡めたコンビネーション) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	
17	オフェンスの戦術② スパイクのコンビネーション(移動を加えたコンビネーション) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	
18	公式戦の運営(リーグ戦)と審判法①	グループワーク	
19	公式戦の運営(リーグ戦)と審判法②	グループワーク	
20	公式戦の運営(リーグ戦)と審判法③	グループワーク	
21	公式戦の運営(トーナメント戦)と審判法④	グループワーク	
22	公式戦の運営(トーナメント戦)と審判法⑤	グループワーク	実技試験の準備
23	技能チェックと評価(ボールヒット、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス) まとめのゲーム	実技試験	
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には成績評価の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価 (評価方法・基準)			
・技能・知識の習得度 60% ・授業への参加状況 30% ・特記事項 10% ※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。 (例) ・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の見本となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。 ・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。			

教科書	参考書
特になし	特になし
その他補足事項	
<ul style="list-style-type: none"> ・服装はスポーツウェア上下、バレーボールシューズ(屋内用のスポーツシューズであれば可) ・バレーボールII(選択)では体育実技Iで習得した知識と技術を更に深めるために、より実践的な内容を中心に実施する。より高度な技能習得、種目に対する興味を深めることで生涯スポーツに対するモチベーションを更に高めることをねらいとする。 	

授 業 科 目 名	体育実技II (ボディ・コンディショニング)	授業形態・単位数	実技・1単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:兼担講師 氏名: ^{しまだ たかひろ} 島田 貴広 本務先:福祉学部こども学科 職名:講師	開 講 期	通年
		授 業 回 数	23回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	0時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail:shimada.takahiro@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
レジスタンストレーニングでは主としてダンベルやチューブを利用したトレーニング種目、有酸素運動としてはジョギングやウォーキングを実施し、その正しい運動方法や適切な運動強度設定について学習する。また、自らの目的に応じた運動プログラムを立てて実践すると同時に、プログラムの見直しや達成感を味わうため、定期的に運動効果の測定と評価を行う。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
シェイプアップやダイエット、筋力アップなど、学生個別の目的に応じてコンディショニングプログラムを作成し、健康的、効果的かつ安全に運動が実践できるようになることを目標とする。	目標	A B K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 今後の日程と授業展開・内容や成績評価等に関する説明 グループ分け	講義	
2	身体測定と評価、個人目標の設定と運動処方基礎知識 ウォーミングアップの方法(ストレッチング)	グループワーク	
3	レジスタンストレーニング(大筋群のトレーニング) ・スクワット ・レッグランジ ・クランチ ・プッシュアップ ・バックエクステンション ・ダンベルプレス ・ベントオーバーローイング	グループワーク	

4	レジスタンストレーニング(大筋群のトレーニング) ・ダンベルフライ ・ワンハンドダンベルローイング ・プルオーバー ・オーバーヘッドプレス ・サイドレイズ ・アップライトローイング	グループワーク	
5	レジスタンストレーニング(小筋群のトレーニング) ・アームカール ・フレンチプレス ・リストカール ・サイドベント ・カーフレイズ	グループワーク	
6	レジスタンストレーニング(チューブトレーニング)	グループワーク	
7	コンディショニングメニューとトレーニングレコードの作成 (レジスタンストレーニングで)	グループワーク	
8	ウォーキング(3km) ペースと目標心拍数の設定(カル ボーネン法)	グループワーク	
9	ウォーキング(3km) 自分のペースで実施	グループワーク	
10	ジョギング(3km) ペースと目標心拍数の設定(カルボー ネン法)	グループワーク	
11	ジョギング(3km) 自分のペースで実施	グループワーク	
12	コンディショニングメニューとトレーニングレコードの作成 (有酸素運動を含めて作成)	グループワーク	
13	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
14	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
15	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
16	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
17	測定評価とプログラムの見直し (体重、体脂肪率、BMI、 基礎代謝について)	グループワーク	
18	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
19	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
20	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
21	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
22	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
23	まとめ 測定評価と反省 トレーニングレコードのチェッ ク、提出	グループワーク	
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には成績評価の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価 (評価方法・基準)			
技能・知識の習得度	60点		
授業への参加状況	30点		
特記事項	10点		
<p>※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。</p> <p>(例) ・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の見本となり、指導の補助 など授業運営に大きく貢献した者。</p> <p>・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。</p>			
教科書		参考書	
特になし		特になし	
その他補足事項			
<p>・服装はスポーツウェア上下、屋内用または屋外用のスポーツシューズを用意しておくこと。</p> <p>・ボディコンディショニングII (選択) では体育実技Iで習得した知識と技術を更に深めるために、より高度な内容を中心に実施する。自らの身体に対する興味関心を深め、健康や体力の向上について生涯を通じて探求し続けるためのモチベーションを高めることをねらいとする。</p>			

授 業 科 目 名	体育実技II (テニス)	授業形態・単位数	実技・1単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:兼任准教授 氏名: ^{ふじもと} 藤本 ^{かなめ} 要 本務先:保育学科 職名:准教授	開 講 期	通年
		授 業 回 数	23回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	学外(保原総合運動公園)	授業時間以外の必要な学修時間	0時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワー 毎週月曜日13:00~14:00 E-mail:f.kaname@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>テニス種目における技術や知識を獲得し、健康・体力の維持向上を図りながら、継続してスポーツに親しむ習慣や態度を身に付けることをねらいとする。</p> <p>また実施に当たっては個人競技種目における技能レベルの差を考慮し、初心者と経験者を能力別に編成し、経験者には試合を多く取り入れた授業展開で行うことで授業への参加意欲を高める。</p> <p>ダブルスゲームのルールやフォーメーションを理解し、試合の中で実践できるように戦術・戦略面での理解も深める。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	
生涯にわたり健康な生活を送るために必要な運動習慣獲得に向けたテニスの技能習得を目的とする。		目標 A B G K L
授業の到達目標を「ラリー8回以上、ボレーボレーを15回以上継続できること」とする。		目標 B K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	〈ガイダンス〉 今後の日程と授業展開・内容	講義・実技	テニスのルールを調べておくこと
2	フォアバンドストロークの導入 ・グリップ、打点、スウィング、フットワーク バックバンドストロークの導入 ・グリップ、打点、スウィング、フットワーク	グループワーク	
3	フォアバンドストロークの導入 ・グリップ、打点、スウィング、フットワーク バックバンドストロークの導入 ・グリップ、打点、スウィング、フットワーク	グループワーク	
4	動きの中でのストローク ・フットワークを交えたコンビネーションドリル	グループワーク	

5	動きの中でのストローク ・フットワークを交えたコンビネーションドリル	グループワーク	
6	ボレーの導入 ・グリップ、打球面のセット、打点、フットワーク 動きの中でのボレー ・フットワークを交えたコンビネーションドリル サービスの導入 ・グリップ、トスアップ、スウィング	グループワーク	
7	ボレーの導入 ・グリップ、打球面のセット、打点、フットワーク 動きの中でのボレー ・フットワークを交えたコンビネーションドリル サービスの導入 ・グリップ、トスアップ、スウィング	グループワーク	
8	ボレーの導入 ・グリップ、打球面のセット、打点、フットワーク 動きの中でのボレー ・フットワークを交えたコンビネーションドリル サービスの導入 ・グリップ、トスアップ、スウィング	グループワーク	
9	ボレーの導入 ・グリップ、打球面のセット、打点、フットワーク 動きの中でのボレー ・フットワークを交えたコンビネーションドリル サービスの導入 ・グリップ、トスアップ、スウィング	グループワーク	
10	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	試合の成り立ちとルールについて予習しておく
11	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	
12	実技テスト①(基本技能の確認)	実技試験	実技試験の練習をしておくこと
13	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	
14	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	
15	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	
16	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	
17	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	
18	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	
19	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	
20	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	
21	ダブルスゲームの実際 ・試合の成り立ちとルール、試合の実践	グループワーク	
22	実技テスト② ・ラリーの継続回数と基本技能の修得度	実技試験	実技試験の練習をしておくこと
23	実技テスト③ ・ラリーの継続回数と基本技能の修得度	実技試験	実技試験の練習をしておくこと

期末試験	なし		
期末試験の講評			
希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
技能・知識の習得度	60点		
授業への参加態度	30点		
特記事項	10点		
<p>※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。</p> <p>（例）・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の見本となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。</p> <p>・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。</p>			

授 業 科 目 名	体育実技Ⅱ (バドミントン)	授業形態・単位数	実技
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:兼任准教授 氏名: ^{ふじもと} 藤本 ^{かなめ} 要 本務先:保育学科 職名:准教授	開 講 期	通年
		授 業 回 数	23回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	本学体育館	授業時間以外の必要な学修時間	0時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワー 毎週月曜日13:00~14:00 E-mail:f.kaname@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>バドミントン種目における技術や知識を獲得し、健康・体力の維持向上を図りながら、継続してスポーツに親しむ習慣や態度を身に付けることをねらいとする。</p> <p>また実施に当たっては個人競技種目における技能レベルの差を考慮し、初心者と経験者を能力別に編成し、経験者には試合を多く取り入れた授業展開で行うことで授業への参加意欲を高める。</p> <p>5つのフライングの種類と特性およびフォーメーションを理解し、最終的には試合の中で使用できるように戦術・戦略面での理解も深める。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
生涯にわたり健康な生活を送るために必要な運動習慣獲得に向けたバドミントンの技能習得を目的とする。	目標	A B G K L
授業の到達目標を「ラリーが20ストローク以上継続できること」とする。	目標	B K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	<ガイダンス> 今後の日程と授業展開・内容	講義・実技	バドミントンのルールを調べておくこと
2	・班編成 ・バドミントンの運動特性に応じた準備運動 ・基本技術(グリップ、ラケットの握り方)	グループワーク	
3	・班編成 ・バドミントンの運動特性に応じた準備運動 ・基本技術(グリップ、ラケットの握り方)	グループワーク	
4	・ダブルスの試合を中心に実施 ・ダブルスのルールを理解する	グループワーク	ダブルスゲームの成り立ちとルールについて予習しておく

5	・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<オーバーヘッドストローク>	グループワーク	
6	・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<オーバーヘッドストローク>	グループワーク	
7	・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<オーバーヘッドストローク>	グループワーク	
8	・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<アンダーハンドストローク>	グループワーク	
9	・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<アンダーハンドストローク>	グループワーク	
10	・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<アンダーハンドストローク>	グループワーク	
11	・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<サイドアームストローク>	グループワーク	
12	・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<サイドアームストローク>	グループワーク	
13	・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術<サイドアームストローク>	グループワーク	
14	・試合に勝つためのダブルスの戦術・戦略	グループワーク	ダブルスフォーメーションについて予習しておく
15	・シングルのルールを理解する ・審判法	グループワーク	シングルスゲームの成り立ちとルールについて予習しておく
16	・シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 ・リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施	グループワーク	
17	・シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 ・リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施	グループワーク	
18	・シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 ・リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施	グループワーク	
19	・シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 ・リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施	グループワーク	
20	・シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 ・リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施	グループワーク	
21	・シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 ・リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施	グループワーク	
22	・シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 ・リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施	グループワーク	
23	・シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 ・リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施	グループワーク	
期末試験	なし		
期末試験の講評			
希望者には評価内容について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
技能・知識の習得度	60点		
授業への参加態度	30点		
特記事項	10点		
※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。 (例) ・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の見本となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。 ・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	福祉心理学 I	授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 2 単 位
		開 講 年 次	1 年 次
担 当 教 員	職名:教授 氏名:星野 仁彦 <small>ほしの よしひこ</small>	開 講 期	後 期
		授 業 回 数	15 回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開 講 キ ャ ン パ ス	福島駅前キャンパス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間
オ フィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オフィスアワーについては、初回授業時に説明します。		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒 業	専 門 教 育 科 目	必 修	
公 認 心 理 師	〃	〃	

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 と の 対 応 項 目	
精神保健福祉士、社会福祉士、公認心理師などの資格取得に必要な、人の正常な発達と発達障害、機能不全家族・歪んだ親子関係と虐待、反応性愛着障害、人間の脳と障害の関係などについてと、福祉学と心理学の基礎について学ぶ。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受 講 し て 得 ら れ る 力)	
公認心理師、精神保健福祉士などの国家資格をめざして、発達障害児・者などの心理的ケアと福祉的ケアに必要な福祉心理学の基礎を学ぶ。	目 標	A B H J K L

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ・ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 、 使 用 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	正常児の発育と発達(その1)	資料(レジюме)とテキストと人形を用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
2	正常児の発育と発達(その2)	資料(レジюме)とテキストと人形を用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
3	言葉と社会性の発達の遅れの8つの原因	資料(レジюме)とテキストを用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
4	子どもの発達の遅れを見分けるポイント	資料(レジюме)とテキストを用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
5	子どもと大人の自閉症スペクトラム障害(ASD)	資料(レジюме)とテキストを用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
6	子どもと大人のアスペルガー症候群	資料(レジюме)とテキストを用いて	次回のレクチャーの内容について調べる

7	子どもと大人のADHD(注意欠陥多動性障害)	資料(レジュメ)とテキストを用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
8	学習障害(LD)	資料(レジュメ)とテキストを用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
9	反応性愛着障害(被虐待児症候群)虐待についての基本的知識	資料(レジュメ)とテキストを用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
10	反応性愛着障害と発達障害との関連	資料(レジュメ)とテキストを用いて DVD供覧	次回のレクチャーの内容について調べる
11	てんかん	資料(レジュメ)とテキストを用いて DVD供覧	次回のレクチャーの内容について調べる
12	人間の脳と障害の関係(その1)	資料(レジュメ)とテキストと脳の模型を用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
13	人間の脳と障害の関係(その2) 福祉現場において生じる問題及びその背景	資料(レジュメ)とテキストを用いて DVD供覧	次回のレクチャーの内容について調べる
14	障害児・者の療育指導と家族療法 福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援	資料(レジュメ)とテキストを用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
15	障害児・者の心理・社会的治療と福祉的援助	資料(レジュメ)とテキストを用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価(評価方法・基準)			
期末テストの成績(40%)と各回の豆テストの成績(30%)と課題(レポート・30%)			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	福祉心理学		授業形態・単位数	講義・4単位
			開 講 年 次	3年次
担 当 教 員	職名:教授	職名:非常勤講師	開 講 期	通年
	氏名:茂木 積雄	氏名:千葉 喜弘	授 業 回 数	30回
	本務先:しらかわ介護福祉専門学校 職名:校長		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス		授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワー等は、初回授業時に説明します。			
卒業・資格・免許	授業科目区分		必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目		必修	
公認心理師	"		選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目		
<p>(前期) 福祉の対象となる児童・障がい・精神・老人などの対象者側の「心」に焦点を当てた部分と支援される側と支援する側の心理背景と心理的アプローチの両輪について学ぶ。</p> <p>福祉心理とは何か、福祉専門職としての価値と倫理、自己理解と他者理解、相談援助面接、ソーシャルアセスメントとアプローチの実際について学び体験する機会を、講義・演習・DVDを活用した演習を取り入れて展開する。(担当:千葉)</p> <p>(後期) 仕事や職業生活に関する強い不安・悩み・ストレスなどを自覚している労働者の割合は5割以上に達すると報告されており、長時間にわたる荷重な労働を背景とした過労死等(業務における過重な負荷による脳・心臓疾患や業務における強い心理的負荷による精神障害を原因とする死亡や疾患のこと)の問題解決に向け、法的な整備も進められつつある。本講義では、働く人々の心理および職場のメンタルヘルスに関する基本的事項と「働き方改革」が国民的課題となっている背景に関する理解を深めるとともに、誰もが働き甲斐をもって前向きに仕事に取り組める職場環境のあり方に関して、福祉心理職として会得すべき事項を学習する。(担当:茂木)</p>	○	A	知識
	○	B	技術・技能
	○	C	論理的思考力
		D	文章表現力
	○	E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
	○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
ソーシャルワーカーの倫理や価値、基本的視点・技術を学ぶ	目標	A C	
援助する側とされる側の双方の心理的動向を学ぶ	目標	A B C	
人を理解する力と援助実践の心理的効果について学ぶ	目標	A B E J	
初期的な相談援助面接ができるようになる	目標	B E J L	
職場におけるストレスの要因、ストレスが心身に悪影響をもたらすメカニズム、及びストレスへの対処法に関する基本的な理解を深める	目標	A C	
長時間にわたる過重な労働が心身に及ぼす影響についての医学的観点から理解する	目標	A C	
職場に於けるメンタルヘルス対策推進のために導入された「ストレスチェック制度」、及び労働者の健康・安全・権利に関する法制度に関する理解を深める	目標	A C	
働きやすい職場環境と職場風土の醸成(心が折れない職場)について基本的な理解を深める	目標	A C J	

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	福祉を学ぶ人の心とは	講義・パワーポイント資料を配布 ミニレポート「福祉を学ぶうとしたのか」	
2	対人援助専門職の倫理及び価値	講義・パワーポイント資料配布 出席簿を兼ねてリアクションペーパーの提出	前回のレクチャーについて振り返る
3	相談援助職としての基本的視点	講義・パワーポイント資料配布 出席簿を兼ねてリアクションペーパーの提出	前回のレクチャーについて振り返る
4	自己覚知と他者理解について	講義・パワーポイント資料配布 出席簿を兼ねてリアクションペーパーの提出	前回のレクチャーについて振り返る
5	ソーシャルワークの原理原則	講義・パワーポイント資料配布 出席簿を兼ねてリアクションペーパーの提出	前回のレクチャーについて振り返る
6	福祉現場において生じる問題とその背景① 児童・障がい者心理とソーシャルワーク実践	講義・パワーポイント資料配布 出席簿を兼ねてリアクションペーパーの提出	前回のレクチャーについて振り返る
7	福祉現場において生じる問題とその背景② 高齢者心理とソーシャルワーク実践	講義・パワーポイント資料配布 出席簿を兼ねてリアクションペーパーの提出	前回のレクチャーについて振り返る
8	福祉現場において生じる問題とその背景③ 認知症へのソーシャルワーク実践	講義・パワーポイント資料配布 出席簿を兼ねてリアクションペーパーの提出	前回のレクチャーについて振り返る
9	福祉施設や機関における心理社会的課題と心理的支援	講義・パワーポイント資料配布 出席簿を兼ねてリアクションペーパーの提出	前回のレクチャーについて振り返る
10	相談援助面接・演習Ⅰ	講義・パワーポイント資料配布 DVD「面接への招待」15分	前回のレクチャーについて振り返る
11	相談援助面接・演習Ⅱ	講義・パワーポイント資料配布 DVD「面接への招待」20分	前回のレクチャーについて振り返る
12	相談援助面接技術のロールプレイ	講義・演習・パワーポイント資料配布	前回のレクチャーについて振り返る
13	相談援助とスーパービジョン	講義・パワーポイント資料配布	前回のレクチャーについて振り返る
14	実践事例によるソーシャルワークの視点 (虐待についての基本を含む)	講義・パワーポイント資料配布 グループ討議	前回のレクチャーについて振り返る
15	福祉心理学のまとめ	講義・パワーポイント資料配布 ミニレポート「支援者の心構え」	ミニレポートでまとめられるよう復習

16	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標(授業内容) (2) 評価方法・授業進め方の留意点	授業計画	
17	職場のメンタルヘルス対策(総論)	教科書補足資料1 (パワーポイント使用)	教科書P1~10を事前に読む
18	今、職場で起こっていること(1) ・ストレスを感じている労働者の増加 ・新卒者の高い離職率	教科書補足資料2-1	教科書P1~10を事前に読む
19	今、職場で起こっていること(2) ・労働者の過労死・等の事例と背景 ・医療・介護・教育・保育・運送業・等の現場での事例と対策 ・労働問題をめぐるキーワード(働き方改革・長時間労働・労働時間把握義務・安全配慮義務違反・三六協定・過労死・労働災害・サービス残業・残業代未払・非正規雇用・同一労働同一賃金・脱時間給制度・無期転換ルール・ハラスメント)	教科書補足資料2-2 DVD視聴(30分)「見えない日本の困窮:働いているのに暮らせない」「教師の過労自殺」(映像使用)	教科書P1~10、P11~20を事前に読む
20	今、職場で起こっていること(3) ・各種のハラスメント(パワハラ・セクハラ等)の実態と対策 ・「イクボス宣言」	教科書補足資料2-3 (パワーポイント使用)	教科書P1~10を事前に読む
21	過剰なストレスが及ぼす心身への影響(1) ・心身の異常をきたすメカニズム ・心身のストレス反応の種類	教科書補足資料3-1 DVD視聴(45分)「職場とストレス」(映像使用)	教科書P11~20を事前に読む
22	過剰なストレスが及ぼす心身への影響(2) ・働き盛りに多い自殺 ・職場のストレスとストレス対策	教科書補足資料3-2 DVD視聴(45分)「自殺とその予防」(映像視聴)	教科書P11~20を事前に読む
23	職場で経験されるうつ状態・うつ病の増加 ・うつ病とはどんな病気 ・「現代型」うつ病 ・うつ病の治療	教科書補足資料4 DVD視聴(15分)「うつ病」(映像使用)	教科書P21~30、P41~64を事前に読む
24	うつ病の人の職場復帰 ・職場復帰支援プログラム ・産業保健スタッフの役割 ・産業保健スタッフと事業場外資源との連携	教科書補足資料5	教科書P65~76、P107~136を事前に読む
25	(1) 増加する適応障害ー職場不適応症 (2) 職場で経験される神経症・心身症	教科書補足資料6 DVD視聴(30分)「現代型うつ病」(映像使用)	教科書P31~40、P77~84を事前に読む
26	(1) アルコール依存症とうつ病 ・アルコールの心身への影響 ・アルコール依存症の精神薬理学 (2) 不眠による心の病への影響 ・睡眠障害の種類・対策・治療 ・睡眠障害の精神薬理学	教科書補足資料7 DVD視聴(60分)「アルコール依存症」「概日リズムと睡眠」(映像使用)	教科書P85~96、P157~166を事前に読む
27	ストレスチェック制度 ・概要、実施の手順、結果の評価と対策	教科書補足資料8	教科書P137~146を事前に読む
28	活力ある職場にするために(1) ・「働き方改革」法案の概要 ・仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)のとれた働き方とは	教科書補足資料9-1 DVD視聴(60分)「いくらで働く?賃金の経済学」 「同一労働同賃金ガイドライン」(映像使用)	教科書P215~223を事前に読む
29	活力ある職場にするために(2) ・仕事にやりがい・充実感を得ながら責任を果たすことのできる職場環境と業務体制の構築 ・「心の折れない職場」づくりに不可欠な要素	教科書補足資料9-2 DVD視聴(45分)「なぜ変わらない働き方のジレンマ」(映像使用)	教科書P215~223を事前に読む
30	まとめ		
期末試験	なし		

期末試験の講評	
なし。希望者にはレポート採点結果の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。	
到達度の評価（評価方法・基準）	
<p>(前期) 出席表を兼ねてリアクションペーパーを毎回提出。その内容を次回授業で復習。 ミニレポート2回・授業中の演習ロールプレイ実践の取り組み態度。 DVDの個人課題演習の参加態度。 欠席、理由なき遅刻・早退は規定に従って減点する。</p> <p>(後期) (1) レポート: レポートは70点満点の採点とする。課題は授業内容に沿い、興味関心をもった領域に関して各自で課題を設定する方式とする。 (2) その他: 授業内容の理解度を確認するために記述式の小テストを数回実施する(30点満点)。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とする。 (※評価方法の詳細に関しては初回授業時に説明しますが、事前に、「本学で学ぶために」に記述されている、7.授業の出欠と単位認定、8.授業受講上の留意点、等を熟読してください。)</p>	
教科書	参考書
<p>(前期) パワーポイント資料を配布します (後期) 書 名: 職場のメンタルヘルス対策最前線 著者名: 中村 純 発行所: 昭和堂 価 格: 1,700円(税別)</p>	<p>(前期) ①書 名: 福祉心理学を愉しむ 第3版 著者名: 宮原和子・宮原英種 発行所: ナカニシヤ出版 価 格: 2,200円(税別) ②書 名: 福祉の心理学 著者名: 井上智義 発行所: サイエンス社 価 格: 1,400円(税別) (後期) ①書 名: 心が折れる職場 著者名: 見波利幸 発行所: 日本経済新聞出版社 価 格: 850円(税別) ②書 名: 御社の働き方改革、ここが間違っています! — 残業削減で伸びるすごい会社 — 著者名: 白河桃子 発行所: PHP研究所 価 格: 880円(税別)</p>
その他補足事項	
授業の進捗程度等により、授業内容を変更する場合があります。	

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成30年度

授業科目名	福祉キャリア研究	授業形態・単位数	演習・2単位
		開講年次	2年次
担当教員	職名:教授 氏名:茂木 積雄 職名:教授 氏名:日下 輝美	開講期	通年
		授業回数	15回
		期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail:kusaka.terumi@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>「社会福祉士」、「精神保健福祉士」、「公認心理師」の職業及び、資格とその取得方法についての理解を深め、学生がいずれかの専門職に就いたとき、多職種と必要な連携をスムーズにとれるよう、ゲストスピーカーとして実際に現場で活躍する専門家を招聘して話を聞くこと等から、学生個人がより主体的に自分の興味や関心にあった進路選択をできるよう支援していく。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
進路選択に向けて、自分の趣味、関心、希望を再確認する。		目標 A H I
図書館を活用し、身近な課題や問題(社会問題等も含め)調べる力を身につける。		目標 A
各自が授業内で作成したレポートを一年間の学びとして蓄積し、最後に振り返り、自分の1年間の変化、成長を確認する。		目標 A H L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 福祉学部で目指すことのできる資格について キャリアデザインを考える(1) 今現在、自分はどんな仕事をしたいと考えているのか	担当:日下 キャリアポートフォリオ	
2	国家資格を目指すための学修度チェック① 科目名「医学一般」、「心理学」小テスト・解説	担当:茂木 プリント配布	復習してくる テキスト持参
3	対人援助職として求められる人材像とは ～地域福祉の仕事と求められる人材～ フィールドワークの連絡	担当:日下 プリント配布	

4	社会福祉施設訪問 社会福祉施設の社会的役割と介護職員の仕事を知る 「社会福祉法人 まちなか宝生園」	担当:日下 フィールドワーク プリント配布	まちなか宝生園について調べる
5	キャリアデザインを考える(2) 社会福祉士について 社会福祉士の職域、資格の説明、受験、過去の就職の状況について	担当:日下 DVD「社会福祉士の仕事」 (30分)プリント配布・レポート提出	予習:社会福祉士について調べる レポート作成
6	キャリアデザインを考える(3) 精神保健福祉士について 精神保健福祉士の職域、資格の説明、受験、過去の就職の状況について	担当:日下 プリント配布 レポート提出	予習:精神保健福祉士について調べる レポート作成
7	職場で働く専門家の話を聞く① 社会福祉士	社会福祉士ゲストスピーカー(担当:日下) レポート提出	レポートの完成
8	図書館を活用し、身近な課題や問題(社会問題等も含め)調べる力を身につける。① (図書館司書の協力を得る)	担当:茂木 ラーニングcommons	課題や問題を調べてくる
9	図書館を活用し、身近な課題や問題(社会問題等も含め)調べ・発表する力を身につける。②	担当:茂木 ラーニングcommons	振り返り発表のレジメ作成
10	8・9で学んだ、ラーニングcommonsの成果発表	担当:茂木	フィールドワークの発表会
11	国家資格を目指すための学修度チェック② 科目名「医学一般」、「心理学」小テスト・解説	担当:茂木	復習してくる テキスト持参
12	職場で働く専門家の話を聞く② 精神保健福祉士	精神保健福祉士ゲストスピーカー(担当:茂木) レポート提出	レポートを完成させる
13	キャリアデザインを考える(4) 公務員の仕事について 職域、資格の説明、進学、過去の就職の状況について	担当:茂木	予習:職場について調べる レポート作成
14	キャリアデザインを考える(5) 公認心理師の仕事と資格について 専門家としての職域、資格の説明、進学、過去の就職の状況について	担当:日下	予習:公認心理師について調べてレポート作成
15	まとめ 自分のキャリアと向き合ってみよう	担当:日下 レポート提出	レポート完成 提出
期末試験	実施しない		
到達度の評価(評価方法・基準)			
出席と提出レポートで評価を行う。各自が授業内で作成したレポートを一年間の学びとして蓄積し、最後に振り返り、自分の1年間の変化、成長を確認する。 また、本科目は点数ではなく「認定の可否」を評価とするためGPAには反映されない。			
教科書			
使用しない			
その他補足事項			
学びの集大成として、福祉キャリア研究専用のレポートファイルをつくり、各自が授業内で作成したレポートを一年間の学びとして蓄積し、最後に振り返り、自分の1年間の変化、成長を確認していきたい。ファイルの様式については、初回講義時に説明を行う。 本科目は、原則としてクラスセミナーと交互に開講する。ただし、クラスセミナーは、事務局各課の連絡や行事も入るため、そちらの予定によって本科目の開講週が変わることを予め断わっておく。			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	コミュニケーション演習	授業形態・単位数	演習・1単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{うめみや} 梅宮れいか	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	なし
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーを設けています。授業初回到説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
この授業は、大学における学修の重要要素である「調べる」「書く」「伝える」の3つの技術を身につけることで、学修する力を育成する。	<input type="checkbox"/>	A 知識
	<input type="checkbox"/>	B 技術・技能
	<input type="checkbox"/>	C 論理的思考力
	<input type="checkbox"/>	D 文章表現力
	<input type="checkbox"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="checkbox"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="checkbox"/>	G 協働能力
	<input type="checkbox"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="checkbox"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="checkbox"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="checkbox"/>	K 課題対処力
	<input type="checkbox"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
学修する基礎的技術を身につける。	目標	B D G I K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	自分は何をしに大学に来たか? 自己理解から学ぶスタンスを見つける	TEGによる自己理解	自分プロフィールをまとめておく
2	スケジュールを立て勉強すること 前期、後期のスケジュールを立てる 自分に合った1週間のスケジュールを立てる	スケジュール表の作成	スケジュールを立ててみる
3	ノートの作り方 授業時間を効率のよい勉強時間にする方法	講義	教科書練習4,5
4	教科書・問題集の使い方 実力をアップさせる方法	「バーガー社会学」 「心理学検定公式問題集」	配付資料を読んでおくこと
5	図書館の使い方 文献検索端末で知識を増やす方法 CiNiiを使って知識を増やす方法	グループワーク	配付資料のテクニカルタームを抜き出しておくこと
6	レジメの作り方 授業で使う発表資料をきれいにまとめる方法	「社会心理学を学ぶ」	配布資料を通読し、自分なりのレジメをつくってみる

7	PowerPointスライドの作り方 プレゼンテーションで成功する方法	「日経サイエンス2017.12」	配付資料からスライドをつくる
8	ストレスコーピング 脳の疲れをとって勉強の効率を上げる方法	グループワーク	予習、復習は不要
9	頭によい食事、やる気が出る栄養	ゲストスピーカー	資料をまとめておく
10	レポートの書き方 1 -守るべきルール		教科書p72-125に目を通しておく
11	レポートの書き方 2 -持つべきプロポジション		教科書p72-125に目を通しておく
12	レポートの書き方 3 -相手に感心されるレポートの条件		教科書p72-125に目を通しておく
13	課題レポート テーマ「人間関係」 レポート作成の準備	まとめる手順に教科書を参考にする	レポートの作成
14	レポート作成	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	レポートの作成
15	レポートの作成 レポートの提出	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	レポートの作成
期末試験	なし		
期末試験の講評			
最終レポートの詳しい講評は、希望者にオフィスアワーで行います。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
カードレポート各5点×12＝60点、最終レポート30点、学習の熱心さ＝10点の計100点満点で評価。なお、授業実施規定に則った減点がなされる場合があります。			
教科書			
書名：「フレッシュマンセミナー テキスト」 著者名：初年次教育テキスト編集委員会 編 発行所：東京電機大学出版局 価格：2,000円+税			
その他補足事項			
この授業は、出席が重要です。大学生活を成功させる技術を身につけるためにかんばってください。			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	コミュニケーション演習(2年次以上)	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{うめみや} 梅宮れいか	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	なし
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーを設けています。授業初回に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>この授業は、大学における学修の重要要素である「調べる」「書く」「伝える」の3つの技術を身につけることで、学修する力を育成する。</p> <p>後半は、自由研究とし、独自にテーマを定めレポートに仕上げる。</p>	<input type="checkbox"/>	A 知識
	<input type="checkbox"/>	B 技術・技能
	<input type="checkbox"/>	C 論理的思考力
	<input type="checkbox"/>	D 文章表現力
	<input type="checkbox"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="checkbox"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="checkbox"/>	G 協働能力
	<input type="checkbox"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="checkbox"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="checkbox"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="checkbox"/>	K 課題対処力
	<input type="checkbox"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
学修する基礎的技術を身につける。	目標	B D G I K
論理的にまとめられたレポートをつくる。	目標	C

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	自分は何をしに大学に来たか? 自己理解から学ぶスタンスを見つける	TEGによる自己理解	自分プロフィールをまとめておく
2	スケジュールを立て勉強すること 前期、後期のスケジュールを立てる 自分に合った1週間のスケジュールを立てる	スケジュール表の作成	スケジュールを立ててみる
3	ノートの作り方 授業時間を効率のよい勉強時間にする方法	講義	教科書練習4,5
4	教科書・問題集の使い方 実力をアップさせる方法	「バーガー社会学」 「心理学検定公式問題集」	配付資料を読んでおくこと
5	図書館の使い方 文献検索端末で知識を増やす方法 CiNiiを使って知識を増やす方法	グループワーク	配付資料のテクニカルタームを抜き出しておくこと

6	レジメの作り方 授業で使う発表資料をきれいにまとめる方法	「社会心理学を学ぶ」	配布資料を通読し、 自分なりのレジメを つくってみる
7	PowerPointスライドの作り方 プレゼンテーションで成功する方法	「日経サイエンス2017.12」	配付資料からスライ ドをつくる
8	ストレスコーピング 脳の疲れをとって勉強の効率を上げる方法	グループワーク	予習、復習は不要
9	頭によい食事、やる気が出る栄養	ゲストスピーカー	資料をまとめておく
10	レポートの書き方 1 -守るべきルール		教科書p72-125に 目を通しておく
11	レポートの書き方 2 -持つべきプロポジション		教科書p72-125に 目を通しておく
12	レポートの書き方 3 -相手に感心されるレポートの条件		教科書p72-125に 目を通しておく
13	課題レポート テーマ「人間関係」 レポート作成の準備	まとめる手順に教科書を 参考にする	レポートの作成
14	レポート作成	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	レポートの作成
15	レポートの作成 レポートの提出	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	レポートの作成
16	勉強する意味を考える 1	映画「ペーパーチェイス」 前半	
17	勉強する意味を考える 2	映画「ペーパーチェイス」 後半	
18	勉強する意味を考えるレポートの作成	レポート作成	提出
19	自由研究		
20			
21			
22			
23			
24	テーマを設定し、教員とディスカッションしながら独自に	図書館を使った調べ学習 ディスカッション	レポートの作成
25	調べ、レポートにまとめていく		
26			
27			
28			
29			
30	提出		
期末 試験	なし		

期末試験の講評
課題レポート、自由研究レポートの詳しい講評は、希望者にオフィスアワーで行います。
到達度の評価（評価方法・基準）
前期：カードレポート各5点×12＝60点、最終レポート30点、学習の熱心さ＝10点の計100点、後期：レポート＝60点、レポートへの取り組みの熱心さ＝40点、前後期の合計点を1/2して評価点とする。なお、授業実施規定に則った減点がなされる場合があります。
教科書
書名：「フレッシュマンセミナー テキスト」 著者名：初年次教育テキスト編集委員会 編 発行所：東京電機大学出版局 価格：2,000円+税
その他補足事項
この授業は、出席が重要です。大学生活を成功させる技術を身につけるためにかんばってください。

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授業科目名	人体の構造と機能及び疾病	授業形態・単位数	講義・4単位
		開 講 年 次	1年次
担当教員	職名:教授 氏名:茂木 ^{もてき} 積雄 ^{せきお}	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期末試験の有無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	詳しくは初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	必修	
精神保健福祉士	〃	〃	
公認心理師	〃	〃	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>社会福祉士、精神保健福祉士および心理関係専門職として医療・保健・福祉・教育および産業保健などの種々の現場で就業する際に、チーム医療の一員として専門性を如何なく発揮し、患者・家族等を心理学的側面からの確で効果的に支援する上で必須となる、ヒトの体と医学的知識に関する概要の理解に努める。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
	○	G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
・医療の現場で比較的高頻度に見られる疾患の種類、原因および病像について自分の言葉で説明できるようになる。		目標 A C
・社会的に問題となっている医学や医療の状況についての原因や対策などを考える上で必須となる知識を習得する。		目標 A C
・疾病に関する理解を深めることにより、疾病を抱える患者および家族が直面している様々な問題点を系統的および論理的に把握するための基礎を習得する。		目標 A G J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標(授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方と留意点	授業計画	
2	第1章 人の成長・発達と老化 身体の成長・発達 精神の成長・発達 老化	教科書補足資料1	教科書P1~24を事前に読む。

3	第2章 身体構造と心身の機能(1) 身体部位の名称 各器官の構造と機能①	教科書補足資料2-1	教科書P25～33を 事前に読む。
4	第2章 身体構造と心身の機能(2) 各器官の構造と機能②	教科書補足資料2-2	教科書P34～52を 事前に読む。
5	第3章 疾病の概要(1) 生活習慣病と未病 悪性腫瘍	DVD視聴「メタボリック 症候群」(映像利用)	教科書P53～60を 事前に読む。
6	第3章 疾病の概要(2) 脳血管疾患	DVD視聴「脳梗塞」(映像 利用)	教科書P61～65を 事前に読む。
7	第3章 疾病の概要(3) 心疾患 高血圧	DVD視聴「心筋梗塞」(映 像利用)	教科書P66～71を 事前に読む。
8	第3章 疾病の概要(4) 糖尿病と内分泌疾患	DVD視聴「糖尿病の最新 治療」(映像利用)	教科書P72～75を 事前に読む。
9	第3章 疾病の概要(5) 呼吸器疾患 消化器疾患	DVD視聴「慢性閉塞性肺 疾患」(映像利用)	教科書P76～79を 事前に読む。
10	第3章 疾病の概要(6) 消化器疾患	DVD視聴「出血性胃潰瘍 の内視鏡的治療」(映像 利用)	教科書P80～83を 事前に読む。
11	第3章 疾病の概要(7) 血液疾患と膠原病	教科書補足資料3	教科書P84～86を 事前に読む。
12	第3章 疾病の概要(8) 腎臓疾患	教科書補足資料4	教科書P87～90を 事前に読む。
13	第3章 疾病の概要(9) 泌尿器疾患	DVD視聴「尿失禁」(映像 利用)	教科書P91～94を 事前に読む。
14	第3章 疾病の概要(10) 骨・関節疾患 目・耳の疾患	DVD視聴「白内障と緑内 障」(映像利用)	教科書P95～102 を事前に読む。
15	第3章 疾病の概要(11) 感染症	DVD視聴「インフルエン ザ」(映像利用)	教科書P103～106 を事前に読む。
16	第3章 疾病の概要(12) 神経疾患と難病 先天性疾患	DVD視聴「ALS(筋委縮 性側索硬化症)」(映像利 用)	教科書P107～116 を事前に読む。
17	第3章 疾病の概要(13) その他の高齢者に多い疾患	DVD視聴「摂食嚥下障害」 (映像利用)	教科書P117～128 を事前に読む。
18	第4章 障害の概要(1) 視覚障害 聴覚障害	DVD視聴「障害者ラン ナー・リオへの道」(映像 利用)	教科書P129～136 を事前に読む。
19	第4章 障害の概要(2) 平衡機能障害 肢体不自由	教科書補足資料5	教科書P137～145 を事前に読む。
20	第4章 障害の概要(3) 内部障害 知的障害	教科書補足資料6	教科書P146～151 を事前に読む。
21	第4章 障害の概要(4) 発達障害	DVD視聴「発達障害」(映 像利用)	教科書P152～155 を事前に読む。
22	第4章 障害の概要(5) 認知症	DVD視聴「アルツハイ マー病」(映像利用)	教科書P156～161 を事前に読む。
23	第4章 障害の概要(6) 高次機能障害 精神障害	DVD視聴「脳血管障害」 (映像利用)	教科書P162～172 を事前に読む。

24	第5章 リハビリテーションの概要(1) リハビリテーションとは リハビリテーションにおける障害評価	教科書補足資料7	教科書P173～182 を事前に読む。
25	第5章 リハビリテーションの概要(2) リハビリテーションの諸段階 リハビリテーションにかかわる専門職 リハビリテーションの4つの側面	教科書補足資料8	教科書P183～192 を事前に読む。
26	第6章 国際生活機能分類の基本的考え方と概要 国際障害分類(ICIDH)から国際生活機能分類(ICF)へ の変遷 心身機能と身体構造・活動・参加の概念 背景因子 健康状態と生活機能低下の概念	教科書補足資料9	教科書P193～203 を事前に読む。
27	第7章 健康のとらえ方(1) 健康の概念とプライマリヘルスケア 日本の人口統計 人口の高齢化と家族	教科書補足資料10	教科書P204～217 を事前に読む。
28	第7章 健康のとらえ方(2) 国民健康づくり対策 感染症対策	教科書補足資料11	教科書P218～224 を事前に読む。
29	第7章 健康のとらえ方(3) 産業保健 歯科保健	DVD視聴「うつ病の治療」 (映像利用)	教科書P225～231 を事前に読む。
30	まとめ	教科書補足資料12	教科書既習内容ポ イントを再確認
期末 試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 筆記試験 70点満点の記述方式のテストを学期末に実施 (2) レポート レポートは30点満点の採点とする。課題は授業内容に沿い、興味関心をもった領域に関して各自で課題を設定する方式とする。 (3) その他 授業内容の理解度を確認するために2回～3回、小テストを実施する。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とする。			
教科書			
書 名:新・社会福祉士養成講座 人体の構造と機能及び疾病 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会 発行所:中央法規 価 格:2,200円(税別)			
その他補足事項			
授業の進捗程度等により、授業内容を変更する場合があります。			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	医学一般 (2年次以上)	授業形態・単位数	講義・4単位
		開 講 年 次	2年次以上
担 当 教 員	職名:教授 氏名:茂木 ^{もてき} 積雄 ^{せきお}	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	詳しくは初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	必修	
精神保健福祉士	〃	〃	
公認心理師	〃	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>社会福祉士、精神保健福祉士および心理関係専門職として医療・保健・福祉・教育および産業保健などの種々の現場で就業する際に、チーム医療の一員として専門性を如何なく発揮し、患者・家族等を心理学的側面からの確で効果的に支援する上で必須となる、ヒトの体と医学的知識に関する概要の理解に努める。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
	○	G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
・医療の現場で比較的高頻度に見られる疾患の種類、原因および病像について自分の言葉で説明できるようになる。	目標	A C
・社会的に問題となっている医学や医療の状況についての原因や対策などを考える上で必須となる知識を習得する。	目標	A C
・疾病に関する理解を深めることにより、疾病を抱える患者および家族が直面している様々な問題点を系統的および論理的に把握するための基礎を習得する。	目標	A G J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標(授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方と留意点	授業計画	
2	第1章 人の成長・発達と老化 身体の成長・発達 精神の成長・発達 老化	教科書補足資料1	教科書P1~24を事前に読む。

3	第2章 身体構造と心身の機能(1) 身体部位の名称 各器官の構造と機能①	教科書補足資料2-1	教科書P25～33を 事前に読む。
4	第2章 身体構造と心身の機能(2) 各器官の構造と機能②	教科書補足資料2-2	教科書P34～52を 事前に読む。
5	第3章 疾病の概要(1) 生活習慣病と未病 悪性腫瘍	DVD視聴「メタボリック 症候群」(映像利用)	教科書P53～60を 事前に読む。
6	第3章 疾病の概要(2) 脳血管疾患	DVD視聴「脳梗塞」(映像 利用)	教科書P61～65を 事前に読む。
7	第3章 疾病の概要(3) 心疾患 高血圧	DVD視聴「心筋梗塞」(映 像利用)	教科書P66～71を 事前に読む。
8	第3章 疾病の概要(4) 糖尿病と内分泌疾患	DVD視聴「糖尿病の最新 治療」(映像利用)	教科書P72～75を 事前に読む。
9	第3章 疾病の概要(5) 呼吸器疾患 消化器疾患	DVD視聴「慢性閉塞性肺 疾患」(映像利用)	教科書P76～79を 事前に読む。
10	第3章 疾病の概要(6) 消化器疾患	DVD視聴「出血性胃潰瘍 の内視鏡的治療」(映像 利用)	教科書P80～83を 事前に読む。
11	第3章 疾病の概要(7) 血液疾患と膠原病	教科書補足資料3	教科書P84～86を 事前に読む。
12	第3章 疾病の概要(8) 腎臓疾患	教科書補足資料4	教科書P87～90を 事前に読む。
13	第3章 疾病の概要(9) 泌尿器疾患	DVD視聴「尿失禁」(映像 利用)	教科書P91～94を 事前に読む。
14	第3章 疾病の概要(10) 骨・関節疾患 目・耳の疾患	DVD視聴「白内障と緑内 障」(映像利用)	教科書P95～102 を事前に読む。
15	第3章 疾病の概要(11) 感染症	DVD視聴「インフルエン ザ」(映像利用)	教科書P103～106 を事前に読む。
16	第3章 疾病の概要(12) 神経疾患と難病 先天性疾患	DVD視聴「ALS(筋委縮 性側索硬化症)」(映像利 用)	教科書P107～116 を事前に読む。
17	第3章 疾病の概要(13) その他の高齢者に多い疾患	DVD視聴「摂食嚥下障害」 (映像利用)	教科書P117～128 を事前に読む。
18	第4章 障害の概要(1) 視覚障害 聴覚障害	DVD視聴「障害者ラン ナー・リオへの道」(映像 利用)	教科書P129～136 を事前に読む。
19	第4章 障害の概要(2) 平衡機能障害 肢体不自由	教科書補足資料5	教科書P137～145 を事前に読む。
20	第4章 障害の概要(3) 内部障害 知的障害	教科書補足資料6	教科書P146～151 を事前に読む。
21	第4章 障害の概要(4) 発達障害	DVD視聴「発達障害」(映 像利用)	教科書P152～155 を事前に読む。
22	第4章 障害の概要(5) 認知症	DVD視聴「アルツハイ マー病」(映像利用)	教科書P156～161 を事前に読む。
23	第4章 障害の概要(6) 高次機能障害 精神障害	DVD視聴「脳血管障害」 (映像利用)	教科書P162～172 を事前に読む。

24	第5章 リハビリテーションの概要(1) リハビリテーションとは リハビリテーションにおける障害評価	教科書補足資料7	教科書P173～182 を事前に読む。
25	第5章 リハビリテーションの概要(2) リハビリテーションの諸段階 リハビリテーションにかかわる専門職 リハビリテーションの4つの側面	教科書補足資料8	教科書P183～192 を事前に読む。
26	第6章 国際生活機能分類の基本的考え方と概要 国際障害分類(ICIDH)から国際生活機能分類(ICF)へ の変遷 心身機能と身体構造・活動・参加の概念 背景因子 健康状態と生活機能低下の概念	教科書補足資料9	教科書P193～203 を事前に読む。
27	第7章 健康のとらえ方(1) 健康の概念とプライマリヘルスケア 日本の人口統計 人口の高齢化と家族	教科書補足資料10	教科書P204～217 を事前に読む。
28	第7章 健康のとらえ方(2) 国民健康づくり対策 感染症対策	教科書補足資料11	教科書P218～224 を事前に読む。
29	第7章 健康のとらえ方(3) 産業保健 歯科保健	DVD視聴「うつ病の治療」 (映像利用)	教科書P225～231 を事前に読む。
30	まとめ	教科書補足資料12	教科書既習内容ポ イントを再確認
期末 試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 筆記試験	70点満点の記述方式のテストを学期末に実施		
(2) レポート	レポートは30点満点の採点とする。課題は授業内容に沿い、興味関心をもった領域に関して各自で課題を設定する方式とする。		
(3) その他	授業内容の理解度を確認するために2回～3回、小テストを実施する。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とする。		
教科書			
書名:新・社会福祉士養成講座 人体の構造と機能及び疾病		著者名:社会福祉士養成講座編集委員会	
発行所:中央法規		価格:2,200円(税別)	
その他補足事項			
授業の進捗程度等により、授業内容を変更する場合があります。			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	精神疾患とその治療	授業形態・単位数	講義・4単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名:星野 <small>ほしの</small> 仁彦 <small>よしひこ</small>	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	必修	
精神保健福祉士	〃	〃	
公認心理師	〃	〃	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
精神医学全般と様々な精神疾患・精神障害者の概念、診断、治療についての理解を深める。	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
	○	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
	○	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
	○	K 課題対処力
	○	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
精神医学・精神医療の歴史を理解する。	目標	A C D J K L
脳および神経の生理・解剖の基礎を理解する。	目標	A C H L
精神医学の概念について理解する。	目標	C D H J K
精神医学診断の基本的な方法について理解する。	目標	A C H K L
代表的な精神障害について理解する。	目標	C D J L
治療の概要について理解する。	目標	A D H K L
病院精神医学および地域精神医学について理解する。	目標	A C H J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	精神医学・精神医療の歴史	資料、レジュメ	次週予定のテキスト予習 当日レクチャーの復習
2	脳および神経の生理・解剖	資料、レジュメ	
3	精神医学の概念、精神障害の原因と分類	資料、レジュメ	

4	診断の手順と方法、精神症状と状態像のとらえ方	資料、レジュメ	次週予定のテキスト 予習 当日レクチャーの復 習	
5	心理検査(知能検査、生活検査、身体的検査)	資料、レジュメ		
6	認知症その他の器質性精神障害(脳血管性認知症、アルツハイマー型・レビー小体型認知症)	資料、レジュメ ケーススタディ		
7	統合失調症(精神分裂病)	ビデオ供覧『統合失調症 を理解する』(30分)		
8	気分(感情)障害、うつ病、躁うつ病、季節性うつ病、仮面うつ病	資料、レジュメ		
9	神経症(不安障害)、不安神経症(パニック障害)、強迫神経症、対人恐怖症、離人神経症	資料、レジュメ		
10	ストレス関連障害、PTSD(心的外傷後ストレス障害)	資料、レジュメ ケーススタディ		
11	身体表現性障害、心身症、心気症、ヒステリー、心因性疼痛	資料、レジュメ		
12	パーソナリティ障害(境界性、自己愛性、演技性パーソナリティ障害)	資料、レジュメ		
13	知的障害(精神遅滞)、自閉症、アスペルガー症候群	資料、レジュメ		
14	ADHD(注意欠陥・多動性障害)、LD(学習障害)	資料、レジュメ		
15	不登校、ひきこもり、家庭内暴力	資料、レジュメ ケーススタディ		
16	摂食障害(拒食症と過食症)	資料、レジュメ		
17	性同一性障害、異常性愛(性的倒錯)、ED(勃起障害)	資料、レジュメ ケーススタディ		
18	各種依存症、嗜癖行動(ギャンブル依存、買物依存、恋愛依存)	資料、レジュメ		
19	多重人格、解離性障害、憑依(つきもの)状態、自己催眠後遺症	資料、レジュメ		
20	児童虐待、被虐待児症候群	資料、レジュメ ケーススタディ		
21	睡眠障害(睡眠覚醒リズム障害、ナルコレプシー、睡眠発作、不眠症、過眠症、睡眠時無呼吸症候群)	資料、レジュメ		
22	非行、性非行、犯罪精神医学	資料、レジュメ		
23	アダルトチルドレン(機能不全家族に育った人)、共依存症	資料、レジュメ		
24	てんかん、その他の神経系疾患	資料、レジュメ ケーススタディ		
25	精神科救急医療、自殺の予防と対応	資料、レジュメ		
26	薬物乱用と薬物依存(覚せい剤、シンナー、マリファナ、コカインなど)	資料、レジュメ		
27	夫婦間暴力(ドメスティック・バイオレンス)、老人虐待、ストーカー	資料、レジュメ		
28	精神科リハビリテーション、デイケア、SST、家族療法、環境調整療法	資料、レジュメ		
29	精神科薬物療法、電気ショック療法 地域精神医療と病院精神医学 薬物の効果と副作用	資料、レジュメ		
30	精神医学に関する各種法令 福祉心理学、公認心理師の医師・医療機関との連携	資料、レジュメ		
期末 試験	期末筆記試験			

期末試験の講評
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。
到達度の評価（評価方法・基準）
毎回の豆テスト40%、期末試験60%による。 詳しくは初回時に説明する。
教科書
書 名:精神疾患とその治療 第6版 著者名:精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 発行所:へるす出版 価 格:2,800円(税別)

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	精神医学(2年次以上)	授業形態・単位数	講義・4単位
		開 講 年 次	2年次以上
担 当 教 員	職名:教授 氏名:星野 仁彦 <small>ほしの よしひこ</small>	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	必修	
精神保健福祉士	〃	〃	
公認心理師	〃	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
精神医学全般と様々な精神疾患・精神障害者の概念、診断、治療についての理解を深める。	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
精神医学・精神医療の歴史を理解する。	目標	A C D J K L
脳および神経の生理・解剖の基礎を理解する。	目標	A C H L
精神医学の概念について理解する。	目標	C D H J K
精神医学診断の基本的な方法について理解する。	目標	A C H K L
代表的な精神障害について理解する。	目標	C D J L
治療の概要について理解する。	目標	A D H K L
病院精神医学および地域精神医学について理解する。	目標	A C H J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	精神医学・精神医療の歴史	資料、レジュメ	次週予定のテキスト予習
2	脳および神経の生理・解剖	資料、レジュメ	
3	精神医学の概念、精神障害の原因と分類	資料、レジュメ	
4	診断の手順と方法、精神症状と状態像のとりえ方	資料、レジュメ	当日レクチャーの復習

5	心理検査(知能検査、生活検査、身体的検査)	資料、レジュメ	次週予定のテキスト予習 当日レクチャーの復習	
6	認知症その他の器質性精神障害(脳血管性認知症、アルツハイマー型・レビー小体型認知症)	資料、レジュメ ケーススタディ		
7	統合失調症(精神分裂病)	ビデオ供覧『統合失調症を理解する』(30分)		
8	気分(感情)障害、うつ病、躁うつ病、季節性うつ病、仮面うつ病	資料、レジュメ		
9	神経症(不安障害)、不安神経症(パニック障害)、強迫神経症、対人恐怖症、離人神経症	資料、レジュメ		
10	ストレス関連障害、PTSD(心的外傷後ストレス障害)	資料、レジュメ ケーススタディ		
11	身体表現性障害、心身症、心気症、ヒステリー、心因性疼痛	資料、レジュメ		
12	パーソナリティ障害(境界性、自己愛性、演技性パーソナリティ障害)	資料、レジュメ		
13	知的障害(精神遅滞)、自閉症、アスペルガー症候群	資料、レジュメ		
14	ADHD(注意欠陥・多動性障害)、LD(学習障害)	資料、レジュメ		
15	不登校、ひきこもり、家庭内暴力	資料、レジュメ ケーススタディ		
16	摂食障害(拒食症と過食症)	資料、レジュメ		
17	性同一性障害、異常性愛(性的倒錯)、ED(勃起障害)	資料、レジュメ ケーススタディ		
18	各種依存症、嗜癖行動(ギャンブル依存、買物依存、恋愛依存)	資料、レジュメ		
19	多重人格、解離性障害、憑依(つきもの)状態、自己催眠後遺症	資料、レジュメ		
20	児童虐待、被虐待児症候群	資料、レジュメ ケーススタディ		
21	睡眠障害(睡眠覚醒リズム障害、ナルコレプシー、睡眠発作、不眠症、過眠症、睡眠時無呼吸症候群)	資料、レジュメ		
22	非行、性非行、犯罪精神医学	資料、レジュメ		
23	アダルトチルドレン(機能不全家族に育った人)、共依存症	資料、レジュメ		
24	てんかん、その他の神経系疾患	資料、レジュメ ケーススタディ		
25	精神科救急医療、自殺の予防と対応	資料、レジュメ		
26	薬物乱用と薬物依存(覚せい剤、シンナー、マリファナ、コカインなど)	資料、レジュメ		
27	夫婦間暴力(ドメスティック・バイオレンス)、老人虐待、ストーカー	資料、レジュメ		
28	精神科リハビリテーション、デイケア、SST、家族療法、環境調整療法	資料、レジュメ		
29	精神科薬物療法、電気ショック療法 地域精神医療と病院精神医学 薬物の効果と副作用	資料、レジュメ		
30	精神医学に関する各種法令 福祉心理学、公認心理師の医師・医療機関との連携	資料、レジュメ		
期末試験	期末筆記試験			

期末試験の講評

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

到達度の評価（評価方法・基準）

毎回の豆テスト40%、期末試験60%による。詳しくは初回時に説明する。

教科書

書名：精神疾患とその治療 第6版
著者名：精神保健福祉士養成セミナー編集委員会
発行所：へるす出版
価格：2,800円(税別)

授 業 科 目 名	発達心理学	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名:兼担教授 氏名: <small>こせき けん</small> 小関 賢	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail:koseki.ken@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	必修	
公認心理師	〃	〃	
認定心理士	〃	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>本授業は、人間発達に関する基礎知識（発達の定義、要因、発達段階、発達課題）および誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、発達障害等非定型発達について概説する。各発達段階では身体・運動、認知、感情、言語、社会性の発達について、さまざまな現象を例にあげながら解説する。</p> <p>基本的には解説→質問→課題のパターンで授業を進める。第2回目～第13回目の授業では、授業開始と同時に数分間のミニテストを実施し、翌週の授業で返却する。第14回目と第15回目の授業では、それぞれまとめのテストを実施する。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
子どもの心身の発達に対する主な要因とその相互作用について理解する。	目標	A B
発達に関する代表的理論を理解する。	目標	A C
発達の概念、保育・教育に関する発達理解の意義について理解する。	目標	A J
各時期の運動・言語・認知・社会性の発達について理解する。	目標	A K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	A.オリエンテーション(1)授業の概要と目標(授業内容) (2)評価方法・授業の進め方の留意点 B.発達の定義と発達の過程、発達の原理	授業計画 教科書補足資料1	教科書p10～11を事前に読む
2	発達の基礎1 人間発達の特殊性・発達の生物学的基礎(遺伝と環境・生得性と初期知識)	教科書補足資料2 ミニテスト 意見発表	教科書p11～14を事前に読む

3	発達的基础2 脳と神経系 性差の基盤	教科書補足資料3 ミニテスト 意見発表	教科書p14～20を 事前に読む
4	出生前期(胎児をとりまく環境・胎児の能力) 新生児期1 (新生児期の行動<反射・共鳴動作・同調行動>)	教科書補足資料4・ミニ テスト・DVD視聴(刷り込 み)意見発表	教科書p21～27を 事前に読む
5	新生児期2 外界認知の発達と新生児の能力(視覚・聴覚等の知覚・ 顔認知)・新生児期の生活と環境	教科書補足資料5 ミニテスト 意見発表	教科書p27～32を 事前に読む
6	乳児期1 運動感覚的知能・信頼対不信・感情の発達(感情の種 類・感情の理解と表出)・愛着の形成	教科書補足資料6・ミニ テスト・DVD視聴(運動 機能の発達)・意見発表	教科書p32～38を 事前に読む
7	乳児期2 思考とことばの発達(言語獲得と語彙習得・会話の発 達)・三項関係・社会的参照	教科書補足資料7・ミニ テスト・DVD視聴(認知 機能の発達)・意見発表	教科書p39～51を 事前に読む
8	幼児期1 身体・運動の発達・前操作期の知能・自己の発達(自己 意識・自己概念)	教科書補足資料8・ミニ テスト・DVD視聴(社会 性の発達)・意見発表	教科書p52～63を 事前に読む
9	幼児期2 心の理論・自己と他者の認知(自他の区別・自己認知・ 他者認知)	教科書補足資料9・ミニ テスト・意見発表	教科書p63～73を 事前に読む
10	幼児期3 領域固有性と領域一般性 自律対恥	教科書補足資料10・ミニ テスト・DVD視聴(情緒 の発達)・意見発表	教科書p73～82を 事前に読む
11	児童期1 身体・運動の発達・対人関係の発達(対人枠組み・親子 関係・友人・ピア・個人と集団)	教科書補足資料11・ミニ テスト・DVD視聴(ことば の発達)・意見発表	教科書p83～92を 事前に読む
12	児童期2 具体的操作期の知能・読み書きの発達・勤勉対劣等感・ 自尊心・自己効力感	教科書補足資料12 ミニテスト 意見発表	教科書p92～107を 事前に読む
13	青年期 形式的操作期の知能・思考と推論・自己の確立対拡散・ 社会的参加	教科書補足資料13 ミニテスト 意見発表	教科書p108～135 を事前に読む
14	成人期・老年期(各期の知的発達・生殖性対停滞・統合と 絶望)・高齢者の心理的発達課題と必要な支援(老化のメ カニズム・回想と自伝的記憶・幸福感と死への準備)	教科書補足資料14 まとめテスト(1) 意見発表	教科書p136～151 を事前に読む
15	定型発達と非定型発達 発達障害 コミュニケーション・身体運動	教科書補足資料15 まとめテスト(2) 意見発表	教科書p151～164 を事前に読む
期末 試験	定期試験は実施しない。		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価(評価方法・基準)			
毎回の授業で実施するミニテスト(60%)、授業内のまとめのテスト2回(各20%)			
教科書			
書名:発達心理学 著者名:長谷川真里 発行所:北樹出版 価格:2,100円(税別)			

授 業 科 目 名	発達心理学 (2年次以上)	授業形態・単位数	講義・4単位
		開 講 年 次	2年次以上
担 当 教 員	職名:兼担教授 氏名:小関 ^{こせき} 賢 ^{けん}	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail:koseki.ken@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	必修	
公認心理師	//	選択	
認定心理士	//	//	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>人間発達に関する基礎知識（発達の定義、発達課題等）および誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、発達障害等非定型発達について概説する。各発達段階では具体的な例をあげながら身体・運動、認知、感情、言語、社会性の発達を解説する。</p> <p>授業は解説→質問→課題のパターンで進める。基本的には、毎回、授業開始と同時に数分間のミニテストを実施し翌週返却する。第15回目と第30回目の授業はまとめのテストをする。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="checkbox"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="checkbox"/>	D 文章表現力
	<input type="checkbox"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="checkbox"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="checkbox"/>	G 協働能力
	<input type="checkbox"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="checkbox"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="checkbox"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
子どもの心身の発達に対する主な要因とその相互作用について理解する	目標	A
発達に関する代表的理論を理解する	目標	A C
発達の概念、保育・教育に関する発達理解の意義について理解する	目標	A J
各時期の運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について理解する	目標	A K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	A.オリエンテーション(1) 授業の概要と目標(授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方の留意点 B.発達の定義、発達の原理、発達のメカニズム	授業計画 教科書補足資料1	教科書p10を事前に読む
2	人間発達の特殊性 生理的早産 発達の生物学的基礎(生得性と初期知識)	教科書補足資料2 ミニテスト 意見発表	教科書p11を事前に読む

3	発達を規定する要因1 遺伝的要因と環境的要因 相互作用説(輻輳説・環境閾値説等)	教科書補足資料3 ミニテスト 意見発表	教科書p12を事前に読む
4	発達を規定する要因2 脳と神経系 性差の基盤	教科書補足資料4 ミニテスト 意見発表	教科書p13を事前に読む
5	初期経験と子どもの発達 野生児の問題点 社会的孤立児	教科書補足資料5 ミニテスト 意見発表	教科書p14を事前に読む
6	子どもの発達と社会・文化的背景 社会的要因 文化的要因	教科書補足資料6 ミニテスト 意見発表	教科書p15～16を事前に読む
7	子ども観の変遷1 ヨーロッパにおける子ども観 代表的な子ども観	教科書補足資料7 ミニテスト 意見発表	教科書p16～17を事前に読む
8	子ども観の変遷2 日本における子ども観 現代における子どもの姿	教科書補足資料8 ミニテスト 意見発表	教科書p17～18を事前に読む
9	発達理論の理解1 ピアジェ ヴィゴツキー等	教科書補足資料9 ミニテスト 意見発表	教科書p18～19を事前に読む
10	発達理論の理解2 フロイト エリクソン、ワロン等	教科書補足資料10 ミニテスト 意見発表	教科書p20を事前に読む
11	出生前期 胎児を取り巻く環境 胎児期の能力	教科書補足資料11 ミニテスト 意見発表	教科書p21～23を事前に読む
12	新生児期1 新生児の行動(反射・共鳴動作・同調行動) 新生児の生活と環境	教科書補足資料12 ミニテスト 意見発表	教科書p23～25を事前に読む
13	新生児期2 外界認知の発達と新生児の能力(聴覚・視覚等の知覚・顔認知)	教科書補足資料13 ミニテスト 意見発表	教科書p25～27を事前に読む
14	乳児期1 幼児期の特徴と課題(信頼対不信) 身体・運動の発達	教科書補足資料14 ミニテスト 意見発表	教科書p27～34を事前に読む
15	乳児期2 思考とことばの発達(言語獲得と語彙習得・会話の発達)	教科書補足資料15 まとめテスト(1) 意見発表	教科書p35～40を事前に読む
16	乳児期3 運動感覚的知能・認知の発達 三項関係・社会的参照	教科書補足資料16 ミニテスト 意見発表	教科書p42～49を事前に読む
17	乳児期4 感情の発達(感情の種類・感情の理解と表出) 愛着の形成	教科書補足資料17 ミニテスト 意見発表	教科書p51～56を事前に読む
18	幼児期1 幼児期の特徴と課題(自律対恥) 身体・運動の発達	教科書補足資料18 ミニテスト 意見発表	教科書p52～59を事前に読む
19	幼児期2 前操作期知能・認知の発達 心の理論	教科書補足資料19 ミニテスト 意見発表	教科書p59～69を事前に読む
20	幼児期3 自己と他者の認知(自他の区別・自己認知・他者認知)	教科書補足資料20 ミニテスト 意見発表	教科書p69～75を事前に読む

21	幼児期4 自己の発達(自己意識・自己概念) 領域固有性と領域一般性	教科書補足資料21 ミニテスト 意見発表	教科書p75～82を 事前に読む
22	児童期1 特徴と課題(勤勉対劣等感)・身体・運動の発達・ 具体的操作期の知能	教科書補足資料22 ミニテスト 意見発表	教科書p83～92を 事前に読む
23	児童期2 認知の発達・概念の発達・思考と推論・読み・書きの発達・ ことばの発達	教科書補足資料23 ミニテスト 意見発表	教科書p92～97を 事前に読む
24	児童期3 自尊心・自己効力感・対人関係の発達(対人枠組み・親子 関係・友人・ピア・個人と集団)	教科書補足資料24 ミニテスト 意見発表	教科書p97～107を 事前に読む
25	青年期1 始期と終期 特徴と課題(自己の確立対拡散)	教科書補足資料25 ミニテスト 意見発表	教科書p108～116 を事前に読む
26	青年期2 形式的操作期の知能・思考と推論 社会的参加	教科書補足資料26 ミニテスト 意見発表	教科書p116～125 を事前に読む
27	青年期3 道徳性の理解 社会認識	教科書補足資料27 ミニテスト 意見発表	教科書p125～135 を事前に読む
28	成人期 特徴と課題(生殖性対停滞) 成人期の知的発達・仕事と家族問題	教科書補足資料28 ミニテスト 意見発表	教科書p136～144 を事前に読む
29	老年期:特徴と課題(統合と絶望)・高齢期の知的発達・高 齢者の心理発達の課題と必要な支援(老化のメカニズム・ 回想と自伝的記憶・幸福感と死への準備)	教科書補足資料29 ミニテスト 意見発表	教科書p144～151 を事前に読む
30	定型発達と非定型発達 発達障害 コミュニケーション・身体運動	教科書補足資料30 まとめテスト(2) 意見発表	教科書p151～164 を事前に読む
期末 試験	定期試験は実施しない		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価(評価方法・基準)			
毎回の授業で実施するミニテスト(60%)、授業内のまとめのテスト2回(各20%)			
教科書			
書 名:発達心理学 著者名:長谷川真里 発行所:北樹出版 価 格:2,100円(税別)			

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成30年度

授業科目名	臨床心理学概論	授業形態・単位数	講義・2単位
		開講年次	1年次
担当教員	職名:准教授 氏名: ^{わたなべ} 渡部 ^{あつこ} 敦子	開講期	前期
		授業回数	15回
		期末試験の有無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail:watanabe.atsuko@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
認定心理士	〃	必修	
公認心理師	〃	〃	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
本科目では、臨床心理学における様々な援助理論とその技法、病理、そしてどのような領域で実践が行われているかについて、基礎的な知識を解説していく。	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
臨床心理学とはどのような学問か説明できる。		目標 A J
心理療法の基本的な理論について説明できる。		目標 A
人を援助する際の心構えについて、自分なりの判断ができる。		目標 C J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 臨床心理学の定義と歴史	シラバス 配布資料	配布資料を読む
2	人の話を聞くということ カウンセリングの基礎的技法	配布資料 グループワーク	配布資料を事前に読む
3	精神分析	配布資料	配布資料を事前に読む
4	学習理論と行動療法	配布資料	配布資料を事前に読む

5	認知行動療法	配布資料	配布資料を事前に読む
6	来談者中心療法	配布資料	配布資料を事前に読む
7	家族療法	配布資料	配布資料を事前に読む
8	短期療法	配布資料	配布資料を事前に読む
9	その他の心理療法(1) 森田療法、自律訓練法など	配布資料	配布資料を事前に読む
10	その他の心理療法(2) 遊戯療法、芸術療法	配布資料	配布資料を事前に読む
11	事例検討	配布資料 グループワーク	ここまでの資料を読み返しておく
12	パーソナリティとアセスメント	配布資料	配布資料を事前に読む
13	人の発達	配布資料	配布資料を事前に読む
14	精神医学的知識 正常と異常について	配布資料	配布資料を事前に読む
15	様々な領域における心理臨床 まとめと振り返り	配布資料	配布資料を事前に読む
期末試験	期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
前期末試験70% 随時行う小テスト合計20% 事例検討についてのレポート10%			
参考書			
書名:よくわかる臨床心理学(改訂新版) 著者名:下山晴彦 発行所:ミネルヴァ書房 価格:3,000円(税別)			

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成30年度

授業科目名	臨床心理学	授業形態・単位数	講義・4単位
		開講年次	2年次
担当教員	職名:准教授 氏名: ^{わたなべ} 渡部 ^{あつこ} 敦子	開講期	通年
		授業回数	30回
		期末試験の有無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail:watanabe.atsuko@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
認定心理士	〃	必修	
公認心理師	〃	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目		
本科目では、臨床心理学における様々な援助理論とその技法、病理、そしてどのような領域で実践が行われているかについて、基礎的な知識を解説していく。	○	A	知識
		B	技術・技能
	○	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
臨床心理学とはどのような学問か説明できる。		目標	A J
心理療法の基本的な理論について説明できる。		目標	A
人を援助する際の心構えについて、自分なりの判断ができる。		目標	C J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 臨床心理学の定義と歴史	シラバス 配布資料	
2	人の話を聞くということ カウンセリングの基礎的技法	配布資料 グループワーク	配布資料を事前に読む
3	精神分析	配布資料	配布資料を事前に読む
4	学習理論と行動療法	配布資料	配布資料を事前に読む

5	認知行動療法	配布資料	配布資料を事前に読む
6	来談者中心療法	配布資料	配布資料を事前に読む
7	家族療法	配布資料	配布資料を事前に読む
8	短期療法	配布資料	配布資料を事前に読む
9	その他の心理療法(1) 森田療法、自律訓練法など	配布資料	配布資料を事前に読む
10	その他の心理療法(2) 遊戯療法、芸術療法	配布資料	配布資料を事前に読む
11	事例検討	配布資料 グループワーク	ここまでの資料を読み返しておく
12	パーソナリティ(1) 理解の方法と形成過程	配布資料	配布資料を事前に読む
13	パーソナリティ(2) 変容可能性／人格障害	配布資料	配布資料を事前に読む
14	アセスメント	配布資料	配布資料を事前に読む
15	前期のまとめ	配布資料	前期の資料を読み不明点を確認しておく
16	人の発達と発達課題	配布資料	配布資料を事前に読む
17	正常と異常、精神病について	配布資料	配布資料を事前に読む
18	神経症水準の病について(1)	配布資料	配布資料を事前に読む
19	神経症水準の病について(2)	配布資料	配布資料を事前に読む
20	学校臨床(1)学校臨床心理学とは	配布資料	配布資料を事前に読む
21	学校臨床(2)開発的カウンセリング	配布資料 グループワーク	配布資料を事前に読む
22	学校臨床(3)緊急支援	配布資料	配布資料を事前に読む
23	学校臨床(4)保護者対応、学内外の連携	配布資料	配布資料を事前に読む
24	病院臨床(1)病院臨床とは	配布資料	配布資料を事前に読む
25	病院臨床(2)各科における実践	配布資料 ビデオ視聴「回想法」	配布資料を事前に読む
26	福祉、司法領域における実践	配布資料	配布資料を事前に読む
27	産業領域における実践 地域援助	配布資料	配布資料を事前に読む
28	臨床心理学における倫理	配布資料 グループワーク	配布資料を事前に読む
29	臨床心理学における研究活動	配布資料	配布資料を事前に読む
30	1年間のまとめ	配布資料	これまでの配布資料を読み直しておく
期末試験	後期末試験		

期末試験の講評
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。
到達度の評価（評価方法・基準）
前後期末試験70% 随時行う小テスト合計20% 事例検討についてのレポート10%
参考書
書名:よくわかる臨床心理学(改訂新版) 著者名:下山晴彦 発行所:ミネルヴァ書房 価格:3,000円(税別)

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	心理学研究法	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: ^{あべ つねゆき} 阿部 恒之 本務先:東北大学 職名:教授	開 講 期	前期
		授 業 回 数	30回(2コマ連続)
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	質問は随時電子メールにて受け付けます。 E-mail:abe7t@m.tohoku.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
公認心理師	〃	〃	
認定心理士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
以下の内容をアクティブラーニングによって修得する。 ①心理学における実証的研究法(量的研究及び質的研究) ②データを用いた実証的な思考方法 ③研究における倫理	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
心理学の研究を遂行するために必要な基本的な方法論を身につける。		目標 A B
心理学的謎を見つけ、研究課題として立てることができるようになる。		目標 C D K
心理学の研究を実際に行えるようになる。		目標 A B C
グループでの討議を通じて討議能力を身につける。		目標 G I L
自ら行った研究をわかりやすく発表できるようになる。		目標 D I

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス	(全ての授業で資料を投影しながら進める)	
2	授業内容の全体概説		
3	文献調査法1	班編成	これ以降、大研究のテーマを班毎に随時討議のこと
4	文献調査法2	班別討議	

5	文献調査法発表、面接法1	小研究発表1	班毎に小研究をまとめて参加のこと
6	面接法2	班別討議	
7	面接法発表、観察法1	小研究発表2	班毎に小研究をまとめて参加のこと
8	観察法2	ビデオを用いた観察法実習	
9	観察法3	ビデオを用いた観察法実習、班別討議	班毎に小研究をまとめて参加のこと
10	観察法発表1、観察法4	小研究発表3、班別討議	
11	観察法5	フィールドワーク(現実場面における観察実習)	班毎に観察テーマ・分担等を決定して参加のこと
12	観察法6	フィールドワークの続き	
13	観察法発表2	小研究発表4	班毎に小研究をまとめて参加のこと
14	プレゼンテーションスキル	コンピュータ実習	
15	中間試験	試験による定着学修	ここまでの習得内容をよく復習しておくこと
16	中間試験の解答解説	試験の解答確認を通じた振り返り	
17	質問紙調査法1	ゲストスピーカー招聘	ゲストスピーカーの講義復習
18	質問紙調査法2	班別討議	
19	質問紙調査法発表1	小研究発表5	班毎に小研究をまとめて参加のこと
20	質問紙調査法3	班別討議	
21	質問紙調査法発表2、実験法1	小研究発表6	班毎に小研究をまとめて参加のこと
22	実験法2	班別討議	
23	実験法3	班別討議	班毎に小研究をまとめて参加のこと
24	実験法発表、検査法1	小研究発表7	
25	検査法2	班別討議	班毎に小研究をまとめて参加のこと
26	検査法発表	小研究発表8	
27	大研究の班別実習1	班別討議による総仕上げ	十分な討議を行なうこと
28	大研究の班別実習2	班別討議による総仕上げ	
29	大研究発表	発表	全員が発表に貢献するよう役割を分担すること
30	大研究発表・講評	相互評価(各人が他班の発表と自班のメンバーの貢献を評価)	
期末試験	前期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価(評価方法・基準)			
(1) 授業中の活動(小・大研究発表、班別討議への参加) 40%			
(2) 中間試験30%			
(3) 期末試験30%			
以上の配分に基づき、総合的に評価する。			
教科書		参考書	
なし		なし	

その他補足事項

授業は2コマ連続で行う。ほぼ毎回、指定されたテーマに関する班別の実習(小研究)を行い、授業時間外も活用してまとめてもらう。データ解析・プレゼンテーションなどでコンピュータを多用する。各自、事前にエクセル・パワーポイントの習熟につとめて欲しい。

得るものは多いと思われるが、授業時間外の学修負担は大きい。授業への不参加、小・大研究分担の不履行は自分のみならず班員への迷惑になるので、履修する場合は相応の覚悟をして、欠席しないよう努めること。

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	人 格 心 理 学	授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 4 単 位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名: 兼担教授 氏名: ^{たなべ} 田辺 ^{みのる} 稔	開 講 期	通 年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワー・メールアドレスについては初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒業	専門教育科目	選 択	
公認心理師	〃	〃	
認定心理士	〃	〃	

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 と の 対 応 項 目	
人格（性格）の諸理論に関する全般的な理解をテーマに、人格研究の歴史的な経緯から、各理論の基本的な着眼点、研究方法を学んでいく。また各研究や各理論相互の結びつきや誕生の経緯、各理論が果たしてきた役割に注目し、人格（性格）の理解をキーワードに心理学全体の流れを把握できる知識を獲得していく。	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
	○	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受 講 し て 得 ら れ る 力)	
人格研究に関する流れ（歴史）を習得し説明できる	目 標	A
各理論相互の誕生の経緯を説明できる	目 標	A B J
各理論相互の関連・結びつきを把握し説明できる	目 標	A B J
受講者一人一人が最も注目する理論（研究者）に関して、自分の観点で論じることが出来るようになる	目 標	A B K

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ・ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 、 使 用 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	オリエンテーション： 年間授業の流れと留意点。講義課題、授業の進め方、評価方法に関するガイダンス		

2	人格に関する一般的とらえ方:	体系的な学びの前に、受講者各人がとらえる人格(性格・パーソナリティ・個性)について議論していく。(履修者数により同単元が2回に渡る場合もある)	
3	人格研究の歴史: 人格・性格に関する興味関心から哲学的問題、さらに現代心理学との出会いに至る経緯について学ぶ	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	心理学概論ー心理学の歴史を復習のこと 教科書p1~11
4	人格のとらえ方: 人格、性格、パーソナリティをどう考えるか。日常的な「表出行動」と「対処的行動」の相違点から「行動」のとらえ方について学ぶ	個人差を行動上の相違から如何に捉えていくか、履修者自身の日常的行動から探っていく。	
5	人格研の理論: 帰属理論① 行動の認知と原因の解釈	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p103~119を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
6	人格研の理論: 帰属理論② 帰属理論から見たパーソナリティ 原因帰属のモデル 外的帰属と内的帰属 帰属の個人差	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p103~119を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。可能であれば社会心理学ー帰属過程を調べておくこと。
7	人格の理論: 類型論① 類型の意味ととらえ方。クレッチマーの気質類型論	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p13~20を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
8	人格の理論: 類型論② 類型の意味ととらえ方。アイゼンク・シェルドンの類型論。類型論の問題点と可能性	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p13~20を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
9	人格の理論: 特性論① 特性の意味ととらえ方。尺度、因子分析の研究	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p20~27を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
10	人格の理論: 特性論② 特性の意味ととらえ方。オールポートの理論、キャッテル、ギルホードの理論	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p20~27を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
11	人格の理論: 特性論③ 具体的な人格測定を通してみた特性論の問題点と可能性	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定。他授業で実施された性格テストについて改めて考察する。実施されたテストを持参するとお良い。	
12	人格の理論: 特性論④ 因子分析の研究進化に伴って注目され始めた特性の「ビッグファイブ」について	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p20~27を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
13	人格の測定: 人格の測定 I。類型論・特性論によって構築された代表的性格テストを実際に用いて、改めて各理論の特徴を学ぶ	使用可能な性格検査は授業内で紹介。 記入作業・採点作業、評価作業の実際を学ぶ機会とする。	
14	人格の測定: 人格の測定 II。類型論・特性論によって構築された代表的性格テストを実際に用いて、改めて各理論の特徴を学ぶ	使用可能な性格検査は授業内で紹介。 記入作業・採点作業、評価作業の実際を学ぶ機会とする。	教科書p31~44を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。

15	前期部分のまとめ 前期の各人格論に関する知識を前提に改めて、人格研究の流れを復習する	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p103～119、p13～27、p31～44のまとめ。
16	前期部分のまとめと中間テスト テストと解説(採点は自己採点とし、論述試験の回答方法を併せて学ぶ。)	中間に相当する回数は授業進行状況(第2回目のコマ数の増加分)で前後する場合がある。	
17	人格の理論:力動論 フロイトからの流れ① フロイトのパーソナリティ。構造体としてのパーソナリティ理論と精神分析	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p49～55を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
18	人格の理論:力動論 フロイトからの流れ② フロイトのパーソナリティ。パーソナリティの発達	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p49～55を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
19	人格の理論:力動論 フロイトからの流れ③ ユングのパーソナリティ。精神分析と分析心理学	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p55～59を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
20	人格の理論:力動論 フロイトからの流れ④ ユングのパーソナリティ・タイプ論	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p55～59を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
21	人格の理論:力動論 フロイトからの流れ⑤ フロイト、ユング以降の精神分析的パーソナリティ理論	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p59～66を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
22	人格の理論:フロイトからの流れ⑥ エリック・バーンによる交流分析 ゲーム分析、脚本分析	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
23	人格の理論:学習理論① 行動主義とパーソナリティⅠ 行動の獲得と学習。学習の基本的なメカニズムの理解 ワトソンとレイナーの理論	事前配布資料を用いる。その他資料提示はパワーポイントを使用予定	資料を事前に配布する。講義前に読み疑問点などを明確にしておく。
24	人格の理論:学習理論② 行動主義とパーソナリティⅡ 行動の獲得と学習。学習メカニズムの理解 ミラーの行動獲得過程	事前配布資料を用いる。その他資料提示はパワーポイントを使用予定	資料を事前に配布する。講義前に読み疑問点などを明確にしておく。
25	人格の理論:学習理論③ 行動主義とパーソナリティⅢ 学習理論的パーソナリティ理解の問題点と可能性	事前配布資料を用いる。その他資料提示はパワーポイントを使用予定	資料を事前に配布する。講義前に読み疑問点などを明確にしておく。
26	人格の理論:現象学的人格論① 現象学・実存哲学の影響と人格論	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p69～82を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
27	人格の理論:現象学的人格論② 現象学的パーソナリティ理論。ロジャーズの人間理解	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p69～82を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
28	人格の理解:状況論① 状況論:改めてパーソナリティの有無に関する観点を理解	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p27～29を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
29	人格の理解:状況論②と5因子モデル 状況論を踏まえて、5因子研究の問題点と展望を理解	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p26・27～29を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
30	総括:全体の振り返り 個人差を如何に理解するのか	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	

期末試験の講評	
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。	
到達度の評価（評価方法・基準）	
①筆記試験	70点満点の記述方式のテストを学期末に実施。
②レポート	期末に課題レポートを提出。レポートは30点満点の採点とする。課題は授業内容に添い、興味関心を持った領域に関して課題を各自で設定する方式とする。
③その他	授業内容の理解度あるいは授業項目展開上必要とされる事前の知識等の確認のため、2回から3回程度小テストを実施する。小テストの採点は授業内で答え合わせの形式で行い、不足していると思われる事項を直ぐに授業で反映出来るよう計画していく。
なお、前期部分のまとめとして、中間テスト形式の課題を提示する。答え合わせは自己添削形式とし、論述試験の回答方法を併せて学ぶ。	
教科書	
書名：パーソナリティ・プロフィール	著者名：乾原 正・中山 信夫 他
発行所：八千代出版	価格：2,300円(税別)
その他補足事項	
本科目では、コンピュータを用いたスライド(パワーポイント)を中心に展開していく。実習・就職試験等で欠席の場合は、ファイル形式あるいはプリント資料にて配布できるので申し出ること。	

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	認知心理学	授業形態・単位数	講義・4単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名:和田 裕一 本務先:東北大学 職名:准教授	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail:yuwada@cog.is.tohoku.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
公認心理師	〃	〃	
認定心理士	〃	〃	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
われわれは自己をとりまく環境の情報をどのようにして認識し、そこから新しい知識を獲得し、適応的な行動へとつなげているのであろうか。こういった「知のしくみ」を研究する心理学の一分野が認知心理学である。本講義では、人間の認知機能について、以下のトピックを中心に概説する。	<input type="radio"/> A	知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/> C	論理的思考力
	<input type="radio"/> D	文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/> J	多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
認知心理学の代表的な研究テーマに関する研究成果を体系的に学習し、われわれの「知」の仕組みの特性について自分の視点で論じることができるようになる。	目標	A C D J
心理実験のデモンストレーションを体験し、それが何を意味するかについて自分の言葉で説明できるようになる。	目標	A C D
人間の認知機能に関する諸現象とその機序を理解し、われわれの生活とどのように関連するかについての洞察を得る。	目標	A C D

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	イントロダクション －認知心理学とは－	簡単なアンケートを予定	
2	脳の構造と機能 －大脳の基本構造・機能局在－	資料映像(幻肢痛)	
3	脳の構造と機能 －大脳半球の機能差－	簡易実験	確認テストのための復習

4	視知覚のメカニズムと基本的特性 －網膜レベルの処理－	フラッシュ教材(網膜のしくみ)	
5	視知覚のメカニズムと基本的特性 －視覚情報処理経路－	資料映像(視覚情報処理)	
6	知覚の統合作用 －時間的統合作用－	実験デモ(錯視)	
7	知覚の統合作用 －空間的統合作用その1－	実験デモ(錯視)	
8	知覚の統合作用 －空間的統合作用その2－	実験デモ(錯視)	確認テストのための復習
9	情報の符号化と記憶 －感覚記憶－	簡易実験(感覚記憶)	
10	情報の符号化と記憶 －注意による情報選択その1－	実験デモ(変化盲)	
11	情報の符号化と記憶 －注意による情報選択その2－	簡易実験(注意のスポットライト)	
12	情報の符号化と記憶 －短期記憶と情報の符号化－	簡易実験(処理水準)	
13	情報の符号化と記憶 －ワーキングメモリー－	実験デモ(メモリスパンテスト)	
14	情報の符号化と記憶 －エピソード記憶－	資料映像(目撃証言)	確認テストのための復習
15	前期試験		詳細に関して試験の約1ヶ月前に告知するので、試験当日までに各自そのための準備を進めておくことが求められる。
16	情報の符号化と記憶 －意味記憶 その1－	簡易実験(意味的プライミング)	
17	情報の符号化と記憶 －意味記憶 その2－	簡易実験(潜在記憶)	
18	情報の符号化と記憶 －検索と忘却－	実験デモ(TOT現象)	確認テストのための復習
19	高次の認知機能 －心的イメージ－	簡易実験(心的回転)	
20	高次の認知機能 －思考:古典的な思考研究－	思考クイズ	
21	高次の認知機能 －思考:認知心理学的アプローチ－	実験デモ(ハノイの塔の問題空間)	
22	高次の認知機能 －思考:推論と類推－	実験デモ(確率推論)	確認テストのための復習
23	高次の認知機能 －知能:知能の定義と知能検査－		
24	高次の認知機能 －知能:遺伝か環境か－	資料映像(知能テスト)	
25	高次の認知機能 －知能と創造性の関係－	簡易実験(創造性を測る)	確認テストのための復習
26	高次の認知機能 －言語の脳内基盤－		
27	高次の認知機能 －言語の獲得:その1－	資料映像(言葉を話すチンパンジー)	
28	高次の認知機能 －言語の獲得:その2－	資料映像(ことばの不思議)	確認テストのための復習

29	高次の認知機能 －認知と感情－	簡易実験(情動プライミ ング)	
30	これまでの総括とディスカッション		
期末 試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
筆記試験(前期末試験50%・後期末試験50%)の成績に基づいて評価する。ただし、最終的な成績評価には、課題の提出状況や授業時の積極的な発言、発表等への参加態度などが加味される。試験の形式等の詳細については、第1回目の授業時に説明する。			
教科書		参考書	
使用しない。 代替教材として講義毎に資料プリントを配付する。		適宜紹介する。	
その他補足事項			
授業は原則としてパワーポイントによるプレゼン形式で行う。教科書は用いず、毎回、講義資料を配付する。資料映像等のAV教材も利用するが、その内容は授業進度に応じて変わることが予想されるため、授業内容で示した資料名や確認テストの日程等は変更されることがある。また、授業中、その日の授業内容に関連する簡易実験やデモンストレーションを行う場合があるので、積極的な参加・協力をお願いしたい。			

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成30年度

授業科目名	子どもの心理	授業形態・単位数	講義・2単位
		開講年次	2年次
担当教員	職名:教授 氏名: <small>すぎやま</small> 杉山 <small>まさひこ</small> 雅彦	開講期	後期
		授業回数	15回
		期末試験の有無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します E-mail: sugiyama.masahiko@fukushima-college.ac.jp.		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
公認心理師	〃	〃	
認定心理士	〃	〃	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>「子ども」という存在に関して心理学の観点から明確にイメージを持ち、子どもの発達・学習に関して環境が大きな影響を与えることを理解する。その上で子どもが所属集団の意味を理解し、そこで生じる様々な刺激あるいは関係が大きな影響を与えることについて理解を深める。そして子どもの示す様々な行動問題に関してその基本的概要や知識を深めていく。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
心理学の枠組みから子どもを理解する。		目標 A
子どもにとって環境が大きく影響することを、そしてそのことが行動問題に関与していることを検討する枠組みを持てる。		目標 A C J
学校が子どもにとってどう機能するかを理解できる。		目標 A J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標(授業内容) (2) 授業進め方の留意点	授業計画	子どもとはどんな存在かに関する学習
2	子どもとは1 子どもとはどのような存在であるのかの討議	グループでの議論 全体発表 資料配付	子どもに関して再学習 配付資料の学習

3	子どもとは2 子どもとは環境にどのような影響を受けるかどのように行動するか等の討議	グループでの議論 全体発表 資料配付	子どもの環境に関して再学習 配付資料の学習
4	子どもと家庭 子どもにとって家庭あるいは親とは？ストレスとの関連から検討する	子どものストレスに関する議論 資料配付	子どもにとってのストレスに関する学習 母性剥奪の学習
5	母性剥奪 子どもにとっての家庭を理解するため母性剥奪に関して学習し家庭の重要性を認識する	母性剥奪に関する講義 子どもへの影響に関する質疑	授業内容の再学習 配付資料の学習
6	集団という問題 集団のメリットデメリットに関して分析する	集団に関する講義 集団の影響に関する質疑	授業内容の再学習 配付資料の学習
7	幼児期の集団 親から離れるという問題、また関連して母子分離不安に関する検討	親と集団に関する講義と、質疑応答	授業内容の再学習 配付資料の学習
8	学校とは？ 学校に関する討議	グループでの議論 全体発表 資料配付	学校とは何であるかの学習 配付資料の学習
9	教師の存在 教師が学校の中でどのように機能するか等の検討	グループでの議論 全体発表 資料配付	授業内容の再学習 配付資料の学習
10	小学校の機能と子どもの発達 小学校が子どもにどのような影響を与えるのかを年齢を分けて検討する	小学校に関する講義 小学校の中での子どもの行動に関する質疑応答 資料配付	授業内容の再学習 配付資料の学習
11	いじめと学級崩壊 学校の中で生じる問題に関して特にいじめと学級崩壊を取り上げその支援を含めて検討する	いじめと学級崩壊に関する講義、および質疑応答 資料配付	授業内容の再学習 配付資料の学習
12	中学校の機能と子どもの発達 中学校が子どもにどのような影響を与えるのかを年齢を分けて検討する	中学校に関する講義 中学校の中での子どもの行動に関する質疑応答	授業内容の再学習 不登校の学習
13	不登校 学校の中で生じる問題に関して特に不登校を取り上げその支援を含めて検討する	グループでの議論 全体発表 講義 資料配付	授業内容の再学習 粗暴行為の学習
14	粗暴行為 学校の中で生じる問題に関して特に粗暴行為を取り上げその支援を含めて検討する	グループでの議論 全体発表 講義 資料配付	授業内容の再学習
15	子どもとは？まとめ これまでの授業内容を踏まえて、子どもに関してまとめを行う	まとめの講義および質疑 応答	授業内容の再学習
期末試験	期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 筆記試験 80点満点の筆記試験を学年末に実施する (2) 授業中に行うグループワークや質疑応答に関して役割をとれたこと、積極性があること、発表の論理性があることに関して最大3点の加点を行い、合計点、最大20点を筆記試験に加点する			

授 業 科 目 名	青年の心理	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:兼担講師 氏名:八木 ^{やぎ} 孝憲 ^{たかのり}	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
認定心理士	〃	〃	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>青年期は人間の生涯発達の中でも、身体的にも精神的にも著しい変化が生じる時期です。子どもから大人へと移行する境界的な時期であり、様々な経験を通してアイデンティティを達成することが青年期の心理発達の課題とされています。青年期に関連する研究をいくつかのテーマに分けて概観し、『青年とは何か?』ひいては『自分とは何か?』を考えていきたいと思えます。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
青年期の身体的・心理的な特徴について理解する。		目標 A J
生涯発達の視点を踏まえて、青年期の社会的・心理的諸問題についての基礎的な知識を身につける。		目標 A J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 第1回 青年期が生涯発達の中で持つ意味	授業計画 配布資料	
2	第2回 青年期の身体的成熟	配布資料	事前配布資料を読む
3	第3回 青年期の思考と感情	配布資料	事前配布資料を読む
4	第4回 自己意識・アイデンティティ	配布資料	事前配布資料を読む
5	第5回 青年の親子関係	配布資料	事前配布資料を読む
6	第6回 青年のきょうだい関係	配布資料	事前配布資料を読む
7	第7回 青年の友人関係	配布資料	事前配布資料を読む
8	第8回 青年の異性関係	配布資料	事前配布資料を読む

9	第9回 青年の進路と職業選択	配布資料	事前配布資料を読む
10	第10回 青年と社会・政治	配布資料	事前配布資料を読む
11	第11回 青年と価値観・文化	配布資料	事前配布資料を読む
12	第12回 青年期の心理臨床的問題①	配布資料	事前配布資料を読む
13	第13回 青年期の心理臨床的問題②	配布資料	事前配布資料を読む
14	第14回 精神分析的発達理論の基礎	配布資料	事前配布資料を読む
15	第15回 まとめと事例検討	配布資料	事前配布資料を読む
期末試験	期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
1.	筆記試験 語句選択方式のテストを学期末に実施する。	30%	
2.	授業への参加態度・授業ごとのリアクションペーパーによる。	40%	
3.	レポート 課題については授業時に説明する。	30%	

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	老いの心理	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名:岩佐 ^{いわさ} ^{はじめ} 一 本務先:福島県立医科大学 職名:講師	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	E-mail:hajimei@fmua.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>超高齢社会を迎えるなかで、今後、多側面から高齢者を理解することが求められる。身体機能や精神機能の減退に関する知見、高齢者特有の心理に関する知見に加え、高齢者と社会の関わりにも焦点を当て、基礎的知見を整理する。教科書及び配布レジュメを用いて座学中心の講義を行うが、適宜、視聴覚教材の使用、レポート課題の提出を求める。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
<p>高齢期・高齢社会における多様な特性や心理的問題について基礎的知見を学び、最終的に高齢者差別を低減するためにはどうしたら良いのか、学生自身が主体的に考えるための素養を身につけることを目標とする。</p>	目標	A C J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 高齢者・高齢者概論	教科書およびプリント	
2	高齢社会の進展	" 小テスト、答えあわせ	高齢社会の進展に関する復習
3	高齢期の健康と身体疾患	" 小テスト、答えあわせ	高齢者の身体疾病と精神面への影響に関する復習
4	感覚、知覚機能の加齢変化	" 小テスト、答えあわせ	感覚、知覚機能の加齢変化に関する復習
5	高齢者の記憶能力	" 小テスト、答えあわせ	記憶の諸側面に関する復習
6	知能と加齢	" 小テスト、答えあわせ	知能の諸側面に関する復習

7	パーソナリティ	// 小テスト、答えあわせ	パーソナリティに関する復習
8	高齢期における心理的適応	// 小テスト、答えあわせ	高齢期における心理的適応に関する復習
9	高齢期の対人関係・社会生活	// 小テスト、答えあわせ	高齢期の対人関係・家族関係に関する復習
10	現代高齢者のライフスタイル	// 小テスト、答えあわせ	高齢期の健康習慣や余暇活動に関する復習
11	高齢期の生活の質	// 小テスト、答えあわせ	高齢期の要介護化に関する諸問題に関する復習
12	高齢期の精神疾患1	// 小テスト、答えあわせ	認知症をとりまく諸問題に関する復習
13	高齢期の精神疾患2	// 小テスト、答えあわせ	高齢期の抑うつや自殺の問題に関する復習
14	高齢期の精神疾患3	// 小テスト、答えあわせ	高齢期の精神疾患への対応に関する復習
15	本講義のまとめ	// 小テスト、答えあわせ	高齢者差別低減のために身近な取り組みを考える
期末試験	後期末試験(筆記試験)		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評についてメールにて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 筆記試験 50点満点の記述方式のテストを学期末に実施 (2) 小テスト 毎回授業開始時点で、前回学習内容を復習するための小テストを行い、答えあわせを行う。 (3) その他 出席 30%、授業参加の取り組み課題達成状況 20%			
教科書			
書名:「老年心理学(改訂版)」 著者名:下仲順子(編) 発行所:培風館 価格:2,100円(税別)			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	職場の心理	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:准教授 氏名: ^{わたなべ} 渡部 ^{あつこ} 敦子	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail:watanabe.atsuko@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
公認心理師	〃	〃	
認定心理士	〃	〃	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
本授業では、産業領域の心理学について、労働者の心理、組織・集団心理、消費者心理などの観点から概説する。	○	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
産業領域の心理学とはどのようなものか理解する		目標 A
組織・集団における人間行動の特色を理解する		目標 A J
労働にまつわる心理的健康問題と支援の在り方について理解する		目標 A J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 職場の心理(産業・組織心理学)とは何か	シラバス 配布資料	配布資料を読む
2	労働の心理:ワークモチベーションなど	配布資料	配布資料を読む 小テストの予習
3	人事管理:採用面接、人事評価など	配布資料	配布資料を読む 小テストの予習
4	職業心理:キャリア発達、職業発達、職業選択など	配布資料	配布資料を読む 小テストの予習

5	職場の人間関係(1)	配布資料	配布資料を読む 小テストの予習
6	職場の人間関係(2)	配布資料	配布資料を読む 小テストの予習
7	組織心理学(1):コミュニケーション	配布資料	配布資料を読む 小テストの予習
8	組織心理学(2):リーダーシップ、チームワーク	配布資料	配布資料を読む 小テストの予習
9	マーケティングの心理:広告、販売	配布資料	配布資料を読む 小テストの予習
10	消費者心理:意思決定など	配布資料	配布資料を読む 小テストの予習
11	安全・リスク管理	配布資料	配布資料を読む 小テストの予習
12	職場のメンタルヘルス(1):ストレスとストレスマネジメント	配布資料	配布資料を読む 小テストの予習
13	職場のメンタルヘルス(2):心理的支援	配布資料	配布資料を読む 小テストの予習
14	職場のメンタルヘルス(3):ワークライフバランス	配布資料	配布資料を読む 小テストの予習
15	振り返りとまとめ	配布資料	配布資料を読む
期末 試験	期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
期末試験70% 随時行う小テスト30%			
参考書			
書名:よくわかる産業・組織心理学 著者名:山口裕幸・金井篤子編 発行所:ミネルヴァ書房 価格:2,600円(税別)			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	心理診断法実習	授業形態・単位数	実習・2単位
		開 講 年 次	3年次
担 当 教 員	職名:助教 氏名:木村 ^{きむら} 泰博 ^{やすひろ}	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	E-mail:kimura.yasuhiro@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
公認心理師	〃	〃	
認定心理士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>本科目では、心理診断・心理査定の意味、心理的問題を理解する観点と方法について学ぶ。具体的な方法論では各検査の実施法について体験的に学習することはもちろんのこと、解釈とその活用について実践的に学習する。</p> <p>また、心理学の一般的なレポート形式の書き方を習得することを目指す。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
心理診断・心理査定の意味を理解する。	目標	A
心理検査の各種方法を学ぶ。	目標	A B
心理学の一般的なレポート構成に沿ってレポートが書ける。	目標	D

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 評価方法・授業の進め方の留意点		
2	心理的アセスメントの目的及び倫理	パワーポイントを使用した講義	復習) 授業内容の振り返り
3	異常心理学	パワーポイントを使用した講義	復習) 授業内容の振り返り
4	心理的アセスメントの観点及び展開	パワーポイントを使用した講義	復習) 授業内容の振り返り

5	認知機能検査	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
6	レポート作成の方法 レポート作成	講義、レポート作成	レポートを仕上げる
7	知能検査 WISC-IV①	検査実習	知能検査を受ける
8	知能検査 WISC-IV②	検査実習	知能検査を受ける
9	知能検査結果の見方	解釈実習	復習) 授業内容の振り返り
10	レポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
11	質問紙法 QOL、SCI、SRS-18	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
12	質問紙法 SDS、STAI、GHQ-60	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
13	質問紙法 TEG	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
14	質問紙法 YG性格検査	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
15	レポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
16	投影法 SCT①	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
17	投影法 SCT②	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
18	レポート作成	検査実習	レポートを仕上げる
19	投影法 バウムテスト	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
20	投影法 P-Fスタディ①	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
21	投影法 P-Fスタディ②	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
22	レポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
23	投影法 ロールシャッハテスト①	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
24	投影法 ロールシャッハテスト②	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
25	ロールシャッハテストレポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
26	内田クレペリン検査①	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
27	内田クレペリン検査②	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
28	面接法 SCID	DVD視聴	復習) 授業内容の振り返り
29	面接法 MINI	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
30	後期のまとめと振り返り		復習) 授業内容の振り返り
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) レポート(全6回) 60%			
(2) 毎授業ごとのコメントシート 30%			
(3) 授業に臨む姿勢 10%			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	心理統計学	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: <small>わだ ゆういち</small> 和田 裕一 本務先:東北大学 職名:准教授	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail:yuwada@cog.is.tohoku.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
公認心理師	〃	〃	
認定心理士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
心理学を学ぶ上で必要となる統計的手法に関する基礎知識と主要な統計技法について概説する。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
心理学で用いる統計学の基礎知識とその原理について理解し、自分の言葉で説明できるようになる。	目標	A C
心理学実験や調査で扱う種々のデータの解析方法を会得し、データ解析を実践できるようになる。	目標	A B C
表計算ソフトを用いた基本的な統計処理を会得する。	目標	B I

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	イントロダクション ー心理統計学とはー	エクセル実習 (エクセル入門)	
2	データを表現する方法 ー記述統計・尺度水準ー	エクセル実習 (数値計算)	

3	データを表現する方法 －図表化－	エクセル実習(グラフ)	授業時間内に実習課題が終わらなかった受講生は、次回までに各自完成させておくこと(以下同様)。
4	データを要約する方法 －代表値－	エクセル実習 (基本的な関数)	
5	データを要約する方法 －散布度と標準化－	エクセル実習 (分散・標準偏差)	
6	2つの変数の関係を求める －散布図－	エクセル実習(散布図)	相関に関する練習問題のプリント
7	2つの変数の関係を求める －相関－	エクセル実習 (相関係数)	ここまでの範囲の確認テストを実施する予定。
8	標本から母集団を推定する －推測統計とは－	エクセル実習 (不偏分散)	
9	標本から母集団を推定する －標本統計量－	エクセル実習 (標準誤差)	
10	統計学的仮説検定の考え方 －そのロジックとは－		
11	統計学的仮説検定の考え方 －有意水準－		
12	平均を比較する －平均の差の検定その1－	エクセル実習 (母平均と標本平均)	平均の検定に関する練習問題のプリントその1
13	平均を比較する －平均の差の検定その2－	エクセル実習(t検定)	平均の検定に関する練習問題のプリントその2
14	いろいろな統計手法	エクセル実習(種々の統計関数を概観する)	
15	これまでの総括 －要点の整理と総復習－		
期末試験	期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価(評価方法・基準)			
最終的な成績評価は、筆記試験の点数(100%)を基本とするが、学期中に何回か課されるレポートの提出状況や授業への積極的参加態度等を加味して総合的に決定する。なお受講者の人数や状況によっては、評価方法に変更を加える場合がある。詳しくは第1回目の授業時に説明する。			
教科書		参考書	
使用しない。代替教材として講義毎に資料プリントを配付する。		書名:完全独習 統計学入門 著者名:小島寛之 発行所:ダイヤモンド社 価格:1,800円(税別)	
その他補足事項			
本授業は原則としてパワーポイントによるプレゼン形式で行う。教科書は用いず、毎回、講義資料を配付する。各回の授業内容は、進度や状況に応じて変更される場合がある。講義の一部は、表計算ソフト(Excel等)を用いた実習形式で行うことを予定している。PCは大学に準備されているものを使用するが、必要なソフトウェアがインストールされていれば個人所有のノートPCを使用してもよい。受講生は基本的なPC操作(文字入力に困らない程度)が身につけていることが望ましいが、PC操作のスキルを学習する意欲があれば初学者も歓迎する。			

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成30年度

授業科目名	カウニング概論	授業形態・単位数	講義・4単位
		開講年次	2年
担当教員	職名:教授 氏名: ^{すぎやま} 杉山 ^{まさひこ} 雅彦	開講期	通年
		授業回数	30回
		期末試験の有無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します E-mail:sugiyama.masahiko@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
公認心理師	〃	〃	
認定心理士	〃	〃	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
カウニングを学ぶための基礎及び基本姿勢を学び、そこに必要な倫理を身につけていく。援助する上で重要な人間理解の視点を、自己理解と他者理解の側面から（社会的な相互作用という点から）身に付ける。カウニングの対象者である人間を多面的に理解する視点を身に付けることを目指す。	○	A 知識
	○	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
	○	E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
	○	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
心理学的な人間理解に関する視点と知識を持つ。		目標 A B
カウニングの意義や目的方法に関して理解し、社会的相互作用に関して知識を持った上で理解する。		目標 A B L
カウニングの基礎的な技術を模擬的な状況で使用することが出来る。		目標 E J L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標(授業内容) (2) 授業進め方の留意点	授業計画	配付資料(次回授業)の学習
2	コミュニケーションと相互作用 相互作用に関する検討と(資料に関する)討議	会話という相互作用の実施その検討	配付資料の学習

3	話すことと聞くこと (1) 話すことの実習 話すことの困難さ	話をすることを実施し、 その困難性に関する検討	配付資料の学習 話すことの問題点の 検討
4	カウンセリングの必要性 (1) カウンセリングの意味 クライアントから見て何が見えるのか	カウンセリングの意味の 討議	配付資料の学習
5	カウンセリングとは カウンセリングの基礎としての受容と共感	受容と共感の討議	配付資料の学習 自分にとって受容、 共感とは？の検討
6	受容 (1) なぜ受容が必要か (2) 受容がどう機能するか	受容の討議(自分にとつ て受容とは)	配付資料の学習 受容に関してまとめる
7	共感 (1) 共感とは「何をする」ことか (2) 人間関係の重要性	共感の実施、および共感 とは何かの討議	配付資料の学習 共感に関してまとめる
8	傾聴 (1) 傾聴とは何か (2) どうしたら傾聴をしたことになるのか	傾聴の実施、何をするこ とが傾聴なのかの討議	傾聴に関してまとめる
9	ビデオ視聴 グロリアと3人のセラピスト	カウンセリングの場面で 何が起こっていたのかの 討論	カウンセリングとは何 かの印象をまとめる
10	記録をとる カウンセリング場面の記録をとる(文字にする)	3人一組でのカウンセ リング場面の設定	記録の整理
11	心理臨床相談センター見学 院生との討論、倫理面への配慮	見学 院生とカウンセリングに 関して討論、質疑応答	見学のまとめと院生 との討論に関する 整理
12	模擬カウンセリング(1) 3人一組でカウンセリング場面を設定し記録をとる	模擬カウンセリング	記録の整理、分析
13	模擬カウンセリング(2) 3人一組でカウンセリング場面を設定し記録をとる	模擬カウンセリング	配付資料の学習 記録の整理、分析 レポート作成
14	カウンセリングの方法(1) カウンセリングにおける質問	質問に関する討議	配付資料の学習
15	カウンセリングの方法(2) カウンセリングにおける肯定	肯定の意味とは？の討議	配付資料の学習
16	変化することのカウンセリング 変化することの意味	変化とは何かの討議	配付資料の学習
17	困ったことを持つ人の心理	困ったことを持つ人が陥 る心理のグループワーク	まとめ 配付資料の学習
18	援助をするということ、その人にとって援助になるという事	クライアントから見て何 が援助になるかのグルー プワーク	まとめ 配付資料の学習
19	動機づけのカウンセリング カウンセリングを通して変化に動機づけられる過程の 検討	動機づけに関する討議	配付資料の学習 カウンセリングを受 けることに関するま とめ
20	OARS(1) (1) 開かれた質問 (2) 賞賛	方法がどのように機能す るかの討議	配布資料の学習
21	OARS(2) (1) 振り返り (2) 要約	方法がどのように機能す るかの討議	配布資料の学習
22	うつの人へのカウンセリング	カウンセリングプロセス に関する討議	配布資料の学習 カウンセリングプロ セスのまとめ

23	不安が強い人へのカウンセリング	カウンセリングプロセスに関する討議	カウンセリングプロセスのまとめ
24	問題への接近としてのカウンセリングー地域そして人	問題を中核に、カウンセリングプロセスの検討	問題を中核としてカウンセリングプロセスのまとめ
25	変化のためのカウンセリングを維持するために質問や反応の整理	カウンセリングを維持する要因の討論	維持するための方法のまとめ 模擬カウンセリングの準備
26	変化のための模擬カウンセリング(1)	模擬カウンセリング	模擬カウンセリングの記録の整理と分析
27	変化のための模擬カウンセリング(2)	模擬カウンセリング	配布資料の学習 模擬カウンセリングの記録の整理と分析
28	初期カウンセリングと変化のためのカウンセリング(1) 初回から問題解決までのプロセスを検討する	出会いからのカウンセリングに関する討論	配布資料の学習 カウンセリングの過程のまとめ
29	初期カウンセリングと変化のためのカウンセリング(2) 変化のためのサポートとして何が必要か検討する	変化のための条件に関する討論	サポートに関するまとめ
30	まとめ	カウンセリングの意味についての討論	まとめ
期末試験	期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 筆記試験 40点満点の筆記試験を学年末に実施する (2) レポート 前期の模擬カウンセリング、後期の変化のための模擬カウンセリングに関して記録と分析をレポートとして提出する。各30点満点で採点する			
その他補足事項			
教科書、参考書は使用しない。			

授 業 科 目 名	カウ ン セ リ ン グ 演 習	授 業 形 態 ・ 単 位 数	演 習 ・ 4 単 位
		開 講 年 次	3 ・ 4 年 次
担 当 教 員	職 名 : 教 授 氏 名 : <small>すぎやま</small> 杉 山 <small>まさひこ</small> 雅 彦	開 講 期	通 年
		授 業 回 数	30 回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オ フ ィ ス ア ワ ー に つ い て は 初 回 授 業 時 に 説 明 し ま す 。 E-mail : sugiyama.masahiko@fukushima-college.ac.jp		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒 業	専 門 教 育 科 目	選 択	
認 定 心 理 士	//	//	

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 と の 対 応 項 目	
<p>大きく授業の前半と後半に分ける。前半ではカウンセリングに関して基本的理解と、カウンセリングを進めていくための考え方（理論も含む）や方法そしてその適用に関して検討を進めていく。後半では、カウンセリングを中核に、認知行動療法に関して様々な問題に関しての適応を中心として学習していき、心理的な支援とは何か、またクライアントさんから見て支援はどう見えているのかに関して理解を深めていく。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受 講 し て 得 ら れ る 力)	
<p>カウンセリングが「困ったこと」を抱えている人をサポートするものであることを理解し、そのために何が行われるか（方法）どんなことを目指して行われるか（目的）を理解する。</p>	目 標	A B C
<p>模擬カウンセリングの場面において、カウンセリングの基礎を理解の上、方法を用いることが出来る。</p>	目 標	B C E J K L
<p>問題に関して自ら学習し、それを発表あるいは傾聴し、質疑応答をする中で、理解を深める</p>	目 標	C I J K

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ・ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 、 使 用 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	<p>オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (授業内容) (2) 授業進め方の留意点</p>	授業計画	
2	<p>初期カウンセリング (1) 関係の形成 (2) 関係の形成のための条件</p>	<p>カウンセリングを希望する方の特徴に関して討論</p>	<p>配付資料の学習 授業のまとめ</p>

3	受容と共感 (1) 受容の意味 (2) 共感の意味	受容と共感とは何か、討論	受容と共感をイメージ化する
4	受容と共感のワーク	グループで受容と共感を相互作用内で実施、それに関する討論	配付資料の学習受容と共感、そして討論のまとめ
5	傾聴 傾聴の意味	傾聴とは何か、討論	傾聴をイメージ化する
6	傾聴のワーク	グループで受容と共感を相互作用内で実施、それに関する討論	配付資料の学習傾聴、そしてその討論のまとめ
7	初期カウンセリングに関する模擬カウンセリング(1)	グループ内で模擬カウンセリング、その記録と討論	記録の整理と分析
8	初期カウンセリングに関する模擬カウンセリング(2)	グループ内で模擬カウンセリング、その記録と討論	配付資料の学習記録の整理と分析、レポート作成
9	変化に向かう方法としての動機づけカウンセリング (1) 変化に向かうことの難しさ	変化に関する討論	配付資料の学習
10	動機づけカウンセリングの方法 (2) 反応の拡大と質問 クライアントの努力とサポート、賞賛	クライアントをサポートするとはどういうことか、討論	配付資料の学習サポートに関するまとめ
11	動機づけカウンセリングの方法から変化へ (3) 振り返る 要約	クライアントが決断に至るとはどういった過程か討論	配付資料の学習変化への動機づけの分析
12	変化へのサポートと決断 決断への方法	変化する事への抵抗の討論	変化の分析とまとめ
13	変化への模擬カウンセリング(1)	グループ内で模擬カウンセリング、その記録と討論	記録の整理と分析
14	変化への模擬カウンセリング(2)	グループ内で模擬カウンセリング、その記録と討論	記録の整理と分析 レポート作成
15	クライアントをサポートするとは？ 認知行動療法の基礎	サポートするとはどういう機能かの討論	カウンセリングに関するまとめ
16	問題が改善するとは	18回以降の発表に関する分担決定	発表の準備
17	問題が改善するための基本アプローチ (1) 行動の改善 カウンセリングと認知行動療法	変化するとはどういうことかの討論	発表の準備
18	状況別の変化へのカウンセリングー発表(1)	発表とそれに関する討論	発表の準備、レポートの準備、まとめ
19	状況別の変化へのカウンセリングー発表(2)	発表とそれに関する討論	発表の準備、レポートの準備、まとめ
20	状況別の変化へのカウンセリングー発表(3)	発表とそれに関する討論	発表の準備、レポートの準備、まとめ
21	状況別の変化へのカウンセリングー発表(4)	発表とそれに関する討論	発表の準備、レポートの準備、まとめ
22	状況別の変化へのカウンセリングー発表(5)	発表とそれに関する討論	発表の準備、レポートの準備、まとめ
23	状況別の変化へのカウンセリングー発表(6)	発表とそれに関する討論	発表の準備、レポートの準備、まとめ
24	状況別の変化へのカウンセリングー発表(7)	発表とそれに関する討論	発表の準備、レポートの準備、まとめ
25	状況別の変化へのカウンセリングー発表(8)	発表とそれに関する討論	発表の準備、レポートの準備、まとめ
26	状況別の変化へのカウンセリングー発表(9)	発表とそれに関する討論	発表の準備、レポートの準備、まとめ

27	状況別の変化へのカウンセリングー発表(10)	発表とそれに関する討論	発表の準備、レポートの準備、まとめ
28	カウンセリングが出来ること カウンセリングおよび認知行動療法の機能の分析	カウンセリングの機能に関する討論	まとめ
29	認知行動療法が考えなければならないこと 機能するための方法	方法に関する討論	まとめ 配付資料の学習
30	まとめとして～ケーススタディ	ケースに関する討論	カウンセリングが役に立つためにどう考えれば良いかのまとめ
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) レポート	前期の模擬カウンセリングに関して記録と分析をレポートする。また後期の発表に関して、発表終了後、そこでの討論を含めてレポートする。二つのレポートをそれぞれ各40点で評価する。		
(2) 発表	後期の発表に関して、その内容および質疑の応答に関して評価する。発表したものに関して理解できているか(質問された際に答えることが出来るか)、説明は明瞭であったか、参考文献の提示は適切であったかに関して20点満点での評価を行う。		
その他補足事項			
教科書参考書は使用しません。			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	心理学実験	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{うめみや} 梅宮 れいか	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	なし
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーを設けています。授業初回に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
公認心理師	〃	〃	
認定心理士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>この授業は、心理学の古典的実験や心理現象の解釈を実際に行うことで、“因果関係”を使って物事を説明する考え方と、それを科学的に記述する方法を学びます。</p> <p>きちんとした形のレポートに仕上げるトレーニングで、科学的な考え方や記述の仕方を身に付ける授業です。</p> <p>また、グループで実験を行うことで、協同してもの考えるトレーニングも行います。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
古典的な心理学実験について理解する	目標	A
論理的な思考を進める技術を学ぶ	目標	B
条件と因果を使った説明ができるようにする	目標	C
筋の通った表現でレポートが書けるようにする	目標	D
協同して課題に取り組むことができるようにする	目標	G

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	モデル設計の基礎	VTR「割れるガラス」 28分	視聴したビデオ内容と、授業内で行った解説をまとめておく。
2	因果関係と独立変数、従属変数	VTR「超常現象科学者たちの挑戦」前半23分 グループワーク	教科書P.3-10

3	実験計画 レポート「科学者たちは何を証明しようとしたのか？」	VTR「超常現象科学者たちの挑戦」後半25分 グループワーク	教科書P.11-16
4	レポートの作成 レポートの提出	グループワーク	観点にしたがって資料のまとめ レポートの作成
5	レポートの講評と模範例の解説	講義・ディスカッション	模範例を元に自分のレポートを修正する
6	仮説と証明	VTR「CSI:NY」25分	レポートの作成
7	基礎統計量のまとめ方 データの意味と統計量 データのまとめ方 (EXCELを使った統計)	講義	教科書P.39-46 およびP.107-112
8	皮膚感覚(識別能)の実験	グループワーク 実験の実施	教科書P.28-38
9		グループワーク 実験の実施	レポートの作成
10		グループワーク 実験の実施	レポートの作成
11	実験結果を基にレポートを作成する 作成途中で1回のレポート添削をおこなう	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	レポートの作成
12	レポートの作成 レポートの提出	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	レポートの作成
13	レポートの講評と模範例の解説	講義・ディスカッション	模範例を元に自分のレポートを修正する
14	ミュラー・リヤー錯視の実験	グループワーク 実験の実施	教科書P.17-28
15		グループワーク 実験の実施	レポートの作成
16		グループワーク 実験の実施	レポートの作成
17	実験結果を基にレポートを作成する 作成途中で1回のレポート添削をおこなう	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	レポートの作成
18	レポートの作成 レポートの提出	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	レポートの作成
19	レポートの講評と模範例の解説	講義・ディスカッション	模範例を元に自分のレポートを修正する
20	パーソナルスペースの実験	グループワーク 実験の実施	教科書P.81-106
21		図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	レポートの作成
22			レポートの作成
23	実験結果を基にレポートを作成する 作成途中で1回のレポート添削をおこなう		レポートの作成
24	レポートの作成 レポートの提出	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	レポートの作成
25	レポートの講評と模範例の解説	講義・ディスカッション	模範例を元に自分のレポートを修正する
26	SD法によるイメージ測定と因子分析	グループワーク 実験の実施	配付資料の実験マニュアルに従う
27	実験結果を基にレポートを作成する	SASを使った統計処理と レポートの作成	レポートの作成
28		SASを使った統計処理と レポートの作成	レポートの作成

29	レポートの作成 レポートの提出		SASを使った統計処理と レポートの作成	レポートの作成
30	レポートの講評と模範例の解説	↓		
期末 試験	なし			
期末試験の講評				
最終レポートの詳しい講評は、希望者にオフィスアワーで行います。				
到達度の評価（評価方法・基準）				
レポート各15点×6=90点、ディスカッション=5点、学習の熱心さ=5点の計100点満点で評価。なお、授業実施規定に則った減点がなされる場合がある。				
教科書				
書 名:「心理学実験法・レポートの書き方」 著者名:西口利文・松浦均 編集 発行所:ナカニシヤ出版 価格:2,200円+税				
その他補足事項				
この授業は、小グループで与えられた課題を行い、考察を含めたレポートとして提出しなければなりません。そのため、実験レポートの制作で文献の検索とグループでの実験結果の検討が必要となります。ただ実験をするだけでなく、レポートを作るうえでおこなう、担当教員との質疑応答や図書館での文献検索、グループでの作業、ディスカッションを通して身に付く論理性の学習を重視して行います。				

授 業 科 目 名	社会心理学	授業形態・単位数	講義・4単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:准教授 氏名: ^{わたなべ} 渡部 ^{あつこ} 敦子	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail:watanabe.atsuko@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
認定心理士	〃	〃	
公認心理師	〃	〃	

授業の概要	授業の概要との対応項目		
<p>社会心理学とは、人間の社会的行動について、個人的要因と状況的要因に着目しつつ、その法則を見出そうとする学問である。本講義では、社会心理学の基本的な考え方と主な理論について、個人の認知過程から集団の影響過程に渡り概説する。</p>	○	A	知識
		B	技術・技能
	○	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
社会心理学とはどのような学問か説明できる		目標	A
社会心理学における主な理論と概念について理解する		目標	A J
社会における様々な事象を、社会心理学の概念を用いて考察できる		目標	A C

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 社会心理学とはどのような学問か	シラバス 配布資料	
2	対人認知(1) 印象形成と認知の歪み	配布資料 グループワーク	配布資料を事前に読む
3	対人認知(2) ステレオタイプ	配布資料 グループワーク	配布資料を事前に読む
4	社会的推論 帰属理論	配布資料	配布資料を事前に読む

5	態度 認知の一貫性、説得的コミュニケーション	配布資料 ワーク	配布資料を事前に 読む
6	感情(1) 恥、妬み、不安	配布資料	配布資料を事前に 読む
7	感情(2) 罪悪感、孤独	配布資料	配布資料を事前に 読む
8	自己認知 アイデンティティ	配布資料	配布資料を事前に 読む
9	自己評価と自尊感情 社会的比較	配布資料	配布資料を事前に 読む
10	自己と動機付け	配布資料	配布資料を事前に 読む
11	さまざまな自己 マインドコントロール、自己愛	配布資料	ここまでの資料を読 み返しておく
12	対人行動(1) 自己開示、自己呈示	配布資料 グループワーク	配布資料を事前に 読む
13	対人行動(2) 援助行動	配布資料	配布資料を事前に 読む
14	対人行動(3) 攻撃、排斥と受容	配布資料	配布資料を事前に 読む
15	まとめと振り返り	配布資料	前期の資料を読み不 明点を確認しておく
16	人間関係(1) 親密な関係の形成と維持、透明性の錯覚	配布資料	配布資料を事前に 読む
17	人間関係(2) 対人葛藤、対人ストレス	配布資料	配布資料を事前に 読む
18	人間関係(3) 恋愛	配布資料	配布資料を事前に 読む
19	対人コミュニケーション(1) 言語・非言語コミュニケーション	配布資料	配布資料を事前に 読む
20	対人コミュニケーション(2) ソーシャルスキル	配布資料 グループワーク	配布資料を事前に 読む
21	対人コミュニケーション(3) さまざまなコミュニケーション	配布資料	配布資料を事前に 読む
22	集団と個人(1) 集団アイデンティティ、他者存在の影響	配布資料	配布資料を事前に 読む
23	集団と個人(2) 意思決定、ダイナミックス	配布資料	配布資料を事前に 読む
24	集団と個人(3) 傍観者	配布資料	配布資料を事前に 読む
25	集団と個人(4) チームワーク、リーダーシップ	配布資料	配布資料を事前に 読む
26	群衆 うわさ、流行、メディアコミュニケーション	配布資料	配布資料を事前に 読む
27	文化と人間 集団主義と個人主義、異文化適応	配布資料	配布資料を事前に 読む
28	健康(1) ストレス、ソーシャルサポート	配布資料 ワーク	配布資料を事前に 読む
29	健康(2) 感情労働とバーンアウト	配布資料	配布資料を事前に 読む
30	まとめと振り返り	配布資料	これまでの配布資料 を読み直しておく
期末 試験	期末筆記試験		

期末試験の講評
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。
到達度の評価（評価方法・基準）
前後期末試験60% 随時行う小テスト合計20% 随時行うワークについての小レポート20%
参考書
書名:よくわかる社会心理学 著者名:山田一成・結城雅樹・北村英哉 発行所:ミネルヴァ書房 価格:2,700円(税別)

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	障害児・者への心理援助	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{いたがき} 板垣 ^{けんたろう} 健太郎	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	「授業説明」時に説明		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
認定心理士	〃	〃	
公認心理師	〃	〃	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
心身障害（児・者）の行動特徴、原因、および心理臨床的アプローチを中心とする援助方法について概説する。	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
障害の概念や分類について基礎的なことを理解する。	目標	A
障害の行動特徴、原因、援助について基礎的な知識を得る。	目標	A J
家族や保護者への援助についての考え方を知る。	目標	A C
障害の受容とその援助について理解する。	目標	A C
援助者自身が抱える問題や課題があることを知る。	目標	A J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業説明 障害(児・者)の概念		「要約集」による復習
2	障害の分類と種類 主な障害①知能障害、視覚障害、聴覚障害		「要約集」による予習・復習
3	主な障害②運動障害、言語障害 発達障害		〃
4	自閉症スペクトラム障害①VTRに見るその姿	VTR「心の窓を開け翔くん」(45分)	〃

5	自閉症スペクトラム障害②行動特徴 自閉症スペクトラム障害③原因		〃
6	自閉症スペクトラム障害④VTRに見るその心理		〃
7	自閉症スペクトラム障害⑤援助原理	VTR「ようこそ私の世界へ」(50分)	〃
8	自閉症スペクトラム障害⑥VTRに見る援助の実際		〃
9	知的障害①概念、定義、原因	VTR「お仕事がんばります」(60分)	〃
10	知的障害②程度による分類		〃
11	知的障害③援助原理		〃
12	注意欠陥多動性障害		〃
13	障害の受容と家族援助		〃
14	問題行動の捉え方と対応		〃
15	援助をめぐる諸問題		「要約集」による予習・復習
期末試験	期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
<ul style="list-style-type: none"> ・期末に試験(100点満点の筆記試験)を実施。 ・期末試験の評価に、遅刻、早退、欠席による減点、質問応答による加・減点を総合し評価する。 			
教科書		参考書	
なし。		必要に応じ紹介。	
その他補足事項			
教科書は使いませんが、予習・復習用に、授業内容をまとめた「要約集」を配布します。			

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成30年度

授業科目名	犯罪行動と心理(2年次以上)	授業形態・単位数	講義・2単位
		開講年次	2年次以上
担当教員	職名:准教授 氏名:黒津 康司	開講期	後期
		授業回数	15回
		期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては、初回授業時に説明する。 E-mail:kurotsu.kouji@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
公認心理師	〃	〃	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>犯罪は、我々の日常生活において身近なものであり、不幸にして犯罪の被害に遭う方も少なくない。また、福祉等の現場においても「犯罪事象」はしばしば見られる厄介かつ深刻な出来事である。このため、日常的に発生しているさまざまな犯罪を我々の日常生活における重要な政策課題としてとらえ、「福祉と犯罪」をキーワードに、犯罪(少年非行を含む。)の現状、犯罪に係る法知識、福祉社会に潜む(或いは顕在化している)犯罪事象等、犯罪に関するさまざまな基礎知識を習得することを目標とする。本授業は、「犯罪行動と心理演習」と連動している授業である。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
福祉心理学科の学生として、福祉等に関連する犯罪事象及び関連する法手続等についての知識を身につけることができる。	目標	A C D K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	1 オリエンテーション ～「犯罪行動と心理」において何を学ぶか? (1) 授業概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他(受講時の留意点等) 2 犯罪とは何か? (1) 犯罪の定義と成立要件 (2) 犯罪がもたらすもの	○授業計画 ・各回ともレジュメ、参考資料を配布して行う。 ・発表も求める。 ・適宜DVDを使用する。	○日々の犯罪報道に関心を持ち、授業内容との関連性を考える習慣を身につけること。 ○次回のテーマについては事前に指示するので、予習をし、意見をまとめておくこと。 ○配布した資料は必ず読了すること。

2 3 4 5	1 犯罪者(非行少年)はどのように処罰(処遇)されるのか。 ～成人犯罪者の刑事手続 ～非行少年の保護手続 2 福祉と関わりの深い犯罪者等処遇機関 * 4回続けて実施	・講義 ・「刑事訴訟法」「少年法」(小六法) ・各種公刊資料	○日本の刑罰の種類について調べておくこと。 ○別途指示する少年事件の審判経緯について調べ、非行少年の保護手続を事前学習のこと。
6 7	○犯罪の現状 ～指数治安・体感治安を巡る諸問題 ・日本における犯罪の現状 ・福祉に関連する犯罪の現状 ・家事事件の現状 ・犯罪の現状分析に基づく社会安全政策的課題 * 2回続けて実施	・講義 ・「警察白書」「犯罪白書」 ・各種統計資料	配布資料(「警察白書」の抜粋等)を事前学習のこと。
8 9	○福祉社会に潜む「事件」について考える(1) ～高齢者はなぜ詐欺の被害に遭うのだろうか? ・高齢者の犯罪被害の現状 ・振込め詐欺の実態とその対策 * 2回続けて実施	・講義 ・配付資料 ・レポートの発表と討議	事前に授業で討議するテーマを指示するので、発表レポートを作成しておくこと。
10 11	○福祉社会に潜む「事件」について考える(2) ～君たちの現場には虐待されている多くの子どもたちがいる ・児童虐待の現状と対策 * 2回続けて実施	・講義 ・配付資料 ・DVD(20分) ・「児童を虐待の被害から守るために」 ・レポートの発表と討議	事前に授業で取り上げる事件を指示するので、調べておくこと。
12 13	○福祉社会に潜む「事件」について考える(3) ～暴力に怯える女性たち ・DV犯罪の態様と現状 ・DV犯罪への対応 * 2回続けて実施	・講義 ・配付資料	近年社会的問題となったDV事案の概要について調べておくこと。
14	○犯罪被害者等に対する支援(1) ・犯罪被害者等基本法ができるまで ・犯罪被害者等支援の現状	・講義 ・配付資料	犯罪被害者等支援に関係するいくつかの事件を指示するので、調べておくこと。
15	○犯罪被害者等に対する支援(2) ～犯罪被害者等と向き合う人たち(ゲストスピーカー) ・犯罪が被害者等にもたらすものについて考える ・被害者等が抱える様々な問題 ・警察における犯罪被害者支援の実際	関係する専門職員(警察職員を予定)による特別授業を受け、その後意見交換を行う。	○事前にゲストスピーカーの業務内容等について調べ、質問事項を整理して臨むこと。 ○受講後レポートを提出すること。
到達度の評価(評価方法・基準)			
100点満点とし、その割合は、小論文・レポートの結果:70%、ミニテストの結果:30%とする。 (1)小論文・レポート:授業内容に沿って3回くらい課題を与えて行う。課題との整合性、構成、独創性、文法等を採点の基準とし、S～Dの5段階で評価する。 (2)ミニテスト: 授業内容の理解度を確認するため、4～5回行う。問題との整合性、構成、文法等を採点の基準とし、S～Dの5段階で評価する。 (3)その他: 遅刻、欠席、受講態度、発表姿勢等評価に関わるその他の詳細については、初回授業時に説明する。			

教科書	参考書
使用しない	1 書名:犯罪心理学(朝倉心理学講座18) 著者名:越智啓太(編) 発行所:朝倉書店 価格:3,400円(税別) 2 書名:犯罪心理学(心理学の世界専門編4) 著者名:大淵憲一 発行所:培風館 価格:2,400円(税別) 3 書名:犯罪・非行の心理学 著者名:藤岡淳子(編) 発行所:有斐閣ブックス 価格:2,200円(税別)
その他補足事項	
(1)「受講ノート」は必ず用意し、毎回の受講後確実に整理すること(質の高いノートの作成に努めること)。 (2)授業順序及び内容は、学生の理解の進捗、ゲストスピーカーの都合、大学行事等により、変更する場合があります。	

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	犯罪行動と心理演習	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:准教授 氏名:黒津 ^{くろつ} 康司 ^{こうじ}	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては、初回授業時に説明する。 E-mail:kurotsu.kouji@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>「福祉と犯罪」をキーワードに、実際に起きた事件を取り上げ、犯罪を惹起させた原因、犯罪行動に至る心理状況、事件の背景に見えてくるさまざまな政策課題等、福祉社会に潜む（或いは顕在化している）犯罪に関連する諸問題について考える。学生は、課題について研究、発表、討議等を行いながら理解を深める。</p> <p>ゲストスピーカーによる特別授業も行う予定である。また、半期ごとに、警察、行刑等の関係機関を見学し、授業で学んだ知識等が実務上どのように反映されているのかを体験する。</p> <p>本授業は、「犯罪行動と心理」と連動している授業であるが、「犯罪行動と心理」を履修していない者であっても理解できるように全体を構成している。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
課題についての研究、発表、討議等を通して、考察力、論文(レポート)作成能力、プレゼンテーション能力等を高めることができる。	目標	A C D I K
福祉社会に潜む(或いは顕在化した)実際の事件を研究課題とすることから、事件の背景に見えてくるさまざまな福祉的政策課題について考えることができる。	目標	A C D I K
演習を通じて、犯罪を予防する(惹起させない)社会システムの重要性、刑事政策と福祉政策との連携のあり方等について理解を深めることができる。	目標	A C D I K
関係機関を見学することにより、福祉的支援との連携について考えることができる。	目標	A D J L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	1 オリエンテーション ～「犯罪行動と心理演習」において何を学ぶか？ (1) 授業概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他(受講時の留意点等) 2 事件から「社会」を考える(1) ～高齢者はなぜ万引をするのだろうか？① ・高齢社会の現状と展望 ・高齢者犯罪の現状	○授業計画 ・各回ともレジュメ、参考資料等を配布して行うが、演習であるので、学生の発表と討議を中心に授業を進める。	○日々の犯罪報道に関心を持ち、授業内容との関連性を考える習慣を身につけること。 ○研究課題は事前に指示するので、必ず予習をし、意見・発表内容等をまとめておくこと。 ○配布した資料は必ず読了すること。
2 3 4	～高齢者はなぜ万引をするのだろうか？② ・高齢者万引の現状 ・高齢者万引の行動と心理 *3回続けて実施	・配付資料 ・レポートの発表と討議 ・解説	事前に研究テーマを指示するので、発表レポートを作成しておくこと。
5 6 7	○事件から「社会」を考える(2) ～精神障害者による放火事件の背景に見えるもの ・放火犯の心理特性 ・責任能力・精神鑑定を巡る問題 *3回続けて実施	・配付資料 ・レポートの発表と討議 ・解説	事前に研究テーマを指示するので、発表レポートを作成しておくこと。
8 9 10	○事件から「社会」を考える(3) ～「累犯障害者」を読む ・累犯者の現状 ・累犯者支援と課題 *3回続けて実施	・配付資料 ・レポートの発表と討議 ・解説	事前に「累犯障害者」(山本謙司)を読み、発表レポートを作成しておくこと。
11	○犯罪者等の処遇に携わる機関の実際(1) ～犯罪者と向き合う人たち(ゲストスピーカー①) ・更生保護の現状と課題 ・犯罪者の社会復帰支援について考える	関係する専門職員(保護観察官を予定)による特別授業を受け、その後討議(意見交換)を行う。	○事前にゲストスピーカーの業務内容等について調べ、質問事項を整理して討議に臨むこと。 ○受講後レポートを提出すること。
12 13 14	○事件から「社会」を考える(4) ～会社員はどうして魔がさしたのだろうか？ ・日常生活に潜む“転落”の危険 ・“陥穽”の理論、犯罪機会論 *3回続けて実施	・配付資料 ・レポートの発表と討議 ・解説	事前に研究テーマを指示するので、発表レポートを作成しておくこと。
15 16	○犯罪者等の処遇に携わる機関の実際(2) ～彼らはどのようなところで過ごしていたのか？ ・刑事施設等関係機関の見学(施設見学①) ・刑事施設等の現状と課題 ・担当職員との意見交換 *2コマをまとめて実施	刑事施設等(刑務所、少年鑑別所等を予定)を見学し、その後担当職員による特別授業を受け、討議(意見交換)を行う。	○事前に見学先の業務内容等について調べ、質問事項を整理して見学に臨むこと。 ○見学後レポートを提出すること。
17 18 19 20 21	○事件から「社会」を考える(5) ～無差別殺人事件の背景に見えるもの ・被疑者の人生のアウトライン ・犯行動機等 ・犯罪・非行理論との関係 *5回続けて実施	・配付資料 ・レポートの発表と討議 ・解説	事前に研究テーマを指示するので、発表レポートを作成しておくこと。

22 23	○事件から「社会」を考える(6) ～死刑制度を巡る諸問題 ・死刑・無期刑・いわゆる「終身刑」を考える *前項「事件から『社会』を考える(5)」の進み具合によっては、犯罪・非行理論を継続する場合がある。 *2回続けて実施	・配付資料 ・レポートの発表と討議 ・解説	事前に研究テーマを指示するので、発表レポートを作成しておくこと。
24 25	○事件から「社会」を考える(7) ～組織ぐるみで犯罪を行うとき ・ホワイト・カラー犯罪とは？ ・組織人として荷担する心理 *2回続けて実施	・配付資料 ・レポートの発表と討議 ・解説	事前に研究テーマを指示するので、発表レポートを作成しておくこと。
26 27 28	○警察も福祉も人を相手とする仕事である ～捜査員の面接技術に学ぶ ・認知面接と司法面接 ・取調べの実際 ○犯罪者等の処遇に携わる機関の実際(3) ～どのようにして子どもから話を聞くのか？(ゲストスピーカー②) *3回続けて実施	・配付資料 ・レポートの発表と討議 ・解説 ○関係する専門職員(県警察心理研究員を予定)による特別授業を受け、その後討議(意見交換)を行う。	○事前に研究テーマを指示するので、質問事項等を整理して討議に臨むこと。 ○受講後レポートを提出すること。
29 30	○犯罪者等の処遇に携わる機関の実際(4) ～科学捜査とは何か？ ・捜査機関の見学(施設見学②) ・捜査機関における犯罪心理学活用の実際 ～プロファイリングとポリグラフ検査 ・担当職員との意見交換 *2コマをまとめて実施	捜査機関(科学捜査研究所を予定)を見学し、その後専門研究員による特別授業を受け、討議(意見交換)を行う。	○事前に見学先の業務内容等について調べ、質問事項を整理して見学に臨むこと。 ○見学後レポートを提出すること。

到達度の評価 (評価方法・基準)

100点満点とし、その割合は、前期小論文:30%、後期小論文:40%、その他のレポート提出、プレゼンテーション及び討議態度:30%とする。

(1) 前・後期小論文:前期・後期の終了時に、期末試験に替えて、まとめとしての小論文を提出してもらう。小論文の課題は、授業内容に沿った自由課題とする予定である。課題との整合性、構成、独創性、文法等を採点の基準とし、S～Dの5段階で評価する。

(2) レポート、プレゼンテーション及び討議態度:研究課題については、その都度指示するが、レポートは、発表者に限らず全員に提出してもらう。レポートは、課題との整合性、構成、独創性、文法等を採点の基準とし、S～Dの5段階で評価する。

また、発表者については、プレゼンテーション力を評価し、発表後の討議への参加態度については、全員を評価する。

(3) その他:遅刻、欠席、受講態度、発表姿勢等評価に関わるその他の詳細については、初回授業時に説明する。

教科書	参考書
使用しない	1 書名:犯罪心理学(朝倉心理学講座18) 著者名:越智啓太(編) 発行所:朝倉書店 価格:3,400円(税別) 2 書名:犯罪心理学(心理学の世界専門編4) 著者名:大淵憲一 発行所:培風館 価格:2,400円(税別) 3 書名:犯罪・非行の心理学 著者名:藤岡淳子(編) 発行所:有斐閣ブックス 価格:2,200円(税別)

その他補足事項

- (1) 学外研修(施設見学)やゲストスピーカーによる特別授業も組み込まれているため、授業内容は年間を通じて変化に富んでおり、興味深く履修できる。ただし、演習形式で行うため、履修者は、意欲を持って、授業に積極的かつ自主的に参加することが望まれる。
- (2) 「受講ノート」は必ず用意し、毎回の受講後確実に整理すること(質の高いノートの作成に努めること)。
- (3) 授業順序及び内容は、見学先・ゲストスピーカーの都合、討議の展開、学生の理解の進度等により、変更する場合もあり得る。
- (4) 学外研修(施設見学)は、見学先の都合によりできない場合もあり得るので、あらかじめ承知しておくこと。
なお、学外研修の際かかる交通費(往復のバス代)は、学生の自己負担とする。

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	癒しと心	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{うめみや} 梅宮 れいか	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別
卒業		専門教育科目	選択

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>ストレスと人体、社会生活との関係を理解し、ストレスマネジメントの方略について学ぶ。 授業は前半を知識習得の授業、後半をその知識を図書館を活用して発展させる授業とする。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
ストレスに関する正確な知識を身に付ける	目標	A
ストレスマネジメントの初歩的な方略を身に付ける	目標	B
グループワークで課題に取り組み、問題解決の提案ができるようになる	目標	G L
まごころを持って、癒しを提供できるセンスを磨く	目標	H L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	癒しの定義 ～いやしの予防医学的位置づけの講義	授業ノートをつくりかたの説明	通常のノートを用意すること
2	ストレス理解の基礎 ～ホメオスタシスが人を守る	VTR NHK「生命」20分	用語の理解
3	ストレスと自律神経 ～ストレスが生まれるシステム	VTR「キラーストレス」15分	ノートの整理と用語の発展的学修
4	ストレスと生活習慣病 ～ストレスが生活習慣病を作り出す	VTR「ストレスの不思議」20分	ノートの整理と用語の発展的学修
5	ストレスと老化 ～ストレスホルモンと老化、がんの関係	VTR「ストレスと老化」15分	ノートの整理と用語の発展的学修
6	ストレスと健康格差 ～経済力と健康について	VTR「現代社会とストレス」30分	ノートの整理と用語の発展的学修

7	アロマセラピー ～アロマセラピーの歴史、香料の抽出方法 (ワーク)レポートの作成	VTR「香料抽出法」20分 図書館を使った調べ学習 レポートの作成	レポート作成
8	アロマセラピーの手技 ～芳香浴、室内環境での活用法 (ワーク)レポートの作成	図書館を使った調べ学習 レポートの作成	レポート作成
9	ユマニチュード ～最新のストレス対処法 1	VTR「ユマニチュード」 20分	レポートの提出 ノートの整理と用語 の発展的学修
10	PTSDとEMDR ～最新のストレス対処法 2	VTR「PTSD イラク帰 還兵」20分	ノートの整理と用語 の発展的学修
11	マインドフルネス ～最新のストレス対処法 3	VTR「キラーストレス」 15分	ノートの整理と用語 の発展的学修進め る
12	痛みと癒し	VTR「痛みからの解放」 20分 グループワーク	ノートの整理と用語 の発展的学修
13	死と癒し	VTR「私たちと生病老死」 20分 グループワーク	総合レポートのテー マについて調べ始 める
14	総合レポートの作成		レポート作成
15	総合レポートの作成		レポート作成・提出
期末 試験	なし		
期末試験の講評			
希望者には総合レポートの講評について、オフィスアワーを通じておこないます。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
中間レポート＝40点、総合レポート＝50点、授業中の積極性＝10点（減点法）の計100点満点で評価する。な お、授業実施規定による減点をする場合がある。			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	心理療法	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名:星野 仁彦 <small>ほしの よしひこ</small>	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
各種の精神障害、特に児童・思春期・青年期の心理療法と発達障害の心理療法、「広義の心理療法」としての家族療法、行動療法、集団心理療法、などについても教授。	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
児童・思春期・青年期の心理療法を学ぶ	目標	A H J K
家族療法と家族の療育指導を学ぶ	目標	A C J L
行動療法・認知行動療法を学ぶ	目標	A D K L
集団心理療法、集団家族療法を学ぶ	目標	C D K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	行動療法(オペラント、系統的脱感作、モデリングなど)	資料とレジュメ	豆テストを実施するので毎回授業内容を復習しておくこと。テストの範囲については授業内に指示する。
2	認知(ものの考え方)の歪みと認知療法	資料とレジュメ	
3	家族療法の原則とシステムズアプローチ	資料とレジュメ ケーススタディ	
4	不登校の家族療法	資料とレジュメ	
5	摂食障害の家族療法	資料とレジュメ ケーススタディ	
6	夫婦療法(マリタルセラピー)	資料とレジュメ	
7	発達障害(ADHD、LD、自閉症など)児の家族指導	資料とレジュメ	

8	集団心理療法(グループサイコセラピー)	資料とレジュメ	豆テストを実施するので毎回授業内容を復習しておくこと。テストの範囲については授業内に指示する。
9	集団家族療法(グループファミリーセラピー)	資料とレジュメ	
10	各種のセルフサポート(自助)グループ	資料とレジュメ	
11	発達障害(ADHD、LD、自閉症など)児のSST(ソーシャルスキルズ・トレーニング)	資料とレジュメ ケーススタディ	
12	発達障害児の指導における構造化とTEACCHプログラム	資料とレジュメ ケーススタディ	
13	学校の教師と心理・福祉・医療とのチームアプローチ	資料とレジュメ	
14	学校・職場の環境調整療法(ミリュー・セラピー)	資料とレジュメ	
15	障害児の家族の悩みとカウンセリング	資料とレジュメ	
期末試験	前期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価(評価方法・基準)			
毎回の豆テスト40%、期末試験60%による。 詳しくは初回時に説明する。			
教科書			
書名:機能不全家族 著者名:星野仁彦 発行所:アートヴィレッジ 価格:1,600円(税別)			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	社会福祉原論	授業形態・単位数	講義・4単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: ^{さいとう} 齊藤 ^{たかゆき} 隆之 本務先:東北文化学園大学 職名:講師	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に教室等で質問等に対応 E-mail:t-saito@hss.tbgu.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	必修	
社会福祉士	〃	〃	
精神保健福祉士	〃	〃	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
現代社会は多くの社会問題・社会変動が起き、それに伴って生活問題の発生、生活（福祉）ニーズの多様化や高度化が進んでいる。このような背景の中、社会福祉に携わる者に求められるものもまた多様化し、高度化しているといえる。本講義では、現代社会と福祉についての多角的理解と考察を通して、社会福祉への関心と理解を深めると共に、多様化・高度化する福祉問題の解決の基礎を身につけるものである。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
(1) 現代社会と福祉制度・福祉政策の関係について理解する	目標	A G
(2) 社会福祉の意義・基本原理と思想・形成過程を理解する	目標	A J
(3) 相談援助と福祉政策の関係について理解する	目標	A I J
(4) 今後社会福祉を学んでいく上での基礎的知識を身につける	目標	A G H J L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 福祉を学ぶ意義とソーシャルワーカー	PPT,レジュメ配布、対話	講義時に指示
2	現代社会における福祉制度と福祉政策Ⅰ	PPT,レジュメ配布、対話	講義時に指示
3	現代社会における福祉制度と福祉政策Ⅱ	PPT,レジュメ配布、対話	講義時に指示
4	現代社会における福祉制度と福祉政策Ⅲ	ディスカッション	講義時に指示
5	福祉の原理をめぐる理論と哲学Ⅰ	PPT,レジュメ配布、対話	講義時に指示

6	福祉の原理をめぐる理論と哲学Ⅱ	ディスカッション	講義時に指示
7	福祉制度の発達過程Ⅰ	PPT,レジュメ配布、対話	講義時に指示
8	福祉制度の発達過程Ⅱ	VTR鑑賞	講義時に指示
9	福祉制度の発達過程Ⅲ	ディスカッション	講義時に指示
10	子育て支援と児童福祉の歴史	VTR ディスカッション	講義時に指示
11	福祉政策におけるニーズと資源Ⅰ	PPT,レジュメ配布、対話	講義時に指示
12	福祉政策におけるニーズと資源Ⅱ	ディスカッション	講義時に指示
13	福祉政策の課題Ⅰ	PPT,レジュメ配布、対話	講義時に指示
14	福祉政策の課題Ⅱ	ディスカッション	講義時に指示
15	前期のまとめ	レジュメ配布、対話	レポート作成準備
16	前期末試験		
17	福祉政策の構成要素Ⅰ (気候等に応じてⅡ・Ⅲと順番の入れ替えあり)	PPT,レジュメ配布、対話	講義時に指示
18	福祉政策の構成要素Ⅱ	リサーチ	講義時に指示
19	福祉政策の構成要素Ⅲ	リサーチ結果の解説	講義時に指示
20	法律を作ってみようⅠ	これまでの資料、作成用紙	講義時に指示
21	法律を作ってみようⅡ	これまでの資料、作成用紙	講義時に指示
22	法律を作ってみようⅢ	発表・解説	発表準備
23	戦後日本の福祉①	VTR	講義時に指示
24	戦後日本の福祉②	VTR	講義時に指示
25	これからの福祉を考える	ディスカッション	講義時に指示
26	これからの社会福祉を担う者としてⅠ (福祉新聞をつくる)	グループワーク	講義時に指示
27	これからの社会福祉を担う者としてⅡ (福祉新聞をつくる)	グループワーク	講義時に指示
28	これからの社会福祉を担う者としてⅢ (福祉新聞をつくる)	発表・解説	発表準備
29	福祉の原点とは	ディスカッション	講義時に指示
30	まとめ	これまでの資料	既習内容の振り返り
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
<基礎点> 定期試験100点(前期50点、後期50点) (a) <加算点> 発言点+GoodQP(上限15点) (b)、課題点(5点×3回) (c) <評価> (a) + (b) + (c)の総計で大学の規定に沿って素点評価を行う。 ※遅刻、途中退席等については学生受講規定に基づく。 ※詳細については初回講義時に説明をする。			
参考書			
書名: チャレンジ現代社会と福祉 著者名: 久塚純一・森田慎二郎・金川めぐみ			

授 業 科 目 名	医療福祉論	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: <small>ほんだ るみこ</small> 本田 ルミ子 本務先: 芦ノ牧温泉病院 職 名: ソーシャルワーカー	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業の前後の時間		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
本講義は保健医療サービスの制度の理解の上に、今日の変化を踏まえて、保健医療機関でのソーシャルワークを展開する留意点を学ぶ。また、自らの価値観を再吟味する。	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
1.保健医療と福祉の関係について理解する。	目標	A
2.保健医療機関でのソーシャルワーク実践の方法及び留意点を理解する。	目標	A
3.生命、健康、人生に対する倫理や価値について考える。	目標	A I J L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	医療と社会福祉について	レジュメ・レポート	復習
2	業務指針	資料配布・講義	復習
3	保健医療機関における援助方法の実際①	資料配布・講義	復習
4	保健医療機関における援助方法の実際②	資料配布・講義	復習
5	ライフステージ(こども)と医療福祉	資料配布・講義	復習 児童福祉
6	ライフステージ(成人期)と医療福祉	資料配布・講義	復習 権利と義務
7	ライフステージ(高齢期)と医療福祉	資料配布・講義	復習 老人福祉

8	ライフステージ(障がい①)と医療福祉	資料配布・講義	復習 身体障がい
9	ライフステージ(障がい②)と医療福祉	視覚教材(DVD) 講義	復習 精神障がい
10	貧困と医療	資料配布・講義	復習 生存権
11	医療の発展と福祉	視覚教材(DVD) 講義	復習
12	倫理綱領	資料配布・講義	復習
13	生命・医療・福祉について考える①	視覚教材(DVD) グループワーク	復習
14	生命・医療・福祉について考える②	グループワーク・講義	復習
15	まとめ 医療と社会福祉	講義	復習
期末 試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 学期末試験(記述方式)で理解度の確認をします(80%) (2) 出席等の授業態度(20%)			
教科書			
使用しません			
その他補足事項			
テキスト等がなく、事前準備は難しいが、広く世の中の出来事に対し関心を持ち、ニュース等を読んでおくことを 予習として行ってほしい。			

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成30年度

授業科目名	社会調査法	授業形態・単位数	講義・2単位
		開講年次	3年次
担当教員	職名:非常勤講師 氏名:高橋 嘉代 <small>たかはし かよ</small>	開講期	後期
		授業回数	15回
		期末試験の有無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に質問を受け付けます。Eメールでの質問も可。 E-mail:works3120@me.com		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	//	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
この授業では社会調査の成り立ちと方法、分析手法について学ぶ。併せて各種社会調査の実際や近年の社会福祉分野の研究動向などについても適宜紹介する。また、授業時間中に授業内容に関連する簡単な課題も出す予定である。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
広く社会に通用するリサーチリテラシーを身につける。	目標	A B C D G H I J K L
社会調査に必要な基礎知識を身につける。	目標	A B C D G H I J K L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション(授業の概要と目標および評価方法・授業進め方の留意点) 「実践の学としての社会福祉」	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第2週実施の小テスト対策
2	社会福祉と社会調査 テキスト第1章(p1-p30) ※小テスト1:第1週の範囲	教員作成の資料配布およびスライド上映。	2010年代のわが国の社会福祉に関する政策の動向について確認しておくこと。
3	社会調査を取り巻く状況 テキスト第2章第3節(p45-p54) ※小テスト2:第2週・第3週の範囲	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第4週実施の小テスト対策

4	社会調査を取り巻く状況 テキスト第2章第3節 (p45-p54) ※小テスト2: 第2週・第3週の範囲	教員作成の資料配布およびスライド上映。	わが国の「統計法」の歴史を調べておくこと。
5	量的調査の方法 テキスト第3章第1節 (p55-p62)	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第6週実施の小テスト対策
6	調査票の作り方・量的調査のデータ解析 テキスト第3章第2節・第3節・第4節 (p63-p75) ※小テスト3: 第4週・第5週の範囲	教員作成の資料配布およびスライド上映。	「無作為抽出法」の「無作為」の意味を調べておくこと。
7	記述統計量(1)1変量の性質を表す統計量 テキスト第3章第4節 (p76-p91)	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第8週実施の小テスト対策
8	記述統計量(2)2変量の関係を表す統計量 テキスト第3章第4節 (p91-p108) ※小テスト4: 第6週・第7週の範囲	教員作成の資料配布およびスライド上映。	各種検定法について復習しておくこと。
9	質的調査の特徴と種類 テキスト第4章第1節・第2節 (p110-p121)	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第10週実施の小テスト対策
10	対象者の選定と調査手続 テキスト第4章第3節・第4節 (p122-p129) ※小テスト5: 第8週・第9週の範囲	教員作成の資料配布およびスライド上映。	「文章(論文)の書き方」に関する文献を呼んでおくこと。
11	質的調査における調査の実施 テキスト第4章第5節 (p130-150)	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第12週実施の小テスト対策
12	質的調査における発表・報告 テキスト第4章第7節 (p151-p156) ※小テスト6: 第10週・第11週の範囲	教員作成の資料配布およびスライド上映。	依頼状・礼状を書く際の注意事項をまとめておくこと。
13	社会調査における倫理と個人情報保護 テキスト第5章 (p157-p164)	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第14週実施の小テスト対策
14	社会調査実施にあたってのITの活用方法 テキスト第6章 (p165-p177) ※小テスト7: 第12週・第13週の範囲	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第社会調査におけるIT活用の利点と限界について調べること。
15	社会科学としての社会福祉・個人情報保護制度の概要 テキスト第7章 (p179-p188)	教員作成の資料配布およびスライド上映。	期末試験に向けて配布物・小テストを再度確認しておくこと。
期末試験	50点満点(1問1点×50問)の期末試験を実施。 試験は○×式、第1回～第7回の小テストを中心に出题予定。		期末試験の復習
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価(評価方法・基準)			
<p>評価は加点式(第1回授業開始時点での持ち点は0点とする)。 課題(15点満点: 奇数回目の授業時に授業に関する簡単な課題を課す。初回時のみ1点、以後1回2点。8回実施) 小テスト(35点満点: 偶数回目の授業時に実施。5点満点、7回実施) 期末試験(50点満点)の総ての合計点をもって最終的な評価とする。 成績評価は100点満点とし、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。</p>			
教科書		参考書	
書名:『新・社会福祉士養成講座5 社会調査の基礎』 著者名: 社会福祉士養成講座編集委員会 発行所: 中央法規 価格: 2,200円(税別)		特に指定しない。	
その他補足事項			
・期末試験の問題の大半(9割以上)を小テストから出题するので、小テストの復習を必ず行うこと。 ・奇数回の授業時に実施する課題は当該の授業時に提出すること(次週以降の提出は原則として認めない)。 ・成績処理終了後、模範解答添付の上で期末試験の答案を返却する。知識の定着のために是非活用されたい。			

授 業 科 目 名	相談援助の基盤と専門職	授業形態・単位数	講義・4単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: ^{しまの} 島野 ^{みつまさ} 光正 本務先:郡山市医療介護病院 職名:事務部次長兼地域ケア推進部次長 社会福祉士	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	毎回講義の最後の時間にフィードバックレポートの提出を求めます。質問等もあわせて記入して下さい。次の講義の際に答えます。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
本講義で相談援助の専門職である社会福祉士の意義と役割について理解し、多様な生活上の問題（生活課題・福祉課題）に向き合うソーシャルワークの担い手である社会福祉士の実践を支える基盤や総合的かつ包括的な援助における専門的機能について理解を深めることを目的とする。特に、講義では現場実践事例を用いながら「人と環境の相互作用」に目を向ける社会福祉士の視点と相談援助の実際を通して社会福祉士像を伝えることも行う。また、ソーシャルワーク実践について理解するために、その形成過程にも目を向けながら相談援助の理念について理解する。併せて専門職として成立するための倫理について、日本社会福祉士会の倫理綱領を中心に解説し、ソーシャルワーカーの倫理的ジレンマについても解説を行う。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
社会福祉士の役割と意義について理解し、多様な生活上の問題に向き合うソーシャルワークの担い手である社会福祉士を支える基盤（価値、知識、技術）について学びその意義を説明できるようになる。	目標	A B J
実践事例を通して相談援助の実際を学び、「人と環境の相互作用」について理解を深め、ソーシャルワーク実践についての視点を持つことができる。	目標	B G K
講義を通じてソーシャルワーカーとしての社会福祉士像を具体的に持つことができ、資格取得の意欲を高め、資格取得後の生涯を通じた研鑽の姿勢の必要性を理解することができる。	目標	A L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ソーシャルワーカーを目指す学生のみなさんへ(はじめに) 社会福祉士の意義と役割(1) ・社会福祉士法及び介護福祉士法	・授業計画 ・プリント ・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講師作成資料による復習(復習)
2	社会福祉士の意義と役割(2) ・社会福祉士法及び介護福祉士法 ・精神保健福祉士の意義と役割 ・現代社会と地域福祉 ・事例から考える	・プリント ・テキスト ・フィードバックレポート	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
3	社会福祉士の意義と役割(3) ・事例を考える「生活上の問題」とソーシャルワーカーの役割	・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
4	相談援助の定義と構成要素(1) ・ソーシャルワークの概念 ・国際ソーシャルワーカー連盟の定義	・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
5	相談援助の定義と構成要素(2) ・ソーシャルワークの構成要素	・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
6	相談援助の形成過程(1) ・ソーシャルワークの源流	・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
7	相談援助の形成過程(2) ・ソーシャルワークの基礎確立期	・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
8	相談援助の形成過程(3) ・ソーシャルワークの発展期	・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
9	相談援助の形成過程(4) ソーシャルワークの展開期	・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
10	相談援助の形成過程(5) ・ソーシャルワークの統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク	・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
11	相談援助の理念(1) ・ソーシャルワーカーと価値 ・ソーシャルワーク実践と価値 ・事例から考える	・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
12	相談援助の理念(2) ソーシャルワーク実践と権利擁護	・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)

13	相談援助の理念(3) ・クライアントの尊厳と自己決定 ・ノーマライゼーションと社会的包摂	・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
14	専門職と倫理的ジレンマ(1) ・専門職倫理の概念 ・倫理綱領の意義と内容 ・事例から考える	・プリント ・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
15	専門職と倫理的ジレンマ(2) ・ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ	・プリント ・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
16	前期末筆記試験		
17	前期テストの解説(解等用紙の返却/コメント付) 総合的かつ包括的な相談援助の全体像(1) ・「総合的かつ包括的な相談援助」の動向とその背景 ・実践事例から考える①	・テキスト ・フィードバックレポート の提出 ・映像教材(実践事例) ・ワークシート	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
18	総合的かつ包括的な相談援助の全体像(2) ・地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座 ・事例から考える②	・テキスト ・フィードバックレポート の提出 ・映像教材(実践事例) ・ワークシート	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
19	総合的かつ包括的な相談援助の全体像(3) ・地域を基盤としたソーシャルワークの八つの機能	・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
20	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(1) ・ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点	・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
21	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(2) ・ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質	・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
22	相談援助にかかる専門職の概念と範囲(1) ・相談援助専門職の概念	・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
23	相談援助にかかる専門職の概念と範囲(2) ・相談援助専門職の範囲 ・諸外国の動向	・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
24	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(1) ・予防機能	・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
25	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(2) ・新しいニーズへの対応機能	・プリント ・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
26	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(3) ・総合的支援機能	・プリント ・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)

27	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(4) ・権利擁護機能	・プリント ・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
28	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(5) ・社会資源開発機能	・プリント ・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
29	ソーシャルワーク事例研究	・プリント ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
30	まとめ ・ソーシャルワーカーを目指す学生のみなさんへ(まとめ)	・プリント ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
期末試験	前期末筆記試験、学年末筆記試験		
期末試験の講評			
前期末筆記試験については、後期の最初の講義の時間に講師のコメントを記入した解答用紙を返却し、さらに振り返りの説明を行います。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
講義は事前にテキストを読んでおくことを前提にすすめます。評価は前期末、期末の2回の試験と毎回の講義後のフィードバックレポートの提出、事例を用いた演習の際には講師作成のワークシートの提出を求めますので、その両者を総合的に判断します。詳しくは講義の際に説明します。 ・中間試験 35% ・期末試験 35% ・フィードバックレポート 30% 上記を評価の対象とし、100点満点で成績を出します。			
教科書			
書 名:新・社会福祉士養成講座「相談援助の基盤と専門職」 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会 発行所:中央法規 価 格:2,600円(税別)			

授 業 科 目 名	相談援助の基盤と専門職 (2年次以上)	授業形態・単位数	講義・4単位
		開 講 年 次	2年次以上
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: ^{しまの} 島野 ^{みつまさ} 光正 本務先:郡山市医療介護病院 職名:事務部次長兼地域ケア推進部次長 社会福祉士	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の 必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	毎回講義の最後の時間にフィードバックレポートの提出を求めます。質問等もあわせて記入して下さい。次の講義の際に答えます。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>本講義で相談援助の専門職である社会福祉士の意義と役割について理解し、多様な生活上の問題（生活課題・福祉課題）に向き合うソーシャルワークの担い手である社会福祉士の実践を支える基盤や総合的かつ包括的な援助における専門的機能について理解を深めることを目的とする。特に、講義では現場実践事例を用いながら「人と環境の相互作用」に目を向ける社会福祉士の視点と相談援助の実際を通して社会福祉士像を伝えることも行う。また、ソーシャルワーク実践について理解するために、その形成過程にも目を向けながら相談援助の理念について理解する。併せて専門職として成立するための倫理について、日本社会福祉士会の倫理綱領を中心に解説し、ソーシャルワーカーの倫理的ジレンマについても解説を行う。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
社会福祉士の役割と意義について理解し、多様な生活上の問題に向き合うソーシャルワークの担い手である社会福祉士を支える基盤（価値、知識、技術）について学びその意義を説明できるようになる。	目標	A B J
実践事例を通して相談援助の実際を学び、「人と環境の相互作用」について理解を深め、ソーシャルワーク実践についての視点を持つことができる。	目標	B G K
講義を通じてソーシャルワーカーとしての社会福祉士像を具体的に持つことができ、資格取得の意欲を高め、資格取得後の生涯を通じた研鑽の姿勢の必要性を理解することができる。	目標	A L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ソーシャルワーカーを目指す学生のみなさんへ(はじめに) 社会福祉士の意義と役割(1) ・社会福祉士法及び介護福祉士法	・授業計画 ・プリント ・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講師作成資料による復習(復習)
2	社会福祉士の意義と役割(2) ・社会福祉士法及び介護福祉士法 ・精神保健福祉士の意義と役割 ・現代社会と地域福祉 ・事例から考える	・プリント ・テキスト ・フィードバックレポート	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
3	社会福祉士の意義と役割(3) ・事例を考える「生活上の問題」とソーシャルワーカーの役割	・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
4	相談援助の定義と構成要素(1) ・ソーシャルワークの概念 ・国際ソーシャルワーカー連盟の定義	・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
5	相談援助の定義と構成要素(2) ・ソーシャルワークの構成要素	・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
6	相談援助の形成過程(1) ・ソーシャルワークの源流	・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
7	相談援助の形成過程(2) ・ソーシャルワークの基礎確立期	・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
8	相談援助の形成過程(3) ・ソーシャルワークの発展期	・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
9	相談援助の形成過程(4) ソーシャルワークの展開期	・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
10	相談援助の形成過程(5) ・ソーシャルワークの統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク	・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
11	相談援助の理念(1) ・ソーシャルワーカーと価値 ・ソーシャルワーク実践と価値 ・事例から考える	・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
12	相談援助の理念(2) ソーシャルワーク実践と権利擁護	・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)

13	相談援助の理念(3) ・クライアントの尊厳と自己決定 ・ノーマライゼーションと社会的包摂	・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
14	専門職と倫理的ジレンマ(1) ・専門職倫理の概念 ・倫理綱領の意義と内容 ・事例から考える	・プリント ・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
15	専門職と倫理的ジレンマ(2) ・ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ	・プリント ・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
16	前期末筆記試験		
17	前期テストの解説(解等用紙の返却/コメント付) 総合的かつ包括的な相談援助の全体像(1) ・「総合的かつ包括的な相談援助」の動向とその背景 ・実践事例から考える①	・テキスト ・フィードバックレポートの提出 ・映像教材(実践事例) ・ワークシート	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
18	総合的かつ包括的な相談援助の全体像(2) ・地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座 ・事例から考える②	・テキスト ・フィードバックレポートの提出 ・映像教材(実践事例) ・ワークシート	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
19	総合的かつ包括的な相談援助の全体像(3) ・地域を基盤としたソーシャルワークの八つの機能	・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
20	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(1) ・ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点	・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
21	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(2) ・ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質	・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
22	相談援助にかかる専門職の概念と範囲(1) ・相談援助専門職の概念	・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
23	相談援助にかかる専門職の概念と範囲(2) ・相談援助専門職の範囲 ・諸外国の動向	・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
24	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(1) ・予防機能	・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
25	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(2) ・新しいニーズへの対応機能	・プリント ・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)

26	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(3) ・総合的支援機能	・プリント ・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
27	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(4) ・権利擁護機能	・プリント ・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
28	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(5) ・社会資源開発機能	・プリント ・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
29	ソーシャルワーク事例研究	・プリント ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
30	まとめ ・ソーシャルワーカーを目指す学生のみなさんへ(まとめ)	・プリント ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
期末試験	前期末筆記試験、学年末筆記試験		
期末試験の講評			
前期末筆記試験については、後期の最初に講義の時間に講師のコメントを記入した解答用紙を返却し、さらに振り返りの説明を行います。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
講義は事前にテキストを読んでおくことを前提にすすめます。評価は前期末、期末の2回の試験と毎回の講義後のフィードバックレポートの提出、事例を用いた演習の際には講師作成のワークシートの提出を求めますので、その両者を総合的に判断します。詳しくは講義の際に説明します。 ・中間試験 35% ・期末試験 35% ・フィードバックレポート 30% 上記を評価の対象とし、100点満点で成績を出します。			
教科書			
書 名:新・社会福祉士養成講座「相談援助の基盤と専門職」 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会 発行所:中央法規 価 格:2,600円(税別)			

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成30年度

授業科目名	社会福祉援助技術論Ⅰ	授業形態・単位数	講義・4単位
		開講年次	3年次
担当教員	職名:非常勤講師 氏名: ^{さいとう} 齊藤 ^{たかゆき} 隆之 本務先:東北文化学園大学 職名:講師	開講期	通年
		授業回数	30回
		期末試験の有無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に教室等で質問等に対応 E-mail:t-saito@hss.tbgu.ac.jp (件名に学籍番号・氏名を入力)		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	//	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
本講義では、ソーシャルワークにおける諸理論や基本的アプローチについての学びを深めるとともに、支援者として基本的視点の醸成を図る。加えて、単なる相談援助にとどまらない社会福祉援助の本来的意義についても理解を図るものである。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
ソーシャルワーク専門職としての視点を醸成する。	目標	A B
ソーシャルワーク専門職としての知識、技術の理解と活用について学ぶ。	目標	A B D G I
ソーシャルワーク専門職としての実践力を身につける。	目標	B D H J K L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ソーシャルワークとは何か	PPT, ディスカッション	復習:ディスカッションの振り返り
2	ソーシャルワークの構成要素	PPT,教科書 レジュメの配布	予習:教科書の該当箇所確認 復習:講義資料に記載
3	ソーシャルワークの構造と機能	PPT,教科書 レジュメの配布	予習:教科書の該当箇所確認 復習:講義資料に記載

4	ソーシャルワークの機能	PPT.教科書 レジュメの配布	予習:教科書の該当箇所確認 復習:講義資料に記載
5	ソーシャルワークにおけるニーズ	PPT.教科書 レジュメの配布	予習:教科書の該当箇所確認 復習:講義資料に記載
6	ソーシャルワークにおける対象	PPT.教科書 レジュメの配布	予習:教科書の該当箇所確認 復習:講義資料に記載
7	人と環境の相互作用	PPT.教科書 レジュメの配布	予習:教科書の該当箇所確認 復習:講義資料に記載
8	ソーシャルワークにおける実践モデル	PPT.教科書 レジュメの配布	予習:教科書の該当箇所確認 復習:講義資料に記載
9	ソーシャルワークにおける価値の創造①	グループディスカッション プレゼン準備	次回プレゼンの準備
10	ソーシャルワークにおける価値の創造②	プレゼンテーション	予習:教科書の該当箇所確認
11	ソーシャルワークのアプローチ①	PPT.教科書 レジュメの配布	予習:教科書の該当箇所確認 復習:講義資料に記載
12	ソーシャルワークのアプローチ②	PPT.教科書 レジュメの配布	予習:教科書の該当箇所確認 復習:講義資料に記載
13	ソーシャルワークのアプローチ③	PPT.教科書 レジュメの配布	予習:教科書の該当箇所確認 復習:講義資料に記載
14	ソーシャルワークのアプローチ④	PPT.教科書 レジュメの配布	予習:教科書の該当箇所確認 復習:講義資料に記載
15	まとめ・事例の確認	グループワーク	課題の次回までの完成
16	前期末試験	前期末試験	
17	SWとしての自分を見つめる	PPT. ディスカッション	予習:前期の振り返り
18	ソーシャルワークのプロセス①	PPT.教科書 レジュメの配布	予習:教科書の該当箇所確認 復習:講義資料に記載
19	ソーシャルワークのプロセス②	PPT.教科書 レジュメの配布	予習:教科書の該当箇所確認 復習:講義資料に記載

20	ソーシャルワークのプロセス③	PPT.教科書 レジュメの配布	予習:教科書の該当箇所確認 復習:講義資料に記載
21	ソーシャルワークのプロセス④	PPT.教科書 レジュメの配布	予習:プロセス部分の確認 復習:不要
22	事例を作ろう①(作成)	事例作成用プリント配布	予習:プロセス部分の確認 復習:不要
23	事例を作ろう②(作成・提出)	事例作成用プリント配布	事例検討の準備
24	事例を作ろう③(事例検討)	検討用事例プリント配布	復習:講義時未使用の事例を確認しておく
25	ソーシャルワークにおける面接	PPT.教科書 レジュメの配布 VTR	予習:教科書の該当箇所確認 復習:講義資料に記載
26	面接環境を考える	VTR	VTRの振り返り
27	まとめの課題	グループワーク	グループワークの準備
28	まとめの課題	グループワーク	グループ発表の準備
29	課題の発表	グループ発表	グループ発表の準備
30	まとめ ソーシャルワーク実践における考え方	ディスカッション	教科書既修内容及びレジュメの再確認
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
<基礎点>定期試験100点(前期50点、後期50点) (a) <加算点>発言点+GoodQP(上限15点) (b)、課題点(5点×3回) (c) <評価>(a)+(b)+(c)の総計で大学の規定に沿って素点評価を行う。 ※遅刻、途中退席等については学生受講規定に基づく。 ※詳細については初回講義時に説明をする。			
教科書			
書名:ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ 著者名:相澤譲治ら 発行所:(株)みらい 価格:2,000円(税別)			

授 業 科 目 名	社会福祉援助技術論 II	授業形態・単位数	講義・4単位
		開 講 年 次	4年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: <small>ほんだ るみこ</small> 本田 ルミ子 本務先: 芦ノ牧温泉病院 職名: ソーシャルワーカー	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業の前後の時間		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>本講義は「相談援助の基盤と専門職」「社会福祉援助技術論 I」で学んだ相談援助の諸原則、諸理論、アプローチをもとにコミュニケーション、面接、記録、個人情報保護などのクライアントへの関わりはもとより、社会資源の活用を含むネットワーキング、ケアマネジメント、スーパービジョンの方法を学び、ソーシャルワークについて理解を深める。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
1. ソーシャルワークにおける面接技術、記録について理解できる	目標	A B L
2. ソーシャルグループワークが理解できる	目標	A B C
3. 社会資源について理解し調整、ネットワーキングの方法が理解できる	目標	A B C
4. スーパービジョンを理解し、事例検討ができる	目標	A B C J K
5. ソーシャルワークの全体像が理解できる	目標	A C J K L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ソーシャルワークとは何か	レジュメ	
2	ソーシャルワークにおける知識と技術の意味①	教科書	P12～P25
3	ソーシャルワークにおける知識と技術の意味②	教科書	P25～P32
4	ソーシャルワークとコミュニケーション技術①	教科書	P33～P35
5	ソーシャルワークとコミュニケーション技術②	教科書・演習	P35～P37
6	ソーシャルワークとコミュニケーション技術③	教科書・演習	P37～P43

7	ソーシャルワークと面接技術①	教科書	P45～P50
8	ソーシャルワークと面接技術②	教科書	P51～P58
9	ソーシャルワークと面接技術③	教科書	P59～P60
10	ソーシャルワークにおける記録の意味と方法①	教科書	P61～P63
11	ソーシャルワークにおける記録の意味と方法②	教科書	P63～P66
12	ソーシャルワークにおける記録の意味と方法③	教科書	P67～P75
13	ソーシャルワークとICT技術の活用	教科書	P77～P91
14	ソーシャルワークと個人情報の保護	教科書	P93～P108
15	前期のまとめ	教科書	
16	ソーシャルワークにおけるグループワークの活用①	教科書	P109～P116
17	ソーシャルワークにおけるグループワークの活用②	教科書	P116～P126
18	ソーシャルワークと社会資源の活用・調整・開発の方法①	教科書	P127～P133
19	ソーシャルワークと社会資源の活用・調整・開発の方法②	教科書	P133～P144
20	ソーシャルワークにおけるネットワーキングの方法①	教科書	P147～P152
21	ソーシャルワークにおけるネットワーキングの方法②	教科書	P152～P158
22	ケアマネジメントの方法①	教科書	P159～P164
23	ケアマネジメントの方法②	教科書	P164～P173
24	スーパービジョンの方法①	教科書	P175～P180
25	スーパービジョンの方法②	教科書	P181～P195
26	スーパービジョンの方法③	教科書・DVD	P175～P195
27	事例研究の方法	教科書	P195～P203
28	自己決定・権利擁護	教科書・事例検討	P204～P216
29	自立支援・尊厳の回復・エンパワメント	教科書・事例検討	P217～P231
30	まとめ ソーシャルワークと社会正義		P232～P236
期末試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 学期末試験（記述方式）で理解度の確認をします（70%） (2) 前期の授業をもとにレポート提出（20%） (3) 出席等の授業態度（10%）			
教科書			
書 名：社会福祉士養成課程対応 ソーシャルワーカー教育シリーズ『ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』 発行所：(株)みらい 価 格：2,300円(税別)			

授 業 科 目 名	地域福祉論	授 業 形 態 ・ 単 位 数	講義・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{くさか} 日下 ^{てるみ} 輝美	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail:kusaka.terumi@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	必修	
精神保健福祉士	〃	〃	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
地方分権化、社会サービスシステム、コミュニティワーク、住民参加の視点から地域福祉をとらえ、その理念、対象、政策展開、構成要件、財源、主体、推進方法等の観点から、今日の地域福祉の基本的な論点を整理しながら、近未来の社会変動（経済・地域社会・家族関係）を視野に入れた地域福祉の体系と展開の方法について学習する。	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
地域福祉の歴史的展開（法律、制度等）過程に焦点を当てながら、新たな地域福祉の展開について自分の視点で理論化ができるようになる。	目標	A C K
地域福祉の基本的な考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む）について具体的な事例等を使い自分の言葉で説明できるようになる。	目標	A C I
ソーシャルサポートネットワークの考え方、NPO法人等のアソシエーション型組織や住民参加のあり方の事例からコミュニティソーシャルの実践能力を養う。	目標	A C K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標(授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方の留意点 現代の地域生活と地域福祉 1) 現代社会における生活上の問題 2) 地域社会とコミュニティの問題 3) 地域福祉の基本的な考え方	講義・教科書	復習:現代の地域生活と地域福祉の整理

2	地域福祉の思想と理論 1) 地域福祉の思想 2) 地域福祉の理論 3) 現代における地域福祉の思想と理論の課題	講義・教科書	予習:教科書の該当箇所を読む 復習:地域福祉の思想と理論の整理
3	地域福祉の形成と発展 1) 「地域福祉」成立期以前の流れ 2) 海外における地域福祉の歩み 3) わが国における地域福祉の歩み	講義・教科書	予習:教科書の該当箇所を読む 復習:地域福祉の形成と発展の整理
4	地域福祉の法律と組織 1) 地域福祉の法律 2) 地域福祉の組織	講義・教科書 小テスト・グループワーク	予習:教科書の該当箇所を読む 復習:地域福祉の法律と組織の整理
5	地域福祉における社会福祉協議会の役割 1) 社会福祉協議会の沿革と法的規定 2) 社会福祉協議会の組織と事業活動 3) 地域福祉における社会福祉協議会の役割と課題	講義・教科書	予習:教科書の該当箇所を読む 復習:社会福祉協議会の整理
6	地域福祉の主体と対象 1) 地域福祉における主体の考え方 2) 地域福祉における対象の考え方 3) 社会福祉法における地域福祉の主体と対象	講義・教科書 課題について図書館で調べディスカッションを行う (ラーニングコモンズ)	予習:教科書の該当箇所を読む 復習:地域福祉の主体と対象の整理
7	地域福祉の専門職 1) 地域福祉を推進する専門職 2) 専門職間の連携と協働 3) 専門職と地域住民・当事者とのネットワーキング	講義・教科書	予習:教科書の該当箇所を読む 復習:地域福祉の専門職の整理
8	地域福祉における社会資源 1) 社会資源の活用 2) 社会資源の調整 3) 社会資源の開発	講義・教科書	予習:教科書の該当箇所を読む 復習:福祉に関連する社会資源の整理
9	地域福祉における福祉ニーズの把握方法 1) 福祉ニーズの考え方 2) 量的福祉ニーズの把握の方法 3) 質的福祉ニーズの把握の方法	講義・教科書	予習:教科書の該当箇所を読む 復習:福祉ニーズの把握方法について整理
10	地域トータルケアシステムの構築 1) 地域トータルケアシステムの考え方 2) 地域トータルケアシステムの実際 3) 地域トータルケアシステムの構築方法	講義・教科書 小テスト・グループワーク	予習:教科書の該当箇所を読む 復習:地域トータルケアシステムの整理
11	地域福祉における福祉サービスの評価方法 1) 地域福祉における福祉サービスの評価の考え方 2) 地域福祉における福祉サービスの評価の実際 3) 地域福祉における福祉サービスの評価の方法	講義・教科書	予習:教科書の該当箇所を読む 復習:福祉サービスの評価方法について整理
12	地域福祉と福祉計画 1) 社会福祉基礎構造改革と地域福祉計画 2) 地域福祉における福祉計画の実際 3) 地域福祉における福祉計画の課題	講義・教科書 課題について図書館で調べディスカッションを行う (ラーニングコモンズ)	予習:教科書の該当箇所を読む 復習:社会福祉計画について整理
13	地域福祉と福祉教育 1) 福祉教育の考え方 2) 福祉教育の実際 3) 福祉教育の課題	講義・教科書	予習:教科書の該当箇所を読む 復習:福祉教育の整理
14	地域福祉とNPO・ボランティア活動 1) 地域福祉とNPO 2) 地域福祉とボランティア活動 3) 地域福祉とNPO・ボランティア活動課題	講義・教科書 課題について図書館で調べディスカッションを行う (ラーニングコモンズ)	予習:教科書の該当箇所を読む 復習:地域福祉とNPO・ボランティア活動課題の整理

15	地域福祉の財源基盤 1) 地域福祉推進のための公的な財源 2) 地域福祉推進のための民間の財源 3) 地域福祉の財源基盤の確立に向けて	講義・教科書 小テスト・グループワーク	予習:教科書の該当箇所を読む 復習:地域福祉推進のための財源基盤の整理
期末試験	前期期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 筆記試験	70点満点の記述方式のテストを学期末に実施		
(2) レポート	レポートは30点満点の採点とする。課題(宿題)は授業で配布された資料や図書館等で調べレポートを作成し指定された期日まで提出すること。		
(3) その他	授業内容の理解度を確認するため3回小テストを実施する。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とする。		
教科書		参考書	
書名:地域福祉の原理と方法(第2版) 著者名:井村圭壯 編著 発行所:学文社 価格:2,200円(税別)		書名:地域福祉の理論と実際 著者名:都築光一監修 発行所:建帛社 価格:2,520円(税別)	
その他補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書補助資料として、「社会福祉の動向2018」、「厚生労働白書」、「福祉新聞」等を用いる。 ・小テスト・グループワーク資料として、国家試験過去問題をカバーする資料を作成し配布する。 			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	コミュニティソーシャルワーク	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{くさか} 日下 ^{てるみ} 輝美	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail:kusaka.terumi@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	必修	
精神保健福祉士	〃	〃	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>コミュニティソーシャルワークの役割と機能について理解し、事例を通してその実践方法・展開過程についての知見を得る。</p> <p>それらによって、社会福祉におけるコミュニティソーシャルワークの重要性および実用性について理解することを目的とする。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
コミュニティソーシャルワークの特徴を理解するため、身近な地域に焦点を当てながら、「地域包括ケアシステム」の視点で説明できるようになる。		目標 A C H K
地域における社会資源を把握し、事例を基にその活用・調整・開発の重要性について自分の視点で論じることができる。		目標 A C I
地域における福祉ニーズの把握の方法について、身近な地域に焦点を当てながら、自分の視点で説明できるようになる。		目標 A C

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標(授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方の留意点 第1章 地域福祉とは何か	授業計画 教科書補助資料1	

2	第2章 地域福祉のあゆみ 1.デンマーク 2.イギリス 3.アメリカ 4.日本における地域福祉の歴史①	教科書補助資料2-1	教科書P28～40を 事前に読む
3	第2章 地域福祉のあゆみ 1.日本における地域福祉の歴史② 2.今日における地域福祉の課題	教科書補助資料2-2	教科書P40～46を 事前に読む 課題(宿題)レポート の作成
4	第3章 地域福祉の展開における役割と実際 1.社会福祉協議会 2.民生委員・児童委員	教科書補助資料3 小テスト・グループワーク	教科書P48～66を 事前に読む
5	第3章 地域福祉の展開における役割と実際 1.各種福祉関係団体 2.ボランティア・NPO組織	課題について図書館で調 べディスカッションを行う (ラーニングコモンズ)	教科書P67～89を 事前に読む 課題(宿題)レポート 作成
6	第4章 住民による地域福祉活動 1.地域福祉活動計画 2.地域福祉活動プログラム	教科書補助資料4	教科書P102～127 を事前に読む
7	第4章 住民による地域福祉活動 住民による地域福祉活動の課題	教科書補助資料5	教科書P127～130 を事前に読む
8	第5章 専門機関による地域福祉の取り組み 1.専門機関および専門職による相談支援の実際と地域福祉	教科書補助資料6 ゲストスピーカー招聘	教科書P136～146 を事前に読む
9	第5章 専門機関による地域福祉の取り組み 地域における福祉ニーズの把握の方法①	教科書補助資料7	教科書P146～162 を事前に読む
10	第5章 専門機関による地域福祉の取り組み 地域における福祉ニーズの把握の方法②	教科書補助資料8 課題について図書館で調 べディスカッションを行う (ラーニングコモンズ)	配布資料を読む 課題(宿題)レポート 作成
11	第5章 専門機関による地域福祉の取り組み 1.地域トータルケアシステムの実際 2.福祉教育 3.福祉サービスの提供と評価	教科書補助資料9 小テスト・グループワーク	教科書P162～191 を事前に読む
12	第6章 地域福祉の財源 1.地域福祉推進の基盤に関する財源措置	教科書補助資料10	教科書P200～217 を事前に読む
13	第7章 これからの地域福祉に向けて 地域福祉と社会福祉に関する統計指標	教科書補助資料11 課題について図書館で調 べディスカッションを行う (ラーニングコモンズ)	教科書P218～225 を事前に読む
14	第7章 これからの地域福祉に向けて 東日本大震災と地域福祉	教科書補助資料12 小テスト・グループワーク	配布資料を読む
15	第7章 これからの地域福祉に向けて 現代社会と地域福祉の現状と課題	教科書補助資料13	配布資料を読む
期末 試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1)筆記試験	70点満点の記述方式のテストを学期末に実施		
(2)レポート	レポートは30点満点の採点とする。課題(宿題)は授業で配布された資料や図書館等で調べ、レポートを作成し指定された期日まで提出すること。		
(3)その他	授業内容の理解度を確保するため3回小テストを実施する。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とする。		

教科書
書名:地域福祉の理論と実際 著者名:都築光一編集 発行所:建帛社 価格:2,400円(税別)
その他補足事項
・教科書補助資料として、「社会福祉の動向2018」、「厚生労働白書」、「福祉新聞」等を用いる。 ・小テスト・グループワーク資料として、国家試験過去問題をカバーする資料を作成し配布する。

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	福祉行財政と福祉計画	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{くさか} 日下 ^{てるみ} 輝美	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail:kusaka.terumi@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	必修	
精神保健福祉士	〃	〃	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>福祉行政には、福祉事務所や児童相談所をはじめとして各種の相談機関があり、私たち国民の生活を支えている。また、国や自治体の財政の現状においては、社会保障・社会福祉関連の予算が大きな比重を占めている。</p> <p>さらに90年代頃から、高齢者・障がい者・児童をはじめとして福祉計画の策定がすすみ、計画的で中長期的な福祉政策が期待されている。</p> <p>そこで、この授業では福祉行財政および福祉計画を中心に、その現状と課題を学ぶ。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="checkbox"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="checkbox"/>	D 文章表現力
	<input type="checkbox"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="checkbox"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="checkbox"/>	G 協働能力
	<input type="checkbox"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="checkbox"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="checkbox"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
福祉の行財政の実施体制(国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む)について理解する。	目標	A C
福祉行財政の実際について理解し、自分の言葉で他者に説明することができる。	目標	A C I
福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。	目標	A C K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標(授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方の留意点 第1章 福祉行政と国の役割 ① 1. 社会福祉と日本国憲法	授業計画 教科書補助資料1-1	
2	第1章 福祉行政と国の役割 ② 2. 国と地方公共団体 3. 国の役割	教科書補助資料1-2	教科書P1～9を事前に読む

3	第2章 福祉行政と地方公共団体の役割 1.社会福祉行政における役割分担 2.社会福祉行政における地方公共団体 3.事業者に対する指導監督 4.介護保険制度における保険者 5.今後の課題	教科書補助資料2	教科書P12～37を 事前に読む 課題(宿題)レポート の作成
4	第3章 国と地方公共団体の関係 1.地方分権の推進 2.地方分権一括法の制定と行政改革 3.地方分権一括法の主要な改革 4.今後の課題	教科書補助資料3 小テスト・グループワーク	教科書P40～48を 事前に読む
5	第4章 福祉の財源 1.社会福祉の費用と財源の動向 2.社会福祉の動向 3.社会福祉の各財源の特徴 4.民間の財源その他	教科書補助資料4	教科書P50～70を 事前に読む 課題(宿題)レポート 作成
6	第5章 福祉行政の組織および団体の役割 1.福祉行政の組織の概要 2.国の組織 3.地方公共団体の組織 4.民間の組織	課題について図書館で調 べディスカッションを行う (ラーニングコモンズ)	教科書P72～81を 事前に読む
7	第6章 福祉行政における専門職の役割 1.福祉事務所の査察指導員および現業員の役割 2.児童福祉司の役割 3.身体障害者福祉司 4.知的障害者福祉司 5.その他の役割	教科書補助資料5	教科書P84～94を 事前に読む
8	第7章 福祉行財政の動向 1.福祉国家の歴史的展開 2.日本の福祉行財政の歴史的展開 3.日本の福祉行政の今後	教科書補助資料6	教科書P96～112 を事前に読む
9	第8章 福祉計画の意義と目的 1.福祉計画の背景と意義 2.福祉計画の目的 3.福祉計画の展望	教科書補助資料7 課題について図書館で調 べディスカッションを行う (ラーニングコモンズ)	教科書P114～131 を事前に読む
10	第9章 福祉行財政と福祉計画の関係 1.行政計画としての福祉計画 2.財政的視点の福祉計画	教科書補助資料8	教科書P134～150 を事前に読む
11	第10章 福祉計画の主体 1.福祉計画の主体 2.その他福祉計画の主体	教科書補助資料9 小テスト・グループワーク	教科書P152～160 を事前に読む
12	第11章 福祉計画の種類 1.地域福祉計画 2.老人福祉法ならびに老人保健法に基づく法律 3.介護保険事業計画 4.障害福祉計画 5.その他の福祉計画——次世代育成支援行動計画	教科書補助資料10	教科書P162～172 を事前に読む 課題(宿題)レポート 作成
13	第12章 福祉計画の策定方法 1.地域福祉計画にみる問題分析と合意形成過程の特徴 2.分野別福祉計画にみる問題分析と合意形成過程の特徴 3.策定の留意点	教科書補助資料11 課題について図書館で調 べディスカッションを行う (ラーニングコモンズ)	教科書P174～186 を事前に読む
14	第13章 福祉計画の評価方法 1.評価の必要性 2.評価の種類と方法 3.評価の尺度	教科書補助資料12 小テスト・グループワーク	教科書P188～196 を事前に読む

15	第14章 地方自治体における福祉計画の実際 1.市町村地域福祉計画の策定状況 2.地域福祉計画策定の実態	教科書補助資料13	教科書P198～210 を事前に読む
期末 試験	前期期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 筆記試験	70点満点の記述方式のテストを学期末に実施		
(2) レポート	レポートは30点満点の採点とする。課題(宿題)は授業で配布された資料や図書館等で調べ、レポートを作成し指定された期日まで提出すること。		
(3) その他	授業内容の理解度を確保するため3回小テストを実施する。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とする。		
教科書		参考書	
書 名:社会福祉士シリーズ 福祉行財政と福祉計画 第3版 著者名:福祉臨床シリーズ編集委員会編 発行所:弘文堂 価 格:2,500円(税別)		書 名:社会福祉士養成講座(10) 福祉行財政と福祉計画 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会 発行所:中央法規 価 格:2,200円(税別)	
その他補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書補助資料として、「社会福祉の動向2018」、「厚生労働白書」、「福祉新聞」等を用いる。 ・小テスト・グループワーク資料として、国家試験過去問題をカバーする資料を作成し配布する。 			

授 業 科 目 名	社会福祉運営管理	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{えんどう としみ} 遠藤 寿海	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては、初回授業時に説明します。 E-mail:endo.toshimi@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>措置から契約へ移行したことにより、社会福祉施設には「経営」の考え方が導入され、利用者の人権尊重とその人らしい生活の実現に向けて、より良質なサービスの提供に基づく運営の継続性が求められるようになっている。そのため、サービス提供を行う組織や団体は、適切なサービス提供体制を確保するために、明確なビジョンに基づく組織運営、人材確保・人材育成、働きやすい環境づくり等に組織全体として取り組まなければならない。</p> <p>社会福祉士は、サービス利用者のより良い生活の実現のために、福祉を取り巻く現代的課題に敏感になるとともに、事業計画等の立案、苦情対応、リスクマネジメント、OJT、連携（チームアプローチ）の調整などを通して組織づくりに関与することがある。本講義では、福祉サービス利用者にとって有益な福祉サービス組織のあり方をイメージでき、現場におけるサービスマネジメントの基礎を理解することを目指す。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
	○	G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	○	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
①福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など）について理解する。	目標	A C G K
②福祉サービスの経営管理とリスクマネジメントを含む運営マネジメントの基礎を理解する。	目標	A C G K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 福祉サービスにおける組織と経営	講義 教材:授業計画、教科書	教科書p.1～p.17 を読んでおくこと
2	法人の概念 コンプライアンスとガバナンス 社会福祉法人の概要、理事会・評議員会の役割	講義 教材:教科書	教科書p.19～p.47 を読んでおくこと
3	福祉サービスに係る組織や団体① 社会福祉法人制度・定義、役割、税制、実際、その他	講義 教材:教科書	教科書p.33～p.47 を再読しておくこと
4	福祉サービスに係る組織や団体② 特定非営利活動法人制度・定義、役割、税制、実際、その他	講義 教材:教科書	教科書p.48～p.62 を読んでおくこと

5	福祉サービスに係る組織や団体③ その他の組織や団体：医療法人、公益法人、営利法人、市民団体、自治会、その他	講義 教材：教科書	教科書p.63～p.75 を読んでおくこと
6	福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論① 1) 経営戦略や事業計画に関する基礎理論 2) 組織に関する基礎理論	講義 教材：教科書	教科書p.76～p.98 を読んでおくこと
7	福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論② 3) 管理運営に関する基礎理論 4) 集団の力学に関する基礎理論	講義 教材：教科書	教科書 p.98～ p.113を読んでおく こと
8	福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論③ 5) リーダーシップに関する基礎理論	講義 教材：教科書	教科書 p.114～ p.119を読んでおく こと
9	福祉サービスの管理運営の方法① 1) サービスマネジメント	講義 教材：教科書	教科書 p.120～ p.137を読んでおく こと
10	福祉サービスの管理運営の方法② 2) サービスの質の評価 3) 福祉サービス第三者評価	講義 教材：教科書、配布資料	教科書 p.138～ p.152を読んでおく こと
11	福祉サービスの管理運営の方法③ 4) 苦情対応と苦情解決システム 5) リスクマネジメント 6) サービス管理の課題と方向性	講義 教材：教科書、配布資料	教科書 p.153～ p.174を読んでおく こと
12	福祉サービス提供組織の経営と実際 ～社会福祉法人運営管理者による講話～	ゲストスピーカーによる 講義 質疑応答	レポート提出
13	福祉サービスの管理運営の方法④ 7) 人事・労務管理 8) 人材育成と定着へ向けて	講義 教材：教科書	教科書 p.175～ p.222を読んでおく こと
14	福祉サービスの管理運営の方法⑤ 9) 働きやすい労働環境の整備	講義 教材：教科書	教科書 p.175～ p.222を再読してお くこと
15	福祉サービスの管理運営の方法⑥ 1) 会計管理 2) 財務管理 3) 情報管理 4) 戦略的広報 まとめ	講義 教材：教科書	教科書 p.223～ p.276を読んでおく こと
期末 試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 筆記試験：60% (2) レポート：25% (3) コメントシートの提出：15%			
教科書		参考書	
書 名：福祉サービスの組織と経営 第5版 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会・編集 発行所：中央法規出版 価 格：2,200円(税別)		書 名：社会福祉学習双書2017 社会福祉概論Ⅱ 著者名：社会福祉学習双書編集委員会・編集 発行所：全国社会福祉協議会 価 格：2,400円(税別)	

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	社会保障	授業形態・単位数	講義・4単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名:遠藤 ^{えんどう} 寿海 ^{としみ}	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては、初回授業時に説明します。 E-mail:endo.toshimi@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	必修	
精神保健福祉士	〃	〃	

授業の概要	授業の概要との対応項目		
<p>本科目は、社会福祉士国家試験科目「社会保障」の出題基準と出題傾向に基づきながら、社会保障5制度の具体的内容、社会保障の概念と理念、財源と費用、諸外国の事例、現代社会における役割と課題などを理解・修得していく。</p>	○	A	知識
		B	技術・技能
	○	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
現代社会における社会保障制度の役割と課題を理解できるようになる。		目標	A C J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 社会保障制度の概要	授業計画 教科書補足プリント資料1	プリントで復習する。
2	第5章 医療保険 医療保険制度の概要 国民皆保険の意義	教科書補足プリント資料2	教科書p71～75を 事前に読む プリントで復習
3	第5章 医療保険 国民健康保険のしくみ	教科書補足プリント資料3	教科書p76～79を 事前に読む プリントで復習
4	第5章 医療保険 健康保険のしくみ	教科書補足プリント資料4 小テスト・グループワーク	教科書p79～82を 事前に読む プリントで復習

5	第5章 医療保険 高齢者医療制度のしくみ	教科書補足プリント資料5	教科書p82～88を 事前に読む プリントで復習
6	第5章 医療保険 診療報酬と医療供給	教科書補足プリント資料6	教科書p76を事前 に読む プリントで復習
7	第5章 医療保険 近年の医療制度改革	教科書補足プリント資料7 小テスト・グループワーク	プリントで復習
8	第8章 介護保険 介護保険制度の概要	教科書補足プリント資料8	教科書p127～132 を読む プリントで復習
9	第8章 介護保険 要介護認定とケアマネジメント	教科書補足プリント資料9	教科書p133～135 を読む プリントで復習
10	第8章 介護保険 介護保険のサービス内容と今後の課題	教科書補足プリント資料 10 小テスト・グループワーク	教科書p143～146 を読む プリントで復習
11	第7章 雇用保険 雇用保険制度の概要	教科書補足プリント資料 11	教科書p114～120 を読む プリントで復習
12	第7章 雇用保険 雇用保険二事業と今後の課題	教科書補足プリント資料 12	教科書p120～125 を読む プリントで復習
13	第6章 労災保険 労働基準法の全体像 労災保険制度の概要	教科書補足プリント資料 13	教科書p95～105を 読む プリントで復習
14	第6章 労災保険 労災保険の給付 労災保険の費用負担	教科書補足プリント資料 14 小テスト・グループワーク	教科書p105～112 を読む プリントで復習
15	前期まとめ		教科書既習内容ポ イントを再確認
16	前期末筆記試験		
17	オリエンテーション 第4章 年金制度 年金制度の概要	授業計画 教科書補足プリント資料1	教科書p49～54を 事前に読む プリントで復習
18	第4章 年金制度 老齢給付	教科書補足プリント資料2	教科書p55～59を 事前に読む プリントで復習
19	第4章 年金制度 障害給付、遺族給付	教科書補足プリント資料3 小テスト・グループワーク	教科書p59～63を 事前に読む プリントで復習
20	第4章 年金制度 年金財政のしくみ	教科書補足プリント資料4	教科書p63～65を 事前に読む プリントで復習
21	第4章 年金制度 年金改革の歴史	教科書補足プリント資料5	プリントで復習
22	第4章 年金制度 2004年改正とその後	教科書補足プリント資料6	教科書p65～68を 事前に読む プリントで復習
23	第4章 年金制度 3階建て構造と企業年金の基礎	教科書補足プリント資料7 小テスト・グループワーク	教科書p51を事前 に読む プリントで復習
24	第4章 年金制度 社会保険の理論	教科書補足プリント資料8	教科書p52を事前 に読む プリントで復習

25	第2章 歴史と今後の展望 社会保障の歴史(世界)	教科書補足プリント資料9	教科書p25～30を 事前に読む プリントで復習
26	第1章 社会保障の理念 諸外国における社会保障制度の概要	教科書補足プリント資料 10 小テスト・グループワーク	プリントで復習
27	第2章 歴史と今後の展望 社会保障の歴史(日本)	教科書補足プリント資料 11	教科書p19～25を 事前に読む プリントで復習
28	第3章 社会保障給付費の財政 日本の社会保障給付費の特徴	教科書補足プリント資料 12	教科書p33～45を 事前に読む プリントで復習
29	第1章 社会保障の理念 社会保障の理念 社会保障の機能	教科書補足プリント資料 13 小テスト・グループワーク	教科書p4～16を事 前に読む プリントで復習
30	後期まとめ		教科書既習内容ポ イントを再確認
期末 試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
筆記試験	70点満点の○×問題、穴埋め問題の方式のテストを学期末に実施する。		
レポート	レポートは30点満点の採点とする。内容は、授業内容に沿い、興味関心を持った領域について、各自で課題を設定する方式とする。		
その他	授業内容の理解度を確認するため、数回の小テストを実施する。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の個所を各自確認する資料とする。		
教科書			
書名:	社会保障法解体新書(第4版)	著者名:	久塚純一・山田省三
発行所:	法律文化社	価格:	2,400円(税別)
その他補足事項			
・小テスト・グループワークの資料として、国家試験過去問題をカバーする教材を作成し配布する。			

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成30年度

授業科目名	高齢者に対する支援と 介護保険制度	授業形態・単位数	講義・4単位
		開講年次	1年次
担当教員	職名:教授 氏名: ^{えんどう としみ} 遠藤 寿海	開講期	通年
		授業回数	30回
		期末試験の有無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の 必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail:endo.toshimi@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	//	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>超高齢社会となった我が国においては、介護需要に 応えるだけではなく、介護予防の視点を重視した幅広 い高齢者福祉実践に関する理解が求められている。中 核となる介護保険制度は、制度開始以降改正が重ねら れ、近年は、地域包括ケアシステムの構築と認知症対 策を中心としつつ、2017年の介護保険法改正では、 新たに共生型サービスが制度化され、分野を超えた連 携が求められてきている。本講義では、高齢者および 高齢者福祉を取り巻く社会状況、諸制度や関連機関、 高齢者分野におけるソーシャルワーク実践活動に必要 な知識・技術等に関する理解を深め、社会に出た際 に十分対応できる多様な専門知識の修得を図っていく。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
	○	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
	○	G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との 対応項目(受講して得られる力)	
①高齢者の生活実態、高齢者を取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について理解できるようになる。	目標	A D G I
②介護保険制度の全体像を把握し、具体的な支援機関とその役割について理解できるようになる。	目標	A
③高齢者の福祉・介護に係る様々な法制度について理解できるようになる。	目標	A
④高齢者虐待防止を含む、高齢者の権利擁護について理解できるようになる。	目標	A
⑤高齢者自身が望む生活スタイルに合わせた支援のあり方について考えられるようになる。	目標	A D G
⑥介護の概念や対象、及びその理念等について理解できるようになる。	目標	A
⑦介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解できるようになる。	目標	A

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業概要と評価方法、授業の進め方等の説明 高齢者の特性①	オリエンテーション 講義(配布資料)	配布資料を読む

2	高齢者の特性②	講義(配布資料)	配布資料を読む
3	少子高齢化と高齢者① ・高齢者の生活実態と社会情勢	講義(配布資料)	配布資料を読む
4	少子高齢化と高齢者② ・高齢者の福祉需要・介護需要	講義(配布資料)	配布資料を読む
5	高齢者の保健福祉の発展① ・高齢者保健福祉の起源と生成	講義(配布資料)	配布資料を読む
6	高齢者保健福祉の発展② ・高齢者保健福祉制度の発展 ・法改正等の最近の動向	講義(配布資料)	配布資料を読む
7	高齢者支援の関係法規① ・高齢者保健福祉の法体系 ・老人福祉法①	講義(配布資料)	配布資料を読む
8	高齢者支援の関係法規② ・老人福祉法②	講義(配布資料)	配布資料を読む
9	高齢者支援の関係法規③ ・高齢者の医療の確保に関する法律	講義(配布資料) グループ課題の提示	配布資料を読む グループ課題のまとめ
10	高齢者支援の関係法規④ ・バリアフリー法 ・高齢者住まい法	講義(配布資料)	配布資料を読む グループ課題のまとめ
11	高齢者支援の関係法規⑤ ・高齢者虐待防止法①	講義(配布資料)	配布資料を読む グループ課題のまとめ
12	高齢者支援の関係法規⑥ ・高齢者虐待防止法②	講義(配布資料)	配布資料を読む グループ課題のまとめ
13	高齢者支援の関係法規⑦ ・成年後見制度と日常生活自立支援事業	講義(配布資料)	配布資料を読む グループ課題のまとめ
14	グループ課題プレゼンテーション①	グループ発表(資料・PPT) 質疑応答	
15	グループ課題プレゼンテーション② 夏期休暇中課題の提示	グループ発表(資料・PPT) 質疑応答	
16	夏期休暇中課題のプレゼンテーション	グループ発表(資料)	
17	介護保険法① ・介護保険制度の概要、基本的枠組み、制度の目的	講義(配布資料)	配布資料を読む
18	介護保険法② ・介護保険制度の仕組みのサービス体系① (保険者と被保険者、保険料、財源等)	講義(配布資料)	配布資料を読む
19	介護保険法③ ・介護保険制度の仕組みとサービス体系② (介護給付、予防給付、地域支援事業の概要)	講義(配布資料)	配布資料を読む
20	介護保険法④ ・介護保険制度の仕組みとサービス体系③ (財政安定化基金、介護報酬等)	講義(配布資料)	配布資料を読む
21	介護保険法⑤ ・介護保険制度の運営と行政機関の役割 ・各種組織及び団体の役割(国保連、社協等)	講義(配布資料)	配布資料を読む
22	介護保険法⑥ ・地域包括支援センターの役割と実際 (組織体系、活動、ネットワーキング)	講義(配布資料)	配布資料を読む
23	高齢者福祉における専門職の役割と実際① ・介護支援専門員とケアマネジメント ・ケアプランの種類	講義(配布資料)	配布資料を読む

24	高齢者福祉における専門職の役割と実際② ・社会福祉士とその他の専門職 ・高齢者支援における連携とネットワーキング	講義(配布資料)	配布資料を読む 事例課題①配布 (25回授業時間に 演習実施)
25	高齢者福祉において社会福祉士に求められる支援の視点 (事例検討)	グループディスカッション	配布資料を読む 事例課題②配布(復 習課題)
26	介護の概念および介護の対象	講義(配布資料)	配布資料を読む
27	介護の方法	講義(配布資料)	配布資料を読む
28	介護過程とケアマネジメントとの関係	講義(配布資料)	配布資料を読む
29	認知症とそのケア 終末期ケア	講義(配布資料)	配布資料を読む
30	福祉用具の活用、住環境整備 まとめ	講義(配布資料)	配布資料を読む
期末 試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価(評価方法・基準)			
<p>下記の方法で総合的に評価する。 評価割合は、筆記試験40%、グループ課題40%、その他授業中に課したレポート等の提出20%。 (1)筆記試験:100点満点の筆記試験を後期末に実施。 (2)グループ課題への取組とプレゼンテーション:前期1回、後期1回実施。 (3)レポート課題:授業中に随時提示。</p>			
教科書		参考書	
使用しない。毎回、資料を配布する。		<p>書名:高齢者に対する支援と介護保険制度 第5版 (2016年1月発行) 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会・編集 発行所:中央法規出版 価格:2,600円(税別)</p> <p>書名:介護保険制度とは? 著者名:東京都社会福祉協議会・編集 発行所:東京都社会福祉協議会 価格:400円(税別)</p>	
その他補足事項			
介護保険制度は改正が多く、教科書の内容も随時変わっていくため、参考書として挙げた「高齢者に対する支援と介護保険制度 第5版」をベースにして、配布資料により授業を実施する。国家試験受験の際に必要な者は、新しい版がでているかどうか確認の上で購入すること。			

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成30年度

授業科目名	障害者に対する支援と 障害者自立支援制度	授業形態・単位数	講義・2単位
		開講年次	2年次
担当教員	職名:非常勤講師 氏名: ^{さいとう} 齊藤 ^{たかゆき} 隆之 本務先:東北文化学園大学 職名:講師	開講期	前期
		授業回数	15回
		期末試験の有無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の 必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に教室等で質問等に対応 E-mail:t-saito@hss.tbgu.ac.jp (件名に学籍番号・氏名を入力)		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	必修	
精神保健福祉士	〃	〃	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>障害者福祉は近年大きな制度的変革の波にさらされている。一方で、その歴史の変遷に源流を置く基本理念や概念は、揺らぐことない共通基盤として、障害者福祉を理解しようとする者に、代えがたい示唆を与えてくれる。本講義では、障害者福祉の歴史的展開、基本理念、諸概念への理解を深めた上で、法制度の実態とその課題を学ぶことで、障害者ソーシャルワークの射程である「障害者の生活」について実践的視座を身につけるものである。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との 対応項目(受講して得られる力)	
(全体) 「障害者の生活を支援すること」について、その本来的意味をソーシャルワークの視点で理解し、実践的視座を養う。	目標	A C G H I J
(1) 障害者福祉の歴史的展開からその理念、諸概念の本質を理解する。	目標	A
(2) 障害者福祉を取り巻く法制度、サービス、各種組織、専門職等について理解する。	目標	A B J
(3) 障害者ソーシャルワークの視点を醸成し、その生活を支援することについて考察する。	目標	B G J K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 障害者福祉の視点	教科書、PPT、レジュメ配布	予習:教科書の該当箇所確認。 復習:講義資料に記載
2	障害者福祉の歴史的展開と社会情勢	教科書、PPT、レジュメ配布	予習:教科書の該当箇所確認。 復習:講義資料に記載

3	障害者福祉の基本理念	教科書、PPT、レジュメ配布	予習：教科書の該当箇所確認。 復習：講義資料に記載
4	障害の概念と障害者の定義	教科書、PPT、レジュメ配布	予習：教科書の該当箇所確認。 復習：講義資料に記載
5	障害者の基本的理解と法体系①	教科書、PPT、レジュメ配布	予習：教科書の該当箇所確認。 復習：講義資料に記載
6	障害者の基本的理解と法体系②	教科書、PPT、レジュメ配布	予習：教科書の該当箇所確認。 復習：講義資料に記載
7	障害者総合支援法によるサービス体系①	教科書、PPT、レジュメ配布	予習：教科書の該当箇所確認。 復習：講義資料に記載
8	障害者総合支援法によるサービス体系②	教科書、PPT、レジュメ配布 映像資料	予習：教科書の該当箇所確認。 復習：講義資料に記載
9	障害者の生活保障	教科書、PPT、レジュメ配布	予習：教科書の該当箇所確認。 復習：講義資料に記載
10	障害者をささえる人々と社会参加	教科書、PPT、レジュメ配布	予習：教科書の該当箇所確認。 復習：講義資料に記載
11	障害者のケアマネジメント	教科書、PPT、レジュメ配布	予習：教科書の該当箇所確認。 復習：講義資料に記載
12	権利擁護と差別解消法	教科書、PPT、レジュメ配布	予習：教科書の該当箇所確認。 復習：講義資料に記載
13	障害者ソーシャルワークの実際①	プリント グループワーク	復習：講義資料に記載。
14	障害者ソーシャルワークの実際②	プリント グループワーク	復習：講義資料に記載。
15	まとめ 「生活する」ということ	ディスカッション	
期末試験	前期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
<基礎点> 定期試験100点(前期50点、後期50点) (a) <加算点> 発言点+GoodQP(上限15点) (b) <評価> (a) + (b)の総計で大学の規定に沿って素点評価を行う。 ※遅刻、途中退席等については学生受講規定に基づく。 ※詳細については初回講義時に説明をする。			
教科書			
書名：新・初めて学ぶ社会福祉3障害者福祉論		著者名：杉本敏夫ら	
発行所：ミネルヴァ書房		価格：2,400円(税別)	

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	児童・家庭福祉	授業形態・単位数	講義・4単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名:加藤 ^{かとう} とよ	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明する。 E-mail:初回授業時に提示する。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	//	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>本科では、子ども、子育て家庭をめぐる社会情勢について概説し、子ども家庭福祉の状況、具体的課題を理解したうえで、子ども家庭福祉の理念、法体系、実施体制、諸支援制度について理解し考察を深める。</p> <p>より効果的な援助活動を展開するため、必要な児童家庭福祉の基本的内容を習得していく。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="checkbox"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="checkbox"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="checkbox"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="checkbox"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
子ども、子育て家庭をめぐる社会情勢について焦点を当て、子ども子育て家庭福祉の状況、具体的課題を自分の言葉で説明できるようになる。	目標	A C D I
子ども観や子どもの権利の重要性の観点から、子ども家庭福祉の理念について自分の視点で論じることができるようになる。	目標	A C D I J
援助活動を展開するために必要な法体系、実施体制、支援制度がわかり、実践に備えることができるようになる。	目標	A B G J K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と目標(授業の内容) 評価方法・授業の進め方の留意点	授業計画 教科書 補足資料 振り返りレポート	P1～P5を読みポイントを整理しておく
2	現代社会と子ども家庭の状況 ① 少子高齢社会と子育てをめぐる現状	教科書 補足資料 振り返りレポート	P31～P38を読みポイントを整理しておく

3	② 現代社会と子ども家庭の問題	教科書 補足資料 振り返りレポート	P38～P44を読み ポイントを整理して おく
4	③ 子どもの育ち、子育てのニーズ	教科書 補足資料 振り返りレポート 理解促進テスト G・W	P45～P51を読み ポイントを整理して おく
5	子ども家庭福祉とは 子ども家庭の福祉の理念・原理	教科書 補足資料 振り返りレポート	P2～P10を読みポ イントを整理しておく
6	子どもと家庭の権利保障	教科書 補足資料 振り返りレポート	P11～P18を読み ポイントを整理して おく
7	日本の子ども家庭福祉の歴史	教科書 補足資料 振り返りレポート	P19～24を読みポ イントを整理しておく
8	外国の子ども家庭福祉の歴史	教科書 補足資料 振り返りレポート	P24～P30を読み ポイントを整理して おく
9	子ども・子育て制度の創設	教科書 補足資料 振り返りレポート 理解促進テスト G・W	P54～P65を読み ポイントを整理して おく
10	子ども家庭福祉にかかわる法体系 ① 児童福祉法	教科書 補足資料 振り返りレポート	P70～P74を読み ポイントを整理して おく
11	② 関連法	教科書 補足資料 振り返りレポート	P74～P80を読み ポイントを整理して おく
12	子ども家庭福祉の実施体制 ① 行政機関、関連機関	教科書 補足資料 振り返りレポート	P81～P91を読み ポイントを整理して おく
13	② 関連機関・福祉機関	教科書 補足資料 振り返りレポート	P91～P96を読み ポイントを整理して おく
14	③ 子ども家庭福祉の財政	教科書 補足資料 振り返りレポート	P97～P101を読み ポイントを整理して おく
15	振り返り・小テスト	教科書 まとめ小テスト G・W	P1～P101のポイン ト・プリントを整理する
16	④ 子ども家庭福祉の専門職	教科書 補足資料 振り返りレポート DVD「子どもの権利」20分	P102～P111を読 みポイントを整理し ておく
17	⑤ 苦情解決と権利擁護	教科書 補足資料 振り返りレポート	P112～P116を読 みポイントを整理し ておく
18	子ども家庭福祉にかかわる福祉・保健 ① 母子保健	教科書 補足資料 振り返りレポート	P118～P133を読 みポイントを整理し ておく
19	② 障害児と家族への支援	教科書 補足資料 振り返りレポート	P134～P148を読 みポイントを整理し ておく
20	③ 児童健全育成	教科書 補足資料 振り返りレポート	P149～P157を読 みポイントを整理し ておく
21	④ 保育	教科書 補足資料 振り返りレポート	P158～P175を読 みポイントを整理し ておく

22	⑤ 子育て支援	教科書 補足資料 振り返りレポート	P176～P186を読み みポイントを整理し ておく
23	⑥ ひとり親家庭への支援	教科書 補足資料 振り返りレポート	P187～P198を読み みポイントを整理し ておく
24	⑦-1 社会的養護	教科書 補足資料 振り返りレポート 理解促進テスト G・W	P199～P219を読み みポイントを整理し ておく
25	⑦-2 社会的養護	教科書 補足資料 振り返りレポート	P199～P219を読み みポイントを整理し ておく
26	⑧ 児童虐待対策	教科書 補足資料 振り返りレポート	P232～P246を読み みポイントを整理し ておく
27	⑨ 非行・情緒障害児への支援	教科書 補足資料 振り返りレポート	P220～P231～ P223を読みポイント を整理しておく
28	⑩ 女性の福祉	教科書 補足資料 振り返りレポート	P247～P254を読み みポイントを整理し ておく
29	子ども家庭福祉援助活動	教科書 補足資料 振り返りレポート	P255～P265を読み みポイントを整理し ておく
30	施設ケアと子ども家庭福祉の援助活動	教科書 補足資料 振り返りレポート	P266～P275を読み みポイントを整理し ておく
期末 試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 筆記試験 70点満点の記述方式のテストを学期末に実施 (2) レポート 30点満点の採点とする。 (3) その他 理解度を確認のため3回小テストを実施する。採点は授業内で答え合わせを行い、各自理解不足の箇所を各自強化する資料とする。			
教科書		参考書	
書 名:新・社会福祉士養成講座 15「児童や家庭 に対する支援と児童・家庭福祉制度」 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会編集 発行所:中央法規 価 格:2,200円(税別)		書 名:子ども家庭福祉論 著者名:柏女霊峰 発行所:誠信書房 価 格:2,400円(税別)	
その他補足事項			
* 授業内容 G・W(グループワーク)			

授 業 科 目 名	低所得者に対する支援と 生活保護制度	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: ^{たかはし} 高橋 ^{かよ} 嘉代	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の 必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に質問を受け付けます。Eメールでの質問も可。(質問の際には学籍番号と氏名を明記すること。) E-mail:works3120@me.com		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	必修	
精神保健福祉士	〃	〃	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>授業では憲法 25 条の国民の「生存権」を保障するものであるところの生活保護を中心とする公的扶助について学ぶ。社会保障制度体系における公的扶助の概念、対象および歴史を概説し、わが国の低所得者の生活実態、福祉需要とその背景を明らかにする。わが国の救貧制度の中心をなす生活保護の目的・対象・方法及び生活保護行政、保護の動向等低所得者の支援の実態について取り上げる。自立支援プログラム、ソーシャルワーカーの役割、就労自立支援対策の実際を紹介する。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との 対応項目(受講して得られる力)	
低所得者の支援に関する制度についての知識を身につける。	目標	A B C J
生活保護の目的と原理・原則を理解し、説明できる。	目標	A B C J
自立支援プログラムについて理解する。	目標	A B C J
福祉専門職として必要な知識を習得する。	目標	A B C D G H I J K L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 公的扶助の概念と範囲 (テキスト第1章第1節:p2-15)	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第2週実施の小テスト対策。 テキストの第2週の範囲を読んでおくこと。
2	貧困・低所得者問題と社会的排除 (テキスト第2章第1節:p18-31) ※第1回小テスト	教員作成の資料配布およびスライド上映。	テキストの第3週の範囲を読んでおくこと。

3	公的扶助の歴史(1) 海外編 (テキスト第3章第1節:p34-41)	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第4週実施の小テスト対策。 テキストの第4週の範囲を読んでおくこと。
4	公的扶助の歴史(2) 海外編 (テキスト第3章第2節:p42-48) ※第2回小テスト	教員作成の資料配布およびスライド上映。	テキストの第5週の範囲を読んでおくこと。
5	貧困・低所得者対策の動向 (テキスト第3章第3節:p49-58)	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第6週実施の小テスト対策。 テキストの第6週の範囲を読んでおくこと。
6	生活保護法の構成、目的と原理・原則 (テキスト第4章第1節・第2節:p60-70) ※第3回小テスト	教員作成の資料配布およびスライド上映。	テキストの第7週の範囲を読んでおくこと。
7	保護の種類と内容および方法 (テキスト第4章第3節:p71-84)	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第8週実施の小テスト対策。 テキストの第8週の範囲を読んでおくこと。
8	保護施設 (テキスト第4章第4節:p85-99) ※第4回小テスト	教員作成の資料配布およびスライド上映。	テキストの第9週の範囲を読んでおくこと。
9	最低生活保障水準と生活保護基準 (テキスト第5章:p102-121)	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第10週実施の小テスト対策。 テキストの第10週の範囲を読んでおくこと。
10	生活保護の動向 (テキスト第6章:p124-148) ※第5回小テスト	教員作成の資料配布およびスライド上映。	テキストの第11週の範囲を読んでおくこと。
11	生活困窮者自立支援法と生活福祉資金貸付制度 (テキスト第7章第1節・第2節:p150-164)	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第12週実施の小テスト対策。 テキストの第12週の範囲を読んでおくこと。
12	社会手当。ホームレスの自立支援・その他の支援 (テキスト第7章第3節—第5節:p166-182) ※第6回小テスト	教員作成の資料配布およびスライド上映。	テキストの第13週の範囲を読んでおくこと。
13	生活保護の運営実施体制と関係機関・団体 (テキスト第8章:p184-197)	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第14週実施の小テスト対策。 テキストの第14週の範囲を読んでおくこと。
14	貧困・低所得者に対する相談援助活動 (テキスト第9章:p200-225) ※第7回小テスト(小テスト最終回)	教員作成の資料配布およびスライド上映。	テキストの第15週の範囲を読んでおくこと。
15	生活保護における自立支援 (テキスト第10章:p228-246)	教員作成の資料配布およびスライド上映。	小テストの復習。 第14週・15週の学習範囲の復習をしておくこと。
期末試験	50点満点(1問1点×50問)の期末試験を実施。 小テストの内容を中心として出題予定。	教員作成の資料配布およびスライド上映。	期末試験の復習。

期末試験の講評	
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。	
到達度の評価（評価方法・基準）	
<p>評価は加点式（第1回授業開始時点での持ち点は0点とする）。</p> <p>課題（15点満点：奇数回目の授業時に授業に関する簡単な課題を課す。初回時のみ1点、以後1回2点。8回実施）</p> <p>小テスト（35点満点：偶数回目の授業時に実施。5点満点、7回実施）</p> <p>期末試験（50点満点）の総ての合計点をもって最終的な評価とする。</p> <p>成績評価は100点満点とし、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。</p>	
教科書	参考書
<p>書名：『低所得者に対する支援と生活保護制度 第4版』</p> <p>著者名：社会福祉士養成講座編集委員会（編）</p> <p>発行所：中央法規</p> <p>価格：2,200円（税別）</p>	特に指定しない。
その他補足事項	
<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験の問題の大半（9割以上）を小テストから出題するので、小テストの復習を必ず行うこと。 ・奇数回の授業時に実施する課題は当該の授業時に提出すること（次週以降の提出は原則として認めない）。 ・成績処理終了後、模範解答添付の上で期末試験の答案を返却する。知識の定着のために是非活用されたい。 	

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	保健医療サービス	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: <small>ほんだ るみこ</small> 本田 ルミ子 本務先: 芦ノ牧温泉病院 職 名: ソーシャルワーカー	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業の前後の時間		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	必修	
精神保健福祉士	〃	〃	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
本講義は保健医療の制度の成り立ちと構造を理解するとともに、今日の変化を踏まえて、社会福祉専門職の役割を学ぶことを目的とする。また、医療における多職種連携、協働、チームアプローチの理論と実践を学ぶ。	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
1. 我が国における保健医療制度の歴史と現状を理解し、今日的課題を考えることができる。		目標 A C
2. その中でのソーシャルワーカーの役割を理解する。		目標 A J
3. 医療機関における様々な専門職について理解し、更にチームアプローチについて理解する。		目標 A J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	医療と福祉について	レジュメ	
2	保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割①	教科書	P1~P19
3	保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割②	教科書	P20~P38
4	保健医療サービスを提供する施設とシステム①	教科書・資料配布	P39~P62
5	保健医療サービスを提供する施設とシステム②	教科書	P63~P80

6	保健医療サービスを提供する施設とシステム③	教科書	P81～P90
7	保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割①	教科書	P91～P112
8	保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割②	教科書・資料配布	P113～P130
9	保健医療サービスの専門職の役割	教科書	P131～P162
10	保健医療サービスの提供と経済的保障	教科書	P163～P196
11	保健医療サービスにおける専門職の連携と実践①	教科書	P197～P204
12	保健医療サービスにおける専門職の連携と実践②	教科書	P205～P231
13	保健医療サービスにおける地域の社会資源との連携と実践①	教科書	P233～P268
14	保健医療サービスにおける地域の社会資源との連携と実践②	教科書	P233～P268
15	まとめ 保健医療サービスの現状と課題	教科書・資料配布	P1～P268
期末試験	前期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 学期末試験（記述方式）で理解度の確認をします（80%） (2) 授業態度（20%）			
教科書			
書 名：新・社会福祉士養成講座 17.保健医療サービス 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会 発行所：中央法規 価 格：2,200円（税別）			

授 業 科 目 名	就労支援	授業形態・単位数	講義・1単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: ^{たかはし} 高橋 ^{かよ} 嘉代	開 講 期	後期
		授 業 回 数	8回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に質問を受け付けます。Eメールでの質問も可。 E-mail:works3120@me.com (学籍番号と氏名も明記して下さい)		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	//	選択必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
この授業では、様々な生活課題を擁する人々を「就労」という側面からいかに支援してゆくかについて学習する。この目的の達成を目指し、現代社会における労働を取り巻く状況および生活課題をもつ人々の生活実態について述べる。そしてそれらを踏まえた上で、就労と雇用に関する国内外の動向、就労支援に関する関連法規について説明する。さらに就労支援サービス利用者のニーズ、就労支援関連機関の機能、就労支援のプロセス等具体的な就労支援について解説する。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
ソーシャルワーカーに必要な就労支援サービスの知識を身につける。	目標	A B C J K L
生活課題をもつ人々の生活実態を理解する。	目標	A B C H J K L
現代日本における労働を取り巻く状況を理解する。	目標	A B C J K L
就労支援技術の基礎を学ぶ。	目標	A B C D J K L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 働く事の意味と社会福祉士の役割 (テキスト序章:p2-8)	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第2週実施の小テスト対策。 テキストの第2週の範囲を読んでおくこと。
2	雇用・就労の動向と施策 (テキスト第1章:p10-32) ※第1回小テスト	教員作成の資料配布およびスライド上映。	テキストの第3週の範囲を読んでおくこと。

3	障害者と就労支援 (テキスト第2章第1節－第3節:p34－65)	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第4週実施の小テスト対策。 テキストの第4週の範囲を読んでおくこと。
4	特別支援学校における就労支援 (テキスト第2章第4節－第6節:p66－88) ※第2回小テスト	教員作成の資料配布およびスライド上映。	テキストの第5週の範囲を読んでおくこと。
5	低所得者等の就労の現状 (テキスト第3章第1節:p90－99)	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第6週実施の小テスト対策。 テキストの第6週の範囲を読んでおくこと。
6	低所得者等にかかる就労支援 (テキスト第3章第2節:p100－136) ※第3回小テスト	教員作成の資料配布およびスライド上映。	テキストの第7週の範囲を読んでおくこと。
7	専門職の役割と実際 (テキスト第4章:p138－156)	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第8週実施の小テスト対策。 テキストの第8週の範囲を読んでおくこと。
8	就労支援の連携と実際 (テキスト第5章:p158－183) ※第4回小テスト	教員作成の資料配布およびスライド上映。	小テストの復習。 期末試験対策。
期末試験	50点満点(1問1点×50問)の期末試験を実施。 試験は○×式、小テストの内容を中心に出题予定。		期末試験の復習
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価 (評価方法・基準)			
評価は加点式(第1回授業開始時点での持ち点は0点とする)。課題(10%、奇数週に実施:1週目のみ1回1点、3週目以降は1回3点)・小テスト(40%、偶数週に実施:10点満点×4回)・期末試験(50点満点)の総ての合計点をもって最終的な評価とする。成績評価は100点満点とし、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。			
教科書		参考書	
書名:『新・社会福祉士養成講座18 就労支援サービス 第4版』 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会(編) 発行所:中央法規 価格:1,600円(税別)		特に指定しない。	
その他補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験の問題は小テストの内容から出題するので、小テストの復習を必ず行うこと。 ・奇数回の授業時に実施する課題は当該の授業時に提出すること(次週以降の提出は原則として認めない)。 ・成績処理終了後、模範解答添付の上で期末試験の答案を返却する。知識の定着のために是非活用されたい。 			

授 業 科 目 名	権利擁護と成年後見制度	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: ^{なかざと} 中里 ^{まこと} 真 本務先:福島大学 職名:准教授	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に教室で質問等に対応		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	選択必修	
精神保健福祉士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
本講義は、「社会福祉士」「精神保健福祉士」の試験科目に対応した内容で授業を構成します。特に試験分野の授業科目名と対応する分野のうち、①相談援助活動と法の関わり、②成年後見制度の項目についての知識習得と内容理解を図ることが狙いです。	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
	○	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
①「社会福祉士」「精神保健福祉士」に関連する行政法の内容を理解する	目標	A J K
②法的な思考方法を養う	目標	C K
③実務でも必要となる法的知識を身につける	目標	A J K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 相談援助活動において想定される法律問題	授業計画案内 問題認識の確認と応答	シラバスの内容確認
2	相談援助活動と法との関わり 日本国憲法の性質	レジュメ配布	出題課題の解答
3	相談援助活動と法との関わり 日本国憲法の基本原理(社会権)の理解	レジュメ配布	出題課題の解答
4	相談援助活動と法との関わり 行政法の理解(行政行為)	レジュメ配布	出題課題の解答
5	相談援助活動と法との関わり 行政法の理解(行政事件手続き)	レジュメ配布	出題課題の解答

6	相談援助活動と法との関わり 行政法の理解(情報公開)	レジュメ配布	出題課題の解答
7	相談援助と法との関わり 民法の理解(日本民法典の構成とその内容)	レジュメ配布	出題課題の解答
8	相談援助と法との関わり 民法の理解(権利の担い手と客体としての物権)	レジュメ配布	出題課題の解答
9	相談援助と法との関わり 民法の理解(契約法の基礎)	レジュメ配布	出題課題の解答
10	相談援助と法との関わり 民法の理解(不法行為法の基礎)	レジュメ配布	出題課題の解答
11	相談援助と法との関わり 民法の理解(家族法の基礎)	レジュメ配布	出題課題の解答
12	成年後見制度 制度の概要	DVD視聴	出題課題の解答
13	成年後見制度 成年後見・保佐・補助	レジュメ配布	出題課題の解答
14	成年後見制度 任意後見制度・成年後見制度の最近の動向	レジュメ・資料の配布 資料読み取り	出題課題の解答
15	到達度および理解度確認のための課題への取組	当日配布する「課題」を 解く	これまでの授業内容を 復習する
期末 試験	なし		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価(評価方法・基準)			
各授業・最終講義時の課題で成績判定を行う。基準は上記「到達目標」の①②③に照らして、下記の通りとする。			
80点以上:すべての項目が極めて高い水準に達している			
79~70点:すべての項目が高い水準に達している			
69~60点:全体的に望ましい水準に達している			
59点以下:不合格			
教科書		参考書	
書名:権利擁護と成年後見制度 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会 発行所:中央法規 価格:2,200円(税別)		書名:ポケット六法 平成31年度版(平成30年 10月刊行予定) 著者名:山下友信、宇賀克也(編集代表) 発行所:有斐閣 価格:1,852円(税別)(未刊行のため、著者名・価 格は平成30年度版の情報)	
その他補足事項			
授業中、条文に触れる機会があるため、参考書に挙げたポケット六法(有斐閣)やデイリー六法(三省堂)など小型の六法を用意することが望ましい。また、教室を巡回し、条文の読み上げをしてもらうことがあるほか、上記に示した回以外にも指名して意見を挙げてもらうことがある。受講者はその準備をしておくこと。			

授 業 科 目 名	更生保護制度	授業形態・単位数	講義・1単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:准教授 氏名:黒津 康司	開 講 期	前期
		授 業 回 数	8回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては、初回授業時に説明する。 E-mail:kurotsu.kouji@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	//	選択必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目		
更生保護制度の重要な論点について、講義・解説することを通して、再犯を防止し、地域生活定着を目指す上で、福祉・生活支援の重要性を理解し、実践していくための基礎的理解を促す。	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)		
更生保護制度の基本的な考え方、主要な論点の概略について理解することができる。	目標	A C J K	

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	1 オリエンテーション ～「更生保護制度」において何を学ぶか? (1)授業概要と目標 (2)授業内容と評価方法 (3)その他(受講時の留意点等) 2 更生保護とは① (1)更生保護の意義	講義・レジュメとテキスト	必要時、内容等を指示する。
2	更生保護とは② (1)更生保護制度の歴史的展開 (2)刑事司法制度における更生保護の位置付け	同上	同上

3	仮釈放制度・恩赦 (1) 仮釈放とは (2) 仮釈放の手続 (3) 恩赦とは	講義・レジюмеとテキスト	必要時、内容等を指示する。
4	保護観察 (1) 保護観察の意義と目的 (2) 保護観察の方法 (2) 保護観察の種類	同上	同上
5	生活環境の調整・更生緊急保護 (1) 生活環境の調整とは (2) 更生緊急保護とは ○更生緊急保護の対象となる者 ○更生緊急保護の手続 ○更生緊急保護の内容	同上	同上
6	更生保護制度の担い手・関係機関団体との連携 (1) 保護観察官 (2) 保護司 (3) 更生保護施設 (4) 民間協力者 (5) 関係機関団体との連携	同上	同上
7 8	医療観察制度 (1) 医療観察制度の概要 (2) 社会復帰調整官の役割 (3) 関係機関との連携 *2回続けて実施	同上	同上
到達度の評価（評価方法・基準）			
100点満点とし、その割合は、小論文・レポートの結果：60%、ミニテストの結果：40%とする。 (1) 小論文・レポート：授業内容に沿って2回位課題を与えて行う。課題との整合性、構成、独創性、文法等を採点の基準とし、S～Dの5段階で評価する。 (2) ミニテスト：授業内容の理解度を確認するため、3～4回行う。問題との整合性、構成、文法等を採点の基準とし、S～Dの5段階で評価する。 (3) その他：遅刻、欠席、受講態度等評価に関わるその他の詳細については、初回授業時に説明する。			
教科書			
書名：更生保護制度 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会 発行所：中央法規 価格：1,600円(税別)			

授 業 科 目 名	相談援助演習 I	授業形態・単位数	演習・1単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{くさか} 日下 ^{てるみ} 輝美	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明する。 E-mail:kusaka.terumi@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <p>① 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り入れる。</p> <p>② 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により授業を行う。</p> <p>③ ②の実技指導に当たっては、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワークングについての内容を含める。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
相談援助の基盤となる自己覚知、他者理解への洞察を深め、基本的な面接技術（コミュニケーション技術、面接技法等）を身に付ける。	目標	A E F L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1)相談援助演習の位置づけ (2)相談援助演習を学ぶ意義 (3)相談援助演習を進める視点	演習・講義	予習:pp.3-8 復習:ノート整理
2	アイスブレーキング～演習に向けての準備体操 2-1 自己紹介-自分を知ってもらう方法 2-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:pp.9-12 復習:自分を他者に伝えるレポート作成
3	自己理解 3-1 「わたし」がみる私像-自己概念を学ぶ 3-2 私のルーツ-自分の家族関係を知る 3-3 ふりかえりとまとめ	個別ワーク	予習:pp.13-20 復習:ジェノグラム表記の基本を整理する。

4	自己開示と他者理解 4-1 自己開示 4-2 共感の意味と共感の深さ 4-3 価値観の違い 4-4 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習: pp.21-34 復習: 「共感」と「同情」についてまとめ、その違いを整理する。
5	コミュニケーション 5-1 コミュニケーションの基本 5-2 言語的コミュニケーション 5-3 非言語的コミュニケーション 5-4 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習	予習: pp.35-45 宿題: 多様な価値観の自己評価
6	ソーシャルワークの価値と倫理 6-1 ソーシャルワークの価値とは何か 6-2 ソーシャルワークの倫理とは何か 6-3 ふりかえりとまとめ	個別ワーク 配布資料: 「ソーシャルワーカーの倫理綱領」	予習: pp.47-54 復習: 「ソーシャルワーカーの倫理綱領」の整理
7	他者理解・疑似体験 7-1 ブラインドウォークによる援助関係の理解 7-2 車椅子体験による障害理解 7-3 ふりかえりとまとめ	グループ演習	宿題: 疑似体験レポート作成
8	他者理解-福祉サービス利用者理解のための実践と課題	ゲストスピーカーによる講義	宿題: 講義の感想と学びのまとめレポート提出
9	基本的なコミュニケーション技術の習得① 9-1 コミュニケーションの本質の理解 9-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習: pp.35-45 宿題: 「他者理解とは何か」ミニレポート提出
10	基本的なコミュニケーション技術の習得② 10-1 言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーションの理解 10-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	復習: 「私のコミュニケーション・スタイル」の整理
11	基本的なコミュニケーション技術の習得③ 11-1 他者をどう見るか 11-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	復習: ストレングス視点の整理
12	基本的な面接技術の習得① 12-1 面接って何だろう? 12-2 面接場面の観察1 12-3 ふりかえりとまとめ	面接場面のDVD視聴 グループ演習	予習: pp.55-56 復習: ノート整理
13	基本的な面接技術の習得② 13-1 面接の基本的スキルを身に付ける 13-2 面接場面の観察2 13-3 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習: pp.56-59 復習: ノート整理
14	基本的な面接技術の習得③ 14-1 ロールプレイを通して面接を体験する 14-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習: pp.60-65 復習: ノート整理
15	ソーシャルワーク演習のまとめ 15-1 演習Ⅰのふりかえりとまとめ 15-2 最終課題レポート	グループ演習	予習: 授業全体の要点等の整理 復習: ノート整理
到達度の評価（評価方法・基準）			
演習中の参加態度(自発的発言・意欲的取り組み) 10%、宿題・レポート50%、提出課題の評価40%により評価する。欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点、自発的かつ適切な質疑応答であると認められる場合は1回につき2点加点により総合的に評価する。			

教科書	参考書
書名:ソーシャルワーク演習ワークブック 著者名:ソーシャルワーク演習教材開発研究会(編集) 発行所:(株)みらい 価格:2,200円(税別)	書名:社会福祉士相談援助演習 著者名:福祉士養成講座編集委員会 発行所:中央法規出版 価格:2,500円(税別) 書名:支援者が成長するための50の原則 あなたの心と力を築く物語 著者名:川村隆彦 発行所:中央法規出版 価格:2,600円(税別)
その他補足事項	
ロールプレイングを含む演習は、参加・時間厳守・守秘を大切にしてこそ成立する授業である。 遅刻や欠席は他の学生に多大な迷惑がかかるので、互いの学ぶ権利を尊重し合うことに十分留意されたい。	

授 業 科 目 名	相 談 援 助 演 習 II	授 業 形 態 ・ 単 位 数	演 習 ・ 2 単 位
		開 講 年 次	3 年 次
担 当 教 員	職名:教授 職名:教授 氏名:遠藤 寿海 氏名:日下 輝美	開 講 期	通 年
		授 業 回 数	30 回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オ フ ィ ス ア ワ ー に つ い て は 初 回 授 業 時 に 説 明 す る。 E-mail:endo.toshimi@fukushima-college.ac.jp kusaka.terumi@fukushima-college.ac.jp		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒 業	専 門 教 育 科 目	選 択	
社 会 福 祉 士	//	必 修	

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 と の 対 応 項 目	
<p>相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <p>① 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り入れる。</p> <p>② 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により授業を実施する。</p> <p>③ ②の実技指導に当たっては、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワークングについての内容を含める。</p>	A	知識
	B	技術・技能
	C	論理的思考力
	D	文章表現力
	E	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	○ G	協働能力
	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○ I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○ J	多様性への理解力、応用力
	○ K	課題対処力
○ L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受 講 し て 得 ら れ る 力)	
① 相談援助の過程（インターク、アセスメント、エンゲージメント、プランニング、インターベンション、モニタリング、効果測定、終結とアフターケア等）において、社会福祉士に求められる基本的な援助技術を身につける。	目 標	G I J K L
② 相談援助事例（グループに対する援助事例を含む）課題への取り組み及びロールプレイング等を通して、総合的かつ包括的な援助方法を理解する。	目 標	G I J K L
③ 社会福祉士に求められているアウトリーチやソーシャルアクション等の活動について学び、実践につなげられるようになる。	目 標	G I J K L

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ・ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 、 使 用 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	オリエンテーション 1-1 相談援助演習 I のふりかえり ・ 援助の原則 (自己覚知等) ・ ソーシャルワーカーの価値と倫理 ・ 基本的な面接技法 (バイステックの7原則を含む) 1-2 ふりかえりとまとめ	講義 個別ワーク グループ演習	

2	記録技法① 2-1 記録の種類と方法 2-2 面接場面での記録 2-3 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習	予習:教科書 p.67-p.71を読んで おく。
3	記録技法② 3-1 ケース記録の作成 3-2 ふりかえりとまとめ	講義 個別ワーク グループ演習	予習:教科書 p.72-p.77を読んで おく。
4	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)① 課題の把握とニーズの確定 4-1 インテークとエンゲージメント 4-2 倫理的配慮とアカウントビリティ 4-3 ふりかえりとまとめ	講義 個別ワーク グループ演習	予習:個別援助の展 開過程について振り 返しておく。
5	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)② アセスメント(1) 5-1 アセスメント面接の意味 5-2 アセスメント面接ロールプレイの準備 5-2 ふりかえりとまとめ	講義 個別ワーク グループ演習	予習:教科書 p.79-p.82を読んで おく。
6	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)③ アセスメント(2) 6-1 アセスメント面接ロールプレイ① 6-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習 ロールプレイ	
7	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)④ アセスメント(3) 7-1 アセスメント面接ロールプレイ② 7-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習 ロールプレイ	
8	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)⑤ プランニング(1) 8-1 プランニング演習 8-2 ふりかえりとまとめ	支援計画作成演習 個別ワーク グループ演習	予習:教科書 p.83-p.87を読んで おく。
9	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)⑥ プランニング(2) 9-1 プランニング演習 9-2 ふりかえりとまとめ	支援計画作成演習 個別ワーク グループ演習	
10	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)⑦ プランニング(3) 10-1 プランニング演習 10-2 ふりかえりとまとめ	支援計画作成演習 個別ワーク グループ演習	
11	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)⑧ ケースカンファレンス 11-1 模擬ケースカンファレンス体験 11-2 チームアプローチの理解 11-3 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習 ロールプレイ	予習:教科書 p.89-p.94を読んで おく。
12	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)⑨ 評価と効果測定(モニタリング)(1) 12-1 効果測定演習(利用者満足度) 12-2 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習 ロールプレイ	予習:教科書 p.95-p.104を讀ん でおく。
13	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)⑩ 評価と効果測定(モニタリング)(2) 13-1 効果測定演習(支援内容評価)① 13-2 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習	予習:教科書 p.95-p.104を再読 しておく。
14	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)⑪ 評価と効果測定(3) 14-1 効果測定演習(支援内容評価)② 14-2 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習	予習:教科書 p.95-p.104を再読 しておく。

15	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)⑫ 再アセスメントと支援の強化、終結とアフターケア 15-1 再アセスメントの視点と支援の変更 15-2 終結の判断、アフターケア 15-3 ふりかえりとまとめ	講義 個別ワーク グループ演習	
16	集団援助(グループワーク)① 16-1 グループ(集団)への援助方法 16-2 グループワークと社会福祉士の関わり事例① 16-3 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習 配付資料	
17	集団援助(グループワーク)② 17-1 グループワークと社会福祉士の関わり事例② 17-2 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習 配布資料	
18	コミュニティワークのプロセス① 18-1 地域の福祉ニーズ(課題)の明確化の方法 18-2 福祉ニーズの分析方法 18-3 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習	予習:教科書 p.105-p.119を読んでおく。
19	コミュニティワークのプロセス② 19-1 地域社会の社会資源 19-2 サービスの開発と地域への働きかけ 19-3 地域活動プログラムの立案体験(1)	講義 グループ演習	予習:教科書 p.105-p.119を再読しておく。
20	コミュニティワークのプロセス③ 20-1 地域活動プログラムの立案体験(2) 20-2 策定したプログラムの発表 20-3 ふりかえりとまとめ	グループ演習 プレゼンテーション	
21	ソーシャルアクション 21-1 福祉計画の策定とソーシャルワーク 21-2 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習 配布資料	
22	事例研究の意味と方法 事例研究① ソーシャルワーカーの倫理と組織の業務方針の間で 22-1 倫理的ジレンマとは 22-2 ふりかえりとまとめ	講義 個別ワーク グループ演習	予習:教科書 p.121-p.129を読んでおく。
23	事例研究② 認知症高齢者への生活支援 23-1 権利擁護と自己決定を支える 23-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習 ロールプレイ	予習:教科書 p.130-p.135を読んでおく。
24	事例研究③ 利用者のできる力を支える支援 24-1 利用者と職員の関係性と自立支援 24-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習 ロールプレイ	予習:教科書 p.136-p.140を読んでおく。
25	事例研究④ 知的障害者の自立生活支援 25-1 短期・長期目標に沿った継続的支援 25-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書 p.141-p.147を読んでおく。
26	事例研究⑤ 障害児をもつ母親への支援 26-1 ソーシャルサポートネットワークの構築 26-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書 p.148-p.154を読んでおく。
27	事例研究⑥ 子どもの自己決定を支える 27-1 自己決定を支えるソーシャルワーカーの態度 27-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習 ロールプレイ	予習:教科書 p.155-p.160を読んでおく。
28	事例研究⑦ 地域住民の主体形成を目指して(1) 28-1 地域組織化(ネットワークキング)の方法 28-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書 p.161-p.166を読んでおく。
29	事例研究⑧ 地域住民の主体形成を目指して(2) 29-1 小地域福祉活動とは 29-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書 p.161-p.166を再読しておく。

30	相談援助演習Ⅱのふりかえり 30-1 ソーシャルワーカーの倫理綱領 30-2 バイステックの7原則 30-3 まとめ	講義 配布資料	
到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>下記により、総合的に評価する。</p> <p>(1) 演習中の参加態度(自主的発言、意欲的取り組み、グループワークへの貢献):50%</p> <p>(2) 課題への取り組み:10%</p> <p>(3) レポート課題(GWや長期休暇中の宿題、予習課題等)の完成度と提出期限の遵守:40%</p>			
教科書		参考書	
<p>書名:ソーシャルワーク演習ワークブック[第2版] 著者名:ソーシャルワーク演習教材開発研究会・編集 発行所:(株)みらい 価格:2,200円(税別) 平成29年度「相談援助演習Ⅰ」の教科書を引き続き使用する。</p>		<p>書名:社会福祉士相談援助演習 著者名:福祉士養成講座編集委員会・編集 発行所:中央法規出版 価格:2,500円(税別)</p> <p>書名:支援者が成長するための50の原則 あなたの心と力を築く物語 著者名:川村隆彦 発行所:中央法規出版 価格:2,600円(税別)</p> <p>書名:社会福祉士シリーズ21 相談援助演習[第2版] 著者名:福祉臨床シリーズ編集委員会・編集 発行所:弘文堂 価格:2,500円(税別)</p>	
その他補足事項			
<p>ロールプレイングを含む演習は、参加・時間厳守・守秘義務を大切にしてこそ成立する授業である。 遅刻や欠席は他の学生に多大な迷惑がかかるので、互いの学ぶ権利を尊重しあうことに十分留意されたい。</p>			

授 業 科 目 名	相 談 援 助 演 習 Ⅲ	授 業 形 態 ・ 単 位 数	演 習 ・ 2 単 位
		開 講 年 次	4 年 次
担 当 教 員	職名:教授 氏名:遠藤 寿海 <small>えんどう としみ</small>	開 講 期	通 年
		授 業 回 数	30 回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オ フ ィ ス ア ワ ー に つ い て は 、 初 回 授 業 時 に 説 明 す る 。 E-mail:endo.toshimi@fukushima-college.ac.jp		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒 業	専 門 教 育 科 目	選 択	
社 会 福 祉 士	//	必 修	

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 と の 対 応 項 目	
<p>相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <p>① 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り入れる。</p> <p>② 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により授業を実施する。</p> <p>③ ②の実技指導に当たっては、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキングについての内容を含める。</p> <p>④ 後期（16～30回）は、相談援助実習体験を踏まえて、より良い援助観の涵養を目指していく。</p>	<input type="checkbox"/>	A 知識
	<input type="checkbox"/>	B 技術・技能
	<input type="checkbox"/>	C 論理的思考力
	<input type="checkbox"/>	D 文章表現力
	<input type="checkbox"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="checkbox"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="checkbox"/>	G 協働能力
	<input type="checkbox"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="checkbox"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="checkbox"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="checkbox"/>	K 課題対処力
<input type="checkbox"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受 講 し て 得 ら れ る 力)	
① 具体的な事例や援助場面を想定し、社会福祉援助技術に関する講義と現場実習とを関連づけながら、観察力、理解力、分析・応用力、理論化する力を身につける。	目 標	B I K
② 計画・企画力、判断力、行動力を駆使できる高い自律性を身につけるとともに、主体的に行動する態度を身につける。	目 標	B I K L
③ 人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。	目 標	B I J K L

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ・ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 、 使 用 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	オリエンテーション (1) 相談援助演習Ⅲの位置づけ (2) 相談援助実習との関係	講義	予習: 相談援助の技術の体系を整理しておく。 復習: ノート整理
2	相談援助における価値と倫理① 2-1 ソーシャルワーカーの倫理綱領 2-2 バイステックの7原則	グループ演習	予習: ソーシャルワーカーの倫理綱領を呼んでおく。 復習: ノート整理

3	相談援助における価値と倫理② 3-1 実践場面での活用 3-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：ソーシャルワーカーの倫理綱領、社会福祉士の行動規範を読んでおく。 復習：ソーシャルワークの価値とは何か、まとめる。
4	事例からソーシャルワークの意味を知る① 4-1 人権 4-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：教科書の該当部分を読んでおく。 復習：ノート整理
5	事例からソーシャルワークの意味を知る② 5-1 差別・偏見 5-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：教科書の該当部分を読んでおく。 復習：ノート整理
6	事例からソーシャルワークの意味を知る③ 6-1 自立支援 6-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：教科書の該当部分を読んでおく。 復習：ノート整理
7	事例からソーシャルワークの意味を知る④ 7-1 クライアントの利益の最優先 7-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：教科書の該当部分を読んでおく。 復習：ノート整理
8	事例からソーシャルワークの意味を知る⑤ 8-1 倫理的ジレンマ 8-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：教科書の該当部分を読んでおく。 復習：ノート整理
9	相談援助場面での実践① 9-1 アウトリーチ 9-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：アウトリーチについて調べる。 復習：ノート整理
10	相談援助場面での実践② 10-1 チームアプローチ 10-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：チームアプローチについて調べる。 復習：ノート整理
11	相談援助場面での実践③ 11-1 ネットワーキング 11-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：ネットワーキングについて調べる。 復習：ノート整理
12	相談援助場面での実践④ 12-1 社会資源の活用・調整・開発 12-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：社会資源について調べる。 復習：ノート整理
13	相談援助場面での実践⑤ 13-1 記録について(1) 13-2 ふりかえりとまとめ	配布資料 グループ演習	予習：相談援助場面でもとめられる記録の種類をまとめる。 復習：「記録を書く上での留意点」を整理する。
14	相談援助場面での実践⑥ 14-1 記録について(2) 14-2 ふりかえりとまとめ	配布資料 グループ演習	予習：前回授業内容を振り返る。 復習：「すぐれた記録」の条件についてまとめる。
15	ソーシャルワークのプロセスを理解する① 15-1 認知症の夫を介護する妻への支援事例 15-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：教科書の該当部分を読んでおく。 復習：ノート整理
16	ソーシャルワークのプロセスを理解する② 16-1 知的障害者の地域生活移行支援事例 16-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：教科書の該当部分を読んでおく。 復習：ノート整理

17	ソーシャルワークのプロセスを理解する③ 17-1 リハビリテーション病棟での退院支援事例 17-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書の該当部分を読んでおく。 復習:ノート整理
18	ソーシャルワークのプロセスを理解する④ 18-1 非行の相談を受けた児童相談所が行う家族支援の事例 18-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書の該当部分を読んでおく。 復習:ノート整理
19	ソーシャルワークのプロセスを理解する⑤ 19-1 生活保護を受給している一人親世帯の自立支援の事例 19-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書の該当部分を読んでおく。 復習:ノート整理
20	地域福祉活動を理解する① 20-1 地域福祉計画・地域福祉活動計画を行政と社会福祉協議会とで協働して作成する事例(1) 20-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書の該当部分を読んでおく。 復習:ノート整理
21	地域福祉活動を理解する② 21-1 地域福祉計画・地域福祉活動計画を行政と社会福祉協議会とで協働して作成する事例(2) 21-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書の該当部分を読んでおく。 復習:ノート整理
22	地域福祉活動を理解する③ 22-1 災害時の要援護者ネットワークづくりのための小地域福祉計画策定の事例(1) 22-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書の該当部分を読んでおく。 復習:ノート整理
23	地域福祉活動を理解する④ 23-1 災害時の要援護者ネットワークづくりのための小地域福祉計画策定の事例(2) 23-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書の該当部分を読んでおく。 復習:ノート整理
24	ケアマネジメントの過程を理解する① 24-1 支援計画作成演習(1) 24-2 ふりかえりとまとめ	配布資料によるグループ演習 (高齢者または障害者の事例をグループで選択)	予習:高齢者ケアマネジメントの過程と、障害者の計画相談支援についてまとめておく。 宿題:グループ活動によるプラン作成。
25	ケアマネジメントの過程を理解する② 25-1 支援計画作成演習(2) 25-2 ふりかえりとまとめ	配布資料によるグループ演習	宿題:グループ活動によるプランの完成。
26	支援計画プレゼンテーション 26-1 模擬カンファレンス体験 26-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習 (カンファレンス形式によるグループで作成したプランの検討)	予習:カンファレンスの意義と目的をまとめておく。
27	サービス評価について理解する① 27-1 サービスの質を評価するしくみ 27-2 ふりかえりとまとめ	配布資料によるグループ演習	予習:第三者委員制度、QC活動等について調べておく。 復習:ノート整理
28	サービス評価について理解する② 28-1 福祉サービスの自己評価・第三者評価 28-2 ふりかえりとまとめ	配布資料によるグループ演習	予習:事例課題に取り組む。 復習:ノート整理
29	相談援助演習Ⅲのまとめ① 29-1 ソーシャルワークとは何か 29-2 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習	
30	相談援助演習Ⅲのまとめ② 30-1 実習及び演習での体験の振り返り 30-2 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習	

到達度の評価（評価方法・基準）

下記により、総合的に評価する。

(1) 演習中の参加態度(自主的発言、意欲的取り組み、グループワークへの貢献) :50%

(2) 課題への取り組み:30%

(3) レポート課題の提出(宿題、予習課題等) :20%

教科書	参考書
書 名: ソーシャルワーク演習ケースブック 著者名: ソーシャルワーク研究教材開発研究会・編集 発行所: (株)みらい 価 格:2,200円(税別)	書 名: ソーシャルワーク演習のための88事例 実践につなぐ理論と方法を学ぶ 著者名: 田中英樹・中野伸彦・編集 発行所: 中央法規出版 価 格:2,600円(税別)
	書 名: 社会福祉士シリーズ21 相談援助演習[第2版] 著者名: 福祉臨床シリーズ編集委員会・編集 発行所: 弘文堂 価 格:2,500円(税別)

その他補足事項

ロールプレイングを含む演習は、参加・時間厳守・守秘義務を大切にしてこそ成立する授業である。
遅刻や欠席は他の学生に多大な迷惑がかかるので、互いの学ぶ権利を尊重しあうことに十分留意されたい。

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成30年度

授業科目名	相談援助実習指導	授業形態・単位数	演習・3単位
		開講年次	3・4年次
担当教員	職名:教授 氏名:遠藤 寿海 <small>えんどう としみ</small>	開講期	通年
		授業回数	45回
		期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	45時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては、初回授業時に説明します。 E-mail:endo.toshimi@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	//	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>実習前には、実習の意義と目的及び方法、実習施設や分野の理解、実習に向けての対人援助技術の再確認、実習課題の設定と「実習計画書」の作成、実習の心構えと諸注意を学ぶ。</p> <p>実習後には、「実習日誌」「実習全体のまとめ」をもとに実習体験の振り返りと共有を行った後、実習反省会の開催、「実習報告書」の作成及び実習報告集のまとめを行う。</p>	A	知識
	B	技術・技能
	○ C	論理的思考力
	D	文章表現力
	E	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	○ G	協働能力
	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○ I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○ J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力
○ L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
①相談援助実習の意義について理解する。	目標	J
②相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実的に理解し、実践的な技術等を体得する。	目標	C G I
③社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等への理解を深め、自己に求められる課題を把握して、実習に臨むことができるようになる。	目標	C G I J L
④具体的な実習体験や援助活動を、専門的技術として概念化・理論化し、体系立てていくことができる。	目標	G I J L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 社会福祉士の役割と実習の目標と内容 実習前中後の流れ(全体像)と指導体制 他の科目との関連説明 実習契約構造の説明と実習の意義、実習生の権利	配布資料 教科書「相談援助実習の手引き」	予習:実習への動機と抱負整理 復習:実習先に関する資料収集

2	実習先の理解 実習の意義と目的 実習プログラム例 実習課題	教科書	予習:実習機関分析 の下書き 復習:実習課題の整理
3	人とかかわるとは 自己覚知ワーク① 自己コンピテンスアセスメントシートの記入	教科書 自己コンピテンスアセス メントシート	予習:課題レポート 作成 復習:課題レポート の修正
4	日本社会福祉士会の倫理綱領 社会福祉士の行動規範	教科書	予習:倫理綱領・行 動規範の一読 復習:授業の整理
5	実習受け入れ施設・機関の理解① 機関分析(法的根拠・保健医療福祉制度)	配布資料 グループ学習	予習:実習先の情報 収集 復習:授業の整理
6	事前訪問の意義と事前準備 「実習生プロフィール」の作成方法	教科書	予習:実習先の情報 整理 復習:生活教養の復 習、電話のかけ方の 確認
7	実習受け入れ施設・機関の理解② 機関分析(業務の整理)	配布資料 グループ学習	予習:実習先の概要 整理 復習:授業の整理
8	実習受け入れ施設・機関の理解③ 機関分析(利用者の理解)	配布資料 グループ学習	予習:学習成果発表 会発表内容の企画・ 整理
9	実習受け入れ施設・機関の理解④ 機関分析(実習先の地域性・地域特性・社会資源)	配布資料 グループ学習	予習:社会資源を調 べる
10	レジュメ「実習分野と施設・機関の理解」の作成 誓約書・健康診断書・細菌検査(検便)について	教科書 グループ学習	予習:「実習生プロ フィール」の作成 復習:学習成果発表 会準備
11	「実習分野と施設・機関の理解」の完成 「実習生プロフィール」(下書き)の提出	グループ学習	予習:学習成果発表 会準備
12	実習分野別の学修成果発表会 テーマ「実習分野と施設・機関の理解」	グループ発表	予習・復習:学習成 果発表会の整理
13	誓約書・実習生プロフィールの提出 「実習計画書」の書き方① 実習テーマ・課題の視点と立案の仕方	教科書 配布資料	予習:実習先地域の 歴史や現状を調べる 復習:実習テーマの 決定
14	「実習計画書」の書き方② 実習目標と課題の明確化	教科書 配布資料	予習:実習課題の探求 復習:目標と課題の 整理
15	「実習計画書」(案)の確認①	個別指導	予習:「実習計画書」 の下書き 復習:「実習計画書」 の修正
16	「実習計画書」(案)の確認② 実習施設・機関の社会的役割と今後の課題等、グループまとめ	個別指導 グループ学習	予習・復習:「実習計 画書」の修正
17	事前訪問予約等の確認 「実習計画書」(案)の確認③	教科書 個別指導	復習:事前訪問の連 絡調整
18	実習中に学ぶグループ課題テーマの設定 (実習反省会に向けて) 「実習計画書」(案)の確認④	グループ学習 個別指導	復習:グループ課題 の資料収集、整理
19	「実習計画書」の提出 実習指導担当者から助言・指導があった内容について修 正し、提出		予習・復習:実習計 画書の修正

20	「実習計画書」の発表会	個別発表 グループディスカッション	復習:他者の実習課題を確認し、自己の新たな課題の発見
21	直前ガイダンス① 実習開始にあたっての注意事項、確認事項 実習中の記録の種類と書き方	教科書	予習:教科書の「実際編」の熟読
22	直前ガイダンス② マナーの振り返り	グループ学習 ロールプレイ	復習:自己のマナーの再確認
23	「実習日誌」の書き方指導① 記録の意義と作成方法	教科書 グループ学習	復習・課題:「今日の出来事」を実習日誌スタイルで作成
24	「実習日誌」の書き方指導② 記録の実際(「実習日誌」の良い例、悪い例)	配布資料	
25	課題提出:「今日の出来事」実習日誌 添削指導 自己覚知ワーク② 自己コンピテンスアセスメントシートの再記入	グループ学習 個別指導 自己コンピテンスアセスメントシートの作成	予習:シート記載内容の達成状況整理
26	実習直前準備① 実習施設・機関等との実習計画書最終調整 実習終了時の諸注意・お礼状の書き方 実習自己評価表の書き方 帰校日指導日程調整	教科書 グループ学習	予習:教科書の該当部分の一読
27	実習直前準備② 準備物の自己・他者チェック 巡回指導教員との事前打合せ ソーシャルワーク技術チェック面接の準備	教科書 グループ学習	復習:ソーシャルワーク技術チェック面接事例の熟読
28	実習直前準備③ ソーシャルワーク技術チェック面接	VTR記録による自己のコミュニケーションスタイル等の確認	
29	実習直前準備④ ソーシャルワーク技術チェック面接	VTR記録による自己のコミュニケーションスタイル等の確認	
30	実習直前準備⑤ ソーシャルワーク技術チェック面接	VTR記録による自己のコミュニケーションスタイル等の確認 授業担当教員による講評	
	配属実習(180時間以上)	体調管理、時間厳守 日々の振り返りと実習日誌の記録	
31	実習の振り返り① 実習を終えての報告 自己覚知ワーク 自己コンピテンスアセスメントシートの記入 「実習自己評価表」の提出 「実習報告書」のフォーマット受領、提出方法・提出期限の確認	個別指導 自己コンピテンスアセスメントシート	予習:実習自己評価表の作成 復習:報告書等提出物の確認、「実習報告書」(下書き)作成
32	実習の振り返り② 実習体験の共有 プロセスレコードの作成、SWOT分析まとめ等	グループ学習	予習・復習:体験した内容のまとめと話し合った内容の整理
33	実習の振り返り③ プロセスレコード、SWOT分析まとめの発表	グループ学習	予習:グループ課題のテーマに沿った資料の収集・整理

34	実習の振り返り④ 実習評価に基づく個別指導 「実習報告書」(下書き)の個別指導 実習反省会の準備① テーマと発表方法の決定、発表概要の整理	個別指導 グループ学習	予習・復習:「実習報告書」(下書き)作成・修正
35	実習の振り返り⑤ 「実習報告書」(下書き)の個別指導 実習反省会の準備② 発表内容の情報収集と添削指導	グループ学習	予習・復習:「実習反省会」配布資料のまとめ、「実習報告書」(下書き)修正
36	実習反省会の準備③ 発表内容のまとめと添削指導 発表会用配布資料等の作成	グループ学習	予習・復習:「実習反省会」配布資料、PPT資料作成
37	実習反省会の準備④ 発表内容のまとめと添削指導 発表会用配布資料等の作成	グループ学習	予習・復習:「実習反省会」配布資料、PPT資料作成
38	実習反省会の準備⑤ 発表リハーサル		
39	実習反省会の準備⑥ 発表リハーサル 「実習報告書」の提出		
40 ・ 41 ・ 42	「実習反省会」の実施 発表及び指導	グループ発表 実習指導担当者からの助言 後輩とのディスカッション	復習:他グループから学んだことを整理
43	「実習反省会」の振り返り	グループ学習	復習:後輩とのディスカッションのまとめ
44	「相談援助実習指導」の総合評価	個別指導	
45	「相談援助実習指導」のまとめ 授業への参加態度、グループ学習への貢献等の自己評価	グループディスカッション	
到達度の評価 (評価方法・基準)			
<p>社会福祉士及び介護福祉士の養成を行う学校指定の規定により、相談援助実習指導の評価には、4/5以上の出席が必要である。出席基準を満たすこと。また、学外施設・機関での実習指導であることから、遅刻厳禁。</p> <p>以下の観点から総合的に評価するが、詳細は初回授業時に説明する。</p> <p>(1) 授業時の参加態度:10%</p> <p>(2) 提出課題の評価:20%</p> <p>(3) 実習計画書及び実習日誌の記録状況:10%</p> <p>(4) 実習反省会:30%</p> <p>(5) 実習報告書の内容及び提出期限の遵守:30%</p>			
教科書		参考書	
書名:「相談援助実習の手引き」 著者名:福島学院大学福祉学部福祉心理学科実習指導室		書名:社会福祉士相談援助実習 著者名:日本社会福祉士養成校協会・監修 発行所:中央法規出版 価格:2,600円(税別) その他の参考書籍等は、授業時間に提示する。	

その他補足事項

主体的で十分な事前学習があつてはじめて意味のある実習ができ、事後学習によって社会福祉専門職を目指す上で価値ある体験としての実習の意味が深まる。実習を行う上で中核となるものは、学生自らの学習による「実習課題の設定・実習計画書の作成」である。実り多い実習にするためにも、自己研鑽に励んでほしい。また、事後学習での体験のまとめは、自己省察を通した専門職としての価値と倫理を深めることにほかならず、自らの専門性をいかに向上させていくかを問うものとなる。

実習に当たっては、不安や心配もあると思われる。些細なことであっても、早めに実習指導担当教員に相談して解決し、実習に臨んでほしい。また、実習前・実習後に、個別面談指導を実施するので、相談内容等の要点をまとめ、限られた時間を有効に活用してほしい。

授 業 科 目 名	相談援助実習	授業形態・単位数	実習・4単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{えんどう としみ} 遠藤 寿海	開 講 期	時間割外
		授 業 回 数	実習180時間以上
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	—
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては、相談援助実習指導の時間に説明します。 E-mail:endo.toshimi@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>社会福祉士の国家試験受験資格取得のために履修が義務付けられている配属実習（180時間以上）である。社会福祉が実践されている現場において、援助の対象者にどのように社会福祉の専門知識や専門技術をもって向き合い、課題解決を図るのか、また、社会資源がいかに活用されているか等を学んでいく。</p> <p>これまでに学んだ社会福祉援助に関する価値と倫理、専門知識、専門技術について、実習体験を通して主体的に学び、社会福祉専門職に求められる基本的な態度を育成することを目指す。</p>	○	A 知識
	○	B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
	○	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
①社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「専門知識」「専門的援助技術」及び「関連知識」の理解を深め、対象者と向き合うことができる。	目標	A B
②社会福祉援助に必要な資質・能力・技術を習得する。	目標	B
③職業倫理を身につけ、福祉専門職としての行動ができるようになる。	目標	B
④自らの体験や活動を概念化、理論化、体系化していく力を養う。	目標	A B C D
⑤関連分野との連携のあり方と内容を理解する。	目標	A B
⑥支援計画の作成等を通して、本人・地域住民が主体となる支援の流れを理解する。	目標	B C D

授業計画	
授業テーマ・授業内容	
<p>相談援助実習(180時間以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習時間の構成は、一日8時間、週1回以上の休日をはさみ、4週間以上で、実日数23日以上となる。実習先によっては、その間に宿泊業務、休日出勤を含む場合がある。 ・実習の内容については、実習先の分野や、施設・機関・団体等によって異なるので、留意されたい。 ・実習期間中は、配属実習先の実習指導者の指示に従い、現場の業務の流れや利用者の生活状況、援助者の役割や社会福祉援助のあり方等の理解に努める。 ・巡回指導教員による巡回指導を実施する。必要に応じて、実習指導者、実習指導教員、実習生の三者で相談の上、実習計画の再検討を図る場合もある。 	
到達度の評価（評価方法・基準）	
<p>実習指導者による実習生の実習態度や実習課題の達成状況等の評価に基づく。 「実習評価表」による評価を基準とし、巡回指導時に話し合った実習指導者からの評価を参酌して、相談援助実習指導担当教員が本科目について成績評価を行う。</p>	
教科書	参考書
<p>書名：相談援助実習の手引き 著者名：福島学院大学福祉学部福祉心理学科実習指導室</p>	<p>書名：社会福祉士相談援助実習 著者名：日本社会福祉士養成校協会・監修 発行所：中央法規出版 価格：2,600円(税別)</p>
その他補足事項	
<p>* 実習における留意点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習先の利用者やその関係者等と円滑な人間関係を形成するよう努めること。 2) 利用者を理解し、そのニーズを把握すること。 3) 利用者やその関係者等と援助関係を形成する能力を強めること。 4) 利用者やその関係者の課題解決能力を高める援助について学ぶこと。 5) 社会福祉専門職としての職業倫理や、就業に関する規程を学び、組織の一員として働くことの意味を理解すること。 6) 実習先で行われている地域(コミュニティ)への働きかけを学ぶこと。 7) 社会福祉専門職としてのあるべき姿と必要な能力を実際に学び、自分自身を客観的にみつめて自己覚知を深めるとともに、社会福祉援助業務を職業とすることへの理解を深めること。 8) 実習課題を常に意識し、社会福祉士の福祉実践を主体的に学ぶこと。 <p>* 実習費として、1日1,000円程度を徴収する。詳細は、相談援助実習指導の授業で説明する。</p> <p>* 施設によっては、事前に健康診断及び細菌検査等が必要である(対象学生のみ実費徴収)。実習先からの指示に従って、実習指導室を通して検査等を行い、診断結果を提出すること。</p> <p>* 実習前に実習先を訪問し(事前訪問)、実習先への挨拶、自己紹介、実習計画書の提出等を行う。</p>	

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	精神保健学	授業形態・単位数	講義・4単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名:星野 仁彦 <small>ほしの よしひこ</small>	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
精神保健福祉士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
各ライフサイクルにおける精神保健と家庭・学校・職場・地域における精神保健について学ぶ。	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
精神保健の基礎知識について理解する。		目標 A C D H
各ライフサイクルにおける精神保健について理解する。		目標 A C J K L
精神保健における個別課題への取り組みと実験を理解する。		目標 A J K
地域精神保健と地域保健について理解する。		目標 A C H
諸外国における精神保健の概要について理解する。		目標 D H J K L
関連法規および施策について理解する。		目標 A H J L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	精神保健の概要、意義と課題	資料、レジュメ	次回予定のテキスト予習 当日レクチャーの復習
2	小児心身症、異尿・夜尿・遺糞症、夜驚症、分離不安(乳幼児期における精神保健)	資料、レジュメ	
3	いじめ、チック・抜毛癖などの習癖異常、場面かん黙(学童期における精神保健)	資料、レジュメ	
4	摂食障害(拒食症、過食症)、学校不適應の予防(思春期における精神保健)	資料、レジュメ ケーススタディ	

5	学生無気力、青い鳥症候群、思春期挫折症候群(青年期における精神保健)	資料、レジュメ	
6	うつ病、心身症の予防、適正飲酒(成人期における精神保健)	資料、レジュメ DVD視聴	
7	空の巣症候群、更年期障害、更年期うつ病(更年期における精神保健)	資料、レジュメ	
8	認知症の予防、もの忘れと認知症の鑑別(老年期における精神保健)	資料、レジュメ ケーススタディ	
9	マタニティ・ブルー、育児不安とストレス、産褥期うつ病(妊娠中、産褥期の精神保健)	資料、レジュメ	
10	不登校の予防、非行・怠学の予防(学校における精神保健)	資料、レジュメ DVD視聴	
11	燃え尽き症候群、仕事中毒・過労死の予防(職場における精神保健)	資料、レジュメ	
12	健康な家庭のあり方、アダルトチルドレンと共依存(家庭における精神保健)	資料、レジュメ	
13	ガン患者のメンタルケア、死に至る患者のメンタルケア(ターミナルケア精神保健)	資料、レジュメ	
14	ひきこもりの予防と対策、現代の社会病理(地域における精神保健)	資料、レジュメ ケーススタディ	
15	DV(夫婦間暴力)の予防、単身赴任、離婚・別居の夫婦療法(夫婦関係の精神保健)	資料、レジュメ DVの対策と予防(30分)	
16	児童虐待の予防、健全なしつけ方(親子関係の精神保健)	資料、レジュメ	次回予定のテキスト 予習
17	性非行の予防、売春対策、セックス依存、異常性愛(性に関する精神保健)	資料、レジュメ	当日レクチャーの復習
18	月経前不機嫌(PMS)、妊娠中絶、不妊症、レイプ・トラウマ、うつ病が女性に多い理由(女性の精神保健)	資料、レジュメ	
19	外国人花嫁、パリ症候群、外国人労働者のメンタルヘルス(外国人の精神保健)	資料、レジュメ	
20	教師のメンタルヘルス、校内暴力・学級崩壊の予防、様々な学校病理(教師の精神保健)	資料、レジュメ	
21	アルコール乱用・依存の予防と対策(アルコールと精神保健)	資料、レジュメ DVD視聴、ケーススタディ	
22	老人虐待の予防、呆け老人をもつ家族の会(介護者の精神保健)	資料、レジュメ	
23	過度のダイエットの危険性、イメージトレーニング(スポーツ選手の精神保健)	資料、レジュメ	
24	自殺の危険因子と予防因子、いのちの電話、集団(群発)自殺	資料、レジュメ ケーススタディ	
25	心身症、自律神経失調症、ガン・心臓病になりやすい性格(リエゾン精神保健)	資料、レジュメ 心身症とは何か(30分)	
26	各種の自助グループ(アルコール、薬物・過食・ギャンブル依存)	資料、レジュメ	
27	精神保健施策の概要		
28	精神保健における関係法規	資料、レジュメ	
29	精神保健における関係施策		
30	諸外国における精神保健		
30	精神保健福祉法とその関連性	資料、レジュメ	
期末試験	後期末試験(ペーパーテスト)		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			

到達度の評価（評価方法・基準）
毎回の豆テスト40%、期末試験60%による。 詳しくは初回時に説明する。
教科書
書名:精神保健の課題と支援 第6版 著者名:精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 発行所:へるす出版 価格:2,800円(税別)

授 業 科 目 名	精神保健福祉に関する 制度とサービス	授業形態・単位数	講義・4単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:講師 氏名: ^{きたもと} 北本 ^{あすか} 明日香	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の 必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail:kitamoto.asuka@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
精神保健福祉士	//	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
「精神障害者の生活支援システム」との関連性を考慮しながら、次の内容を中心に講義する。 ①精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉法との関わりについて学ぶ。 ②精神障害者の支援に関連する制度、福祉サービス等について学ぶ。 ③更生保護制度と医療観察法について学ぶ。 ④社会調査の概要と活用について基礎的な知識を学ぶ。	○ A	知識
	B	技術・技能
	○ C	論理的思考力
	D	文章表現力
	E	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	G	協働能力
	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○ I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との 対応項目(受講して得られる力)	
①精神保健福祉法に至る法改正の変遷を理解し、人権擁護に関する手続きや現行法の問題点について述べることができる。	目標	A C
②精神障害者が置かれてきた歴史的背景の理解を深め、精神保健福祉士に求められる役割を説明することができる。	目標	A I
③障害者総合支援法に至る法改正と障害福祉サービスの具体的内容を述べることができる。	目標	A C
④更生保護制度と社会福祉との連携と医療観察法における関係機関との連携を自分の視点で論じることができる。	目標	A I
⑤精神保健福祉士としての社会調査の意義と目的を説明することができる。	目標	A C

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要の紹介 評価方法、授業の進め方の留意点	シラバス 教科書補足資料 教科書	
2	社会福祉と精神保健福祉	教科書 教科書補足資料	教科書p1～6を事前に読む

3	精神保健福祉法成立までの経緯と歴史 精神病患者監護法	教科書 教科書補足資料	教科書p7～8を事前に読む
4	精神病院法と精神衛生法	教科書 新聞記事を使用しペアワークを行う	教科書p9を事前に読む
5	精神保健法(1)	教科書 教科書補足資料	教科書p10を事前に読む
6	精神保健法(2)	教科書 教科書補足資料	教科書p11を事前に読む
7	精神保健福祉法の構成(1)	教科書 教科書補足資料 DVD視聴(30分)「保護室について」(映像利用)	教科書p16～17を事前に読む
8	精神保健福祉法の構成(2)	教科書 教科書補足資料 DVD視聴(30分)「精神保健福祉法に至る法改正の変遷」(映像利用)	教科書p18～29を事前に読む 感想文の作成
9	精神保健福祉士の役割	教科書 教科書補足資料	教科書p30～31を事前に読む
10	最近の動向	教科書 教科書補足資料 ワールドカフェにて、精神保健福祉法についてディスカッションを行う	教科書p32～36を事前に読む
11	精神障害者福祉制度の概要と福祉サービス 障害者基本法と精神障害者施策	教科書 教科書補足資料	教科書p38～41を事前に読む
12	障害者総合支援法における精神障害者の福祉サービス	教科書 教科書補足資料 DVD視聴(30分)「障害者施策について」(映像利用)	教科書p43～49を事前に読む
13	障害者総合支援法における精神障害者の福祉サービス	教科書 教科書補足資料	教科書p52～58を事前に読む
14	精神障害者を対象とした福祉施策・事業	教科書 教科書補足資料	教科書p60～73を事前に読む
15	前期のまとめ 前期の復習		教科書既修内容ポイントを再確認
16	精神障害者に関連する社会保障制度の概要	教科書 教科書補足資料	教科書p76～85を事前に読む
17	医療保険制度・介護保険制度・経済的支援に関する制度	教科書 教科書補足資料	教科書p86～94を事前に読む
18	相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者 行政組織と民間組織	教科書 教科書補足資料	教科書p106～121を事前に読む
19	福祉サービス提供施設・専門職や地域の支援者	教科書 教科書補足資料	教科書p123～133を事前に読む
20	更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係 刑事司法と更生保護	教科書 新聞記事を使用しペアワークを行う	教科書p136～138を事前に読む
21	保護観察所と更生保護の担い手	教科書 教科書補足資料 DVD視聴(30分)「保護観察官の役割」(映像利用)	教科書p141～145を事前に読む

22	司法・医療・福祉の連携	教科書 教科書補足資料	教科書p146～159 を事前に読む
23	医療観察法の概要と実際 審判と精神保健参与員	教科書 教科書補足資料	教科書 p 1 6 2 ～ 163、p175～179 を事前に読む
24	指定入院機関における処遇	教科書 教科書補足資料	教科書p180～196 を事前に読む
25	地域処遇と社会復帰調整官	教科書 教科書補足資料 ゲスト講師招聘	教科書p170～172 を事前に読む 感想文を作成する
26	社会資源の調整・開発にかかわる社会調査 意義と目的	教科書 教科書補足資料	教科書p198～199 を事前に読む
27	対象と倫理	教科書 教科書補足資料	教科書p201～205 を事前に読む
28	量的調査法と質的調査法	教科書 教科書補足資料	教科書p205～216 を事前に読む
29	今後の制度の動向と精神保健福祉士	教科書 教科書補足資料	教科書 p 2 1 7 ～ 221、p97～100を 事前に読む
30	後期のまとめ 後期の復習	教科書 教科書補足資料	教科書既修内容ポ イントを再確認
期末 試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) レポート(50%)	レポート課題は、授業内容に沿って設定する。		
(2) 筆記試験(50%)	後期末に記述方式のテストを実施する。 *ただし、最終的な成績評価は、課題の提出状況や授業の積極的な参加等、総合的に 評価する。詳しくは、第1回目の授業時に説明する。		
(3) その他	授業内容の理解度を確保するため2回～3回、小テストを実施する。採点は授業内で答 え合わせを行い、理解不足の個所を各自確認する資料とする。		
教科書			
書 名:精神保健福祉に関する制度とサービス		著者名:古屋龍太編	
発行所:弘文堂		価 格:2,700円(税別)	

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	精神障害者の生活支援システム	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名:藤原 ^{ふじわら} 正子 ^{まさこ}	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail: fujiwara.masako@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
精神保健福祉士	//	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>ソーシャルワークの原点である社会と人間の相互関係から対象者（精神障害者）の理解を深め、精神障害者を一人の生活者として捉える視点を涵養する。</p> <p>精神保健福祉法第38条において精神科病院等の医療を受けている精神障害者やその家族等への社会復帰に関する相談援助をすることが医療提供施設の管理者に義務付けられている。それを担う職種の一つとして精神保健福祉士がある。精神保健福祉士国家資格誕生の背景には、わが国において平成26年に医療にかかっている精神疾患患者数392.4万人のうち、精神科病院に入院中の患者は31.3万人おり、その34.8%は5年以上の長期入院患者とされており、地域に受け入れ体制があれば退院が可能な「社会的入院者」は約7万人といわれている。個人とその人の周りの状況との全体的な視点から、退院・地域移行促進そして地域生活支援の条件および受け皿づくりの基盤整備についてみてゆく。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
精神障害者の生活支援に向き合う精神保健福祉士の原点と視点を理解する。	目標	A J
精神障害者の生活実態や人としての権利が侵害されてきた状況と精神保健福祉士の立ち位置と活動について説明できる。	目標	J
居住支援、就労支援制度とそれを活用した相談援助や生活支援活動について説明できる。	目標	A J
地域生活支援システムとしてピア（当事者）活動をはじめ、各関係機関の役割・機能とソーシャルサポートネットワークについて学ぶ。	目標	B J
精神保健福祉士としての現代社会における問題意識と精神障害者の生活支援について学ぶ。	目標	A J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 精神障害とは①	画集『心像の世界』	精神障害に関する記事を調べる
2	精神障害とは②	ビデオ『名医にQ 統合失調症』20分	精神障害についてまとめる

3	生活のしづらさ① 生活支援とは	ビデオ『幻聴から幻聴さんへ』37分	生活のしづらさについてまとめる
4	生活のしづらさ② 精神障害者と社会	アクティビティ 動いて選択	社会的入院についてまとめる
5	生活者としての精神障害者 精神障害者の生活実態	ビデオ『藤原さんの事例』30分	事例の感想文作成
6	社会的入院者の退院促進・地域移行の条件	ビデオ『精神科病院から地域へ』30分	地域移行の条件を各自考える
7	精神障害者のピアサポート	テキストpp.149-156	感想文作成
8	精神障害者と家族	テキスト pp.156-161	テキストを読んでもくる
9	精神障害者の生活と人権	テキスト pp.53-77	テキストを読んでもくる
10	精神障害者の居住支援①	テキスト pp.79-109	テキストを読んでもくる
11	精神障害者の居住支援②	ゲストスピーカー招聘	感想文作成
12	精神障害者の就労支援	テキスト pp.111-140	テキストを読んでもくる
13	地域社会における生活支援システム	テキスト pp.141-148、161-170	テキストを読んでもくる
14	行政における相談援助	テキスト pp.170-217	テキストを読んでもくる
15	ごくあたり前の生活をめざして	テキスト pp.219-236	テキストを読んでもくる
期末試験	前期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
期末試験60%、授業時の自主的な発言や発表等の参加態度・課題の取り組みおよび消化度・提出レポート内容40%により評価する。自発的かつ適切な質疑応答であると認められる場合1回につき2点加点。詳しくは第1回目の授業に説明する。			
教科書		参考書	
書 名:精神障害者の生活支援システム第3版 著者名:上野容子・宮崎まさ江編 発行所:弘文堂 価 格:2,700円(税別)		書 名:精神保健福祉白書2017年版 著者名:精神保健福祉白書編集委員会 発行所:中央法規 価 格:2,520円(税別)	

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	精神保健福祉相談援助の基盤 (基礎)	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{ふじわら} 藤原 ^{まさこ} 正子	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail: fujiwara.masako@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
精神保健福祉士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
精神保健福祉士が行なう相談援助の基盤について学ぶ。すなわち、精神保健福祉士の役割と意義、相談援助（ソーシャルワーク）の定義と理念、相談援助の形成過程についての理解を深める。精神保健福祉相談援助場면을擬似体験することを通して相談援助活動について理解を深める。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
精神保健福祉士の役割と意義について説明できる。	目標	A B
社会福祉士の役割と意義について理解する。	目標	A B
相談援助（ソーシャルワーク）の概念と範囲について理解する。	目標	A
相談援助（ソーシャルワーク）の理念について説明できる。	目標	A
相談援助（ソーシャルワーク）の形成過程について理解する。	目標	A
精神保健福祉相談援助場면을擬似体験することを通して相談援助活動を体感する。	目標	F I

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション グループの力	NASA訓練	感想文作成
2	ピアカウンセリング① 「ほめる」	W-up グルーピング、グループ活動	感想文作成
3	ピアカウンセリング②「ほめる」	グループ演習	小テスト

4	ソーシャルワークの価値	かちかち山 日本精神保健福祉士協会倫理綱領	感想文作成
5	精神保健福祉士の役割と意義	テキストpp.1-13 精神保健福祉士法	教科書を読んでき
6	社会福祉士の役割と意義 精神保健福祉士と社会福祉士	ゲストスピーカー招聘	教科書を読んでき pp.14-18
7	現代社会と精神保健福祉士	テキスト pp.19-34	教科書を読んでき
8	SST① SSTであるために	グループ演習	感想文作成
9	SST② 「ほめる」	グループ演習	感想文作成
10	ソーシャルワークの定義 国際ソーシャルワーカー連盟の定義	テキスト pp.35-43	教科書を読んでき
11	ソーシャルワークの形成過程 ソーシャルワーク理論①	テキスト pp.43-48、 pp.77-86	教科書を読んでき
12	ソーシャルワーク理論② 3方法の統合とジェネラリストソーシャルワーク	テキスト pp.87-108	教科書を読んでき
13	家族療法 思春期の事例	配布プリント	感想文作成
14	家族療法 スカルプティング ソーシャルワークの構成要素としての価値・知識・技術 ソーシャルワークの理念①-人間尊重、社会正義	テキスト pp.49-63	教科書を読んでき
15	ソーシャルワークの理念②-利用者主体、尊厳の保持、権利擁護、自立支援、社会的包摂、ノーマライゼーション	テキスト pp.63-75	教科書を読んでき
期末試験	前期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
期末試験60%、授業時の自主的な発言や発表等の参加態度・課題の取り組みおよび消化度・提出レポート内容40%により評価する。自発的かつ適切な質疑応答であると認められる場合1回につき2点加点。詳しくは第1回目の授業に説明する。			
教科書		参考書	
書名:精神保健福祉相談援助の基盤[基礎][専門] 著者名:荒田寛、佐々木敏明、今井博康 他 発行所:へるす出版 価格:2,900円(税別)		書名:ソーシャルワーク協働の思想 著者名:柏木昭、佐々木敏明、荒田寛 発行所:へるす出版 価格:1,800円(税別) 書名:ソーシャルワークの理論と実践 著者名:岡本民夫監修 発行所:中央法規 価格:4,000円+税	
その他補足事項			
参加・時間厳守・守秘を大切にこそ成立する授業のため全回出席を前提とする。やむを得ない場合でも2/3以上の出席を最低限必要とする。グループ課題を含む授業での遅刻や欠席は他の学生に多大な迷惑がかかるので、互いの学ぶ権利を尊重し合うようくれぐれも留意すること。			

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成30年度

授業科目名	精神保健福祉相談援助の基盤 (専門)	授業形態・単位数	講義・2単位
		開講年次	2年次
担当教員	職名: 講師 氏名: <small>きたもと</small> 北本 <small>あすか</small> 明日香	開講期	後期
		授業回数	15回
		期末試験の有無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail: kitamoto.asuka@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
精神保健福祉士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>「精神保健福祉相談援助の基盤 (基礎)」との関連性を考慮しながら、次の内容を中心に講義する。</p> <p>①精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解する。</p> <p>②精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について理解する。</p> <p>③精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。</p> <p>④精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
精神保健福祉領域におけるソーシャルワークの動向を理解し、精神保健福祉士の役割を説明することができる。	目標	A C
チームアプローチと多職種連携について理解し、精神保健福祉士の専門性を述べるができる。	目標	A B I
メンタルヘルスに関する課題について理解し、精神保健福祉士の役割を論じることができる。	目標	A C I
精神障害者の権利擁護について理解し、その意義について説明することができる。	目標	A C

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要の紹介 評価方法、授業の進め方の留意点	シラバス 教科書補足資料 教科書	
2	協働作業としてのソーシャルワークの展開過程 インターク・契約・アセスメント・支援計画・支援の実施	教科書 教科書補足資料	教科書p108～122 を事前に読む

3	精神保健福祉領域におけるソーシャルワーカーの動向 導入期から拡大期	教科書 教科書補足資料 DVD視聴(20分)「ソ シャルワーカーの役割」 (映像利用)	教科書p129～135 を事前に読む 感想文の作成をする
4	精神保健福祉領域における多職種連携とソーシャルワ ーク 相談援助に係る専門職の概念と範囲	教科書 教科書補足資料	教科書p139を事前 に読む 新聞記事を用いてレ ジュメを作成する
5	医療機関における専門職	教科書 新聞記事を使用しペア ワークを行う	教科書p140を事前 に読む
6	福祉関連行政機関における専門職	教科書 教科書補足資料	教科書p144を事前 に読む
7	民間福祉施設・組織における専門職	教科書 教科書補足資料	教科書p148を事前 に読む
8	チームアプローチと多職種連携	教科書 教科書補足資料	教科書p152～155 を事前に読む
9	相談援助専門職の連携と協働	教科書 教科書補足資料 ゲスト講師招聘	教科書p162～165 を事前に読む 感想文を作成する
10	精神障害者の相談援助における権利擁護 精神保健福祉士の生活支援	教科書、新聞記事を使用 しディスカッションを行う	教科書p165～166 を事前に読む
11	精神障害者の人権擁護と精神保健福祉士の役割	教科書 教科書補足資料DVD視 聴(30分)「精神障害者 の人権について」(映像 利用)	教科書p171～173 を事前に読む 感想文を作成する
12	メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割	教科書 教科書補足資料	教科書p177を事前 に読む
13	当事者を支える視点・アプローチ	教科書 教科書補足資料	教科書p178を事前 に読む
14	ライフステージごとのメンタルヘルス課題と精神保健福祉 士の役割	教科書 教科書補足資料	教科書p179～188 を事前に読む
15	後期のまとめ 後期の復習	教科書 教科書補足資料	教科書既修内容ポ イントを再確認
期末 試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) レポート(50%)	レポート課題は、授業内容に沿って設定する。		
(2) 筆記試験(50%)	後期末に記述方式のテストを実施する。 *ただし、最終的な成績評価は、課題の提出状況や授業の積極的な参加等、総合的に 評価する。詳しくは、第1回目の授業時に説明する。		
(3) その他	授業内容の理解度を確保するため2回～3回、小テストを実施する。採点は授業内で答 え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とする。		
教科書			
書 名:精神保健福祉相談援助の基盤[基礎][専門] 著者名:荒田寛、佐々木敏明、今井博康 他 発行所:へるす出版 価 格:2,900円(税別)			

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成30年度

授業科目名	精神保健福祉の 理論と相談援助の展開 I	授業形態・単位数	講義・4単位
		開講年次	3・4年次
担当教員	職名: 講師 氏名: <small>きたもと</small> 北本 <small>あすか</small> 明日香	開講期	通年
		授業回数	30回
		期末試験の有無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の 必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail: kitamoto.asuka@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
精神保健福祉士	//	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>「精神保健福祉の理論と相談援助の展開II」との関連性を考慮しながら、次の内容を中心に講義する。</p> <p>①精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整及び家族支援を含む。）の展開について学ぶ。</p> <p>②精神障害者の地域移行支援及び医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について学ぶ。</p> <p>③地域を基盤にした相談援助活動の意義と展開の理解を深める。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
①精神保健医療福祉の歴史と動向を理解し、精神保健福祉士の専門性と倫理を説明することができる。	目標	A C F
②相談援助活動のための面接技術とソーシャルワークの展開過程を述べるができる。	目標	A B I
③スーパービジョンとコンサルテーションの意義と方法について説明することができる。	目標	A B
④精神障害者のケアマネジメントの意義について説明することができる。	目標	A B
⑤チームアプローチにおける精神保健福祉士の役割を各自の視点で論じることができる。	目標	A C I

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要の紹介 評価方法、授業の進め方の留意点	シラバス 教科書補足資料 教科書	
2	障害者福祉の理念と精神障害者の人権 国連原則、精神医療における権利擁護	教科書 教科書補足資料	教科書p1~30を事前に読む

3	障害者権利条約、障害者差別解消法	教科書 教科書補足資料 DVD視聴(30分)「障害者権利条約について」 (映像利用)	教科書p37～50を 事前に読む 新聞記事を基にレ ジュメを作成する
4	精神障害の概念、国際生活機能分類	教科書 新聞記事を基にディス カッションを行う	教科書p50～63を 事前に読む
5	精神保健福祉の歴史と理念 精神病患者監護法	教科書 教科書補足資料	教科書p73～75を 事前に読む
6	精神病患者監護法から精神衛生法	教科書 教科書補足資料	教科書p76～78を 事前に読む
7	精神衛生法から精神保健福祉法	教科書 教科書補足資料	教科書p78～83を 事前に読む
8	精神保健福祉の現状 精神医療の現状	教科書 教科書補足資料 DVD視聴(30分)「精神 科病院の現状について」 (映像利用)	教科書p89を事前 に読む 新聞記事を基にレ ジュメを作成する
9	精神医療の現状と地域生活支援の現状	教科書 教科書補足資料 レジュメを基にディス カッションを行う	教科書p90を事前 に読む
10	精神保健福祉士の課題	教科書 教科書補足資料	教科書p91を事前 に読む
11	イギリスにおけるソーシャルワークの歴史 エリザベス救貧法から第一次世界大戦	教科書 教科書補足資料	教科書p95～96を 事前に読む
12	リカバリーの時代	教科書 教科書補足資料 DVD視聴(30分)「リカ バリーについて」(映像 利用)	教科書p97～99を 事前に読む 感想文を作成する
13	アメリカにおけるソーシャルワークの歴史	教科書 教科書補足資料	教科書p102～106 を事前に読む
14	アメリカにおけるソーシャルワークの歴史	教科書 教科書補足資料	教科書p107～110 を事前に読む
15	前期のまとめ 前期の復習		教科書既修内容ポ イントを再確認
16	日本におけるソーシャルワークの歴史 PSW誕生、Y問題	教科書 教科書補足資料	教科書p111～116 を事前に読む
17	国家資格としての精神保健福祉士の意義	教科書 教科書補足資料	教科書p119～126 を事前に読む
18	精神保健福祉士の専門性と倫理	教科書 教科書補足資料を基に ペアワークを行う	教科書p129～143 を事前に読む
19	ソーシャルワークの展開過程 受理面接(インテーク)から終結	教科書 教科書補足資料	教科書p151～156 を事前に読む
20	ソーシャルワークの面接 面接の構造と技術	教科書 新聞記事を使用しペア ワークを行う	教科書p156～161 を事前に読む
21	面接の方法①	教科書 教科書補足資料 DVD視聴(60分)「電話 によるインテーク」(映像 利用)	配付資料を事前に 読む 感想文の作成

22	面接の方法②	教科書 教科書補足資料DVD視聴(60分)「訪問による面接」(映像利用)	配付資料を事前に読む 感想文の作成
23	フェイスシートの作成	教科書 教科書補足資料 フェイスシートを基にディスカッションを行う	教科書p162を事前に読む
24	個別支援 利用者理解の視点	教科書 教科書補足資料 ゲスト講師招聘	教科書p163～171を事前に読む 感想文を作成する
25	グループを活用した支援	教科書 教科書補足資料	教科書p177～194を事前に読む
26	地域を対象とした支援 災害時における精神保健福祉士の役割	教科書 教科書補足資料	教科書p195～219を事前に読む
27	スーパービジョンとコンサルテーション ケアマネジメント	教科書 教科書補足資料	教科書p220～254を事前に読む
28	チーム医療における精神保健福祉士の役割	教科書 教科書補足資料	教科書p263～267を事前に読む
29	チームアプローチおよび生活支援の理念 精神保健福祉士の役割	教科書 教科書補足資料	教科書p270～279を事前に読む
30	後期のまとめ 後期の復習	教科書 教科書補足資料	教科書既修内容ポイントを再確認
期末試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) レポート(50%)	レポート課題は、授業内容に沿って設定する。		
(2) 筆記試験(50%)	後期末に記述方式のテストを実施する。 *ただし、最終的な成績評価は、課題の提出状況や授業の積極的な参加等、総合的に評価する。詳しくは、第1回目の授業時に説明する。		
(3) その他	授業内容の理解度を確認するため2回～3回、小テストを実施する。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の個所を各自確認する資料とする。		
教科書			
書名:精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ 著者名:荒田寛、佐々木敏明、助川征雄、田村綾子 他 発行所:へるす出版 価格:3,100円(税別)			

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成30年度

授業科目名	精神保健福祉の 理論と相談援助の展開 II	授業形態・単位数	講義・4単位
		開講年次	3・4年次
担当教員	職名:教授 氏名:藤原 ^{ふじわら} ^{まさこ} 正子	開講期	通年
		授業回数	30回
		期末試験の有無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の 必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail: fujiwara.masako@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
精神保健福祉士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
精神障害者の疾病および障害を考慮した上で、生活援助に必要なソーシャルケースワーク（個別援助技術）、ソーシャルグループワーク（集団援助技術）、コミュニティワーク（地域援助技術）などをふまえ、包括的な支援とリハビリテーションについて学ぶ。そのうえで、それらの技術における精神保健福祉士の役割・業務内容についての知識および技術を身につけ、さらには、障害特性に合わせた支援プロセスの実際について理解を深める。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との 対応項目(受講して得られる力)	
精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整、及び家族支援を含む。）の展開について説明できる。	目標	A B I
精神障害者の地域移行支援および医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について説明できる。	目標	A B
精神障害者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢及び地域相談援助における基本的な考え方とリハビリテーションの実際を説明できる。	目標	A B
地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開について説明できる。	目標	A K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ソーシャルワークの支援レポーター	プリント	教科書p.1-8を読んでくる。 配布資料予復習
2	個別支援の実際と事例分析①	事例演習	教科書p.9-27を読んでくる。 配布資料予復習

3	個別支援の実際と事例分析②	事例演習	教科書p.28-33を 読んでくる。 発表準備
4	個別支援の実際と事例分析③	事例演習	教科書p.34-37を 読んでくる。 発表準備
5	個別支援の実際と事例分析④	グループ発表	感想文作成
6	個別支援の実際と事例分析⑤	グループ発表	感想文作成
7	集団を活用した支援の実際と事例分析① デイケア	事例演習	教科書p.38-52を 読んでくる。 配布資料予復習
8	集団を活用した支援の実際と事例分析② アルコール依存症者ミーティング	事例演習	教科書p.52-56を 読んでくる。 配布資料予復習
9	集団を活用した支援の実際と事例分析③ 心理教育	事例演習	教科書p.57-60を 読んでくる。 配布資料予復習
10	集団を活用した支援の実際と事例分析④ SST	事例演習	教科書p.60-63を 読んでくる。 配布資料予復習
11	集団を活用した支援の実際と事例分析⑤ ピアサポートプログラム、就労支援プログラム	事例演習	教科書p.63-71を 読んでくる。 配布資料予復習
12	事例による相談援助活動の検討① 危機介入、居住支援	事例演習	教科書p.72-77を 読んでくる。 配布資料予復習
13	事例による相談援助活動の検討② 就労支援、権利擁護	事例演習	教科書p.78-88を 読んでくる。 配布資料予復習
14	事例による相談援助活動の検討③ 権利擁護、医療観察法対象者への支援	事例演習	教科書p.88-90を 読んでくる。 配布資料予復習
15	前期のまとめ		前期のまとめをして くる。
16	精神保健福祉における精神障害者と家族の関係		教科書p.91-100を 読んでくる。 配布資料予復習
17	家族支援の方法		教科書p.101-108 を 読んでくる。 配布資料予復習
18	事例による家族調整・支援の検討	事例演習	教科書p.109-115 を 読んでくる。 配布資料予復習
19	地域移行の対象、体制		教科書p.117-128 を 読んでくる。 配布資料予復習
20	精神保健福祉士の役割と多職種との連携		教科書p.129-141 を 読んでくる。 配布資料予復習
21	地域移行・地域定着支援の取り組み 事例による地域移行支援の検討	事例演習	教科書p.142-169 を 読んでくる。 配布資料予復習

22	精神障害者を取り巻く社会的状況		教科書p.171-183 を読んてくる。 配布資料予復習
23	事例による地域を基盤にした相談援助活動の検討、災害時支援	事例演習	教科書p.184-195 を読んてくる。 配布資料予復習
24	地域を基盤にしたリハビリテーションの考え方① 地域ネットワーク、アウトリーチ 精神科リハビリテーションの理念、意義、基本原則	プリント配布	教科書pp.197-224 を読んてくる。 配布資料予復習
25	地域を基盤にしたリハビリテーションの考え方② セルフヘルプグループ、家族会、ボランティア育成 リハビリテーション評価	プリント配布	教科書pp.225-244 を読んてくる。 配布資料予復習
26	ケアマネジメントの原則、意義と方法	事例演習	教科書p.245-269 を読んてくる。 配布資料予復習
27	ケアマネジメントの展開過程、チームケアとチームワーク 事例による精神障害者ケアマネジメントの検討	事例演習	教科書p.270-294 を読んてくる。 配布資料予復習
28	地域を基盤にしたリハビリテーションの意義 地域ネットワーク		教科書p.295-309 を読んてくる。 配布資料予復習
29	地域を基盤にした支援の具体的展開 事例による地域を基盤にした支援の検討	事例演習	教科書p.310-335 を読んてくる。 配布資料予復習
30	地域精神保健福祉活動の意義と展開 事例による地域生活を支援する包括的な取り組みの検討	事例演習	教科書p.338-355 を読んてくる。 配布問題学習
期末試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
前期レポート30%、後期末試験30%、平常の授業参加態度（自主的な発言、発表等）、課題の消化度・レポート提出内容40%として評価する。自発的かつ適切な質疑応答であると認められる場合1回につき2点加点。詳しくは第1回目の授業に説明する。			
教科書		参考書	
書名：精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 著者名：日本精神保健福祉士養成校協会 編集 発行所：中央法規 価格：2,700円（税別）		書名：精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 第6版 著者名：精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 編集 発行所：へるす出版 価格：2,900円（税別）	

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成30年度

授業科目名	精神保健福祉援助演習 (基礎)	授業形態・単位数	演習・1単位
		開講年次	2年次
担当教員	職名:教授 氏名:藤原 正子 職名:講師 氏名:北本 明日香	開講期	後期
		授業回数	15回
		期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail: fujiwara.masako@fukushima-college.ac.jp kitamoto.asuka@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
精神保健福祉士	//	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
①相談援助にかかる基礎的な知識と技術に関する具体的な援助場面を想定したロールプレイング等の演習を行う。 ア 自己覚知 イ 基本的なコミュニケーション技術の習得 ウ 基本的な面接技術の習得 エ グループダイナミクス活用技術の習得 オ 情報の収集・整理・伝達技術の習得 カ 課題の発見・分析・解決の技術の習得 キ 記録の技術の習得 ②地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談事例を体系的にとりあげる。 事例演習にあたっては地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域アセスメント、地域福祉計画、ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発、サービス評価についての内容を含める。	<input type="checkbox"/>	A 知識
	<input type="checkbox"/>	B 技術・技能
	<input type="checkbox"/>	C 論理的思考力
	<input type="checkbox"/>	D 文章表現力
	<input type="checkbox"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="checkbox"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="checkbox"/>	G 協働能力
	<input type="checkbox"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="checkbox"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="checkbox"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="checkbox"/>	K 課題対処力
	<input type="checkbox"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	目標	B I K
精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な技術(自己覚知、他者理解、コミュニケーション技術、面接技法等)を習得すると共に基本的な面接技術を身につける。	目標	B D

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション グルーピングのウォーミングアップ 他己紹介	グループ演習、良いコミュニケーションのポスター	感想文作成
2	社会資源ゲーム① 情報収集・整理	グループ演習	社会資源を調べてくる

3	社会資源ゲーム② 情報収集・整理	グループ演習	調べた社会資源を整理する
4	社会資源ゲーム③ 伝達・発表	グループ演習	発表原稿の推敲、ポスターの作成
5	社会資源ゲーム④ 課題の発見・分析・解決	グループ演習	レポート作成
6	自己覚知① ハンディキャップの理解	紙粘土を使用	感想文作成
7	自己覚知② 人生の曲線、思い出の人への手紙	グリーンワーク	ワーク課題を完成させる
8	自己覚知③ ジェノグラム	ジェノグラム作成を通して家族と自分を知る	ジェノグラムを完成させる
9	集団援助技術 SST① 基本的なコミュニケーション技術の習得 基本訓練	グループ演習	感想文作成
10	集団援助技術 SST② グループダイナミクス活用技術の習得 問題解決	グループ演習	感想文作成
11	基本的な面接技術の習得① 面接を始める 非言語コミュニケーション 共感	ロールプレイ	感想文作成
12	基本的な面接技術の習得② 焦点を当ててついでいく 開かれた質問 傾聴	ロールプレイ	模擬問題
13	記録の技術の習得① 圧縮叙述体	ワークシート	事例記録を完成させる
14	記録の技術の習得② 要約体	ワークシート	事例記録を完成させる
15	地域福祉の基盤整備に係る事例演習	グループ演習	レポート作成
到達度の評価（評価方法・基準）			
演習中の授業参加態度(自主的な質疑発言、グループへの貢献度、発表等)30%とワークシート等提出物30%、レポート課題の消化度40%により評価する。自発的かつ適切な質疑応答であると認められる場合1回につき2点加点。詳しくは初回授業時に説明する。			
教科書		参考書	
使用しない。プリント配布		書名:精神保健福祉援助演習(基礎・専門) 著者名:日本精神保健福祉士養成校協会 編集 発行所:中央法規 価格:2,700円(税別)	
その他補足事項			
参加・時間厳守・守秘を大切にこそ成立する授業のため全回出席を前提とする。やむを得ない場合でも2/3以上の出席を最低限必要とする。ロールプレイングやグループワークを含む授業での遅刻や欠席は他の学生に多大な迷惑がかかるので、互いの学ぶ権利を尊重しあうようくれぐれも留意すること。なお、欠席する場合は、次の授業までに担当教員に自由書式で理由書を提出し、授業資料を受け取りに来ること。 ※本科目は、精神保健福祉士の国家試験受験資格取得を目指す学生を対象とする。 ※この授業は、藤原クラス、北本クラスに分かれて実施する。履修者のクラス分けは授業担当教員が決定し、提示する。			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	精神保健福祉援助演習 (専門)	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	3年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名:藤原 正子 職名:講師 氏名:北本 明日香	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail: fujiwara.masako@fukushima-college.ac.jp kitamoto.asuka@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
精神保健福祉士	//	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
① 総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助にかかる具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。 ② 具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行う。 ③ ②の事例演習にあたっては、アウトリーチ、ケアマネジメント、チームアプローチ、ネットワークング、社会資源の活用・調整・開発についての内容を含める。 ④ 精神保健福祉相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるよう、精神保健福祉援助実習における体験も視野に入れて、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力

授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得すると共に、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	目標	A B
精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的技術（インテーク、契約、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、効果測定と支援の評価、終結とアフターケア）を習得すると共に具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を通して総合的かつ包括的な援助技術を身につける。	目標	B I K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション、 精神保健福祉援助演習(専門)の位置づけ、精神保健福祉援助実習との関係	ワークシート	ワークシートを完成させる ノート整理

2	精神保健福祉士の価値・倫理と葛藤 守秘	教科書pp.1-9 日本精神保健福祉士協会倫理綱領、事例演習	ジレンマ状況 アンケート作成
3	バイステックの7原則と人間尊重 実習事例から援助関係を考える	配布プリント	バイステックの7 原則について整理 する
4	エンパワメント、ストレングス視点、リカバリーとは	教科書pp.10-23 演習課題への取り組み	演習課題を完成さ せる ワークシートを完成 させる
5	相談援助の過程① (インテーク、契約、アセスメント、プランニング、支援の実 施、モニタリング、効果測定と支援の評価、終結とアフター ケア)地域生活支援事例 ケアマネジメントとは	教科書pp.67-72 事例演習	演習課題を完成さ せる
6	相談援助の過程② 地域生活支援事例	ゲストスピーカー招聘	感想文作成
7	精神障がい配慮したコミュニケーション 精神症状を尋ねる、生活者の視点	教科書pp.31-42 演習課題への取り組み	「生活のしづらさ」に ついて考える 演習課題の完成
8	事例演習① その他の危機状態にある精神保健福祉	配布プリント 事例演習	演習課題完成 施設見学先希望調査
9	事例演習② 社会的排除	教科書pp.17-20 事例演習課題への取り組み	演習課題完成
10	事例演習③ 退院支援、地域移行	配布プリント 演習課題への取り組み	演習課題完成
11	事例演習④ 地域生活継続 エコマップ	教科書pp.109-116 演習課題への取り組み	地域生活上困った 時の社会資源につ いて調べる
12	事例演習⑤ リカバリー、ピアサポート	配布プリント 演習課題への取り組み	演習課題完成
13	事例演習⑥ 教育、就労(雇用)	教科書pp.14-17 演習課題への取り組み	演習課題完成
14	事例演習⑦ 貧困、低所得、ホームレス	配布プリント 演習課題への取り組み	演習課題完成
15	事例演習⑧ 精神科リハビリテーション	教科書pp.61-66	実習先希望施設種 別調査、精神科リハ ビリテーションに関 するキーワードを調 べる
16	施設見学 精神科医療機関、障害福祉サービス事業所等①	学外施設見学	見学施設の事前学 習、見学レポートの 作成
17	施設見学 精神科医療機関、障害福祉サービス事業所等②	学外施設見学	見学施設の事前学 習、見学レポートの 作成
18	精神科医療機関、障害福祉サービス事業所の実際	施設見学レポート発表 グループ討議	感想文作成
19	事例演習⑨ 地域における精神保健(自殺、ひきこもり、児童虐待、薬物・ アルコール依存等) 課題の発見	事例演習 グループ分け、タイトル 決定、シナリオ作成	事例を調べる
20	事例演習⑩ 地域における精神保健 情報収集・整理	事例演習 シナリオ作成、演劇の練 習	事例を調べる

21	事例演習① 地域における精神保健 課題の解決へ向けて グループ発表	事例演習 全体のまとめ・意見交換	感想文作成
22	集団援助事例①-SST 実習場面で会話を始める	W-up、場面演習	SSTの流れを復習 する
23	集団援助事例②-SST 実習場面で断る プライバシー保護	W-up、場面演習	守秘義務レポート 作成
24	集団援助事例③-SST 就労支援	W-up、場面演習	就労支援のポイント をまとめる
25	精神障がい受容とグリーンワーク事例	『マイベストフレンド』	感想文の作成
26	実習先種別および実習内容の事前理解－実習報告会	報告を聞いての質疑	実習報告会感想文 作成
27	社会資源の活用・調整・開発 ネットワーキング	教科書pp123-127 事例演習 配布プリント	演習課題完成
28	連携・チームワークにおける精神保健福祉士の役割 役割ロールプレイ	教科書pp146-154 模擬チーム会議	PSWの役割につい て整理
29	実習におけるスーパービジョン事例	教科書pp155-166 事例演習	演習課題を完成さ せる
30	精神保健福祉援助実習に向けた展開 機関の分析、個別学習課題	教科書pp167-173 個別課題演習	機関分析と問題意識 を深める課題に取り 組む

到達度の評価（評価方法・基準）

演習中の授業参加態度（自主的な質疑発言、グループへの貢献度、発表等）30%とワークシート等提出物30%、レポート課題の消化度（「施設見学レポート」「精神保健福祉分野の図書感想文」「障がい受容とグリーンワーク」「実習報告会感想文」）40%により評価する。自発的かつ適切な質疑応答であると認められる場合1回につき2点加点。詳しくは初回授業時に説明する。

教科書

書名：精神保健福祉援助演習
－実践力を育てるためのワークブッカー
著者名：岩間文雄・金田知子・與那嶺司 共著
発行所：相川書房
価格：2,200円(税別)

参考書

書名：精神保健福祉援助演習(基礎・専門)
著者名：日本精神保健福祉士養成校協会 編集
発行所：中央法規
価格：2,700円(税別)

その他補足事項

参加・時間厳守・守秘を大切にこそ成立する授業のため全回出席を前提とする。やむを得ない場合でも2/3以上の出席を最低限必要とする。ロールプレイングやグループワークを含む授業での遅刻や欠席は他の学生に多大な迷惑がかかるので、互いの学ぶ権利を尊重しあうようにくれぐれも留意すること。なお、欠席する場合は、次の授業までに担当教員に自由書式で理由書を提出し、授業資料を受け取りに来ること。
※本科目は、精神保健福祉士の国家試験受験資格取得を目指す学生を対象とする。
※この授業は、藤原クラス、北本クラスに分かれて実施する。履修者のクラス分けは授業担当教員が決定し、提示する。

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成30年度

授業科目名	精神保健福祉援助実習指導	授業形態・単位数	演習・3単位
		開講年次	4年次
担当教員	職名:教授 氏名:藤原 正子 職名:講師 氏名:北本 明日香	開講期	通年
		授業回数	45回
		期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	45時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail: fujiwara.masako@fukushima-college.ac.jp kitamoto.asuka@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
精神保健福祉士	//	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>本科目は現場体験実習に向けて精神科医療機関および精神障害者を支援する障害福祉サービス事業を行う施設について学び、すでに学んだ講義（精神医学、精神保健学、精神障害者の生活支援システム、精神保健福祉に関する制度とサービス、精神保健福祉の理論と相談援助の展開等）内容を活用し、精神保健福祉士として必要な知識および技術の理解を深める。実習事前指導では、利用者への相談業務やり取り活動について必要な資質・能力・技術の深化と修得、精神保健福祉士としての専門的援助技術や支援のあり方について概念化・理論化し、体系立てていく力を養う。また、職業倫理を見につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるように努める。実習に先立ち、実習先事前訪問を行う。</p> <p>実習事後指導では、実習の振り返りを個別・グループ別に取り組み、それらのプレゼンテーションを経て報告集にまとめる作業を通じて精神保健福祉士になる素地を涵養していく。</p>	○	A 知識
	○	B 技術・技能
		C 論理的思考力
	○	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
	○	G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
精神科病院および精神障害者社会復帰施設の歴史、目的、理念、関係施設の概略等について理解を深め、保健医療現場の実際を知る。	目標	A
保健医療現場の実際について理解を深め、援助のあり方や受療援助、退院援助、地域生活援助、医療・福祉制度の活用、チームによる援助活動などを踏まえた上で、実習計画の中の援助プログラムについて考えることができるようになる。	目標	A B
対象者の理解を深めつつ、援助活動の実際を知り、実習計画および実習課題を明確にし、自身の実習計画書を作成する。	目標	A D
実習上の留意点について、特に、援助対象者のプライバシーに対する配慮等について理解して守ることができる。	目標	A D
関連分野の専門職種との連携のあり方を修得する。	目標	G

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 実習全体の流れと学習内容	シラバス、プリント	復習:春休みの課題の整理
2	実習の意義と目的 どんな援助者になりたいか	テキストp.2-21	予習:テキスト該当箇所を読む 復習:ワークを完成させる
3	実習を通して学ぶとは 実習したい機関・施設調べ 事前訪問の意義と事前準備 プロフィールの作成	テキストpp.23-29、 pp.64-68 実習先連絡票	予習:テキスト該当箇所を読む 復習:機関分析の下書き、マナーの復習
4	実習施設理解と精神保健福祉援助① 医療機関	テキストpp.30-32、 pp.160-170 実習の手引き、プリント	予習:テキスト該当箇所を読む 復習:医療機関について整理
5	実習施設理解と精神保健福祉援助② 精神科デイケア	テキストpp.170-176 実習の手引き、プリント	予習:テキスト該当箇所を読む 復習:精神科デイケアについて整理する
6	実習施設理解と精神保健福祉援助③ 就労支援事業	テキストpp.33-37、 pp.177-200 実習の手引き、プリント	予習:テキスト該当箇所を読む 復習:就労支援事業について整理する
7	実習施設理解と精神保健福祉援助④ 地域活動支援センター、相談支援事業	テキストpp.200-210 実習の手引き、プリント	予習:テキスト該当箇所を読む 復習:地域活動支援センターについて整理する
8	実習施設理解と精神保健福祉援助⑤ 多機能事業所、自立訓練	テキストp.211-215 実習の手引き、プリント	予習:テキスト該当箇所を読む 復習:学習課題を探る
9	実習中に必要な制度とサービス	プリント	予習:制度概要を調べる 復習:制度についてまとめる
10	医療福祉制度の活用事例 実習への期待と不安	プリント	予習:テキスト該当箇所を読む 復習:感想文の作成
11	実習におけるスーパービジョン 実習中の予想されるトラブルへの対処法	テキストpp.89-103、 pp.104-118	予習:テキスト該当箇所を読む 復習:感想文の作成
12	実習プログラム例 実習計画書の必要性	テキストp.44-48	予習:テキスト該当箇所を読む 復習:自分なりの計画立案
13	実習における学習課題の設定 実習テーマの立て方	テキストpp.15-16、 pp.154-159 実習の手引き、プリント	予習および復習:実習テーマを探る
14	実習計画書作成個別指導① プロフィール表の作成	テキストpp.53-61 プロフィール表の清書	予習および復習:実習計画書の下書き

15	実習課題の設定	テキストpp.160-215 実習の手引き、プリント	予習および復習:実 習課題を探る
16	実習計画書作成個別指導②	教員による個別指導	予習および復習:実 習計画書の作成
17	実習計画書報告①	学生による個別報告	復習:報告を聞いて の感想文の作成
18	実習計画書報告② 守秘義務と実習誓約書	テキストpp.61-63 実習の手引き、プリント 実習誓約書の作成	復習:報告を聞いて の感想文の作成
19	実習計画書作成指導③ 実習事前訪問について	テキストp.53-68 実習の手引き、プリント	予習:テキスト該当 箇所を読む 復習:実習計画書の 清書、実習先事前訪 問の準備
20	実習日誌の書き方①	テキストpp.79-88、 実習の手引き、プリント	予習:テキスト該当 箇所を読む 復習:記録の復習
21	実習日誌の書き方②	事例演習	復習:記録の模 擬 作成
22	「何かしてあげなければ。。。」から「寄り添い見守る」へ	テキストpp.17-22 プリント	復習:感想文の作成
23	個別支援計画作成演習①	ビデオ『精神障がい者ケ アマネジメント』実践編 38分	予習および復習:ケ アマネジメントにつ いて調べる
24	個別支援計画作成演習②	ゲストスピーカー招聘 個別支援計画の作成	復習:個別支援計画 の加筆・修正
25	実習先で出会う医療用語・略語	プリント	医療用語・略語の 整理
26	実習に向けた準備と心構え① 感染症予防、持ち物など	テキストpp.114-118 実習の手引き	予習:テキスト該当 箇所を読む 復習:準備物の自己 チェック
27	実習に向けた準備と心構え② 服装、名札、実習中の連絡など	テキストpp.69-74 実習の手引き	服装等の自己 チェック
28	実習日誌の書き方③ 場面の分析	実習の手引き	場面の分析の模 擬 作成
29	夏季休業中の国試受験申込手続へ向けての諸注意	受験の手引き	国家試験受験の事 前準備
30	実習終了時の諸注意、お礼状の書き方	実習の手引き	実習の事前準備を する
31	実習を振り返って①	グループワーク	実習全体のまとめを 作成する
32	実習を振り返って② 実習個別報告指導	過去の実習報告書等 テキストp.120-128	予習:テキスト該当 箇所を読む 復習:個別報告書の 加筆・修正
33	実習個別報告① 医療機関	プレゼンテーション	予習:プレゼン資料 の準備 復習:実習個別報告 資料の作成
34	実習個別報告② 障害福祉サービス事業所	プレゼンテーション	予習:プレゼン資料 の準備 復習:実習個別報告 資料作成

35	実習報告発表指導①	実習日誌 グループワーク テキストpp.133-149	復習:感想文の作成
36	場面の分析① 医療機関	グループワーク プリント	予習:場面の分析資料の準備
37	実習報告発表指導②	グループワーク	復習:今後の改善点を考える
38	場面の分析② 障害福祉サービス事業所	グループワーク プリント	予習:場面の分析資料の準備
39	実習報告発表指導③	グループワーク	復習:報告内容の整理
40	実習報告会発表に向けて	グループワーク	復習:発表資料の作成
41	実習報告会発表①	グループ発表	プレゼンテーション
42	実習報告会発表②	グループ発表	プレゼンテーション 復習:質疑課題への取り組み
43	実習報告書作成指導	p.129-132 実習の手引き	復習:実習報告書原稿の作成
44	精神保健福祉士の役割と価値	グループワーク	復習:精神保健福祉士の役割についてまとめる
45	精神科医療現場で使われる医療看護用語 全体のまとめ	テキストp.150-151 プリント	復習:用語の整理、今後の課題、自分なりの心構えについてまとめる

到達度の評価（評価方法・基準）

評価対象には4/5以上の出席が必要である。自発的かつ適切な質疑応答であると認められる場合1回につき2点加点。授業時の参加態度(自主的な発言、グループへの貢献度、発表等)30%、提出課題の消化度20%、実習計画書20%、実習報告会10%、実習報告書20%として評価する。提出課題および実習関係資料の提出期限は厳守すること。詳しくは第1回目の授業時に説明する。

教科書

書名:精神保健福祉援助実習・実習指導 第2版
著者名:日本精神保健福祉士協会 編集
発行所:中央法規
価格:2,700円(税別)
教材:精神保健福祉援助実習の手引き

参考書

書名:PSW実習ハンドブックー実習生のための手引き
著者名:荒田寛他 編集
発行所:へるす出版
価格:2,400円(税別)

その他補足事項

※参加・時間厳守・守秘を大切にしてこそ成立する授業のため全回出席を前提とする。グループ活動を含む授業での遅刻や欠席は他の学生に多大な迷惑がかかるので、互いの学ぶ権利を尊重し合うようにくれぐれも留意すること。なお、欠席する場合は、次の授業までに欠席届を担当教員に提出し、配布資料を受け取りに来ること。
※実習の履修制限については履修規程を参照のこと。
※この授業は、藤原クラス、北本クラスに分かれて実施する。履修者のクラス分けは授業担当教員が決定し提示する。

授 業 科 目 名	精神保健福祉援助実習	授業形態・単位数	実習・5単位
		開 講 年 次	4年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名:藤原 正子 職名:講師 氏名:北本 明日香	開 講 期	時間割外
		授 業 回 数	実習210時間以上
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	—
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail: fujiwara.masako@fukushima-college.ac.jp kitamoto.asuka@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
精神保健福祉士	//	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
①精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。 ②精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。 ③精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ④総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等が使える。	目標	A B
精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握できる。	目標	K L
精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる。	目標	B K
総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解できる。	目標	K L

授業内容
<p>210時間以上の実習時間の構成は、一日8時間、週1回以上の休日をはさみ、5週間以上で実日数27日以上となる。実習は、相談援助の一連の過程を網羅的に学習できるよう、各実習生は、精神科病院等の医療機関と障害福祉サービス事業を行う施設その他の実習施設等とで実施し、機能の異なる複数の実習施設等で実習を行う。実習のうち精神科病院等の医療機関における実習を必須とし、90時間以上行う。実習施設・機関によっては、その間に宿泊業務、休日出勤を含む場合もある。実習の内容については、実習先の種別や施設・機関・団体によって異なるので各自留意されたい。</p> <p>実習期間中は、配属先の実習指導者の指示に従い、現場の業務の流れや利用者の生活状況、援助者の役割や精神保健福祉援助業務を理解する。医療保健福祉関係の各機関や施設での現場実習を通して、対象者へのサービス業務の本質や関連分野の専門職種との連携のあり方等を学びながら、精神保健福祉士に期待される役割を明確化する。</p> <p>実習担当教員による巡回指導（帰校日を含む）を実施する。必要に応じて実習指導者、実習担当教員、実習生の三者で相談して実習計画の再検討を図る。</p>
到達度の評価（評価方法・基準）
<p>実習内容に関する評価50%（実習指導者40%、自己評価10%）、提出物に関する評価50%（実習日誌30%、場面の分析10%、個別支援ケースレポート10%）により評価する。</p>
教科書
<p>書 名：精神保健福祉援助実習の手引き 発行所：福島学院大学 福祉学部福祉心理学科 実習指導室 教 材：「精神保健福祉援助実習 実習日誌」</p>
その他補足事項
<p>※実習費（実費徴収） 実習委託費として1,000円×27日間＝27,000円程度を徴収する。 ※実習施設によっては、事前に健康診断および、細菌検査等が必要である。 ※実習の履修制限については履修規程を参照のこと。 ※この授業は、藤原クラス、北本クラスに分かれて実施する。履修者のクラス分けは授業担当教員が決定し提示する。</p>

授 業 科 目 名	母子保健 I	授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 2 単 位
		開 講 年 次	1 年 次
担 当 教 員	職名:教授 氏名:織田 ^{おだ} ^{まさあき} 正昭	開 講 期	前 期
		授 業 回 数	15 回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回時に説明します E-mail:oda.masaaki@fukushima-college.ac.jp		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒 業	専 門 教 育 科 目	選 択	

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 と の 対 応 項 目	
<p>基本的にはテキストを使用して講義するが、適宜配布資料を用いた解説、VTR やスライドを用いた視覚授業をも行う。またデータ理解のために作図作表の作業をも行う。母子保健は受講生の現在、将来にとってきわめて身近な分野であるので、授業の中では討論や意見・考え方を述べ合う場を積極的に取り入れる。なお概ね5回に1回の割合で、自己採点方式でミニテストを行い、理解度の確認を行う。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
	○	F 感性及び感動表現力
	○	G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受 講 し て 得 ら れ る 力)	
1) 母性及び子どもを医学・生物学的に正確に理解し、自分の体を常に見つめる態度を養う。	目 標	A I
2) 社会における母子保健の位置づけを理解し、発展的に考えることができるようにする。	目 標	C G
3) 母子保健から見た自分の近未来・将来像を描けるための基礎知識を習得するとともに、母親・子どもに対する思いやりの心を養う。	目 標	C F
4) 国際化の進展を踏まえ、広い視点に立って母子保健を考え、また母子保健領域の国際協力について考えられるようにする。	目 標	A J

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ・ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 、 使 用 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 評価方法、授業の進め方の注意 (3) テキスト、参考書について		

2	母子保健統計 ～母子保健関連データの科学的解釈	テキストを用いた解説 課題に関する討論 スライドとVTRを使用	復習に重点を置き、次回の講義と課題に向けて事前学習を行う。 VTRの感想を次回提出。
3	リプロダクティブヘルス ～女性の生涯のライフステージにおける生殖の権利についての理解	スライド/VTRを使用。講義および、女性の生殖権利に関する条文を読む。	復習に重点を置き、次回の講義と課題に向けて事前学習を行う。 VTRの感想を次回提出。
4	女性の社会進出と母子保健 ～働く女性と母性保健に関する理解	スライド/VTRを使用。テキストによる講義および、女性の就労と育児、母性保護の関連に関する意見を受講者間で出し合う。	復習に重点を置き、次回の講義と課題に向けて事前学習を行う。 VTRの感想を次回提出。
5	母性の解剖生理と生殖生理 ～女性生殖器、乳房の構造と機能および生殖のホルモン生理	スライド/VTRを使用。テキストおよび関連配布資料を用いた講義をする。 ミニテストの実施。	復習に重点を置き、次回の講義と課題に向けて事前学習を行う。 VTRの感想を次回提出。
6	妊娠分娩産褥とその異常 ～妊娠と出産に関する正常と異常の理解	スライド/VTRを使用。テキスト使用による講義、および妊娠出産に対する期待と不安について意見を述べ合う。	復習に重点を置き、次回の講義と課題に向けて事前学習を行う。 VTRの感想を次回提出。
7	胎児の成長生理と異常 ～胎児の成長過程と妊娠中の母体の異常の理解	スライド/VTRを使用。胎児の成長、安産祈願、里帰り分娩などについて、地域の風習を調べてみる。	復習に重点を置き、次回の講義と課題に向けて事前学習を行う。 VTRの感想を次回提出。
8	先天異常 ～主な先天異常症の原因と症状の理解、染色体異常・奇形の理解、遺伝子と分子遺伝学的基礎の理解	スライド/VTRを使用。テキストによる講義、および周囲で見聞きした先天異常児についての意見を述べ合う。	復習に重点を置き、次回の講義と課題に向けて事前学習を行う。 VTRの感想を次回提出。
9	小児の成長と発達生理 ～子どもの成長発達過程の理解	スライド/VTRを使用。テキストによる講義と配布資料を用いた解説を行う。	復習に重点を置き、次回の講義と課題に向けて事前学習を行う。 VTRの感想を次回提出。
10	母子の感染症と予防接種 ～主な感染症とその予防に関する理解および予防接種の基礎的理解	スライド/VTRを使用。主要な子どもの感染症とその対応をテキストで学び、予防接種の効果と副反応のバランスについて討論する。 ミニテストの実施。	復習に重点を置き、次回の講義と課題に向けて事前学習を行う。 VTRの感想を次回提出。
11	小児の悪性腫瘍と生活習慣病 ～小児がん、小児生活習慣病、慢性疾患の理解	スライド/VTRを使用。テキストによる講義、および小児がん関係のVTRをみて感想を述べ合う。	復習に重点を置き、次回の講義と課題に向けて事前学習を行う。 VTRの感想を次回提出。

12	児童虐待の現状と要因の理解、および子どもの事故、自殺の現状と原因予防に関する理解	スライド/VTRを使用。テキスト使用に加え、児童虐待統計的現状について作図してみる。	復習に重点を置き、次の講義と課題に向けて事前学習を行う。VTRの感想を次回提出。
13	母子保健行政、子育て支援 ～母子保健行政の現状を関連法規、子育て支援策の現状とあわせて理解	スライド/VTRを使用。母子保健および関連領域の法律を学び、自治体ごとにどのような行政サポートがあるか調べて発表しあう。	復習に重点を置き、次の講義と課題に向けて事前学習を行う。VTRの感想を次回提出。
14	母子保健と国際協力 ～母子保健関連の国際組織、わが国のODA、NGOによる国際協力の現状理解	スライド/VTRを使用。テキストとスライドを用いて、母子保健領域における国際協力の現状を調べてみる。	復習に重点を置き、次の講義と課題に向けて事前学習を行う。VTRの感想を次回提出。
15	補足講義と総まとめ 総合討論	受講生間での討論	総合討論で意見を述べられるよう準備しておく。
期末試験	前期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 筆記試験	講義全範囲を対象として期末テストとして行う。		
(2) 課題レポート	内容に関する課題のレポートおよびビデオ視聴後のコメント提出を評価する。		
(3) 中間ミニテスト	理解度確認のために講義3～4回ごとに1回ミニテストを実施。終了後、授業内で採点する。		
(4) 授業態度	授業中の態度、積極的発言、質問、討論意欲を評価する。		
最終的に(1)60% (2)10% (3)20% (4)10%の割合で総合評価する。			
教科書			
書名:母子保健学 著者名:海野信也、渡辺 博 発行所:診断と治療社 価格:2,900円(税別)			
その他補足事項			
毎回、講義内容に関するビデオを視聴し、意見を述べあう。			

授 業 科 目 名	母子保健Ⅱ	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: <small>おだ まさあき</small> 織田 正昭	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回時に説明します E-mail:oda.masaaki@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
『母子保健Ⅰ』で学んだ基礎知識を元に、社会における母子保健の役割とかかわり方について、テキストと配布資料、スライド、ビデオを用いて講義を進める。併せて事前に提示した課題に関し受講者間で討論しあう。また内容に応じて実技的な経験を試みる。なおおおむね5回ごとに、ミニテストを行い、自己採点と解説をもとに内容の理解度の確認を行う。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
1) 母子保健を、社会的トピックスや実例を通して学び、それらに対して自分の意見が述べられるようにする。		目標 A G
2) 母子保健の視点から女性の社会進出を理解する。		目標 C H
3) 母性をキーワードにして自分のこれからの未来像をライフサイクルを通して考えられるようにする。		目標 F H
4) 国際的視点に立ち、母子保健のあり方を諸外国の事例を通して考えられるようにする。		目標 C I

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 評価方法、授業の進め方の注意 (3) テキスト、参考書について		

2	家族計画と避妊	家族計画の意味と避妊法についてスライドと配布資料を用いて講義する。また関連ビデオを視聴して考えを述べ合う。	前回の復習と次回の予習を行い、内容に関して自分の意見を述べられるようにしておく。
3	母子保健事業	母子保健法の条文理解、母子医療対策を中心に、資料を用いて講義する。また関連ビデオを視聴して考えを述べ合う。	前回の復習と次回の予習を行い、内容に関して自分の意見を述べられるようにしておく。
4	女性のライフサイクル(1)	出生・乳幼児期・学童期・思春期における女性のライフサイクルについてテキストと配布資料を中心に学び、意見を述べ合う。また関連ビデオを視聴して考えを述べ合う。	前回の復習と次回の予習を行い、内容に関して自分の意見を述べられるようにしておく。
5	女性のライフサイクル(2)	結婚・妊娠・出産・育児期の女性のライフサイクルについてテキストと配布資料を中心に講義し、意見を述べ合う。また関連ビデオを視聴して考えを述べ合う。 理解度チェックのため自己採点式のミニテストを行う。	前回の復習と次回の予習を行い、内容に関して自分の意見を述べられるようにしておく。
6	胎児・乳幼児期の母子保健	胎児期から乳幼児期にいたる過程での母子保健対策を、資料を基にして受講者間で討論する。また関連ビデオを視聴して考えを述べ合う。	前回の復習と次回の予習を行い、内容に関して自分の意見を述べられるようにしておく。
7	学童期の母子保健	体格の変化、初潮など、この時期の母性の捉え方についてテキストと配布資料を中心に講義する。また関連ビデオを視聴して考えを述べ合う。	次回のための事前学習をし、講義後は復習内容をノートにまとめる。
8	思春期の母子保健、性教育	性教育に関する資料を用いて、小学校～中学、高校、大学ごとに性教育の内容とあり方を配布資料を中心に考える。また関連ビデオを視聴して考えを述べ合う。	前回の復習と次回の予習を行い、内容に関して自分の意見を述べられるようにしておく。
9	こどもの心の保健～虐待、いじめ	虐待の現状をテキストと配布資料を中心に講義する。また関連ビデオを視聴して考えを述べ合う。	前回の復習と次回の予習を行い、内容に関して自分の意見を述べられるようにしておく。

10	予防接種各論	ワクチンに関するスライド、テキストと配布資料を用いて講義する。理解度チェックのための自己採点式ミニテストを行う。また関連ビデオを視聴して考えを述べ合う。	前回の復習と次回の予習を行い、内容に関して自分の意見を述べられるようにしておく。
11	こどもの事故防止と安全教育 ～事例を通して学ぶ	子どもの事故に関するマスコミ報道(新聞記事など)を通して事故予防策を考える。また関連ビデオを視聴して考えを述べ合う。	前回の復習と次回の予習を行い、内容に関して自分の意見を述べられるようにしておく。
12	母子の疾病と異常(1)	母親の疾病に関してテキストと配布資料を中心に講義する。また関連ビデオを視聴して考えを述べ合う。	前回の復習と次回の予習を行い、内容に関して自分の意見を述べられるようにしておく。
13	母子の疾病と異常(2)	子どもの疾病に関してテキストと配布資料を中心に講義する。また関連ビデオを視聴して考えを述べ合う。	前回の復習と次回の予習を行い、内容に関して自分の意見を述べられるようにしておく。
14	障害児の母子保健～事例	障害児の母子保健について、テキストと配布資料を中心に講義し、あわせて事例を通してそのあり方を考える。自己採点式のミニテストを実施する。また関連ビデオを視聴して考えを述べ合う。	前回の復習と次回の予習を行い、内容に関して自分の意見を述べられるようにしておく。
15	これからの母子保健の課題、まとめ	母子保健の今後の課題について討論する。また関連ビデオを視聴して考えを述べ合う。	今回の講義シリーズを振り返ってこれからの母子保健のあり方に関して自分の意見を述べられるようにする。
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価(評価方法・基準)			
(1) 筆記試験	講義全範囲を対象として期末テストとして行う。		
(2) 課題レポート	内容に関する課題のレポートおよびビデオ視聴後のコメント提出を評価する。		
(3) 中間ミニテスト	理解度確認のために講義3～4回ごとに1回ミニテストを実施。終了後、授業内で採点する。		
(4) 授業態度	授業中の態度、積極的発言、質問、討論意欲を評価する。		
最終的に(1)60% (2)10% (3)20% (4)10%の割合で総合評価する。			
教科書			
書名:母子保健学 著者名:海野信也、渡辺 博 発行所:診断と治療社 価格:2,900円(税別)			
その他補足事項			
毎回、講義内容に関するビデオを視聴し、意見を述べ合う。教科書は母子保健Ⅰと共通。			

授 業 科 目 名	福祉住環境演習	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:兼任教授 氏名: ^{なかまる} 中丸 ^{かずし} 一志 本務先:宮代キャンパス	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail:nakamaru.kazushi@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>わが国は、世界でも類を見ない速さで超高齢社会に突入している。このような状況下、福祉を学ぶ者として、医療、福祉住環境について、総合的な知識を身につけておく必要がある。この演習では、福祉住環境コーディネーターの学習を通して、高齢者や障害者の住環境を構築するうえで、福祉住環境整備を統括して見わたることができる人材としての知識を学ぶ。また、アクティブラーニングとして、福祉住環境コーディネーター検定試験問題の検討を行い、施設見学及び福祉用具ショールーム視察の事前・事後学習のレポートを作成する。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
福祉住環境コーディネーター2級の資格取得を目指す。		目標 A
高齢者や障害者に対し、できるだけ自立した、いきいきと生活できる住環境を提案できる。		目標 A J K L
コーディネーターとして、福祉に関わる各職種間のコミュニケーションが取れる。		目標 J K L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・演習の目標、進め方 ・演習選択の理由・目標	授業計画・映像プレゼンテーション・配布資料	演習選択理由及び目標確認
2	高齢者や障害者を取り巻く社会状況と福祉住環境コーディネーターの意義	映像プレゼンテーション・配布資料	高齢者・障害者の環境調査
3	高齢者や障害者を取り巻く社会状況と福祉住環境コーディネーターの意義	映像プレゼンテーション・配布資料	高齢者・障害者の環境調査
4	高齢者や障害者を取り巻く社会状況と福祉住環境コーディネーターの意義	映像プレゼンテーション・配布資料	高齢者・障害者の環境調査
5	高齢者や障害者を取り巻く社会状況と福祉住環境コーディネーターの意義	映像プレゼンテーション・配布資料	高齢者・障害者の環境調査

6	障害のとらえ方と自立支援のあり方	映像プレゼンテーション・配布資料	自立支援のあり方について調査
7	障害のとらえ方と自立支援のあり方	映像プレゼンテーション・配布資料	自立支援のあり方について調査
8	疾患別・障害別に見た不便・不自由と福祉住環境の考え方	映像プレゼンテーション・配布資料	疾患・障害に関する調査
9	疾患別・障害別に見た不便・不自由と福祉住環境の考え方	映像プレゼンテーション・配布資料	疾患・障害に関する調査
10	疾患別・障害別に見た不便・不自由と福祉住環境の考え方	映像プレゼンテーション・配布資料	疾患・障害に関する調査
11	相談援助の考え方と福祉住環境整備の考え方	映像プレゼンテーション・配布資料	相談援助に関する調査
12	相談援助の考え方と福祉住環境整備の考え方	映像プレゼンテーション・配布資料	福祉住環境整備に関する調査
13	福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識	映像プレゼンテーション・配布資料	福祉住環境整備に関する調査
14	福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識	映像プレゼンテーション・配布資料	福祉住環境整備に関する調査
15	福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識	映像プレゼンテーション・配布資料	福祉住環境整備に関する調査
16	在宅生活における福祉用具の活用	映像プレゼンテーション・配布資料	福祉用具に関する調査
17	在宅生活における福祉用具の活用	映像プレゼンテーション・配布資料	福祉用具に関する調査
18	福祉住環境コーディネーター検定筆記試験問題の検討	配布資料	試験問題の調査
19	福祉住環境コーディネーター検定筆記試験問題の検討	配布資料	試験問題の調査
20	福祉住環境コーディネーター検定筆記試験問題の検討	配布資料	試験問題の調査
21	福祉住環境コーディネーター検定筆記試験問題の検討	配布資料	試験問題の調査
22	福祉住環境コーディネーター検定筆記試験問題の検討	配布資料	試験問題の調査
23	本学建築(宮代キャンパス)視察	身障者用トイレ・スロープ・介護実習室	事前・事後学習レポート提出
24	福祉用具ショールーム視察	福祉用具の実際を視察	事前・事後学習レポート提出
25	福祉住環境事例の検討 福祉関係ビデオ閲覧	配布資料 映像プレゼン	福祉住環境整備に関する調査
26	福祉住環境事例の検討 福祉関係ビデオ閲覧	配布資料 映像プレゼン	福祉住環境整備に関する調査
27	福祉住環境事例の検討 福祉関係ビデオ閲覧	配布資料 映像プレゼン	福祉住環境整備に関する調査
28	福祉住環境事例の検討 福祉関係ビデオ閲覧	配布資料 映像プレゼン	福祉住環境整備に関する調査
29	福祉住環境事例の検討 福祉関係ビデオ閲覧	配布資料 映像プレゼン	福祉住環境整備に関する調査
30	福祉住環境事例の検討 福祉関係ビデオ閲覧	配布資料 映像プレゼン	福祉住環境整備に関する調査
期末試験	問題集・事例・福祉関係ビデオから試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 筆記試験	80点満点の記述方式テストを学期末に実施。		
(2) レポート	レポートは20点満点とする。(視察時の事前・事後学習レポート)		

参考書
書名:福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト 最新版 著者名:東京商工会議所 発行所:東京商工会議所 価格:4,500円(税別)
その他補足事項
視察場所への交通費(1,100円程度)は学生個人負担となります。

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	特別研究Ⅰ 「臨床心理学研究法A」	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	3年次
担 当 教 員	職名:教授 すぎやま まさひこ 氏名:杉山 雅彦 職名:准教授 わたなべ あつこ 氏名:渡部 敦子 職名:助教 きむら やすひろ 氏名:木村 泰博	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	無
		開講キャンパス	福島駅前キャンパス
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します E-mail:sugiyama.masahiko@fukushima-college.ac.jp E-mail:watanabe.atsuko@fukushima-college.ac.jp E-mail:kimura.yasuhiro@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
心理学に関連してさらに研究として深めていくために必要な知識技術を習得し、その上で臨床心理学を中心に学生それぞれの関心に沿っての研究課題あるいは論文に関して基礎的な知識及び研究の現状を検討していく。本授業の前半はそれらに関する発表と討論、そしてその上で自らの興味に接近していくための資料をまとめる。授業の後半では関心領域に関して明確にし、具体的に研究のプロセスに関する理解を深め、考察が出来るデータを形成していく。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
研究に関する必要な知識技術を習得する。	目標	A B
自らの興味に関して先行研究を調べるなど、状況を明確にすることが出来る。	目標	C K
先行研究などをまとめた上で、興味のある領域等を明確にし、発表する。	目標	C I K
興味ある領域のデータを収集し、考察する。	目標	C J K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション		
2	心理学を研究するとは	心理学研究に関して討論	心理学の研究方法を調べる
3	心理学の研究法	研究法に関して発表	研究法に関してまとめる
4	研究法と結果の整合性－質的研究と量的研究	結果を明らかにするための方法の討論	質的研究と量的研究に関して調べる

5	研究法と結果の関連－質的研究と量的研究	特定の研究法によって何が分かるかの討論	質的研究と量的研究のまとめ
6	先行研究の必要性	先行研究はなぜ必要とされるかの議論	本の参考文献欄の検討、調べるための領域決定
7	先行研究を調べる	図書館にて先行研究を検索する	ダウンロードした文献の購読
8	先行研究の報告	ダウンロードした文献を報告し、検討する	ダウンロードした文献の購読とまとめ
9	研究対象を先行研究からまとめる	必要な先行研究や資料のピックアップ	収集した資料のまとめ
10	研究対象のまとめ、研究をするとはどういうことか？	研究の意義に関する討論	研究対象のまとめ
11	インタビュー	インタビューの試行	インタビューのまとめ
12	仮のデータによる被験者内分析	データ分析をグループで行う	被験者内分析のまとめ
13	被験者内分析の結果の発表	分析されたデータを討論する	群間比較を調べる
14	仮のデータによる群間比較の分析	データ分析をグループで行う	群間比較のまとめ
15	群間比較の結果の発表	分析されたデータを討論する	分析法に関するまとめ 心理学研究と分析に関するレポート
16	研究の対象と研究のプロセス	研究プロセスの討論	研究プロセスのまとめ
17	研究のための準備	グループで研究対象の検討	研究対象に関する資料収集
18	臨床心理学の研究	臨床心理学の研究の特殊性に関する討論	臨床心理学の研究に関する資料検討
19	臨床心理学の研究2	臨床心理学の研究に関して発表	研究の対象に関する資料収集
20	それぞれの領域に関して研究を開始	資料を収集する	資料のまとめ
21	研究のための資料収集	資料を収集しまとめる	資料のまとめ
22	研究のための資料収集	資料から、手続きを明記する	資料のまとめと方法の記述
23	研究データ収集	データを収集する	データのまとめ
24	研究データ収集	データを収集する	データのまとめ
25	研究データ収集	データを収集する	データのまとめ
26	研究データ収集	データを収集する	データのまとめ
27	研究データ分析	データをまとめる	方法と結果の記述
28	研究データ分析	データをまとめる	結果と考察の記述
29	レポート執筆	研究のまとめ	レポートまとめ
30	研究結果発表	研究の発表、討論	本授業のまとめ
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
前半と最後にレポートを課す。基本的に最終のレポートを作成するために授業が構成されており、前半のレポート20点、後半のレポートを50点で採点する。また討論をしながらの授業であり、討論への参加態度に関して30点で採点する。			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成30年度

授 業 科 目 名	特別研究Ⅰ 「臨床心理学研究法B」		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	3年次
担 当 教 員	職名:教授	職名:教授	開 講 期	通年
	氏名: ^{きし} 岸 ^{よしのり} 良範	氏名: ^{わたなべ} 渡邊 ^{つとむ} 勉	授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス		授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します			
卒業・資格・免許	授業科目区分		必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目		選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>臨床 (clinical) という言葉は、ギリシャ語で「寝台」を意味する「クリネーク」に由来する。元々臨床とは、医療的な治療を施す術がなくなってしまった病人に対して、枕元で魂の旅立ちを世話する僧侶の役割を示すものであった。その現代的意味では、援助を求める人に対して寄り添うということがその主題となる。ただし、寄り添うためには、人を知り、その上で支援の方法を考えていくことが大事なことである。この授業では、人間に対する様々な理論を学びながら、どのような支援が役立つのか、事例 (ケーススタディ) を通しながら検討していくことになる。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
① 様々な理論を通じて、心のメカニズムを知る。	目標	A C J
② 様々な症例を通じて、アセスメント力を高める。	目標	A B C J
③ アセスメントを通じて、支援の方法を身につける。	目標	A B K L
④ ひとつの症例の背後には、多様な事情があることを理解する。	目標	A F J
⑤ 人に寄り添うことの意味を考えられるようになる。	目標	B H K L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	臨床心理学は何を目指しているか	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
2	実践の学問としての臨床心理学の科学性	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
3	精神医学と臨床心理学との違い	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
4	理解することと援助すること	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
5	ケーススタディ① 実際の事例を検討する。	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習

6	ケーススタディ② 実際の事例を検討する。	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予 習及び復習
7	臨床心理学の様々な理論の有効性①	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予 習及び復習
8	臨床心理学の様々な理論の有効性②	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予 習及び復習
9	ケーススタディ③ 実際の事例を検討する。	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予 習及び復習
10	ケーススタディ④ 実際の事例を検討する。	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予 習及び復習
11	症状を持つとはどういうことか	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予 習及び復習
12	主な援助の対象① 神経症、うつ病、統合失調症、人格障害 等	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予 習及び復習
13	主な援助の対象② 発達障害、知的障害	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予 習及び復習
14	ケーススタディ⑤ 実際の事例を検討する。	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予 習及び復習
15	ケーススタディ⑥ 実際の事例を検討する。	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予 習及び復習
16	人間の心を理解する①ーアセスメントー	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予 習及び復習
17	人間の心を理解する②ーアセスメントー	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予 習及び復習
18	臨床心理学的援助の実践①	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予 習及び復習
19	臨床心理学的援助の実践②	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予 習及び復習
20	それぞれの発達段階における心理的な問題及び課題 ① 青年期までの発達(1)	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予 習及び復習
21	それぞれの発達段階における心理的な問題及び課題 ① 青年期までの発達(2)	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予 習及び復習
22	ケーススタディ⑦ 実際の事例を検討する。	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予 習及び復習
23	ケーススタディ⑧ 実際の事例を検討する。	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予 習及び復習
24	それぞれの発達段階における心理的な問題及び課題 ② 成人期から老年期までの発達(1)	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予 習及び復習
25	それぞれの発達段階における心理的な問題及び課題 ② 成人期から老年期までの発達(2)	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予 習及び復習
26	ケーススタディ⑨ 実際の事例を検討する。	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予 習及び復習
27	ケーススタディ⑩ 実際の事例を検討する。	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予 習及び復習
28	社会の中での実践と連携ー保育園や幼稚園、学校などに 臨床心理の専門家がいることの意味①ー	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予 習及び復習
29	社会の中での実践と連携ー保育園や幼稚園、学校などに 臨床心理の専門家がいることの意味②ー	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予 習及び復習
30	臨床心理実践の専門性と訓練	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予 習及び復習
到達度の評価（評価方法・基準）			
各回の小レポートと最終レポート			

教科書
書名:臨床心理学－全体的存在としての人間を理解する(予定) 著者名:伊藤良子(編著) 発行所:ミネルヴァ書房 価格:2,500円(税別)
その他補足事項
授業の理解度に応じて、講義の順番の入替が予測される。 理解度に合わせて参考文献を随時紹介する。

授 業 科 目 名	特別研究Ⅰ 「こころの健康と精神障がい者の地域生活支援」	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	3年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{ふじわら} 藤原 ^{まさこ} 正子	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail: fujiwara.masako@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
こころの健康と精神障がい者の地域生活支援についての演習を行う。病気によって失われる命や障がいによって損なわれる健康生活というWHOの指標からも、国民の心の健康の推進が求められる。本科目では、子どもの心の発達と家族支援について理解し、また、たまたま精神疾患を患った人が地域でその人らしく当たり前前に生きる生活支援事例を見ていく。並行して履修者各自が自分の関心あるテーマについて授業で発表し学び合い、小論文にまとめていく。	○	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
	○	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	○	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
こころの健康を推進するために、各自ができること、身近な家族や学校・職場や地域の周りの人々ができること、そして政策レベルの課題について考えることができるようになる。	目標	A
子どもの心の発達を促す家族関係やそれに準ずる養育環境のあり方について理解する。	目標	A
精神障がいの特徴を理解し、認知機能障害を持つ精神障がい者が地域で当たり前前に暮らしている事例を通して、一人ひとりのリハビリとその人らしい生き方と生活支援のあり方について互いに学び合うことができるようになる。	目標	I K
履修者各自の研究テーマを見つけ出し、情報収集・資料検索等を通して自分で調べた内容を発表した上で小論文にまとめる。	目標	D K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション こころの健康と精神保健福祉		各自のテーマ設定準備
2	精神障がい者の地域生活支援 ①不思議なレストラン プロローグ	プリント	発表資料準備 資料確認と整理
3	精神障がい者の地域生活支援 ②クッキングハウス誕生物語	ビデオ「統合失調症を生きる」20分	〃
4	アクション - 止めたいのに 止められない罪悪感	プリント	〃

5	精神障がい者の地域生活支援 ③いくつになっても希望はある〈恵子さんのこと〉	〃	〃
6	精神障がい者の地域生活支援 ④青春時代は病院だった〈ユミ子さんのこと〉	〃	〃
7	子どもの心の発達と家族支援 ①症状の見立て方、心の安全基地	〃	〃
8	子どもの心の発達と家族支援 ②親の役割 子どもの養育としつけ	〃	〃
9	子どもの心の発達と家族支援 ③親の強制と過保護 支配性とコミュニケーションのパターン	〃	〃
10	子どもの心の発達と家族支援 ④分離と喪失 崩壊家庭と家庭不和	〃	〃
11	子どもの心の発達と家族支援 ⑤単身家族 絆の欠如 特別研究の小論文作成に向けたテーマ設定	〃	〃 各自の研究テーマを探す
12	子どもの心の発達と家族支援 ⑥親の逸脱 世代間サイクル	〃	発表資料準備 資料の確認と整理
13	統合失調症の認知機能リハビリテーション	〃	〃
14	テクノロジーによるリハビリテーション範囲の拡大 精神障害の予防	〃	〃
15	リカバリーのための統合的な見方と使命 各自の研究テーマ中間発表①	〃	〃 発表準備と発表後の修正
16	各自の研究テーマ中間発表②	発表テーマ別グループピン グ	発表準備と発表後の修正
17	研究個別報告①	発表と質疑応答	〃
18	研究個別報告②	〃	〃
19	研究個別報告③	〃	〃
20	研究個別報告④	〃	〃
21	研究個別報告⑤	〃	〃
22	研究個別報告⑥	〃	〃
23	研究個別報告⑦	〃	〃
24	研究個別報告⑧	〃	〃
25	研究個別報告⑨	〃	〃
26	研究個別報告⑩	〃	〃
27	研究成果報告準備①	グループ討議	発表資料準備
28	研究成果報告準備②	〃	〃
29	特別研究発表①	発表と質疑応答	発表準備と感想文 作成
30	特別研究発表②	〃	発表準備と感想文 作成
到達度の評価（評価方法・基準）			
授業における自主的な発言、発表等授業の参加度50%、発表時のレポート内容、特別研究小論文等の課題の消化度および提出期限を守っているか等50%により評価する。自発的かつ適切な質疑応答であると認められる場合1回につき2点加点。詳しくは第1回目の授業に説明する。			

教科書	参考書
書名:不思議なレストラン 著者名:松浦幸子 発行所:教育史料出版会 価格:1,500円(税別)	書名:子どもの精神医学 著者名:マイケル・ラター 発行所:ルガール社 価格:6,800円 書名:精神障害と回復—リバーマンのリハビリテーション・マニュアル 著者名:R.P.リバーマン 発行所:星和書店 価格:6,600円(税別)
その他補足事項	
初回授業時に履修希望理由について200字程度書いて持参して下さい。	

授 業 科 目 名	特別研究Ⅰ「地域の福祉」	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	3年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{くさか} 日下 ^{てるみ} 輝美	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては、初回授業時に説明します。 E-mail:kusaka.terumi@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>「地域福祉」とは、それぞれの地域において人びとが安心して暮らせるよう、地域住民や公私の社会福祉関係者等が、お互いに協力して地域社会の福祉課題の解決に取り組む考え方です。</p> <p>この授業は、「福島市のユニバーサルデザインのまちづくりと観光資源の提案」をテーマに、課題解決型学習PBL (Project - Based Learning) により、障がいのある方や高齢者等のレポート、ワークショップ等を行う。授業は、福島市観光コンベンション協会とふくしまバリアフリーセンター、まちなか夢工房、飯館村と連携のもとに実施する。</p>	A	知識
	B	技術・技能
	C	論理的思考力
	<input type="radio"/> D	文章表現力
	E	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	<input type="radio"/> G	協働能力
	<input type="radio"/> H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/> J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力
	<input type="radio"/> L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
福島市内の観光と福祉の「おもてなし」について理解する。	目標	H J L
福島市内のトイレ(バリアフリー)マップ制作に協力し、バリアの実態を知る。	目標	D G
福島の復興のひとつである観光に視点を当て、「バリアフリー観光推進」のための『ふくしまのおもてなし～入門編～ガイド』の制作と啓蒙活動を通して地域での生活者として支え合うことを学ぶ。	目標	D H J
2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けての福島市オリジナル・バリアフリーツアー(福島市コンベンション協会)企画協力を通して、発信力をつける。	目標	G H J L
NPOシャロームが活動する飯館村地域再生プロジェクト(避難者一人ひとりの物語作成)の協力を通して、継続的な被災者援助の必要性に気づく。	目標	G H L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 課題解決型学習PBL(Project - Based Learning)の説明と授業の流れ	個別シートの作成	シラバスの一読
2	福島駅前キャンパス近隣をハンディキャップ体験(バリアフリー視点)で歩いてみる	Worksheetの作成	駅前キャンパス近隣を知る活動 Part1

3	福島駅前キャンパス近隣をハンディキャップ体験(バリアフリー視点)プレゼンテーション	Worksheetの提出	駅前キャンパス近隣を知る活動 Part2
4	福島市観光コンベンション協会とふくしまバリアフリーセンターの紹介と活動について 福島の観光メニューの紹介と課題 ① 講師:福島市観光コンベンション協会	ゲストスピーカー招聘	
5	福島市観光コンベンション協会とふくしまバリアフリーセンターの紹介と活動について 福島の観光メニューの紹介と課題 ② 講師:ふくしまバリアフリーツアーセンター	ゲストスピーカー招聘	駅前キャンパス近隣を知る活動 Part3
6	福島市観光コンベンション協会とふくしまバリアフリーセンターの紹介と活動について 福島の観光メニューの紹介と課題について考えるワークショップ ①	グループワーク ラベルワーク	福島市の観光を調べてくる
7	福島市観光コンベンション協会とふくしまバリアフリーセンターの紹介と活動について 福島の観光メニューの紹介と課題について考えるワークショップ ②	グループワーク ラベルワークのまとめ (プレゼンテーション)	福島市の福祉施策について調べてくる
8	福島市観光コンベンション協会とふくしまバリアフリーセンターの紹介と活動について 福島の観光課題(まちの賑わいづくりと課題)について提案する ①	グループワーク ラベルワークのまとめ (資料を作成)	広報紙の収集
9	福島市観光コンベンション協会とふくしまバリアフリーセンターの紹介と活動について 福島の観光課題(まちの賑わいづくりと課題)について提案する ②	グループワーク ラベルワークのまとめ (資料を提出)	地元新聞を読んでくる
10	バリアフリーと優しい街づくり 「おもてなしガイドブック」内容をチェック ①	バリアフリーツアーセンターの役員からアドバイスを受ける	障がい者の日常生活について考える
11	バリアフリーと優しい街づくり 「おもてなしガイドブック」内容を説明することができるようにする ②	バリアフリーツアーセンターの役員からアドバイスを受ける	障がい者の日常生活について考える
12	福島市内のトイレ(バリアフリー)マップ制作に協力 ①	バリアフリーツアーセンターの役員からアドバイスを受ける	障がい者の日常生活について考える
13	福島市内のトイレ(バリアフリー)マップ制作に協力 ②	バリアフリーツアーセンターの役員からアドバイスを受ける	障がい者の日常生活について考える
14	福島市内のトイレ(バリアフリー)マップ制作に協力 ③	バリアフリーツアーセンターの役員からアドバイスを受ける	障がい者の日常生活について考える
15	福島市内のトイレ(バリアフリー)マップ制作に協力 ④	バリアフリーツアーセンターの役員からアドバイスを受ける	障がい者の日常生活について考える
16	本学との地域連携地である「土湯温泉」のバリアフリーの状況を知る 講師:土湯温泉観光協会	ゲストスピーカー招聘	土湯温泉の調べ
17	土湯温泉の企画イベントに参加 開催日:11月4日(日)予定	イベントに参加	レポート作成
18	〃	〃	〃
19	土湯温泉の企画イベントのまとめと新たなイベントや商品の提案を考える ①	グループワーク	提案書の作成

20	土湯温泉の企画イベントのまとめと新たなイベントや商品の提案を考える ②	グループワーク	提案書の提出
21	2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、福島市オリジナル・バリアフリーツアー(福島市コンベンション協会)企画協力 ①	福島市コンベンション協会の役員からアドバイスを受ける	課題作成
22	2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、福島市オリジナル・バリアフリーツアー(福島市コンベンション協会)企画協力 ②	福島市コンベンション協会の役員からアドバイスを受ける	課題作成
23	2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、福島市オリジナル・バリアフリーツアー(福島市コンベンション協会)企画協力 ③	福島市コンベンション協会の役員からアドバイスを受ける	課題作成
24	2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、福島市オリジナル・バリアフリーツアー(福島市コンベンション協会)企画協力 ④	福島市コンベンション協会の役員からアドバイスを受ける	課題作成
25	2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、福島市オリジナル・バリアフリーツアー(福島市コンベンション協会)企画協力 ⑤	福島市コンベンション協会の役員からアドバイスを受ける	課題作成
26	駅前近隣施設「まちなか夢工房」NPOシャロームを見学訪問と利用者との交流	「まちなか夢工房」訪問	課題作成
27	NPOシャロームが活動する飯館村地域再生プロジェクトについて理解する	「まちなか夢工房」訪問	飯館村について調べてくる
28	NPOシャロームが活動する飯館村地域再生プロジェクト(避難者一人ひとりの物語作成)の協力 ①	グループワーク	飯館村の新聞記事の収集
29	NPOシャロームが活動する飯館村地域再生プロジェクト(避難者一人ひとりの物語作成)の協力 ②	グループワーク	飯館村の新聞記事の収集
30	NPOシャロームが活動する飯館村地域再生プロジェクト(避難者一人ひとりの物語作成)の協力 ③	グループワーク	飯館村の新聞記事の収集
到達度の評価 (評価方法・基準)			
1. 演習中の参加態度(自主的発言、意欲的な取り組み、グループワークへの貢献) 40%			
2. 課題への取り組み 30%			
3. レポート課題提出 30%			
教科書		参考書	
使用しない。必要に応じて資料を配布する。		特に指定しない。必要に応じて、参考資料を提示する。	
その他補足事項			
1. 授業の順序及び内容は、進捗状況により変更する場合がある。			
2. 学外研修(土湯温泉)の際、授業時間割外に実施される。開催日および日程についての詳細は、授業の中で説明する。			

授 業 科 目 名	特別研究Ⅱ 「臨床心理学研究A」	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	4年次
担 当 教 員	職名:教授 すぎやま まさひこ 氏名:杉山 雅彦 職名:准教授 わたなべ あつこ 氏名:渡部 敦子 職名:助教 きむら やすひろ 氏名:木村 泰博	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の 必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します E-mail:sugiyama.masahiko@fukushima-college.ac.jp E-mail:watanabe.atsuko@fukushima-college.ac.jp E-mail:kimura.yasuhiro@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
心理学に関連してさらに研究として深めていくために必要な知識技術を習得し、その上で臨床心理学を中心に学生それぞれの関心に沿っての研究課題あるいは論文に関して基礎的な知識及び研究の現状を検討していく。本授業の前半はそれらに関する発表と討論、そしてその上で自らの興味に接近していくための資料をまとめる。授業の後半では関心領域に関して明確にし、具体的に研究のプロセスに関する理解を深め、考察が出来るデータを形成していく。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との 対応項目(受講して得られる力)
研究に関する必要な知識技術を習得する。		目標 A B
自らの興味に関して先行研究を調べるなど、状況を明確にすることが出来る。		目標 C K
先行研究などをまとめた上で、興味のある領域等を明確にし、発表する。		目標 C I K
興味ある領域のデータを収集し、考察する。		目標 C J K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション		
2	心理学を研究するとは	心理学研究に関して討論	心理学の研究方法を調べる
3	心理学の研究法	研究法に関して発表	研究法に関してまとめる
4	研究法と結果の関連－質的研究と量的研究	結果を明らかにするための方法の討論	質的研究と量的研究に関して調べる

5	研究法と結果の関連－質的研究と量的研究	特定の研究法によって何が分かるかの討論	質的研究と量的研究のまとめ
6	先行研究の必要性	先行研究はなぜ必要とされるかの議論	本の参考文献欄の検討、調べるための領域決定
7	先行研究を調べる	図書館にて先行研究を検索する	ダウンロードした文献の購読
8	先行研究の報告	ダウンロードした文献を報告し、検討する	ダウンロードした文献の購読とまとめ
9	研究対象を先行研究からまとめる	必要な先行研究や資料のピックアップ	収集した資料のまとめ
10	研究対象のまとめ、研究をするとはどういうことか？	研究の意義に関する討論	研究対象のまとめ
11	インタビュー	インタビューの試行	インタビューのまとめ
12	仮のデータによる被験者内分析	データ分析をグループで行う	被験者内分析のまとめ
13	被験者内分析の結果の発表	分析されたデータを討論する	群間比較を調べる
14	仮のデータによる群間比較の分析	データ分析をグループで行う	群間比較のまとめ
15	群間比較の結果の発表	分析されたデータを討論する	分析法に関するまとめ 心理学研究と分析に関するレポート
16	研究の対象と研究のプロセス	研究プロセスの討論	研究プロセスのまとめ
17	研究対象の討論	グループで研究対象の検討	研究対象に関する資料収集
18	研究対象の討論に関する資料収集と発表	臨床心理学の研究に関する討論	臨床心理学の研究に関する資料検討
19	研究対象の討論に関する資料収集と発表	臨床心理学の研究に関する討論	研究の対象に関する資料収集
20	研究対象の討論に関する資料収集と発表	臨床心理学の研究に関する討論	研究の対象に関する資料収集
21	研究準備のための資料収集	資料を収集しまとめる	文献資料の収集とまとめ
22	研究準備のための資料収集	資料を収集しまとめる	資料のまとめと方法の記述
23	研究準備のための資料収集	資料を収集しまとめる	データのまとめ
24	研究準備のための資料収集	資料を収集しまとめる	データのまとめ
25	模擬研究	先行研究の分析を中心に目的と方法の検討	目的方法の検討
26	模擬研究	先行研究の分析を中心に目的と方法の検討	目的方法の記述とデータ収集に関する検討
27	模擬研究	先行研究の分析を中心に目的と方法の検討	目的方法の記述とデータ収集に関する検討
28	模擬研究データの討論	模擬的データの検討	結果の検討
29	研究の目的方法に関する検討	模擬研究のまとめ	レポートまとめ
30	研究の目的方法に関する検討 レポート提出	模擬研究の発表、討論	本授業のまとめ
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
前半と最後にレポートを課す。基本的に学年末に提出するレポート(4年時の特別研究で行われる研究レポートを作成するためのレポート)を作成するために授業が構成されており、前半のレポート20点、後半のレポートを50点で採点する。また討論をしながらの授業であり、討論への参加態度に関して30点で採点する。			

授 業 科 目 名	特別研究Ⅱ 「臨床心理学研究B」		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	4年次
担 当 教 員	職名:教授	職名:教授	開 講 期	通年
	氏名: ^{きし} 岸 ^{よしのり} 良範	氏名: ^{わたなべ} 渡邊 ^{つとむ} 勉	授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス		授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワー・メールアドレスについては初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目			
<p>臨床 (clinical) という言葉は、ギリシャ語で「寝台」を意味する「クリネーク」に由来する。元々臨床とは、医療的な治療を施す術がなくなってしまった病人に対して、枕元で魂の旅立ちを世話する僧侶の役割を示すものであった。その現代的意味では、援助を求める人に対して寄り添うということがその主題となる。ただし、寄り添うためには、人を知り、その上で支援の方法を考えていくことが大事なことである。この授業では、人間に対する様々な理論を学びながら、どのような支援が役立つのか、事例 (ケーススタディ) を通しながら検討していくことと並行して、学生が自分自身の関心領域を明確にし、具体的な研究のプロセスへの理解を深めて、小論文にまとめていく。</p>	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)			
①様々な理論を通じて、心のメカニズムを知る。	目標	A C J		
②様々な症例を通じてアセスメント力を高め、支援の方法を身につける。	目標	A B C J K L		
③心理学領域の研究において必要な知識・技術を習得する。	目標	A B C		
④自らの興味関心に応じた先行研究を調べ、研究プロセスを構築していく力を身につける。	目標	C K		
⑤人に寄り添うことの意味を考えられるようになる。	目標	B H K L		

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	臨床心理学は何を目指しているか	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
2	実践の学問としての臨床心理学の科学性	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
3	精神医学と臨床心理学との違い 心理学を研究するとは 心理学の研究方法	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習 研究法についてまとめる
4	研究法と結果の整合性－質的研究と量的研究①	結果を明らかにする方法の討議、発表	質的研究と量的研究について調べる

5	研究法と結果の整合性－質的研究と量的研究② ケーススタディ① 実際の事例を検討し、質的研究の方法を理解する。	特定の研究方法によって何が分かるかの討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
6	ケーススタディ② 実際の事例を検討し、質的研究の方法を理解する。	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習 質的研究のまとめ
7	臨床心理学の様々な理論の有効性① 先行研究の必要性	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習 関心領域の決定
8	臨床心理学の様々な理論の有効性② 関心領域の先行研究の調べ方	講義及び先行研究の検索	文献該当箇所の予習及び復習 ダウンロードした文献の講読
9	ケーススタディ③ 実際の事例を検討する。 先行研究の報告	講義及びグループ討議、先行研究や資料の収集	文献該当箇所の予習及び復習 収集資料のまとめ
10	症状を持つとはどういうことか ケーススタディ④ 実際の事例を検討する。	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
11	研究の対象と研究プロセス① 主な援助の対象を知る① 神経症、うつ病、統合失調症、人格障害 等	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
12	研究の対象と研究プロセス② 主な援助の対象を知る② 発達障害、知的障害	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
13	研究の対象と研究プロセス③ 研究計画立案の準備	講義及びグループ討議、発表	研究プロセスのまとめ
14	臨床心理学の研究①	講義及びグループ討議、発表	文献・資料の講読
15	臨床心理学の研究②	講義及びグループ討議、発表	文献・資料の講読
16	人間の心を理解する①－アセスメント－ 研究計画の検討	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
17	人間の心を理解する②－アセスメント－ 関心領域に関する研究の開始	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習 資料等のまとめ
18	臨床心理学的援助の実践① 研究のための資料収集	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習 資料等のまとめ
19	臨床心理学的援助の実践② 研究のための資料収集	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習 資料等のまとめ
20	それぞれの発達段階における心理的な問題及び課題 ①青年期までの発達(1)	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習 資料のまとめと方法の記述
21	それぞれの発達段階における心理的な問題及び課題 ①青年期までの発達(2)	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
22	ケーススタディ⑤ 実際の事例を検討する。	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
23	ケーススタディ⑥ 実際の事例を検討する。	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
24	それぞれの発達段階における心理的な問題及び課題 ②成人期から老年期までの発達(1)	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習

25	それぞれの発達段階における心理的な問題及び課題 ②成人期から老年期までの発達(2)	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予 習及び復習
26	ケーススタディ⑦ 実際の事例を検討する。	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予 習及び復習
27	ケーススタディ⑧ 実際の事例を検討する。 研究レポートの提出	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予 習及び復習
28	社会の中での実践と連携－保育園や幼稚園、学校などに 臨床心理の専門家がいることの意味①－	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予 習及び復習
29	社会の中での実践と連携－保育園や幼稚園、学校などに 臨床心理の専門家がいることの意味②－	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予 習及び復習
30	研究結果の発表	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予 習及び復習
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1)小レポート 20%			
(2)最終レポート 50%			
(3)授業での討議、発表等への参加態度 30%			
教科書			
書 名:臨床心理学－全体的存在としての人間を理解する 著者名:伊藤良子(編著) 発行所:ミネルヴァ書房 価 格:2,500円(税別)			
その他補足事項			
授業の理解度に応じて、講義の順番の入替が予測される。 理解度に合わせて参考文献を随時紹介する。 最終レポートの作成・提出および成果発表を求める授業である。			

授 業 科 目 名	特別研究Ⅱ 「こころの健康と精神障がい者の地域生活支援」	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	4年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{ふじわら} 藤原 ^{まさこ} 正子	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail: fujiwara.masako@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
こころの健康と精神障がい者の地域生活支援についての演習を行う。病気によって失われる命や障がいによって損なわれる健康生活というWHOの指標からも、国民の心の健康の推進が求められる。本科目では、子どもの心の発達と家族支援について理解し、また、たまたま精神疾患を患った人が地域でその人らしく当たり前前に生きる生活支援事例を見ていく。並行して履修者各自が自分の関心あるテーマについて授業で発表し学び合い、小論文にまとめていく。	○	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
	○	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	○	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
こころの健康を推進するために、各自ができること、身近な家族や学校・職場や地域の周りの人々ができること、そして政策レベルの課題について考えることができるようになる。		目標 A
子どもの心の発達を促す家族関係やそれに準ずる養育環境のあり方について理解する。		目標 A
精神障がいの特徴を理解し、認知機能障害を持つ精神障がい者が地域で当たり前前に暮らしている事例を通して、一人ひとりのリハビリとその人らしい生き方と生活支援のあり方について互いに学び合うことができるようになる。		目標 I K
履修者各自の研究テーマを見つけ出し、情報収集・資料検索等を通して自分で調べた内容を発表した上で小論文にまとめる。		目標 D K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション こころの健康と精神保健福祉		各自のテーマ設定準備
2	精神障がい者の地域生活支援 ①不思議なレストラン プロローグ	プリント	発表資料準備 資料確認と整理
3	精神障がい者の地域生活支援 ②クッキングハウス誕生物語	ビデオ「統合失調症を生きる」20分	〃
4	アディクション - 止めたいのに 止められない罪悪感	プリント	〃

5	精神障がい者の地域生活支援 ③いくつになっても希望はある〈恵子さんのこと〉	〃	〃
6	精神障がい者の地域生活支援 ④青春時代は病院だった〈ユミ子さんのこと〉	〃	〃
7	子どもの心の発達と家族支援 ①症状の見立て方、心の安全基地	〃	〃
8	子どもの心の発達と家族支援 ②親の役割 子どもの養育としつけ	〃	〃
9	子どもの心の発達と家族支援 ③親の強制と過保護 支配性とコミュニケーションのパターン	〃	〃
10	子どもの心の発達と家族支援 ④分離と喪失 崩壊家庭と家庭不和	〃	〃
11	子どもの心の発達と家族支援 ⑤単身家族 絆の欠如 特別研究の小論文作成に向けたテーマ設定	〃	〃 各自の研究テーマを探す
12	子どもの心の発達と家族支援 ⑥親の逸脱 世代間サイクル	〃	発表資料準備 資料の確認と整理
13	統合失調症の認知機能リハビリテーション	〃	〃
14	テクノロジーによるリハビリテーション範囲の拡大 精神障害の予防	〃	〃
15	リカバリーのための統合的な見方と使命 各自の研究テーマ中間発表①	〃	〃 発表準備と発表後の修正
16	各自の研究テーマ中間発表②	発表テーマ別グルーピング	発表準備と発表後の修正
17	研究個別報告①	発表と質疑応答	〃
18	研究個別報告②	〃	〃
19	研究個別報告③	〃	〃
20	研究個別報告④	〃	〃
21	研究個別報告⑤	〃	〃
22	研究個別報告⑥	〃	〃
23	研究個別報告⑦	〃	〃
24	研究個別報告⑧	〃	〃
25	研究個別報告⑨	〃	〃
26	研究個別報告⑩	〃	〃
27	研究成果報告準備①	グループ討議	発表資料準備
28	研究成果報告準備②	〃	〃
29	特別研究発表①	発表と質疑応答	発表準備と感想文作成
30	特別研究発表②	〃	発表準備と感想文作成
到達度の評価（評価方法・基準）			
授業における自主的な発言、発表等授業の参加度50%、発表時のレポート内容、特別研究小論文等の課題の消化度および提出期限を守っているか等50%により評価する。自発的かつ適切な質疑応答であると認められる場合1回につき2点加点。詳しくは第1回目の授業に説明する。			

教科書	参考書
書名:不思議なレストラン 著者名:松浦幸子 発行所:教育史料出版会 価格:1,500円(税別)	書名:子どもの精神医学 著者名:マイケル・ラター 発行所:ルガール社 価格:6,800円 書名:精神障害と回復—リバーマンのリハビリテーション・マニュアル 著者名:R.P.リバーマン 発行所:星和書店 価格:6,600円(税別)
その他補足事項	
初回授業時に履修希望理由について200字程度書いて持参して下さい。	

授 業 科 目 名	特別研究II 「地域の福祉」	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	4年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{くさか} 日下 ^{てるみ} 輝美	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては、初回授業時に説明します。 E-mail:kusaka.terumi@fukushima-college.ac.jp		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>「地域福祉」とは、それぞれの地域において人びとが安心して暮らせるよう、地域住民や公私の社会福祉関係者等が、お互いに協力して地域社会の福祉課題の解決に取り組む考え方はです。</p> <p>この授業は、「福島市のユニバーサルデザインのまちづくりと観光資源の提案」をテーマに、課題解決型学習PBL (Project - Based Learning) により、障がいのある方や高齢者等のレポート、ワークショップ等を行う。授業は、福島市観光コンベンション協会とふくしまバリアフリーセンター、まちなか夢工房、飯館村と連携のもとに実施する。</p>	<input type="checkbox"/>	A 知識
	<input type="checkbox"/>	B 技術・技能
	<input type="checkbox"/>	C 論理的思考力
	<input type="checkbox"/>	D 文章表現力
	<input type="checkbox"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="checkbox"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="checkbox"/>	G 協働能力
	<input type="checkbox"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="checkbox"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="checkbox"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="checkbox"/>	K 課題対処力
	<input type="checkbox"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
福島市内の観光と福祉の「おもてなし」について理解する。	目標	H J L
福島市内のトイレ(バリアフリー)マップ制作に協力し、バリアの実態を知る。	目標	D G
福島の復興のひとつである観光に視点を当て、「バリアフリー観光推進」のための『ふくしまのおもてなし～入門編～ガイド』の制作と啓蒙活動を通して、地域での生活者として支え合うことを学ぶ。	目標	D H J
2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けての福島市オリジナル・バリアフリーツアー(福島市コンベンション協会)企画協力を通して、発信力をつける。	目標	G H J L
NPOシャロームが活動する飯館村地域再生プロジェクト(避難者一人ひとりの物語作成)の協力を通して、継続的な被災者援助の必要性に気づく。	目標	G H L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 課題解決型学習PBL(Project - Based Learning)の説明と授業の流れ	個別シートの作成	シラバスの一読
2	福島駅前キャンパス近隣をハンディキャップ体験(バリアフリー視点)で歩いてみる	Worksheetの作成	駅前キャンパス近隣を知る活動 Part1

3	福島駅前キャンパス近隣をハンディキャップ体験(バリアフリー視点)プレゼンテーション	Worksheetの提出	駅前キャンパス近隣を知る活動 Part2
4	福島市観光コンベンション協会とふくしまバリアフリーセンターの紹介と活動について 福島観光メニューの紹介と課題① 講師:福島市観光コンベンション協会	ゲストスピーカー招聘	
5	福島市観光コンベンション協会とふくしまバリアフリーセンターの紹介と活動について 福島観光メニューの紹介と課題② 講師:ふくしまバリアフリーツアーセンター	ゲストスピーカー招聘	駅前キャンパス近隣を知る活動 Part3
6	福島市観光コンベンション協会とふくしまバリアフリーセンターの紹介と活動について 福島観光メニューの紹介と課題について考えるワークショップ①	グループワーク ラベルワーク	福島市の観光を調べてくる
7	福島市観光コンベンション協会とふくしまバリアフリーセンターの紹介と活動について 福島観光メニューの紹介と課題について考えるワークショップ②	グループワーク ラベルワークのまとめ (プレゼンテーション)	福島市の福祉施策について調べてくる
8	福島市観光コンベンション協会とふくしまバリアフリーセンターの紹介と活動について 福島観光課題(まちの賑わいづくりと課題)について提案する①	グループワーク ラベルワークのまとめ (資料を作成)	広報紙の収集
9	福島市観光コンベンション協会とふくしまバリアフリーセンターの紹介と活動について 福島観光課題(まちの賑わいづくりと課題)について提案する②	グループワーク ラベルワークのまとめ (資料を提出)	地元新聞を読んでくる
10	バリアフリーと優しい街づくり 「おもてなしガイドブック」内容をチェック①	バリアフリーツアーセンターの役員からアドバイスを受ける	障がい者の日常生活について考える
11	バリアフリーと優しい街づくり 「おもてなしガイドブック」内容を説明することができるようにする②	バリアフリーツアーセンターの役員からアドバイスを受ける	障がい者の日常生活について考える
12	福島市内のトイレ(バリアフリー)マップ制作に協力①	バリアフリーツアーセンターの役員からアドバイスを受ける	障がい者の日常生活について考える
13	福島市内のトイレ(バリアフリー)マップ制作に協力②	バリアフリーツアーセンターの役員からアドバイスを受ける	障がい者の日常生活について考える
14	福島市内のトイレ(バリアフリー)マップ制作に協力③	バリアフリーツアーセンターの役員からアドバイスを受ける	障がい者の日常生活について考える
15	福島市内のトイレ(バリアフリー)マップ制作に協力④	バリアフリーツアーセンターの役員からアドバイスを受ける	障がい者の日常生活について考える
16	本学との地域連携地である「土湯温泉」のバリアフリーの状況を知る 講師:土湯温泉観光協会	ゲストスピーカー招聘	土湯温泉の調べ
17	土湯温泉の企画イベントに参加 開催日:11月4日(日)予定	イベントに参加	レポート作成
18	〃	〃	〃
19	土湯温泉の企画イベントのまとめと新たなイベントや商品の提案を考える①	グループワーク	提案書の作成

20	土湯温泉の企画イベントのまとめと新たなイベントや商品の提案を考える ②	グループワーク	提案書の提出
21	2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、福島市オリジナル・バリアフリーツアー(福島市コンベンション協会)企画協力 ①	福島市コンベンション協会の役員からアドバイスを受ける	課題作成
22	2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、福島市オリジナル・バリアフリーツアー(福島市コンベンション協会)企画協力 ②	福島市コンベンション協会の役員からアドバイスを受ける	課題作成
23	2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、福島市オリジナル・バリアフリーツアー(福島市コンベンション協会)企画協力 ③	福島市コンベンション協会の役員からアドバイスを受ける	課題作成
24	2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、福島市オリジナル・バリアフリーツアー(福島市コンベンション協会)企画協力 ④	福島市コンベンション協会の役員からアドバイスを受ける	課題作成
25	2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、福島市オリジナル・バリアフリーツアー(福島市コンベンション協会)企画協力 ⑤	福島市コンベンション協会の役員からアドバイスを受ける	課題作成
26	駅前近隣施設「まちなか夢工房」NPOシャロームを見学訪問と利用者との交流	「まちなか夢工房」訪問	課題作成
27	NPOシャロームが活動する飯館村地域再生プロジェクトについて理解する	「まちなか夢工房」訪問	飯館村について調べてくる
28	NPOシャロームが活動する飯館村地域再生プロジェクト(避難者一人ひとりの物語作成)の協力 ①	グループワーク	飯館村の新聞記事の収集
29	NPOシャロームが活動する飯館村地域再生プロジェクト(避難者一人ひとりの物語作成)の協力 ②	グループワーク	飯館村の新聞記事の収集
30	NPOシャロームが活動する飯館村地域再生プロジェクト(避難者一人ひとりの物語作成)の協力 ③	グループワーク	飯館村の新聞記事の収集
到達度の評価 (評価方法・基準)			
1. 演習中の参加態度(自主的発言、意欲的な取り組み、グループワークへの貢献) 40%			
2. 課題への取り組み 30%			
3. レポート課題提出 30%			
教科書		参考書	
使用しない。必要に応じて資料を配布する。		特に指定しない。必要に応じて、参考資料を提示する。	
その他補足事項			
1. 授業の順序及び内容は、進捗状況により変更する場合がある。			
2. 学外研修(土湯温泉)の際、授業時間割外に実施される。開催日および日程についての詳細は、授業の中で説明する。			

平成30年度 福祉学部福祉心理学科 学事日程・後期

日	曜日	10月	11月	12月	1月	2月	3月	日																
1	月	1 後期授業開始	5	土	火	金	金	1																
2	火	1 4年生生活教養(テークアップ)講義	5 文化の日	日	水	土	土	2																
3	水	1 文化の日	6 6 文字・成語テスト⑤	月	木	日	日	3																
4	木	1 2 大学祭準備午後休講	7 7 小論文テスト④	火	金	月	月	4																
5	金	1 2 (体育の日) ⇒5/2	8 7 大学祭準備日	水	土	火	火	5																
6	土		9 7 大学祭	木	日	水	水	6																
7	日		10 7 大学祭	金	月	木	木	7																
8	月		11 7 大学祭	土	火	金	金	8																
9	火		12 7 大学祭	日	水	土	土	9																
10	水		13 7 大学祭	月	木	日	日	10																
11	木		14 7 大学祭	火	金	月	月	11																
12	金		15 7 大学祭	水	土	火	火	12																
13	土		16 7 大学祭	木	日	水	水	13																
14	日		17 7 大学祭	金	月	木	木	14																
15	月		18 7 大学祭	土	火	金	金	15																
16	火		19 7 大学祭	日	水	土	土	16																
17	水		20 7 大学祭	月	木	日	日	17																
18	木		21 7 大学祭	火	金	月	月	18																
19	金		22 7 大学祭	水	土	火	火	19																
20	土		23 7 大学祭	木	日	水	水	20																
21	日		24 7 大学祭	金	月	木	木	21																
22	月		25 7 大学祭	土	火	金	金	22																
23	火		26 7 大学祭	日	水	土	土	23																
24	水		27 7 大学祭	月	木	日	日	24																
25	木		28 7 大学祭	火	金	月	月	25																
26	金		29 7 大学祭	水	土	火	火	26																
27	土		30 7 大学祭	木	日	水	水	27																
28	日		31 7 大学祭	金	月	木	木	28																
29	月			土	火	金	金	29																
30	火			日	水	土	土	30																
31	水			月	木	日	日	31																
<p>平成31年度入学式(案) 日程：4月8日(月) 会場：福岡市音楽堂</p>																								
<p>後期授業 2/4~2/8 卒業生次生、福祉心理学科全学年 ※1 ◆2年生履修登録開始(在学生)</p>																								
<p>* 2/2(土)、2/3(日) 社会福祉士・精神保健福祉士 国家試験</p>																								
<p>【後期計】</p> <table border="1"> <tr> <td>月</td> <td>3</td> <td>火</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>月</td> <td>3</td> <td>水</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>月</td> <td>3</td> <td>木</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>月</td> <td>3</td> <td>金</td> <td>15</td> </tr> </table>									月	3	火	15	月	3	水	15	月	3	木	15	月	3	金	15
月	3	火	15																					
月	3	水	15																					
月	3	木	15																					
月	3	金	15																					
<p>備</p>																								
<p>考</p> <table border="1"> <tr> <td>月</td> <td>4</td> <td>火</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>月</td> <td>4</td> <td>水</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>月</td> <td>4</td> <td>木</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>月</td> <td>4</td> <td>金</td> <td>4</td> </tr> </table>									月	4	火	4	月	4	水	4	月	4	木	4	月	4	金	4
月	4	火	4																					
月	4	水	4																					
月	4	木	4																					
月	4	金	4																					